

地名研究会報

第 85 号

平成 16 年 9 月 5 日

鹿児島地名研究会

I. 第 85 回例会 平成 16 年 6 月 6 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出席者) 今村誠一・上野堯史・納栄蔵・小山田 稔・川野雄一・坂本 誠・
築地成郎・永坂芳彦・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・福元忠良・
本田碩孝・松田 誠 (計 14 名)

II. 大日本地名辞書読会 P. 552~P. 553 安国寺址・高屋山陵・山箇野金山

III. 宮之城町の地名

[話題となった地名および事項] 山ヶ野金山、女郎墓、石築地役、安国寺、藏王岳、
薩軍の退却路、西南戦争と農民、琵琶甲、弥五郎、甲辺、現王、火ノ峯、
五敷、尻角目、猿喰、門名と小字、園、部当堀、乙房、天子信仰

山ヶ野金山

平田 今日の所で何かありませんか。

納 山ヶ野金山のこと、現在は金鉱石を碎いて溶鉱炉の中で溶かして金を探るでしょう。

平田 さあ、よくは知りませんが、恐らくそうでしょう。電気精錬もやはり同じようなことでしょうから。

納 これを見ると、川に流れて来る砂を探って…。

平田 砂金を探る方法でしょう。そういうことをやっていたということでしょう。

納 要するに砂金ですね。昔は溶鉱炉でするような方法はなかったのでしょうか。

平田 灰吹銀という造り方はありますから溶かす方法はあったと思うのです。

女郎墓

納 これには書いてないです。恐らく書けないでしょう。谷山には女郎墓というのがあります。お女郎さんがいた。

平田 あゝ、錫山。

納 山ヶ野にも何かで見た記憶があるの

だけ、女郎墓がある、と。

平田 はい、有名です。

納 これには書いてないから、なかったのじや。

平田 これは吉田東伍が知った情報をまとめただけのことですから。

納 全国各地から女郎が集まっていたのでしょうね。

平田 そういうアングラ＝ルートがあったと思うのです。それは何かある筈ですがね。書いたものが。

納 私が見たのは、そういうものばっかりを書いた角力の番付表のようなもの。そういう番付表があって、山ヶ野金山が出て来るのですよ。

平田 はあー、色街の番付ですか。

納 角力でいえば三役ですね。三役級の所に山ヶ野金山が出て来るのでよ。谷山は聞いていたけど、山ヶ野は知らなかつたなどその時思ったのです。

平田 谷山はどれくらいの番付だったので

すか。

納 谷山は憶えていない。山ヶ野は番付表に書いてあったです。

平田 谷山も書いてあったのでしょうか。

納 そこは記憶していません。

平田 あゝ、そうですか。どうですか、谷山の方は？

石築地役

納 横川の所、前から5行目か、4行目から5行目にかけて「横川院三十九丁五反、二丈」ですか。

平田 建久図田帳に当たって来ればよかつたのですが、「二丈」というのは一町に対して一丈の割り当てですから、三十九丁であれば三丈九尺なるはずです。

納 五反までは広さだけど、二丈となると、これは長さじゃないかと思ったもんですから。

平田 所有する水田一町に対して一丈の石垣造りが命ぜられたわけです。「町・反」の後に「丈・尺」というのが付くのは建治二年の石築地役の表現になります。だから田圃の面積、そして石垣の長さが示されます。建久図田帳を確認して来なかつたので確実な数値は言えません（後記：建久図田帳に混入した記述は二丈。建治石築地役配付案は三丈九尺五寸四分となっている）。

納 建久図田帳なんですね。

平田 建治石築地役という史料です。それでおろしいですか。

本田 今の箇所でこれには地理纂考とあります、本来は石築地役にあるのを地理纂考が又引したということですか。

平田 はい、そうです。

安国寺

本田 もう一点、別件ですけど、安国寺の

所に「足利幕府が各州に配した禅院なり」とあるのですが、足利幕府はあちこちに、そういう禅寺みたいなのを建てさせたのですか。

平田 足利尊氏は北朝に味方して後醍醐天皇を苦しめます。その結果後醍醐天皇が亡くなるわけですから、やはりうしろめたい所があつて天皇供養の禅寺を建てさせます。有名なのが天龍寺です。それだけでなく国分寺に倣つて国ごとに安国寺を建てさせています。安国寺が臨済禪宗の寺だったのです。そういうことで「禅院を建てた」と吉田東伍は書いているのです。

納 安国寺というのは国道筋にある寺ですか。

平田 どこですか。

納 加治木の国道筋にある寺。こっちから行けば、左側の、大きな墓があるのですがね。あそこかな。

平田 そこじゃなく、加治木インターチェンジ出口の山裾にある寺。竜門の滝が見えてインターチェンジに入った所の左側の方に安国寺があります。

上野 加治木城のすぐ下です。

平田 そう、加治木城のすぐ下です。しかし墓という墓は、ほとんどが藪です。ただ、文之和尚の墓は国指定史跡ですから、その辺はきれいになっていますけど、そのうしろの方はもう藪です。

福元 安国寺は川内にも名前だけ残っています。

平田 何か残っていませんか。

福元 何もないです。ただ石塔があることはあるのですけど、関係があるかどうか、それは判りません。そして名前だけを受け継いでいる寺が全く違う所にあるのです。

平田 加治木も安国寺という寺が復活しています。その場所に。

福元 同じ頃に造られたのではないかと思うんですけど。

平田 全部そうです。一国一寺の塔婆を建てよとの命令が出て造られるわけですから。

藏王岳

納 あそこにある藏王岳。あれは面白い格好をしてますね。

平田 そうですね。トロイデ型で、突き出ています。

納 加治木の町から見れば、突き立っている。

平田 あそこに登つて日の丸を掲げる人がいるのです。登れるのです。

納 ヘー。

平田 頂上に国旗掲揚台がありますから。

薩軍の退却路

平田 先程、説明を落としたことを補足しておきます。明治10年9月1日、薩軍が蒲生から鹿児島に入って来る過程の話です。先程は横川・溝辺の所で薩軍の進路を食い止めたのが野津道貫だと話しました。そこで薩軍は山田から蒲生に入って来るわけです。それが8月31日です。31日の夜中に蒲生を発つて佐山峠を通つて吉田から帯迫に入つて来ます。帯迫に官軍が待ちかまえていたので、方向転換をせざるを得なくなつて実方の方に入つてきます。そして鼓川に下つて来ます。鹿児島の町に入るのが午前9時頃です。鹿児島を占領するのが午前11時頃になります。

その時、西郷本隊はどこに本拠を置いたかというと、実は川内の中郷生まれの人物が残した記録「平田盛二日記」というものがあります。川内市が出した史料集四『従軍記録』

の中にあります。9時から11時の間に鹿児島に入り、11時頃に私学校を占領するのです。その時、西郷本隊は「上一つ橋、田中七之丞宅」を本拠としたと書いてある。そんなことが平田盛二日記に書いてあるのですが、今まで鹿児島の郷土史はそんなことに触れていないのです。何故私が驚いたかというと、私は一つ橋生まれなんです。もしかしたらと思って調べました。（一つ橋付近の略図を板書）此處が玉竜高校で福昌寺址。実方から鼓川へ下つて来る道がいわゆる昔の大隅街道です。此處が一つ橋。此處に清水小学校がある。此處が清水中学校。清水町はこっちです。田中七之丞宅は此處です。私が生まれたのは此處です。川を挟んで隣になります。田中七之丞宅は安政6年(1859)の鹿児島城下絵図で突きとめました。

西郷本隊はそこで待機し、先鋒が私学校・鶴丸城を占領するのを待つて、9月1日夜に城山に入っています。その時、官軍は米倉：現在の市役所の所にいます。此處に巡査が約400名・新撰旅団が約600名、計千名ぐらいの守備隊がいます。千名だけのところに400名の薩軍が入つて来たら、鹿児島の人々がどのように反応するか判らない。まともに400対1,000で戦ついたら、薩軍が勝つたに違いないのです。勝てなかつたのは、軍艦が2隻いたからです。春日と龍驤です。龍驤というのは当時の日本海軍最大の軍艦で2,500トン程度です。春日が1,200トンぐらい。この二艦に官軍は守られるのです。政府の軍艦2隻のため薩軍は手も足も出なかつたのです。

薩軍は多賀山：東郷元帥の墓がある所ですが、あそこから鉄砲を撃つわけです。大砲を据えて撃つのですが、軍艦にはかなわない。

薩軍が官軍に抵抗したのは3日までです。9月1日・2日・3日。多賀山と軍艦とで撃ち合いをするわけですが、結局は薩が立たずに薩軍は皆、城山に籠もるのです。

そして4日の夜、米倉に夜襲をかけるのです。その時の隊長が貴島清、示現流の達人です。官軍側の記録を見ると、示現流の達人があつという間にやられている。簡単に撃たれているのです。それから、これは鹿児島側の郷土史にはあまり書かれていませんが、貴島清が米倉を攻めたのに呼応して、長田中学校あたりにあった新橋の官軍陣地を北郷万兵衛と勝目退十郎が率いる一隊が攻め込んでいます。これもほとんどやられている。北郷万兵衛という大物が戦死していることは官軍側の記録にあるのですが、鹿児島側の記録には見出せないです。それが9月4日夜の戦闘です。そしてそれ以後は24日まで、城山に閉じ籠ったままです。その間に政府軍は軍艦を鹿児島に集結させ、大砲を陸揚げして集中砲撃をするのです。

官軍側に艦隊が付いていた。その司令長官が伊東祐慶。伊東祐亨の兄です。乗っていた士官たちもほとんどが鹿児島出身ですから、官軍と言っても元々は薩摩の海軍が城山に籠った薩軍に砲撃を加えた形になってる。それでは、かないっこないわけです。余計なことですが薩軍の退路の続きを説明しておきます。伊東祐亨は有名なんですが、兄の方は早く忘れられているのです。

西南戦争と農民

宮之城町の地名

肱岡修一郎

本田 何の本だったか本の名前は思い出しませんが、官軍と薩軍が戦さをしている時ある農夫が麦蒔きだったと思うのですが、麦蒔きをした、と。たとえ戦争であっても農民は食料確保のために麦蒔きをするんだということで、印象に残っているのです。麦蒔きの時期というのは、私の生まれは徳之島なんですが、ツワブキの花が咲き出す頃がその時期だと言われています。この辺はどうなんでしょう。9月1日はもう秋に入っているので早い所では麦蒔きの時期に入っていたのかどうか。麦だったとの記憶があるのですが、その辺はどうなのか。どなたか、ご存知ないでしょうか。ちょっとお聞きしたいのですが場所は溝辺付近だったような気がします。

平田 ああそうですか。それならば溝辺でしょうね。9月1日だったら秋に蒔く麦。麦には秋小麦と春小麦があるわけです。2回取る時期があります。徳之島辺りでは春に蒔いて秋に刈り取る？

本田 ツワブキの咲く頃ですから、秋に蒔きます。

平田 ツワブキの花が咲くのは？

本田 秋で、花が咲くのが麦蒔きの時期です。

平田 あゝそうですか。こっちではツワブキの花はいつ咲くのですか。やっぱり、秋に咲きますか。秋ですか。それなら9月でよいわけですね。植物の話はうといもんだから、どうも混乱します。他にありませんか。なければ休憩しましょう。

肱岡です。川内生まれです。近い所に宮之城があつたんですから、宮之城に手を挙げた次第でした。意外と宮之城は字名が多く、しまったと思いましたが、後の祭りでした。

宮之城町の地名を整理・分類するのに以前平田先生から頂戴した「郷土学習の一視点」と川内市郷土史研究会の機関紙『千台』12号に同様に先生が地名についての論文を書いておられます。この二つを頼りにして、何となるだろうということで取り組みました。これを基にし、今まで皆様がされたことを参考にしながら地名の配分をしました。

小字は角川の地名大辞典のものを引用しました。ところが、これが漢字ばかりで仮名を振っていません。どういう読みになるのか判らないのです。したがって自分なりにこう読むのではなかろうかと仮名を振って宮之城の知人に送りました。20か30、赤で直してくれたのですけど、とてもじゃないけど請け合わんという形で、ちょこちょこと直しただけでした。

そして、役場に小字台帳というのがあるのです。これをくれました。私流の分が既にワープロに全部入っていて、どうしようかと迷いましたが、結局読みを全部消して役場のものを対照しながらやり直しました。それで時間がかかりました。初めから役場の小字台帳に取りかかるればよかったです。これはアイウエオ順：50音順です。角川の場合はそうじゃないような気がします。

平田 字絵図番号順でしょう。

肱岡 それともう一つ、これは標準語読みにされています。

平田 ああ、役場で作ったのですね。

肱岡 役場で作りましたからね。実際地元

で調べた場合もも標準語読みにされているものもあります。勿論地元で呼ばれている言葉もあります。ですから、二通りあります。新しく作ったものを地元の方へ送り返して、これでいいかと確かめたかったのですが、時間がないというか、そういうつてもなく、二人の方にお願いして直せる所だけ直して下さいという形でやりました。

配付した資料は、その1・その3・まとめです。実はその2も作ってみたのです。その2は「俗称地名」になります。俗称地名はどのようにして調べたらよいかと思ってやってみたのです。宮之城町誌とか郷土史とか公民館の名簿、それから平凡社の地名辞書：『鹿児島県の地名』などから拾い出してみたのですが、果たしてこれが俗称地名になるのか判らずに、その2は引っ込みました。

もう一つお断りしておきたいのは、角川の地名辞典と役場で出している小字集を対照しながら整理しましたが、違った部分あるいは落とした所があるかもしれません。

それから作業をしながら判明したことですが、角川地名辞典の大字と役場で区分したものとでは違ったのがあることです。二つの大字が一つになっているのがあります。泊野の中に白男川が入っているのです。私が整理したのでは二つに分けられていますが、角川の地名辞典では泊野と白男川が一緒にまとめられて泊野で出ています。ご覧になる時は気を付けてください。

それともう一つ、伝承地名とした所があります。これは町の郷土史から取り出してあります。

平田 これが普通いわれる伝承地名なんですね。

肱岡 そうですね。宮之城では『宮之城町誌』S.9.・『宮之城町史』S.49.・『宮之城町史』H.12.の三つを出してあります。その中の一番最初から伝承地名を取りました。

(その1) から説明します。共通語的な読みになってるのがだいぶ入っています。泊野(トマリ: 66)、次は白男川(シオガリ: 87)。白男川の最初は大丸(オマル)、これは「ゲイマル」と問い合わせたのですが、真っ先に違ったようです。5. 井手尻(行シリ)なんてのは「行シリ?」と問い合わせました。ですから、請負った人は手は付けられんということで、役場の小字のコピーを送って來たと思います。

次は二渡(フタリ: 93)、その次は久富木(クブキ: 135)。82. 島廻(シマリ)とあります。「シマケリ」かと思っていたら、「シマリ」になっていました(後記: 「シマケリ」が正しい。「シマケリ」の意味については本会会員以外は知らない)。そうかと思っていると、猿喰(サルクレ)になっているのです(後記: 県下の「猿喰」地名30例のうち、サルミ 4・サルクレ 2・サルケイ 5、他は読み未確認)。

次は山崎(ヤマキ: 95)。最初の※印の所に「ヤマキ」とあります。次は田原(タバル: 94)。田原と広瀬という所、二つで昔は佐志(サシ)と云われていたのです。現在は公民館組織で、佐志公民館になっています。

地域によって読みが異なるようです。地域で呼ばれる読みが入っている所と、共通語的な読みが多い所と、いろいろあるようです。

次は広瀬。此処は相当大きな所だと思いますが、公民館は現在も佐志という形で行っています。広瀬(ヒセ: 157)。ほとんどが共通語読みだと思います。

次が平川(ヒカリ: 218)です。その次の湯田

(ヒカ: 55) は温泉場です。

次は格野(クキ: 59)です。私は「クキ」と聞いていたのですが「クノ」というようです。一般の人は「クキ」と、はっきり現在は言つてゐるようです。※印では「クノ」とあります。いろんな読み方があるのでしょうか。

その次、舟木(フネキ: 165)です。此処にも豆漬(マメケ)というのがあります。これは2カ所か3カ所、後から出て来ます。34. 麒麟(ロク)というのもあります。名字にも麒麟さんという方がおられるようです。

次は時吉(トキヨ: 43)。現在の町名として旭町(アサヒマ)・虎居町(トライマ)・西新町(ニシシマチ)というのがあります。これらは小字はないようです。

次は虎居(トライ: 159)。最後は(ヤ: 74)になります。宮之城で一番販賣やかなのは川内川を挟んで虎居と屋地で、宮之城の町の中心をなしています。虎居と屋地のメインストリートというのは、昔は鹿児島の方から出水の方へ抜ける道が一番販賣やかだったと言います。現在はちょっと変わっているかと思います。

地図をご覧になって頂けると判りますが、宮之城は非常に川が多い所です。それと道が多い。鹿児島から出水に抜ける道路、川内から大口へ抜ける道路、近辺への道路と、宮之城は非常に道路が発達しているようです。昔は私領地であったりして、虎居城を中心とした形で発達しております。

宮之城の地名(その3)に入ります。
(1) 信仰地名(157)。大字の隣のカッコの中は小字の数です。泊野(4)、白男川(10)といふ形ですね。どうしたらいゝでしょうか。ずっと読んで行った方がいいのでしょうか。時間の方が……。

平田 一通り、読んで下さい。その方が後で質問を受けやすいでしょう。

肱岡 はい。上から読んで行きます。

泊野(4)：宮田(ヒタ)・宮ノ段(ヒタダン)・御前房(ゴゼンボウ)・現王原(ケンオウハル)。

白男川(10)：宮田(ヒタ)・石仏(イシボトケ)・道心山(トウシンヤマ)・天神前(テンジンマエ)・堂ノ下(トウナシタ)・神屋敷(カニシキ)・寺ノ下(テラナシタ)・現王迫田(ケンオウコタ)・庵ノ前(アンノマエ)・立石(タテイシ)。

二渡(9)：堂ノ尾(トウノオ)・鎮守ヶ迫(チンシュガサコ)・權現宇都(ゴンゲンウド)・諏訪ノ下(スリナシタ)・堂ノ前(トウノマエ)・天子元(テンシモト)・宮ヶ原(ヒガハラ)・乙房(オツボウ)・桑田(シキテイン)。

久富木(10)：宮ノ跡(ヒヤノアト)・地蔵ヶ宇都(ジツヅカウト)・法円寺(ホウエンジ)・宮山(ヒヤマ)・内侍免(ナシム)・宮下(ヒヤシタ)・山ノ神(ヒマカミ)・山神前(ヒマカミマコ)・山住(ヒマズミ)・弘智(ヒチ・コチ?)。

山崎(7)：稻荷迫(けりサコ)・稻荷原(けりハル)・宮ノ前(ヒヤノマエ)・堂床(トウカト)・宮田(ヒタ)・伊勢ヶ原・伊勢ヶ原段(ヒセガハラダン)。

田原(17)：神ノ原(カミハラ)・神ノ脇(カミワキ)・宮ノ後(ヒヤウシロ)・宮ノ脇(ヒヤウキ)・本高祖(モトコウジ)・高祖山(コウゾヤマ)・高祖宮ノ脇(コウソヒヤウキ)・高祖前田(コウソマエダ)・宮田(ヒタ)・大宮田(オヒタ)・修理田(シュリテイン)・狐塚(キツネツカ)・柴立(シバタケ)・花立(ハタケ)・焼香(ショウコウ)・天ヶ石(アマガイシ)・首塚(ヒビツカ)。

広瀬(23)：宮之脇(ヒヤウキ)・堂ヶ迫(トウカサコ)・弁財天(ペンザイテン)・宮田ヶ原(ヒタガハラ)・宮田(ヒタ)・諏訪ノ迫(スリナコ)・神掛(カシケ)・六地蔵(ロクジソウ)・宮ノ前(ヒヤノマエ)・宮元(ヒヤモト)・御堂(ヒドウ)・下堂ヶ迫(シモトウカサコ)・旧寺山(キョウテラヤマ)・石塔ノ下(セキトウナシタ)・石塔

・寺田(テラタ)・山神(ヒマカミ)・官社塚(カンシャツカ)・妙見(ミオケン)・摩利支天(マリシテン)・不動谷(フトウガニ)・鬼田山(ホニタヤマ)・浜射場(ハマバ)

平川(24)：内神山(ウチカミヤマ)・堂ノ峯(トウバ)・供養塚(クヨウツカ)・天神ノ下(テンジンナシタ)・下諏訪宇都(シモスワウド)・上諏訪宇都(カミスワウド)・地神田(ジカンダ)・宮坂(ヒヤカ)・宮ノ脇(ヒヤウキ)・上宮田(カミヒタ)・宮田原(ヒタハル)・宮ノ上(ヒヤウケ)・八幡楠(ハチマンクス)・墓段(ハカダン)・恵美須(エビス)・田ノ神丸(タノカンマル)・大泉庵(ゲイセンアン)・天役保(テンヤクボ)・浜弓場(ハマモンバ)・鞆ノ迫(サヤナコ)・庵ノウト(アンノウト)・餅田(モチダ)・建山(ケンヤマ)・下り山(カリヤマ)。

湯田(5)：神宮原(シングウハル)・宮ノ下(ヒヤシタ)・供養山(クヨウヤマ)・供養下(クヨウシタ)・上湯之坊(カミユボウ)。

終野(クツ): 2)：宮前(ヒヤマエ)・坊ノ下(ボウナシタ)。

船木(10)：宮ノ下(ヒヤシタ)・宮ノ後(ヒヤウシロ)・堂ノ前(トウノマエ)・堂免(トウケン)・供養ノ元(クヨウモト)・觀音平(カソノヒラ)・桑田(シキテイン)・油田(アブテイン)・奉射田(ホウシャテン)・武射田(ブキヤテン?)・巢田ケ下り(ヌタガサガリ)。

時吉(6)：宮下(ヒヤシタ)・元高祖(モトコウリ)・利昌寺(リショウジ)・弓場ヶ迫(エバガサコ)・弓場之元(エバノモト)・柱松(ハシラマツ)。

虎居(21)：宮田(ヒタ)・宮ノ前(ヒヤノマエ)・宮ノ下(ヒヤシタ)・諏訪宇都(スワウド)・堂ノ前(トウノマエ)・堂ノ下(トウナシタ)・堂教平(トウキョウヒラ)・堂ノ迫(トウナコ)・地蔵段(ジツヅカダン)・鎮守原(チンシュバン)・鎮守免(チンシュメン)・石仏(イシボトケ)・高宗(コウジ)・法連畑(ホウレンバタ)・桑田(シキテイン)・庚申田(コウシンドン)・鬼ヶ平(ホニカヒラ)・京塚原(キョウツカハル)・弓場ヶ迫(エバガサコ)・甫立原(ホダテハル)。

屋地(9)：薬師院(ヤシイ)・諏訪原(スリハル)

・大明神免(タミヨウシソク)・大明神脇(タミヨウシソク)・八幡馬場(ハチマンバハ)・愛宕脇(アコガリキ)・愛宕・虚空藏岡(コクリウカ)・狐塚(キツネヅカ)

平田 此處で一旦切りましょう。何か質問はありませんか。後でまた眺めましょう。次に行きましょう。

肱岡 (2)館・城郭・集落地名 —— 104

泊野 (2)：古屋敷(フルヤシキ)・土地(トチ)。

白男川 (7)：城ノ脇(ショウノリキ)・城ノ下(ショウシタ)・穴ノ城(アナシヨウ)・古屋敷(フルヤシキ)・本屋敷(モヤシキ)・有木(アリキ)・火ノ峯(ヒノミネ)。

二渡(6)：高城(タカシヨウ)・平城(ヒラシヨウ)・内城(ウシヨウ)・城ノ下(ショウシタ)・郷戸(コウド)

久富木(11)：平城(ヒラシヨウ)・城ヶ峯(ショウガフネ)・丸内(マルウチ)・矢倉(ヤカラ)・床ノ丸(トヨマル)・大堀(オホリ)・屋敷ノ後(ヤシキノシロ)・上村(カミムラ)・里元(サトモト)・室屋(ムロヤ)・野久尾(ノクオ)。

山崎(8)：餘ヶ城(アマリカシヨウ)・小倉(コクラ)・井倉(イクラ)・倉谷(クラニ)・円角(カトスミ?・モンカト?)・内堀(カボリ)・垣内(カキチ)・上村(カミムラ)

田原(10)：古城(フルシヨウ)・鶴ヶ城・北鶴ヶ城(キタツケガシヨウ)・鼠ヶ城(ネズンガシヨウ)・小陳(コジン)・倉内(クラチ)・堀跡(ホリアト)・土地(トチ)。

広瀬(5)：内ノ倉(ウチノクラ)・外堀(ソトボリ)・仮屋(カリヤ)・仮屋田(カリヤタ)・内屋敷(ウチヤシキ)。

平川(15)：新城(シンシヨウ)・城(シヨウ)・下城下(シモシヨウシタ)・上城下(カミシヨウシタ)・城木場(シヨウコバ)・古屋敷(フルヤシキ)・屋敷田(ヤシキタ)・下屋敷(シモヤシキ)・荒屋舗(アラヤシキ)・屋根添(ヤエリエ)・屋敷ノ前(ヤシキノマエ)・仮屋ヶ迫(カリヤカサコ)・小倉川(コクラガワ)・陳ノ原(ジンノハイ)・村ノ後(ムラノシロ)。

湯田(2)：城(シヨウ)・櫻城(サクラシヨウ)。

格野(1)：屋敷前(ヤシキマエ)。

船木(17)：古城(フルシヨウ)・古城玉(コシヨウタマ)?・於天城(オテンシヨウ)・城ノ段(シヨウノダン)・長松院堀(チヨウシヨウインボリ)・星合堀(ホシイホリ)・榎木堀(エキホリ)・外堀(ソトボリ)・大堀(オホリ)・狐堀(キツネボリ)・部当堀(ブトボリ)・江戸堀(エトボリ)・杉木堀(スギホリ)・一ツ堀(ヒツボリ)・新堀(シンボリ)・内屋敷(ウチヤシキ)・荒鹿倉(アラカクラ)

時吉(3)：中城(ナカシヨウ)・城ノ中(シヨウノナカ)・垂門(タレカド)。

虎居(7)：西ノ丸(ニシマル)・南ケ丸(カミガマル)・同ノ丸(トウマル)・上屋敷(ガヤシキ)・前屋敷(マヤシキ)・屋敷田(ヤシキタ)・登鹿倉(ノボリカクラ)

屋地(10)：城内(シヨウケイ)・古城(コシヨウ?)・城ノ段(シヨウノダン)・東ノ口(ヒガシノクチ)・城ノ口(シヨウノクチ)・城之前(シヨウノマエ)・屋地・屋地馬場(ヤバハ)・本新藏(モツシケ)・野久尾(ノクオ)

平田 最後の野久尾は「ノクビ」でしょうね。

肱岡 「ノクビ」ですか。

平田 「ノクビ」と読んでいる所は多いですけど。役場の方でそう読んだのでしょう。意味は「野の首」です。城の後方のくびれた所で重要な場所です。意味はノド首。鹿児島語でいうと「ノクッ」になります。

納 船木の所に「堀」が沢山書いてありますが、鹿屋の堀と同じように考えてよいでしょうか。

平田 宮之城のことはよく知りませんが、鹿屋の「堀」は開拓地ですよね。こっちの堀は城の堀のような気がします。

納 新しく開拓した人の名前を付けたのが笠野原にはよくありますから。

肱岡 此處は「城」がおおいのです。城の堀も入っていたと思います。それから船木の場合、山の台地の方ですから畑でなく城の堀

じゃないかなという気がします。

本田 資料の(その1)では舟木、(その3)では船木。右側のツクリがないのですが肱岡 どこ?

本田 船木の「フネ」という文字。

肱岡 最近は全部右側にハ・ロが付いています。小さな舟は、扁の方の「舟」ですね。フネ扁というのですか、フネ扁だけですが、役場の台帳では大きな「船」です。ですからハ・ロが横に付いています。私の間違いでどうか。角川辞典の方は「舟」だけです(後記:本文の立項は船木、小字一覧の大字は舟木になっている)。

小山田 今でも昔の人は、手紙なんかには小舟を書きます。

肱岡 そういうことであります。その辺は今日の資料では乱れています。御免なさい。次に行きます。(3)条里・土地区画地名です。泊野はありません。(以下、ある所だけをとりあげる)。

白男川(3)：五十地(ゴジカチ)・五反田(ゴタンダ)・二反山(ニタンヤマ)。

二渡(1)：餘り(アリ)。

山崎(1)：黒坪(クロツボ)。

田原(3)：東十山(ヒガシシユウヤマ)・西十山(ニシシユウヤマ)・十山(シユウヤマ)。

広瀬(2)：五反田(ゴタンダ)・建割(ケトリ)。

平川(2)：七拾三節(ナシユウサンセツ?)・広割(ヒトリ)。

湯田(2)：上五敷(カミシキ)・下五敷(シモシキ)

船木(4)：5反田(ゴタンダ)・二反田(ニタンダ)・拾毫面(シユウイチバン)→十一面觀音であれば信仰地名?

虎居(3)：四反田(ヨンタンダ)・二百地(ヒヤケ)・キン田(キンテイ)。条里・土地区画地名は少

ないようです。

(4)市・町・交通地名 —— 117

泊野(5)：高橋(タカハシ)・出口(エグチ)・辻(ツジ)・市野々(イハラ)・泊野(トマリ)。

白男川(3)：橋本(ハシモト)・峠ノ下(トケンシタ)・市ノ瀬(イハセ)。

二渡(6)：石橋(イシハシ)・飛渡(ヒツリ)・二渡(ツリリ)・舟ノ尾(ネオ)・舟渡(ハトケ)・岩坂(イワカ)。

久富木(10)：外ノ口(エトカ)・宇治ノ里(ウジナリ)・横橋(ヨコハシ)・上横橋(カミヨコハシ)・折口(オリカ)・坂ノ下(サカシタ)・岩坂(イワカ)・白坂(シロカ)・田尾ノ前(タオマエ)・鳥越(トリコエ)。

山崎(4)：鳥越(トリコエ)・鶴越(ツルコエ)・茶屋ケ段(チャヤガタシ)・坂ノ下(サカシタ)。

田原(4)：飛渡(ヒツリ)・坂ノ下(サカシタ)・餅坂(モザカ)・市ヶ迫(イガサコ)。

平田 ちょっと待って下さい。読みだけでもまだ相当時間がかかりますが、どうしましようかね。質問で片づけていきましょうか。時間がありませんから。

肱岡 市・町・交通地名では何かありませんか。

琵琶甲・弥五郎・クベ

平田 久富木の3番目、琵琶川とあります
が、これは琵琶甲(ヒラカ) じやないでしょ
うか。琵琶甲という地名は全国的にあるの
ですが、新潟県佐渡島の人が「ヒランク」とい
う古代朝鮮語だとして、『牛の来た道』とい
う本を書いています。全国的に「ヒランク・
ヒランク」地名を探しています。とくに鹿児島県
は「ヒランコ」という地名が多いと言います。
これは琵琶の胴体のような形をした地形と見る
のが一番いいのでしょうか。「ヒリ」が古代
朝鮮語で「牛」を意味するというのも、少し

こじつけのような気がします。

本田 川は「コ」、奄美ではね。川と書いて読みは「コ」と読ましているのかも知れない。

平田 そうですね。

肱岡 (6)人名・職業地名はどうですか

平田 泊野の2番目の矢五郎は、弥五郎という巨人伝説とみてよいでしょう。伝承地名でもよいと思います。それから船木の甲辺は「ケベ」だと読むのでしょうか。前回、樋脇町の地名で「クベガ迫」という意味不明の地名がありましたが、そんなものだろうと思いません。次へ行きましょうか。

肱岡 (7)職業・産業地名。実際に職業を表示する地名が入っているようです。(8)開発地名、(9)田畠地名、(10)自然地名。この辺はないことにして(11)目印地名。

平田 疑問はないことにして。

肱岡 ないことにしまして(12)形状地名。

平田 これも判るでしょう。

肱岡 (13)位置地名、(14)伝承地名。先程申し上げたとおりです。

平田 これは簡単に説明して下さい。伝承というのはどんなことか。

肱岡 ちょっと判りません。一応書いたのですが『宮之城町誌』に説明されているので消しました。済みません。

平田 持留(モトメ)は県下にいくつありますが、開発地名としてよいのでは。

肱岡 開発地名ですか。

平田 川原・湿地地名はいいですね。

肱岡 浸食地名に行きます。白崩(シラケ)・崩下(クエタ)。猿が喰ったら、なんでこうなるのかなと不思議に思いました。鶴が喰つたり猿が喰つたりしたら、浸食という形になる。

平田 神様の使いとみたのですよ。

肱岡 あゝ、神様の使いですか。次は擬音地名です。川内川では、あちこちに「轟」という形で入っているようです。ない所は相当離れた場所だということです。山崎は川内川に近いのですが「轟」はありません。(19)意味不明、(20)気象地名。「風呂」は此処に入ります。雪山・嵐山などは気象地名に入れてあります。

それじゃ、まとめに行きます。「まとめ」のプリントをご覧になって下さい。

1. 役場の地名台帳の読みは?

役場も努力しているようです。標準語読みをですね。現場に行った時に聞き取った分で訂正して行こうとする努力をしてるようです。

2. 小字地名の分類

私が間違ったのを(1)～(10)まであげました
こういう所を間違いました。

3. 門名は小字名に使用されたか?

門が廃止された後に、門名が残ったかどうかということです。実際には消えています。虎居に38あった門で残ったのは8です。苦しめられた門ということでなくなったのか、地元で実際に聞いてませんので判りません。

4. 公民館と小字名

屋地8/14。公民館名に採用されている分:小字名を利用しているということです。それ以外は自分たちで適宜に付けたということです。そういう言い方は悪いですけど。

5. 農事小組合名と小字名

小組合名に小字名が付かないことがあるのかで、あげてみました。

6. 宮之城郷土誌から

明治16年の鹿児島県地誌により、各大字の
彌城・幅員・地勢・地味・字地を左に掲ぐと
いう形で書いてあるのです。屋地の場合が、

八幡馬場・屋地馬場・川原・上町とか、いろいろ書いてありました。これは最初の『宮之城町誌』に書き込んである文章です。

2番目としては現在の字地名ということで昭和8年の字地名です。この中にも現在ないものもあります。そういうことで、これは細かくはみませんでした。

屋地の場合は五日町(イカマチ)・城ノ口(シヨウノグチ)・松ヶ迫(マツガサコ)・八幡馬場(ハチマンババ)・屋地馬場(ヤババ)・東谷(ヒガシタニ)・川原(カワラ)・前岡(マエオカ)・町(マチ)・町頭(マチカシラ)・後小路(ウシロカシラ)。

地図については、5万分1図と万能地図の宮之城を載せておきました。よろしくご検討ください。

平田 これ(地名分析)の説明はどうなんですか。

肱岡 今度は3枚目、宮之城の地名分析になります。1. 信仰地名、2. 集落地名から始まり、12. 自然地名、13. 目印地名などに分けてそれぞれが占めるパーセントを出してあります。上の方は人文地名、下の方は自然地名になります。参考にして下さい。

平田 この表は右端の平均値に比べて多い数値になる欄が、その大字の特徴的な地名と理解出来ます。そういう見方で処理してください。後は私が引き受けましょう。

現王(げんのう)

平田 まず(その3)、信仰地名(157)の中で気付いたことを言います。一番上の行、泊野の現王原(ケンノカカル)。現王信仰というのが鹿児島県各地にみられます。大工や石工が大きなハンマーを使いますね。あれを玄翁と言いますが、調べてみると玄翁心昭(1329～1400)という有名な坊さんがいるようです。

『国史大辞典』吉川弘文館をみると、南北朝時代の禪僧で、那須の殺生石を叩いて説教したという有名な坊さんです。そう言った人の信仰が入って来ているかなと考えたらいいと思います。

火ノ峯・五敷

平田 (2)館・城郭地名の中で、誰か興味がある人が県下のものを拾い上げてもらえばいいのですが、繁昌君あたりがいいかな。白男川の「火ノ峯(ヒミネ)」です。烽火(トブヒ)に由来する地名と考えたら、駅路その他と関係がありますから「火ノ峯」地名だけを取り上げてまとめてくれませんか。あなたに宿題として出しておきます。テーマとして何か良いものが出て来ると思います。

(3)条里・土地区画地名の中で、湯田に五敷(ゴシキ)が出て来ますが、鹿児島県にはゴシキという地名がいろんな形で出て来ます。

〔編集者後記: 五色(12: 鹿児島市五ヶ別府・加世田市津貴・串木野市冠嶽・国分市川原・川内市田海・横川町中ノ・大隅町中之内・伊集院町恋之原・佐多町伊座敷・東郷町宍野・宮之城町久富木・有明町野神)・五敷(3: 宮之城町湯田・牧園町万膳・有明町原田)・五嶋(大崎町岡別府)・郷敷(3: 大口市針持・末吉町南之郷・長島町指江)・川敷(天城町西阿木名)など。河川敷の呼び名が一番近いのではないか。〕

(7)二渡の「平木」は田・畠を開く「ヒテキ」からの転化の可能性があります。そうすると「平木」の場合は開墾地名ですね。貝俣(カイタ)は狩俣(カリタ)。狩俣の矢のような形状地名があるかも知れません。

平川の紺柿田(コンカキタ)。これは紺搔に由来するもので鹿児島市の幸架木川と同じです。

中世の染め物屋。

船木の2番目、塩消山(エンショウヤマ)。サンスイでなく、イシハの「硝」でしょう。火薬のこと。

尻角目・猿喰

平田 私が注目している地名の一つが、10ページ、船木の最後に「尻角目」というのがあります。これは会報作成時にリストアップしますが薩摩に9例・大隅に7例あります。ほとんどは「四角目」と書いています。考えているのですが「馬込とか牛込」に対して「鹿込」があり、これが化けた可能性があるのではと思います。これならば意味が判ります。「鹿を押し始めた所」。これは他の所にはないような地名です。

(1)尻角面(阿久根市折口)・尻カクメ(国分市上之段)尻角目(溝辺町有川・宮之城町舟木)
(2)四角目(福山町佳例川・牧園町三体堂・川辺町神殿・大隅町中之内・輝北町上百引・東市来町養母・吹上町和田・加世田市内山田・串木野市荒川・福山町福沢・川辺町高田・市来町川上)

(その1)で、その後気付いたのは白男川の6.宍丸(アマル)でなくて、これは「シマル」。2枚目、久富木の74.八窪(ヤカボ)でなく「ハカボ」だと思います。「ハカボ」という地名は県下に沢山あります。それから二渡の90.秩山。これは「ズヤマ」と読むのですか。難しい読み方なのでこんなのがあるのかなと思っています。確認をお願いします。

肱岡 えーと、「ズヤマ」とあります。

平田 「ズヤマですか。はい、その通りに理解しましょう。それから3枚目、山崎の6.7に稻荷(イハ)とありますが、これは「けり」でしょうね。役場の若い職員が読み違えたので

しょう。

肱岡 あゝ、そうですね。

平田 25.廣キ(コカキ)と読んでありますが、「ヒキ」じゃないでしょうか。山崎の74.猿喰(サルケイ)、「サイケ」とか「サルバミ」と読む例が多いようです。「サルケイ」も何例がありますが、普通は「サルバミ」と言います。

肱岡 「ハミ」ですか。

平田 4枚目、広瀬の31.背ノ山(スクノヤマ)と読むのですか。これは方言丸出しかな、と思うのですが。

肱岡 「スクノヤマ」です。

平田 「スク」ですか。普通は「スカ」ですね。その次は5枚目、平川の169.鍋易(カベヘキ)。こんな難しい地名は聞いたことがないのですが。

肱岡 鍋易(カベヘキ)です。

平田 「カベヘキ」なんですかね。181.荒屋鋪(アラヤカボ)というのも「アラヤキ」なんでしょうが「アラヤカボ」と読めば、当て字ですよね。

肱岡 「アラヤカボ」になっています。

平田 そのように受け止めましょう。もう一つ確認です。7枚目虎居の15.風原(フウラ)と読んでいますが、こういう読みも珍しいなと思います。

肱岡 あー、風原(フウラ)です。

平田 「フウラ」ですか。珍しい読みです。私が気付いたのは以上です。他にありますか。

門名と小字

福元 まとめの3番に門名が小字名に使用されたとありますが、これは反対じゃないですか。門名を小字名に使用するとなっていましたが、それは逆で、小字名は門名に使用されることがあるのだと思うのですが。

平田 それは、そうですね。

肱岡 逆じゃないかということですが、門名が地名に残ったという捉え方です。残ったかどうかということです。

福元 地名を門名に使っているから残っているのじゃないかと思うのです。元々百姓の組織ですから、何か名称を付けないといけないとしたら、門名を付ける時に地名を字名として付ける。そういうふうに考えた方がいいのじゃないかと思うのです。そういうのばかりじゃないでしょうけど、そういうのがかなりあるのじゃないか。

平田 門名は相当数記録に残っています。多いはずだということですね。

園

繁昌 「園」と「添」の違いは?

平田 「添」は、開発地名ですが、「園」は鹿児島県の場合、中世の武士が支配した土地に「園」が付く例が多いのです。古い時代の開発地名として「園」を捉えているだけのことです。

部当堀

上野 2ページ、館・城郭・集落地名の船木の中に「部当堀(ブトボイ)」とあるのですが、これは別当堀(ベットボギリ)ではないのか。普通部は「ベ」とも読めるので、これは別当という意味に解釈するのかなと思うのですが、どうですか。意味がよく判らない。

平田 「ベットボ堀」でしょうね。

上野 別当堀とすると、いろんな解釈が出来ます。

平田 「別当が住んでいる所の堀」になります。

上野 此處に出て来る「堀」というのは、ほとんどが屋形と結び付くようで、開発とか田畠と言ってるのには縁がないように思う。

平田 大隅半島の場合はそうですが、それは現地を歩いてみなければわからないから。

上野 新堀・江戸堀というのは、どうも開発的な名前。

平田 そう。開発的な名前もあります。それはそのように理解してよいでしょう。

肱岡 済みません。先程、部当堀(ブトボイ)と言いましたが、小字台帳は「ベトボリ」になっています。

平田 「ベットボリ」?

肱岡 「ベトボリ」です。「ベ」です。間違っていました。

乙房・天子信仰

? (誰の声か不明) 信仰地名の6番目、二渡の乙房(オツヲ)。

平田 乙房(オツヲ)じゃないのかな。オツヲと読んであるの? ハ'はそうだね。意味は判らないな。乙房(オツヲウ・オツヲ)なら判るけど?

? 坊?

平田 「坊」の方が理解出来るでしょう。

? 「天子」というのは?

平田 天子信仰があります。

肱岡 天神さんがありますね。

平田 天子信仰はあちこちにあります。天神さんとは別です。

上野 信仰地名の中に、久富木の山住(ヤアズミ)・弘智(コチ)。この二つは何か意味が?

平田 さあ、山住は山に住んでいる何かでしょうか。弘智というのは、寺か庵の名前かな。

上野 此处、独特の地名?

平田 そういうことでしょうね。時間が来ました。これで終わりにします。次回は入来の地名を上野さんにお願いします。もし間に合わない時は、私が飛び入りで話をします。

鹿児島地名研究会員名簿

平成16年9月5日現在

青柳 俊二	西田 春人
安樂 芳久	能勢 正之
池田 純	長谷川順一
今村 誠一	原口 泉
上野 勇史	繁昌 正幸
内山 憲一	肥後 芳尚
小山田 稔	肱岡修一郎
大田 照夫	平田 信芳
納 栄藏	福元 忠良
唐鑑 祐祥	三見 剛史
川野 雄一	本田 碩孝
霧島 一浩	松田 誠
小原 親英	松浪 由安
小山 更	三善喜一郎
坂本 誠	村山 謙一
下野 敏見	山崎 盛隆
築地 成郎	吉原 林昭
永井 啓介	
永坂 芳彦	米原 正晃

物故会員

小川亥三郎・片岡八郎・上赤一豊・桐野利彦・郡山政雄・永田典男・浜崎盛雄・原口虎雄・
鉢之原矢七・本田親虎・山田慶晴

宮之城町の地名(その1) ※は集落名

泊野					
大字					
※ 1	泊野	トマイ	36	辻	ツツ
1 木地山	キツヤマ		37	園ノ段	ツンダン
2 轟ノ段	トロノグン		38	出口	アゲチ
3 狩集	カツマイ		39	高峯	タカシネ
4 市野々	シノリ		40	花畠	ハナバタケ
5 石永	シガ		41	宮ノ段	ミヤンダン
6 石永段	シナガダン		42	現王原	センノハイ センノバル
7 迫田	サコグ		43	本田	ホンダ
8 大丸	オマル		44	野尻	ノシリ
9 笹段	サンダン		45	流合	ナガヤ
10 御前房	ゴセンボウ		46	久木野	クヨノ
11 牟田迫	ムダンコ		47	沖田	オタ
12 中山	カヤマ		48	川原	コラ
13 宇都	ウト		49	木折	キレ
14 土地	ド		50	湯ノ山	ユノヤマ
15 後牟田	ウシロムタ		51	上久木野	ガクヨノ
16 古屋敷	フルヤシ		52	大平	オヒラ
17 宮田	ミタ		53	屋床	ヤトコ
18 萩ノ段	ハギダン		54	竹八重	タケハエ
19 林	ハヤシ		55	長尾	ナガオ
20 大岩ヶ段	オオイワダン		56	白岩	シライ
21 前田	マタ		57	井川段	イカダン
22 和田	ワタ		58	内ノ木場	ウチノコバ
23 下水流	シモル		59	大岩	オオイワ
24 平野	ヒラ		60	上楠八重	ガミクシハエ
25 大屋久原	オオヤクボ		61	下楠八重	シモクシハエ
26 矢五郎	ヤゴウ		62	轟ノ元	トロノモト
27 菜薺ヶ平	ケンカヒラ		63	崩下	クエシタ
28 片平木場	カヒラコバ		64	入江川	イリエガワ
29 上川平	ミカヒラ		65	梅ヶ迫	ウメガコ
30 下川平	モカヒラ				
31 白崩	シロクニ				
32 三腰野	ミコソ				
33 高橋	タカハシ				
34 小高峯	コガシネ				
35 梨子迫	ナシガコ				

集落 1, 小字 65
計 66

大字 白男川				大字 二渡	
28 日影	ヒガ	66 現王迫田	センノウサコ	※	二渡 フタツイ
29 白岩ヶ迫	シライガコ	67 天神前	テンジンマエ	1	上島 がミシマ
30 轰平	トロヒラ	68 榎田	エノキダ	2	下島 シモシマ
31 火ノ峯	ヒノミネ	69 堂ノ下	ドウノシタ	3	野下 ナシタ
32 横ノ口	テノクチ	70 庵ノ前	アンノマエ	4	天子元 テンシノモト
33 岩ヶ迫	イワガコ	71 半次郎ヶ迫	ハンジロガコ	5	田ノ上 タノウエ
34 峠ノ下	トウゲノシタ	72 平八重	ヒラハエ	6	川添 カワツエ
35 金掘段	カヌイダン	73 本屋敷	モトヤシキ	7	水久保 ミズカボ
36 鎌山	カマヤマ	74 行司田	ギョウシタ	8	原口 ハラクチ
37 石佛	イシボケ	75 橋本	ハシモト	9	山下 ヤマシタ
38 七久保	ナクボ	76 寺ノ下	テラノシタ	10	出水瀬 ヤキゼ
39 山仁田	ヤマニタ	77 道添	ミチツエ	11	棚ノ瀬 タンセ
40 五十地	コシツチ	78 菅牟田	スガタ	12	石橋 シハシ
41 市ノ瀬	イハセ	79 栗山	クリヤマ	13	桜 サクラ
42 池田	イケダ	80 上原	ウエハル	14	原 ハラ
43 城ノ下	ジョウノシタ	81 中井手	カハシ	15	郷戸 ゴウド
44 蛭田	ホタヅ	82 江湖ノ迫	エゴノコ	16	池平 ハビラ
45 山野段	ヤマノダン	83 久山平	ケベヤマヒラ	17	竹山 タケヤマ
46 松ヶ迫	マツガコ	84 茄夷ヶ平	グンガヒラ	18	谷ノ口 タイノチ
47 野元	ノモト	85 小茶円	コチャエン	19	椎木ヶ迫 シバキガコ
48 五反田	ゴタング	86 長池	ナガケ	20	平田 ヒラタ
49 原田	ハラダ	87		21	兎田 ウサギタ
50 新田	シンアン	88		22	大丸 グイマル
51 馬場園	ハバンヅン	89		23	大迫 オサコ
52 宇都	ウト	90		24	錢掛 センケ
53 穴ノ城	アナゾ	※	白男川	25	貝俣 カイマタ
54 柳ヶ迫	ヤナギガコ	集落 1, 小字 86		26	鶯山 ウグイスヤマ
55 古屋敷	フルヤシ	計 87		27	大田 ウタ
56 床山段	トコヤマダン			28	平木 ヒラキ
57 道心山	ドウシンヤマ			29	舟渡ノ上 フタトウエ
58 鼻黒シ	ハナクロシ			30	久保田 クボタ
59 黒園	クロイ			31	小川 オカワ
60 須毛谷	スゲンヤイ			32	粢田 シトキン
61 柿木ヶ迫	カキノキガコ			33	鍋山 ナベヤマ
62 奈々脇	ナナツキ			34	宇都 ウト
63 横手	ヨコテ			35	町原 マツバ
64 谷ノ口	タニノクチ			36	永山 ナガヤマ
65 栗ノ脇	クリノツキ			37	吐合 ハキアイ

大字			二 渡		大字 久 富 木		
					久	富	木
38	前山	マエヤマ	76	水流	ツル	※	久富木 クキ
39	大広潟	オハロガ	77	郷ノ丸	ミノマル	1	下川内 シカワチ
40	久辺山	クベヤマ	78	梅木田	ウメキタ	2	赤面 アカメ
41	戸木山	トメヤマ	79	前田	マエダ	3	溝下 ミシタ
42	福ヶ迫	フクガコ	80	上水流	カミツル	4	丸岡 マルカ
43	蘭ヶ迫	イガコ	81	山ノ口	ヤマノチ	5	白坂 シラカ
44	日焼	ヒヤケ	82	諏訪ノ下	スワシタ	6	西下原 ニシモバル
45	餘り	アリ	83	岩坂	イワカ	7	東下原 ヒガシモバル
46	流合	ナガレイ	84	大山口	オオヤマチ	8	女迫 メコ
47	舟ノ尾	フナオ	85	樟脳山	ショウノウヤマ	9	中尾 カオ
48	田平	タヒラ	86	狸山	タヌキヤマ	10	宮山 ミヤマ
49	堂ノ尾	ドウオ	87	堂ノ前	ドウノマエ	11	床ノ丸 トコノマル
50	外菌	ホウノ	88	長畠	ナガハタ	12	葦原ノ段 アシハラノダン
51	山迫	ヤマサコ	89	西	ニシ	13	葦原 アシハラ
52	城ノ下	シロシタ	90	秩山	スキヤマ	14	笹原 ササバル
53	伯耆ノ元	ホウキモト	91	真茅段	マカヤダン	15	池ノ迫 ハンコ
54	嵐山	アラシヤマ	92	丸田	マルタ	16	尾ノ口 オノチ
55	生楠	ナマクス				17	桑ノ迫 クワノコ
56	轟山	トドロヤマ				18	前畠 マエバ
57	米山	コメヤマ				19	枯木ヶ迫 カキガサコ
58	松下	マツシタ	集落 1, 小字92			20	茶円添 チャエンソエ
59	犬抜山	イヌキヤマ	計 93			21	上横橋 がミニヨシ
60	下荒田	シモアラタ				22	牧ノ峯 マキハタ
61	運床	ウントコ				23	横瀬 ヨコセ
62	谷水	タイミズ				24	躰崎 タイキ
63	三十本	サンジュボン				25	小瀬戸 コセト
64	林ヶ平	リンガヒラ				26	野久尾 ノクオ
65	猿喰	サルクイ				27	小豆ヶ迫 アズキガサコ
66	飛渡	トリワタリ				28	白谷 シタイ
67	高城	タカショウ				29	上永田 がニガタ
68	松ヶ迫	マツガサコ				30	小園 コヅ
69	鎮守ヶ迫	チンジュガサコ				31	弘智 ヒロ
70	乙房	オツヲ				32	田尾ノ前 タオノマエ
71	浦田	ウラタ				33	竹ノ下 タケシタ
72	権現宇都	ゴンゲンウト				34	平城 ヒラシヨウ
73	宮ヶ原	ミヤハル				35	里元 サトモト
74	平城	ヒラシヨウ				36	岩坂 イワカ
75	内城	ウチショウ				37	宮ノ跡 ミヤノト

久 富 木							
大字							
38	川原	カワラ	74	八窪	ヤカボ ハナカボ	110	樋掛 ヒカケ
39	小久留守	コクレス	75	大岩ヶ迫	オオイガサコ	111	久保平 クボヒラ
40	久木元	クモト	76	餅迫	モチサコ	112	大野ノ段 オノグン
41	山口田	ヤマグチタ	77	樋ノ牟田	ヒノタタ	113	五色 ゴシキヤマノカン
42	米ノ山	コメノヤマ	78	起田平	オキタヒラ	114	岩崎 イワキ
43	和田	ワタ	79	梅川	ウメカ	115	大木場 オバマ
44	松原	マツバラ	80	仁田ヶ迫	ニタガサコ	116	大堀 オホリ
45	小松	コマツ	81	細工作	サイクサク	117	山ノ口 ヤマノチ
46	内侍免	ナイシメン	82	島廻	シママツリ シママツリ	118	脇ノ段 オノグン
47	大畠町	オオゼマチ	83	上村	カミムラ	119	荒迫 アラサコ
48	前田	マエダ	84	植ヶ元	ウエガモト	120	新田内 シンアンウチ
49	大迫	オオサコ	85	大杉	オオザギ	121	川内ノ口 カワチノウチ
50	坂ノ下	サカシタ	86	田ノ頭	タノガシラ	122	矢倉 ヤグラ
51	小原	コハラ	87	室屋	ムロヤ	123	大野岳 オオダケ
52	園田	ソノダ	88	上ノ川	ガノガ	124	野下 ナシタ
53	柏毛田	カスケダ	89	鳥越	トリエ	125	下永田 シモカタ
54	大谷	オオタニ	90	樋ノ口	ヒノチ	126	姫田 ヒメタ
55	樺ヶ谷	カバタニ	91	中ノ原	ナカハラ	127	芋ヶ原 オモカラ
56	地蔵ヶ宇都	ジサウガト	92	池ノ谷	ケノタニ	128	外戸口 オドロチ
57	上原田	ウエハラタ	93	北ノ川	キタノガ	129	芹ヶ谷 セリガニ
58	井手原	イハラ	94	屋敷ノ後	ヤシキノウシ	130	徳尾之本 トケイノヒト
59	青木	アオキ	95	火ノ丸	ヒノマル	131	三角田 ミシタ
60	宮下	ミヤシタ	96	田子峯	タガノミネ	132	宮ノ跡 ミヤト
61	丸内	マルウチ	97	松ヶ迫	マツガサコ	133	山ノ神 ヤマノミ
62	井手ノ上	イハラウエ	98	琵琶川	ビワガ	134	峯ノ園 ミネツリ
63	宇治ノ里	ウジノサト	99	上井手	ガミイ		
64	杉ノ丸	スギノマル	100	川床	カワトコ		
65	山神前	ヤマガミマ	101	猿喰	サルクレ		
66	長羽山	ナガハヤマ	102	折口	オリチ		
67	大山	オオヤマ	103	日ノ丸	ヒノマル		
68	瀬ヶ谷	セガタニ	104	山仁田	ヤマニタ		
69	長尾原	ナガハタ	105	下田	シモタ		
70	小市八重	コイハヤ	106	尾ノ口	オノチ		
71	川原田	カワラタ	107	法円寺	ホウエンジ		
72	井手田	イハタ	108	山住	ヤマズミ		
73	城ヶ峯	ジョウガミネ	109	横橋	ヨコハシ		

集落 1, 小字134
計 135

大字								
山 崎				水 岐				
※	山崎	ヤマサツ	36	穂葉木	ホバ	72	鶴越	ツルコエ
1	上大田	カミオタ	37	荒瀬上原	アラセカミハル	73	嵐ヶ谷	アラシガタニ
2	下大田	シモオタ	38	岩瀬中原	アラセカハル	74	猿喰	サルクイ
3	瀬ノ上	セノウエ	39	岩瀬下原	イワセシモハル	75	三石ヶ尾	ミツシガオ
4	杉ノ丸	スギノマル	40	岩置	イワキ	76	谷元	タニモト
5	餘ヶ城	アマガジョウ	41	上水流	カミツル	77	兎田	ウサギタ
6	稻荷迫	イナニサコ	42	下水流	シモツル	78	谷ノ口	タニノチ
7	稻荷原	イナニハル	43	宮田	ミタ	79	平田	ヒラタ
8	上原	ウエノル	44	赤仁田	アカニタ	80	伊勢ヶ原	イセカハル
9	下原	シモノル	45	池田	イケダ	81	伊勢ヶ原段	イセカハイダン
10	内堀	ウチボリ	46	上村	カミムラ	82	岩瀬	イワセ
11	池ノ上	イケノウエ	47	鳥越	トリゴエ	83	滑	ナ
12	山角	ヤマスミ	48	山口田	ヤマグチタ	84	谷添	タニツユ
13	須ノ元	スノモト	49	坂ノ下	サカノシタ	85	白岩	シライ
14	杉ノ本	スギノモト	50	山下	ヤマシタ	86	前平	マエヒラ
15	小倉	オグラ	51	輿五郎	ヨゴロウ	87	嵐ヶ峯	アラシガミネ
16	大窪	オオツボ	52	堂床	ドウコ	88	荒巻	アラマキ
17	松山	マツチャマ	53	茶屋ヶ段	チャヤガダン	89	豎迫	タテサコ
18	小松山	コマツヤマ	54	唐船岩	トウセンイワ	90	堤ヶ段	ツヅミガダン
19	野中	ノカ	55	門角	モンカド	91	水流ヶ段	ツルガダン
20	宮ノ前	ミヤノマエ	56	宇都ヶ迫	ウタガサコ	92	長迫	ナガサコ
21	竹ノ下	タケシタ	57	下荒巻	シモアラマキ	93	谷ノ口	タニノチ
22	新川	シンカワ	58	上荒巻	カミアラマキ	94	前田	マエダ
23	井倉	イクラ	59	萩原	ハギハラ			
24	大丸	ダイマル	60	垣内	カキウチ			
25	廣キ	コウキ	61	小向	コムカイ			
26	向躰崎	ムコウタキサク	62	川添	カワツユ	集落 1、小字 94		
27	古崩	フルクレ	63	前床	マエトコ	計 95		
28	大迫	オオサコ	64	小原	コバル			
29	古野	フルノ	65	坪平	ハゼヒラ			
30	黒坪	クロツボ	66	河添ノ迫	カワツユエサコ			
31	松ヶ迫	マツガサコ	67	倉谷	クラタニ			
32	岩氷	イワゴリ	68	長谷	ナガタニ			
33	宇都山	ウツヤマ	69	西原	ニシハラ			
34	池ノ元	イケノモト	70	下大原	シモオタハル			
35	野下	ノシタ	71	上大原	カミオタハル			

大字								
田 原				水 岐				
※	田原	タハル	36	唐ヶ迫	カタガサコ	72	小西	コニシ
1	焼香	ショウコウ	37	大丸	オオマル	73	和田藪	ワタゾノ
2	長迫	ナガサコ	38	中大迫	カオオサコ	74	坂之下	サカンシタ
3	長尾	ナガオ	39	船岩ノ段	フネイノグン	75	古城	フルショウ
4	鼠ヶ城	ヌシガジョウ	40	耳取	ミトイ	76	中棚	ナカタナ
5	石原	イシハル	41	小陳	コジン	77	開元	カイゲン
6	柳ヶ迫	ヤナッガサコ	42	丁子平	チヨウシラ	78	藤ヶ丸	フッガマイ
7	ツツジ原	ツツジハル	43	野元	ノモト	79	東十山	ヒガシジュヤマ
8	天ヶ石	アマガシ	44	戸平	トビラ	80	西十山	ニシジュヤマ
9	大迫	ウサコ	45	大杉	オオス	81	飛渡	トビワタリ
10	築詰	ヤツメ	46	小松ヶ尾	コマツガオ	82	大宮田	オオミヤダ
11	西ノ前	ニシノマエ	47	椎木	シノキ	83	倉内	クラウチ
12	轟ノ上	トドロンカ	48	ニガ木	ニガキ	84	鶴ヶ城	ツルガジョウ
13	柴立	シバタ	49	平野	ヒラノ	85	北鶴ヶ城	キタツルガジョウ
14	神ノ原	カンノハイ	50	水溜	ミツタマイ	86	餅坂	モチザカ
15	前ノ原	マエンハイ	51	永迫	ナガサコ	87	首塚	クビツカ
16	本高祖	モトコソ	52	宇治ヶ迫	ウジガサコ	88	布田	ヌダ
17	神ノ脇	カンノワカ	53	三ツヶ迫	ミツガサコ	89	修理田	シュウリヤン
18	高祖前田	コソマエダ	54	狐塚	キツネズカ	90	上鶴ヶ城	カミツルガジョウ
19	宮田	ミタ	55	鶴ヶ石	ツルガシ	91	下鶴ヶ城	シモツルガジョウ
20	平段	ヒラダン	56	高原	タカハシ	92	十山	ジュヤマ
21	楠島	クスジマ	57	古野山	フルノヤマ	93	戸平	トビラ
22	早谷	ショタイ	58	前平	マエヒラ			
23	高祖山	コソヤマ	59	湯穴ノ口	ヨウankenchi			
24	チシャノキ	チシャノキ	60	井手ノ山	インヤマ			
25	落ノ平	オシビラ	61	砂取	ストイ			
26	瀬ノ内	セノウチ	62	前田	マエダ			
27	高祖宮之脇	コウソミヤノワキ	63	山ノ口	ヤマンチ			
28	堀跡	ホリアト	64	濱川	ハマグ			
29	大岩ヶ迫	オオイワガサコ	65	宮ノ後	ミヤノウシロ			
30	身ノ山	ミノヤマ	66	宮ノ脇	ミヤワキ			
31	久保園	クボノ	67	叶ヶ宇都	カガウト			
32	向田	ムコウダ	68	土地	ド			
33	木場ヶ原	コバガハイ	69	ヨキトキ	ヨットツ			
34	九尾	ココノオ	70	風呂ノ山	フロンヤマ			
35	市ヶ迫	イワガサコ	71	薙田	ソンダ			

集落 1、小字93
計 94

大字			廣瀬		
※	広瀬	ヒセ	36	焼面	ヤキマ
1	豆漬	マメヅケ	37	濱射場	ハマンインバ
2	北山仁田	キタヤマニタ	38	栗下	クリシタ
3	宮之脇	ミノイチキ	39	芋洗	イモアライ
4	前田	マエダ	40	鳥越	トリゴエ
5	馬比辺べ	マコロベ	41	木場田	コバタ
6	折口	オリグチ	42	渡ノ平	ワタリノヒラ
7	菅ヶ迫	スゲザコ	43	井手ノ平	イネヒラ
8	山仁田	ヤマニタ	44	柳ヶ迫	ヤナガサコ
9	ナバイ松	ナバイマツ	45	小才	コサイ
10	スダノ木	スダノキ	46	岩井ヶ元	イイガモト
11	堂ヶ迫	ドウガコ	47	辻	ツジ
12	下堂ヶ迫	シモドウガコ	48	松ヶ迫	マツガサコ
13	三枝	ミヅカ	49	大平	ウビラ
14	五反田	ゴタンド	50	下木渋	シタキシブ
15	内之倉	ウチノカラ	51	岩下	イシタ
16	山神	ヤマカン	52	柿喰	カキイ
17	畠ノ下	ハタシタ	53	辨財天	ベンザイエン
18	轟木	トドキ	54	上石野々	カミシロニ
19	太郎原	タロウハル	55	大久保野	オカボ
20	笠岩	カサイワ	56	古道	フルヂ
21	石橋	イシハシ	57	野下	バタ
22	白ボッコ	シロボッコ	58	持田	モタ
23	持溝	モチゾ	59	花立	ハナタ
24	萩野々	ハギノリ	60	船ヶ迫	フナガサコ
25	平段	ヒラダン	61	鮎ノ瀬	アユノセ
26	三ノ崎	サンノサキ	62	内小川田	ウチオガタ
27	牟田	ムタ	63	月ノ峯	ツキノミネ
28	桑木ヶ迫	クモガサコ	64	通山	ツヤマ
29	原	ハラ	65	東光山	トコウヤマ
30	外堀	ソトホリ	66	宮田ヶ原	ミタガハイ
31	菅ノ山	スダノヤマ	67	仮屋田	カイヤタ
32	二八	ニハチ	68	宮田	ミタ
33	抜川	ヌコ	69	横石	ヨコシ
34	深牟田	フカムタ	70	内屋敷	ウチヤシキ
35	下ノ原	シモンハ	71	野中	ノカ

大字			廣瀬			大字			平川		
108	落切	オカリ	146	川原田	カワラタ	※	平川	ヒラカ	1	城木場	ジョコバ
109	羽太郎	ハタロウ	147	岩元	イモト	2	柿木原	カキノホリ	2	後川	ウロカ
110	六地蔵	ロクジゾウ	148	山川	ヤマカワ	3	鍋山段	ナベヤマダン	3	新地	シチ
111	小松島	コマツシマ	149	前島	マエシマ	4	馬越	マエカ	4	石塔ノ下	セキトウシタ
112	菅ヶ迫	スゲザコ	150	菅ヶ迫	スゲザコ	5	笛原	サザイ	5	中渡瀬	ナカワセ
113	加治屋ノ前	カギヤノマエ	151	石塔	セキトウ	6	宮田原	ミタガハル	6	妙見	ミヨウ
114	前畑	マエバタ	152	馬越	マエカ	7	墓段	ハカンダン	7	豆付	マメツケ
115	中棚	ナカタナ	153	御堂	ミドウ	8	狩越	カギエ	8	広瀬	ヒセ
116	広瀬	ヒセ	154	宮ノ前	ミノマエ	9	前原	マエハラ	9	久木元	クモト
117	妙見	ミヨウ	155	宮元	ミモト	10	踊越	オドリカ	10	前目	マエメ
118	石塔	セキトウ	156	久木元	クモト	11	鞍掛	ケラカ	11	妻ヶ原	ツマガハラ
119	久木元	クモト	157	官社塚	カンシャツカ	12	榎木ヶ丸	エリキガマル	12	芹原	セリハラ
120	前目	マエメ	158	阿字賀山	アジカヤマ	13	惠美寿	エビス	13	境ノ谷	ツカバ
121	妻ヶ原	ツマガハラ	159	牛ノス子	ウシノスネ	14	瀬戸山	セトヤマ	14	十文字	ジウモンジ
122	官社塚	カンシャツカ		後平	ウシロヒラ	15	柿木	カキノキ	15	猿喰	サルクイ
123	芹原	セリハラ		篠田頭	シタカシラ	16	井戸ノ迫	イドンサコ	16	大手六	コテロク
124	阿字賀山	アジカヤマ		篠田	シタ	17	下ノ段	シタンダン	17	長牟田	ナガムタ
125	牛ノス子	ウシノスネ		篠田	シタ	18	炭床	スントコ	18	大橋口	オオハシロ
126	十文字	ジウモンジ		西道正	ニシドウショウ	19	紫尾谷	シタニ	19	樂田	ラクタ
127	後平	ウシロヒラ		中尾	ナカオ	20	登尾	ノリオ	20	大橋口	オオハシロ
128	篠田頭	シタカシラ		麻利支天	マリシテン	21	熊ノ八重	カマンハエ	21	篠田	シタ
129	篠田	シタ		鬼田山	エニタヤマ	22	蔭平	ガビラ	22	旧寺山	キュウテラヤマ
130	西道正	ニシドウショウ		石原	イシハラ	23	庵ノウト	アンノウト	23	寺田	テラ
131	篠田	シタ		島田	シマタ	24	柳谷	ヤナツイ	24	後平	ウシロヒラ
132	中尾	ナカオ		鬼田山	エニタヤマ	25	小椎八重	コシハエ	25	不動谷	フドウニ
133	麻利支天	マリシテン		石原	イシハラ	26	破レ	ヤレ	26	大久保野	オカボ
134	鬼田山	エニタヤマ		島田	シマタ	27	渡原	ワタシハル	27	東道正	ヒシドウ
135	篠田	シタ		山下	ヤマシタ	28	古屋敷	フルヤシ	28	大久保野	オカボ
136	西道正	ニシドウショウ		八ノ別当	ハチノベツドウ	29	長尾平	カゼビラ	29	不動谷	フドウニ
137	篠田	シタ		上黒岩	ミクロイ	30	大洞	オカラ	30	大橋口	オオハシロ
138	中尾	ナカオ		中原	ナカハラ	31	建山	タケヤマ	31	長谷	ハナタ
139	麻利支天	マリシテン		長谷	ナガタニ	32	芝ノ段	シハダン	32	梅木	ウメキ
140	鬼田山	エニタヤマ		高木	タカキ	33	嶺北	ミズカ	33	神掛	カシカ
141	篠田	シタ		菅蒲田	ショウブタ	34	小川内	コチ	34	井手ノ本	イモト
142	西道正	ニシドウショウ		下黒岩	ミクロイ	35	金山	カナヤマ	35	仮屋田	カイヤタ
143	篠田	シタ		樅木	カシキ	36	二本木	ニホネ	36	内小川田	ウチオガタ
144	鬼田山	エニタヤマ		小牟田	コムタ	37	二本木	ニホネ	37	内屋敷	ウチヤシキ
145	篠田	シタ									

集落 1, 小字156
計 157

大字				平 川				
38	深田	フカタ	76	加治原	カシラ	114	竹下	タケシタ
39	東原	ヒガハル	77	園畠	ツバタ	115	樋渡	ヒワリ
40	増田	マスダ	78	上大木場	カネバ	116	天神ノ下	テンジンシタ
41	髪櫛	ビングシ	79	大木場	カバ	117	城	ジョウ
42	平田	ヒラタ	80	永田	カタ	118	福尾	フクオ
43	渋柿	シブカキ	81	母ヶ野	ホガ	119	下城下	シモヨウシタ
44	見立	ミテ	82	仮屋ヶ迫	カヤガコ	120	上城下	カミヨウシタ
45	内神山	ウチカンヤマ	83	西田	ニシタ	121	新城	シンヨウ
46	柿山	カキヤマ	84	小川田	カグタ	122	肥床ノ段	コトコンダン
47	北原	キタハル	85	野開	ハラキ	123	井手頭	イネガタ
48	後原	ウシロハル	86	摺木	スルキ	124	宇都	ウト
49	荒田ヶ迫	アラタガコ	87	出口	エグチ	125	井ノ尻	イリ
50	駒帰り	コマカリ	88	平八川原	ヘイハチカラ	126	下諏訪宇都	シモスワト
51	赤瀬戸	アカセド	89	田ノ神丸	タノカンマル	127	上天ヶ瀬戸	カミアマガセト
52	内田	ウチダ	90	塚ノ丸	ツカノマル	128	下天ヶ瀬戸	シモアマガセト
53	鶴木	ウキ	91	湯ノ迫	ユソコ	129	紺柿田	コンカキタ
54	轟キ	トドキ	92	砂田	スダ	130	横打	ヨコチ
55	悪四郎原	アシロウハル	93	小倉川	コクラガワ	131	比良田	ヒラタ
56	大原	オハラ	94	七拾三節	シチシュウサンジ	132	角石	スミシ
57	鯉ノ巣	コイヌ	95	山中	ヤマカ	133	湯崎	ヨザキ
58	宮坂	ミサカ	96	川附	カワツキ	134	野中	ノカ
59	宮ノ脇	ミノツキ	97	川久保	カワコボ	135	菅牟田	スガタ
60	上菅牟田	カミスガタ	98	野下	ノタ	136	天役保	テンヤコボ
61	宇道良	ウドラ	99	切通	キリトシ	137	菖ヶ迫	ショウガコ
62	下中島	シモナカシマ	100	堂ノ峯	ドウミネ	138	大迫	ウカ
63	土取	ツトリ	101	宮ノ上	ミヤノウエ	139	藤ヶ崎	フジガキ
64	屋敷田	ヤシダ	102	川原田	カワハラダ	140	椎木ヶ迫	シキガコ
65	後迫	ウシロコ	103	供養塚	クヨウツカ	141	八幡楠	ヤハタクス
66	砂走	スナシリ	104	柿木ヶ丸	カキノキガマル	142	笠松ヶ段	カサマツガダン
67	稻津	イツ	105	上諏訪宇都	カミスワト	143	柊木ヶ迫	クニガコ
68	大泉庵	ダイセンアン	106	楠ヶ段	クスガダン	144	竹堀切	タケホリキリ
69	樋掛	ヒケ	107	陳ノ原	チンノハイ	145	下永蓮葉	シモナガハスバ
70	屋根添	ヤネヒ	108	廣割	ヒロツリ	146	尾坐原田	オグダ
71	片白	カタホ	109	林ノ口	ハヤシノチ	147	石原	イシハラ
72	切戸ノ下	キドシタ	110	弥五郎	ヤゴウ	148	新改	シンカイ
73	屋敷ノ前	ヤシキノマエ	111	下リ山	サリヤマ	149	仁柿山	ニガキヤマ
74	菖蒲渡瀬	ショウガタリセ	112	鹿ノ原	カバハラ	150	ウグルス	ウグス
75	岡峯	カミミネ	113	宮ノ上	ミヤノウエ	151	上岩元	カミイモト

大字				平 川				大字 湯 田	
152	藤ヶ迫	フジガコ	190	竹ノ元	タケノモト	※	湯田	ヨタ	
153	椿木ヶ迫	ツバキガコ	191	屋敷添	ヤシキヒエ	1	鶴川原	ツルカワラ	
154	建場山	タケバヤマ	192	日ノ丸	ヒノマル	2	高迫	タカコ	
155	池ノ下	ツケシタ	193	青木間伏	アオキマシ	3	吹田	フキアン	
156	当ベス	トウベス	194	湯ヶ段	アゲンダン	4	宮之下	ミヤシタ	
157	鞘ノ迫	サキガコ	195	井手上	イネウエ	5	西別府	ニシベツフ	
158	岩山	イワヤマ	196	岩元	イワモト	6	鳩ノ峯	ハトミネ	
159	尾坐原	オガハル	197	梅木ヶ段	ウメガダン	7	上湯之坊	カミヨウボウ	
160	道添	ミチヒエ	198	大園	オオイリ	8	湯之元	ヨモト	
161	芝起	シロシ	199	上永蓮葉	カミナガハスバ	9	一辻	イチヅツ	
162	下柳谷	シモヤガタニ	200	木屋瀬戸	コヤセド	10	鶴喰	ツルクイ	
163	下屋敷	シモヤシキ	201	迫地	サコチ	11	高花段	コウカダン	
164	大薄	オオヌキ	202	下木場田	シモコバ	12	新ヶ山	シンガヤマ	
165	嶋廻	シマゲリ	203	地神田	ジンガ	13	長牟田	ナガムタ	
166	浜弓場	ハマユンバ	204	上宮田	ジョウゴウタ	14	杉山	スギヤマ	
167	栗久保	クリクボ	205	谷ノ口	タニノチ	15	島畠	シマハタ	
168	貫ノ口	キノチ	206	園田	リダ	16	神宮原	シンミヤハラ	
169	鍋易	ナベキ	207	中新改	ナカシンカイ	17	前田	マエダ	
170	下原	シモハル	208	中園	ナカイリ	18	下別府	シモベツフ	
171	中島	ナカシマ	209	七久保	ナガボ	19	十郎佐	ジュウロウサ	
172	餅田	モチダ	210	貫ノ口	キノチ	20	叶山	カネエヤマ	
173	上ノ迫	カミノコ	211	原田	ハラタ	21	石橋段	イシハシダン	
174	桑水流	クワツル	212	松下	マツシタ	22	馬渡	マワタリ	
175	道ノ下	ミチシタ	213	松ノ段	マツノダン	23	大丸	ダイマル	
176	道ノ上	ミチヒエ	214	豆打原	マメウチハイ	24	供養山	クヨウヤマ	
177	山下	ヤマシタ	215	宮園	ミヤイリ	25	中尾	ナカオ	
178	川原	カワハラ	216	向原	ムコウハル	26	上五敷	カミゴシキ	
179	村ノ後	ムラノウシロ	217	別レノ元	ワケレモト	27	供養原	クヨウハル	
180	西ノ園	ニシノリ				28	上原	ウエハ	
181	荒屋舗	アラヤクボ				29	下五敷	シモゴシキ	
182	上ノ原	カシノハラ				30	鐘	アミ	
183	葉山段	ハヤマダン				31	屋根副	ヤネヒ	
184	山ノ前	ヤマノマエ				32	川副	カワツ	
185	井手山	イネヤマ				33	舟津田	フツダ	
186	外園	ホリイリ				34	雲葉	モハ	
187	去人	サルヒト				35	鶴ノ巣	ウス	
188	上出口	カミアゲチ				36	餅坂	モチカ	
189	須田平	スダヒラ				37	笛原	サバル	
集落 1, 小字 217 計 218									

小字 湯 田			小字 格 野		
			格 野		
38 川原田 カハラタ	4 本谷 ホンガニ	42 新改 シカイ	13 原畠 ハラハタ	51 境ノ元 サカイモト	89 東谷 ヒガシガニ
39 初メ口 ハジメクチ	5 豆ヶ迫 マガコ	43 前田 マエタ	14 奎ノ介堀 モクノケリ	52 中ノ迫 カナコ	90 早谷 ソウタニ
40 城 ジョウ	6 別府 ベップ	44 屋敷前 ヤシキノマエ	15 檜木堀 エノキリ	53 町ヶ角 マチガスミ	91 観音平 カンオンビラ
41 薦牟田 コモタ	7 後谷 ウシロガニ	45 兔氏 ウサギウジ	16 迫畠 サコバタケ	54 江戸堀 エドリ	92 松本 マツモト
42 島ノ元 ミマモト	8 島黒 ミマグロ	46 宮前 ミヤマエ	17 桑木畠 クワキバタ	55 下永迫 シモカガコ	93 中野 ナカノ
43 桜木 サカキ	9 小八重 コハエ	47 竹下 タケシタ	18 西井穴 ニシイナ	56 上永迫 オカガガコ	94 宮ノ後 ミヤウシロ
44 高樋口 タヒチ	10 西 ニシ	48 勘場 カバ	19 東井穴 ヒガシイナ	57 矢五郎 ヤゴロウ	95 南 ミナミ
45 三枝 ミツダ	11 東 ヒガシ	49 月ノ元 ヲノモト	20 上ノ段 ウエノダン	58 黒岩 クロイワ	96 小原 コバル
46 高迫 タカコ	12 坊ノ田 ボウタ	50 市野 仔ノ	21 山下 ヤマシタ	59 早稲田ヶ丸 ラセダガマル	97 松ノ元 マツノモト
47 深迫 フカコ	13 松尾 マツオ	51 新田 シンテン	22 二反田 ニタダ	60 大堤 オオザツミ	98 前川 マエカワ
48 松ヶ迫 マツガコ	14 柳田 ヤナダ	52 小平 コヒラ	23 西之原 ニシノハラ	61 池ヶ迫 イケガコ	99 前田 マエダ
49 川合 カアイ	15 蟹ノ元 トロノモト	53 鳥越 トリコ	24 瀬戸ノ下 セトノシタ	62 於天城 オテヨウ	100 圈田 リダ
50 桜城 サクラジョウ	16 谷口 ナニギ	54 辰石 ダツシ	25 西ヶ迫 ミシガコ	63 坪井 ツボイ	101 檜木ヶ迫 タカキコ
51 猿坂 サルカ	17 白石 ヒライ	55 日添 ヒタチ	26 堂ノ前 ドウノマエ	64 塩消山 エンショウヤマ	102 粣田 ヒトギアン
52 新田 シンテン	18 篠段 ササタ	56 湯の川内 ユノカワチ	27 北園 キタガハ	65 四目ヶ迫 ヨツメガコ	103 北ヶ原 キタガハラ
53 別府 ベップ	19 根越 ネエ	57 中野 ナカノ	28 供養ノ元 クヨウノモト	66 下原 ミハラ	104 亀甲 カメク
54 好田 ヨシタ	20 筆落 フオトシ	58 大丸 オマル	29 坂ノ元 サカノモト	67 阿波瀬 アゼ	105 内屋敷 ユチヤシキ
	21 柳川内 ヤナガワチ		30 舟越 フナガ	68 舗ノ段 シキノダン	106 大曲 オオカ
	22 北迫 キタコ		31 舟山 フナヤマ	69 片白 カタシロ	107 川屋 コヤ
	23 大迫 オオコ		32 柿木田 カキタ	70 船木原 フナキマル	108 山瀬 ヤマイタ
	24 狐ヶ迫 キツネガコ		33 土道ヶ迫 ドミガコ	71 鍋田ヶ迫 ナベタガコ	109 山中 ヤマカ
	25 中間 ナカマ		34 轆轤 ロクロ	72 諸貞 モロツダ	110 青木ヶ本 オホガホト
	26 小敵 コキ		35 上原 ウエハラ	73 鍋田ヶ原 ナベタガハラ	111 祖母川 オホカ
	27 萩ノ段 ハギノダン		36 中道 ナカミ	74 野中 ノカ	112 奉社田 オウシャテン
	28 阿津川 アズカ		37 塗ヶ迫 ヌキガコ	75 三角堀 ミミキリ	113 西深田 ニシカダ
	29 桜ヶ葉山 サクラガハヤマ		38 尾建 オハタ	76 新堀 シンボリ	114 豆漬 マメヅケ
	30 高田 タガ		39 外堀 オエボリ	77 先甲辺 サキコベ	115 川漉田 コスキタ
	31 脇ノ川内 ヲノカワチ		40 茌ノ元 オホノモト	78 枝木堀 ハシキボリ	116 笹ヶ瀬戸 ササセト
	32 二ツ山 フツヤマ		41 茌ノ原 オホノハラ	79 尻角目 シリカタメ	117 荒鹿倉 アラカクラ
	33 ナバケ迫 ナバガコ		42 栄崎 クヰキ	80 中甲辺 ナカコベ	118 巣田ヶ下リ スタカタリ
	34 善十ヶ迫 センジュウガコ		43 西ノ谷 ニシノタニ	81 甲辺 コベ	119 寄ノ子 ヨヨイコ
	35 松ヶ迫 マツガコ		44 大堀 オホボリ	82 井ノ尻 イリリ	120 竜子仕明 リカノシマ
	36 小迫 ココ		45 狐堀 キツネボリ	83 七ツ迫 ナナツコ	121 徳尾 ドクエ
	37 木場 コバ		46 井川迫 オカワコ	84 百畠町 ヒヤケセマチ	122 下西ヶ迫 オシシマ
	38 迫田 サカタ		47 目クリ オカシリ	85 飛渡 ブヒタリ	123 船迫 フナガコ
	39 野中 ノカ		48 原之口 ハラノチ	86 兔田 ウサギタ	124 幡ノ尾 ハタオ
	40 川添 カワセ		49 部当堀 オトボリ	87 木京ヶ段 キヨウガダン	125 牛渡瀬 ウシワタセ
	41 池迫 イケコ		50 瀬戸口 セトチ	88 永迫 ナガコ	126 一ツ堀 ヒツボリ

小字 舟 木

※	舟木 フナキ
1	木ノ下 キシタ
2	格元 クモト
3	溝添 ミヅシタ
4	古城玉 コジョウタマ
5	占城 フルジョウ
6	日ノ丸 ヒノマル
7	五反田 ゴンダ
8	鞍崎 クラキ
9	宮ノ下 ミナシタ
10	油田 アブテン
11	星合堀 オシカヒ
12	長松院堀 チョウセンイヒ

大字 舟 木		
13 原畠 ハラハタ	51 境ノ元 サカイモト	89 東谷 ヒガシガニ
14 奎ノ介堀 モクノケリ	52 中ノ迫 カナコ	90 早谷 ソウタニ
15 檜木堀 エノキリ	53 町ヶ角 マチガスミ	91 観音平 カンオンビラ
16 迫畠 サコバタケ	54 江戸堀 エドリ	92 松本 マツモト
17 桑木畠 クワキバタ	55 下永迫 シモカガコ	93 中野 ナカノ
18 西井穴 ニシイナ	56 上永迫 オカガガコ	94 宮ノ後 ミヤウシロ
19 東井穴 ヒガシイナ	57 矢五郎 ヤゴロウ	95 南 ミナミ
20 上ノ段 ウエノダン	58 黒岩 クロイワ	96 小原 コバル
21 山下 ヤマシタ	59 早稲田ヶ丸 ラセダガマル	97 松ノ元 マツノモト
22 二反田 ニタダ	60 大堤 オオザツミ	98 前川 マエカワ
23 西之原 ニシノハラ	61 池ヶ迫 イケガコ	99 前田 マエダ
24 瀬戸ノ下 セトノシタ	62 於天城 オテヨウ	100 圈田 リダ
25 西ヶ迫 ミシガコ	63 坪井 ツボイ	101 檜木ヶ迫 タカキコ
26 堂ノ前 ドウノマエ	64 塩消山 エンショウヤマ	102 粟田 ヒトギアン
27 北園 キタガハ	65 四目ヶ迫 ヨツメガコ	103 北ヶ原 キタガハラ
28 供養ノ元 クヨウノモト	66 下原 ミハラ	104 亀甲 カメク
29 坂ノ元 サカノモト	67 阿波瀬 アゼ	105 内屋敷 ユチヤシキ
30 舟越 フナガ	68 舗ノ段 シキノダン	106 大曲 オオカ
31 舟山 フナヤマ	69 片白 カタシロ	107 川屋 コヤ
32 柿木田 カキタ	70 船木原 フナキマル	108 山瀬 ヤマイタ
33 土道ヶ迫 ドミガコ	71 鍋田ヶ迫 ナベタガコ	109 山中 ヤマカ
34 轆轤 ロクロ	72 諸貞 モロツダ	110 青木ヶ本 オホガホト
35 上原 ウエハラ	73 鍋田ヶ原 ナベタガハラ	111 祖母川 オホカ
36 中道 ナカミ	74 野中 ノカ	112 奉社田 オウシャテン
37 塗ヶ迫 ヌキガコ	75 三角堀 ミミキリ	113 西深田 ニシカダ
38 尾建 オハタ	76 新堀 シンボリ	114 豆漬 マメヅケ
39 外堀 オエボリ	77 先甲辺 サキコベ	115 川漉田 コスキタ
40 茌ノ元 オホノモト	78 枝木堀 ハシキボリ	116 笹ヶ瀬戸 ササセト
41 茌ノ原 オホノハラ	79 尻角目 シリカタメ	117 荒鹿倉 アラカクラ
42 栄崎 クヰキ	80 中甲辺 ナカコベ	118 巣田ヶ下リ スタカタリ
43 西ノ谷 ニシノタニ	81 甲辺 コベ	119 寄ノ子 ヨヨイコ
44 大堀 オホボリ	82 井ノ尻 イリリ	120 竜子仕明 リカノシマ
45 狐堀 キツネボリ	83 七ツ迫 ナナツコ	121 徳尾 ドクエ
46 井川迫 オカワコ	84 百畠町 ヒヤケセマチ	122 下西ヶ迫 オシシマ
47 目クリ オカシリ	85 飛渡 ブヒタリ	123 船迫 フナガコ
48 原之口 ハラノチ	86 兔田 ウサギタ	124 幡ノ尾 ハタオ
49 部当堀 オトボリ	87 木京ヶ段 キヨウガダン	125 牛渡瀬 ウシワタセ
50 瀬戸口 セトチ	88 永迫 ナガコ	126 一ツ堀 ヒツボリ

大字 舟木			大字 時吉		
127 前平 マヒラ	163 鳥越 トリカ		25 穴川口 アガワチ		
128 井手之元 イノモト	164 溝ノ元 ミノモト		26 橋ノ口 ハシノチ		
129 恋ノ巣 コイス			27 長崎 ナガサキ		
130 椎木ヶ元 ハギモト			28 焼米田 ヤコメダ		
131 柳ヶ丸 ヤナギマル		集落 1, 小字 164	29 拾壹面 シュウイヘン		
132 白石 シライ		計 165	30 血合 チアゼ		
133 城ノ段 ショウノダン			31 北川 キタカワ		
134 下瀬戸口 ミセトグチ			32 元町 モトマチ		
135 井王キ イヌキ			33 平ノ前 ヒラノマエ		
136 堂免 ウム		大字 時吉	34 弓場ヶ迫 エバガコ		
137 平山 ヒラヤマ			35 柱松 ハシラマツ		
138 岩根谷 イネニ			36 風呂ヶ迫 フロガコ		
139 山川 ヤマガワ			37 舟渡ヶ迫 フナガコ		
140 橋ノ元 ハシモト			38 鳥越 トリカ		
141 上原 ウエハラ			39 城ノ中 シヨンカ		
142 道無 ミナシ			40 利昌寺 リショウジ		
143 大迫田 オオカタ			41 雨堤 アマツミ		
144 下山下 シモヤシタ			42 前田 マエダ		
145 吉原 ヨシハラ	7 丹ヶワ タンガ				
146 浦牛原 ウラウシバル	8 中央田 チュウオカ				
147 鍋田 ナベタ	9 垂門 タレド				
148 岩ノ元 イノモト	10 圏田 リリ				
149 堀田 ホタ	11 柳ヶ丸 ヤナギマル				
150 四迫田 ヨカタ	12 一丁田 イチヨウダ				
151 小渡 コタリ	13 池田 イケダ				
152 エゴノ口 エゴノチ	14 蟹ノ上 トドンカン				
153 平田 ヒラタ	15 二反田 ニツダ				
154 松ノ元 マツノモト	16 黒田 クロダ				
155 鷹ノ巣 タカノス	17 宮下 ミヤシタ				
156 郷九郎 ゴウクウ	18 中城 ナカジョウ	集落 1, 小字 42			
157 虻瀬 アセ	19 脇田 ワキタ	計 43			
158 金ヶ山 キンガヤマ	20 萩峯 ハギミネ				
159 上ノ原 カンハイ	21 赤道 アカミチ				
160 小松原 コマツバラ	22 前原 マエハル				
161 境ノ元 サカイモト	23 元高祖 モトコウジ				
162 下瀬戸ノ口 ミセトグチ	24 西ヶ迫 ニシガコ				

大字 旭町、虎居町、西新町			大字 虎居		
※ 旭町 アサヒマチ	28 高宗 タカリ	66 原口 ハラグチ			
※ 虎居町 ドライマチ	29 虎居道 ドライヂ	67 堂ノ前 ドウマエ			
※ 西新町 ニシシンマチ	30 隠居迫 インキョウコ	68 カジノ下 カジノシタ			
集落 3	31 松尾 マツオ	69 水洗 ミズアライ			
計 3	32 池ノ段 イケノダン	70 弓場ヶ迫 エバガコ			
	33 瀬戸ノ口 セトノチ	71 後川 ウシロカワ			
	34 瀬戸ノ上 セトノウエ	72 ムベ山 ウベヤマ			
	35 鍋山 ナベヤマ	73 上ノ原 ウエノハラ			
	36 上屋敷 がミヤシキ	74 床並 トコミ			
	37 脇ノ丸 ワキノマル	75 前田 マエダ			
	38 深田 フカタ	76 西ノ丸 ニシノマル			
	39 曲渕 マガリブチ	77 園田 リリダ			
	40 湯ノ原 ユノハラ	78 逆巻 サカマキ			
	41 獅子丸 シシマル	79 外園 オカリ			
	42 外戸ノ口 リトノチ	80 鬼ヶ平 エニガヒラ			
	43 前畠 マエハタ	81 井穴口 イナゲチ			
	44 菖蒲ヶ迫 ショウブガコ	82 市来島原 仔キシマハラ			
	45 砂走 スナシリ	83 雪山 エキヤマ			
	46 柳ヶ迫 ヤナギガコ	84 原ノ口 ハラノチ			
	47 ホキノ元 ホキノモト	85 山前 マエヤマ			
	48 並榎 ナミハシ	86 四反田 ヨンタンド			
	49 西ノ原 ニシノハラ	87 並松 ナミツツ			
	50 北園 キタガハラ	88 犬北 インカタ			
	51 南原 ミナミハラ	89 庚申田 コウシンテン			
	52 小石原 コイシハラ	90 小坂 コザカ			
	53 鎮守原 チンジュバル	91 轟原 ドロバ			
	54 中津川原 ナカツガハラ	92 鼻縄石 ハナクリイシ			
	55 朝畠 アサハタ	93 山口 ヤマグチ			
	56 川原田 カワハラダ	94 石野 イシノ			
	57 内ノ木場 ウチノコバ	95 猫小路 ネコショウジ			
	58 川北 カワキタ	96 狐ヶ迫 キツネガコ			
	59 宮ノ下 ミヤシタ	97 野下 ナシタ			
	60 兔田 ウサギタ	98 山下 ヤマシタ			
	61 屋根添 ヤネエ	99 石佛 イシボケ			
	62 栗ノ中 クリノカ	100 山内 ヤマウチ			
	63 橋ノ口 ハシノチ	101 小石ヶ段 コイシダン			
	64 前屋敷 マエヤシキ	102 徳尾 トケ			
	65 千寿連 センジュレン	103 一ノ瀬 仔ノセ			

大字 虎 居			大字 屋 地		
104 堂教平	ドウヨウヒラ	142 山内	ヤマナ	※	屋地
105 二百地	ニヒヤチ	143 青木	アキ	1	城内
106 竹下	タケシタ	144 石場下	イシバシタ	2	八女
107 諏訪宇都	スワト	145 大角原	オオスミハル	3	井穴
108 大迫	オオサコ	146 川水流	カワヅル	4	瀧ノ上
109 鎮守原	チヌヅユハイ	147 京塚原	キョウツカハル	5	古城
110 屋敷田	ヤシダ	148 粣田	シトギン	6	巣山下ノ段
111 杉ノ丸	スギノマル	149 瀧ヶ迫	タキガサコ	7	巣山中ノ段
112 法連畑	ホウレンバン	150 鎮守免	チヌヅガメン	8	巣山上ノ段
113 宮ノ前	ミヤノマエ	151 堂ノ下	ドウナシタ	9	巣山飛渡
114 栗畑	クリバタケ	152 同ノ丸	ドウノマル	10	城之段
115 古野	フル	153 西ヶ迫	ニシガサコ	11	薬師院
116 楠木下	クスギシタ	154 ニタイ尾	ニタイ	12	東ノ口
117 土手下	ドテシタ	155 登鹿倉	ノボリカクラ	13	風呂ヶ迫
118 キン田	キンタ	156 蓾田	ミダ	14	堀畑
119 松ヶ迫	マツガサコ	157 山ニタ	ヤマニタ	15	野久尾
120 上崎山	ガミキヤマ	158 脇田	ワキタ	16	見越
121 慶兵衛	ケイベ			17	諏訪原
122 出口	アグチ			18	五日町
123 横打	ヨコウチ			19	柊脇
124 橋掛	ヒカケ			20	柊崎
125 平田	ヒラタ			21	柊元
126 原田	ハラタ			22	五日市
127 熊渡瀬	クマワタセ			23	宇都
128 腰岩	コシイ			24	豆ヶ迫
129 椎木ヶ迫	シキガサコ			25	坂ノ下
130 永田原	ナガタハル	集落 1, 小字 158		26	西ヶ迫
131 崎山	サキヤマ	計 159		27	平畑
132 二本松	ニボンマツ			28	大明神免
133 改田	カイテン			29	町ノ上
134 溝下	ミヅシタ			30	城ノ口
135 鍋田	ナベタ			31	川添
136 ヌルキヶ迫	ヌルキガサコ			32	城之前
137 岩下	イワシタ			33	下町
138 切通	キリトシ			34	上町
139 鳩ヶ迫	ハトガサコ			35	町頭
140 南ヶ丸	ミナミガマル			36	平田
141 中棚	ナカタ			37	桃ヶ迫

大字 屋 地				
38 石踊	イシオドリ			
39 峯下	ミネシタ			
40 八幡馬場	ハチマンバ			
41 峯下小路	ミネシタコヅ			
42 赤剥	アカハズ			
43 龍風ヶ迫	リュウフウガサコ			
44 松ヶ迫	マツガサコ			
45 愛宕脇	アタゴノツキ			
46 大明神脇	ダイミョウジンツキ			集落 1, 小字 73
47 屋地馬場	ヤチバ			計 74
48 愛宕	アタゴ			
49 蟹田	ガタ			
50 木場田	コバ			
51 外戸ノ口	トドノチ			
52 外芦原	リトアツシハラ			
53 芦原	アツシハラ			
54 狐塚	キツネズカ			
55 山ノ口	ヤマノチ			
56 高付	タカツカ			
57 東谷	ヒガシタニ			
58 本新蔵	モトシンカラ			
59 大麦田	オオムギタ			
60 川原	カワラ			
61 前岡	マエオカ			
62 溝添	ミヅヒ			
63 白尾	シロオ			
64 大丸	ダイマル			
65 丸岡	マルオカ			
66 小松山	コマツヤマ			
67 橋ノ口	ハシノチ			
68 虚空蔵岡	コクカウガ			
69 後岡	ウシロオカ			
70 東平	ヒガシヒラ			
71 永尾	ナガオ			
72 木場田口	コバゲチ			
73 中街道	ナガハイトウ			

宮之城町の地名（その3）

(1) 信仰地名----157

- 泊野(4) 宮田、宮ノ段、御前房、現王原、
 白男川(10) 宮田、石仏、道心山、天神前、堂ノ下、神屋敷、寺ノ下、現王迫田、庵ノ前、立石、
 二渡(9) 堂ノ尾、鎮守ヶ迫、權現宇都、諏訪ノ下、堂ノ前、天子元、宮ヶ原、乙房、粢田、
 久富木(10) 宮ノ跡、地藏ヶ宇都、法円寺、宮山、内侍免、宮下、山ノ神、山神前、
 山住、弘智、
 山崎(7) 稲荷迫、稻荷原、宮ノ前、堂床、宮田、伊勢ヶ原、伊勢ヶ原段、
 田原(17) 神ノ原、神ノ脇、宮ノ後、宮ノ脇、本高祖、高祖山、高祖宮之脇、高祖前田、宮田、大宮田、修理田、狐塚、柴立、花立、燒香、天ヶ石、首塚宮之脇、堂ヶ迫、辨財天、宮田ヶ原、宮田、諏訪ノ迫、神掛、六地蔵、宮ノ前、宮元、御堂、下堂ヶ迫、旧寺山、石塔ノ下、石塔、寺田、山神、官社塚、妙見、摩利支天、不動谷、鬼田山、濱射場、
 平川(24) 内神山、堂ノ峯、供養塚、天神ノ下、下諏訪宇都、上諏訪宇都、地神田、宮坂、宮ノ脇、上宮田、宮田原、宮ノ上、八幡楠、墓段、恵美寿、田ノ神丸、大泉庵、天役保、濱弓場、鞘ノ迫、庵ノウト、餅田、建山、下り山、
 湯田(5) 神宮原、宮ノ下、供養山、供養原、上湯之坊、
 栄野(2) 宮前、坊ノ田、
 船木(10) 宮ノ下、宮ノ後、堂ノ前、堂免、供養ノ元、觀音平、粢田、油田、奉社田、巣田ヶ下り、
 時吉(6) 宮下、元高祖、利昌寺、弓場ヶ迫、弓場之元、柱松、
 虎居(21) 宮田、宮ノ前、宮ノ下、諏訪宇都、堂ノ前、堂ノ下、堂教平、堂ノ迫、地蔵段、鎮守原、鎮守原、鎮守免、石仏、高宗、法連畑、粢田、庚申田、鬼ヶ平、京塚原、弓場ヶ迫、甫立原、
 屋地(9) 薬師院、諏訪原、大明神免、大明神脇、八幡馬場、愛宕脇、愛宕、虛空蔵岡、狐塚、
 (2) 館・城郭・集落地名----104
 泊野(2) 古屋敷、土地、
 白男川(7) 城ノ脇、城ノ下、穴ノ城、古屋敷、本屋敷、有木、火ノ峯、
 二渡(6) 高城、平城、内城、城ノ下、郷ノ丸、郷戸、
 久富木(11) 平城、城ヶ峯、丸内、矢倉、床ノ丸、大堀、屋敷ノ後、上村、里元、室屋、野久尾、
 山崎(8) 餘ヶ城、小倉、井倉、倉谷、門角、内堀、垣内、上村、

田原(10)

- 古城、鶴ヶ城、北鶴ヶ城、上鶴ヶ城、下鶴ヶ城、鼠ヶ城、小陳、倉内、堀跡、土地、
 広瀬(5) 内ノ倉、外堀、仮屋、仮屋田、内屋敷、
 平川(15) 新城、城、下城下、上城下、城木場、古屋敷、屋敷田、下屋敷、荒屋鋪、屋敷添、屋敷ノ前、仮屋ヶ迫、小倉川、陳ノ原、村ノ後、
 湯田(2) 城、桜城、
 栄野(1) 屋敷前、
 船木(17) 古城、古城玉、於天城、城ノ段、長松院堀、星合堀、榎木堀、外堀、大堀、狐堀、部当堀、江戸堀、榎木堀、一つ堀、新堀、内屋敷、荒鹿倉、中城、城ノ中、垂門、
 時吉(3) 西ノ丸、南ヶ丸、同ヶ丸、上屋敷、前屋敷、屋敷田、登鹿倉、
 虎居(7) 屋地(10) 城内、古城、城之段、東ノ口、城ノ口、城ノ前、屋地、屋地馬場、本新蔵、野久尾、

(3) 条里・土地区画地名----24

- 泊野
 白男川(3) 五十地、五反田、二反山、
 二渡(1) 餘り、
 久富木
 山崎(1) 黒坪
 田原(3) 東十山、西十山、十山、
 広瀬(2) 五反田、建割、
 平川(2) 七拾三節、広割、
 湯田(2) 上五敷、下五敷、
 栄野
 船木(4) 五反田、二反田、四目ヶ迫、七ツ迫、
 時吉(3) 一丁田、二反田、拾壹面、
 虎居(3) 四反田、二百地、キン田、
 屋地

(4) 市・町交通地名----117

- 泊野(5) 高橋、出口、辻、市野々、泊野、
 白男川(3) 橋本、峠ノ下、市ノ瀬、
 二渡(6) 石橋、飛渡、二渡、舟ノ尾、舟渡ノ上、岩坂、
 久富木(10) 外戸口、宇治ノ里、横橋、上横橋、折口、坂ノ下、岩坂、白坂、田尾ノ前、鳥越、
 山崎(4) 鳥越、鶴越、茶屋ヶ段、坂ノ下、
 田原(4) 飛渡、坂之下、餅坂、市ヶ迫、

広瀬(15)	古道、道下、十文字、辻、石橋、大橋口、東道正、西道正、折口、馬比 辺、鳥越、馬越、鞍掛、通山、通山ノ下、	久富木(3)	杉ノ丸、火ノ丸、日ノ丸、
平川(16)	切通、見立、砂走、狩越、踊越、登尾、駒帰り、道ノ下、道ノ上、道添 、中渡瀬、出口、上出口、稻津、別レノ元、船ヶ迫、	山崎(3)	大丸、杉ノ丸、輿五郎、
湯田(7)	馬渡、舟津田、石橋段、初メ口、一辻、猿坂、餅坂、	田原(3)	大丸、藤ヶ丸、小才、
柊野(3)	鳥越、根越、市野、	広瀬(4)	羽太郎、菖蒲ヶ丸、八ノ別当、太郎原、
船木(13)	町ヶ角、飛渡、小渡、牛渡瀬、中道、土道ヶ迫、橋ノ元、舟越、舟山、 船迫、道無、鳥越、恋ノ巣、	平川(7)	日ノ丸、榎木ヶ丸、塚ノ丸、柿木ヶ丸、悪四郎原、弥五郎、平八川原、
時吉(6)	鳥越、赤道、橋ノ口、舟渡ヶ迫、元町、丹グワ、	湯田(2)	大丸、十郎佐、
虎居(12)	虎居道、猫小路、橋ノ口、出口、外戸ノ口、熊渡瀬、坂ノ下、小坂、切 通、旭町、虎居町、西新町、	柊野(2)	大丸、善十ヶ迫、
屋地(13)	中街道、見越、坂ノ下、外戸ノ口、巣山飛渡、橋ノ口、峯下小路、五日 町、五日市、町ノ上、下町、上町、町頭、	船木(11)	日ノ丸、柳ヶ丸、早稻田ヶ丸、矢五郎、郷九郎、笠ノ元、笠ノ原、 甲辺 、中甲辺、先甲辺、杔ノ介堀、
(5) 水利地名----72		時吉(1)	柳ヶ丸、
泊野(2)	井川段、入江川、	虎居(5)	獅子丸、杉ノ丸、脇ノ丸、慶兵衛、隠居迫、
白男川(6)	白男川、長池、樋ノ口、樋迫、中井手、井手尻、	屋地(1)	大丸、
二渡(2)	池平、小川、	(7) 職業・産業地名----50	
久富木(11)	上ノ川、北ノ川、琵琶川、池ノ迫、池ノ谷、樋ノ口、溝下、井手原、井 手ノ上、上井手、樋掛、	泊野(4)	木地山、片平木場、内ノ木場、 狩集 、
山崎(2)	新川、池田、	白男川(3)	金掘段、床山段、梁瀬、
田原(3)	濱川、井手ノ山、落ノ平、	二渡(4)	錢掛、樟脳山、平木、 貝俣 、
広瀬(10)	抜川、池ノ原、本井手ノ口、岩井ヶ元、井手ノ本、持溝、樋掛、井手ノ 平、落切、山川、	久富木(3)	細工作、大木場、牧ノ峯、
平川(10)	平川、後川、川附、池ノ下、井手頭、井手山、井手上、樋渡、井戸ノ迫 、井ノ尻、	山崎	
湯田(1)	高樋口、	田原(4)	木場ヶ原、砂取、築詰、ヨキトキ、
柊野(3)	阿津川、池迫、井手段、	広瀬(5)	豆漬、豆付、芋洗、加治屋ノ前、青木間伏、
船木(14)	祖母川、山川、池ヶ迫、井手之元、西井穴、東井穴、井川迫、溝ノ元、 大堤、溝添、坪井、井王キ、井ノ尻、川屋、	平川(9)	炭床、金山、髪櫛、建場山、加治原、上大木場、大木場、 組柿田 、大薄
時吉(1)	穴川口、	湯田(2)	湯ノ元、土取、
虎居(6)	後川、池ノ段、井穴口、樋ノ口、樋掛、溝下、	柊野(2)	木場、兎氏、
屋地(1)	井穴、	船木(6)	轆轤、 塩消山 、豆漬、金ヶ山、船木、船木原、
(6) 人名・職掌地名----50		時吉(1)	加治屋、
泊野(2)	大丸、 矢五郎 、	虎居(6)	並柵、土取、カジノ下、石場ノ下、石場下、内ノ木場、
白男川(5)	小丸、大丸、宍丸、半次郎ヶ迫、行司田、	屋地(1)	木場田口、
二渡(1)	大丸、	(8) 開発地名----71	
		泊野(3)	竹八重、上楠八重、下楠八重、
		白男川(7)	新田、別府原、馬場園、黒園、小茶円、平八重、道添、
		二渡(2)	外園、川添、 平木 、
		久富木(6)	園田、小園、新田内、峯ノ園、茶円添、小市八重、
		山崎(3)	川添、河添ノ迫、谷添、
		田原(4)	園田、和田園、久保園、 開元 、
		広瀬(3)	園田、木場田、焼面、
		平川(13)	園田、園畑、外園、大園、中園、宮園、新地、中新改、新改、屋根添、

	小椎八重、西ノ、野開、	起田平、久保平、大野ノ段、脇ノ段、荒迫、横瀬、下川内、川内ノ口、白谷、脇ノ川内、湯ノ川内、	
湯田(6)	新田、別府、西別府、下別府、屋根副、川副、	山崎(21)	山崎、上原、下原、向駄崎、古野、荒瀬上原、荒瀬中原、荒瀬下原、西原、岩瀬、長谷、前床、前平、豎迫、堤ヶ段、瀬ノ上、荒巻、下荒巻、上荒巻、宇都山、宇都ヶ迫、
柊野(7)	古園、新田、新改、別府、日添、川添、小八重、	田原(18)	田原、石原、前ノ原、早谷、身ノ山、平野、古野山、平段、唐ヶ迫、中大迫、船岩ノ段、宇治ヶ迫、三ツヶ迫、前平、戸平、高原、瀬ノ内、叶ヶ宇都、
船木(4)	園田、北園、溝添、竜子仕明、	広瀬(19)	二ノ崎、原、下ノ原、月ノ峯、東光山、境ノ谷、エゲン谷、妻ヶ原、中原、長谷、広瀬、瀬戸口、前島、平段、渡ノ平、大久保野、後平、石原、宇都、
時吉(3)	園田、焼米田、新改原、	平川(34)	前原、瀬戸山、深山、東原、北原、後原、岡峯、母ヶ野、上天ヶ瀬戸、下天ヶ瀬戸、湯崎、尾坐原、下原、上ノ原、木屋瀬戸、渡原、石原、赤瀬戸、谷之口、下中島、中島、下ノ段、蔭平、長尾平、荒田ヶ迫、後迫、湯ノ迫、肥床ノ段、上ノ迫、湯ヶ段、迫地、宇道良、宇都、小川内、新ヶ山、叶山、高迫、川合、
虎居(6)	園田、改田、北園、外園、屋根添、小椎八重、	湯田(4)	本谷、後谷、中野、瀬戸口、下瀬戸口、下瀬戸ノ口、北迫、小平、西之原、上原、西ノ谷、下原、阿波瀬、鍋田ヶ原、東谷、早谷、中野、小原、前川、北ヶ原、平山、岩根谷、吉原、上ノ原、上ノ段、塗ヶ迫、中ノ迫、下永迫、上永迫、舗ノ段、永迫、下西ヶ迫、前平、西ヶ迫、前原、長崎、西ヶ迫、
屋地(4)	木場田、木場田口、川添、道添、	柊野(8)	長谷、湯ノ原、西ノ原、南原、小石原、中津川原、上ノ原、市来島原、石野、一ノ瀬、古野、永田原、崎山、大角原、上崎山、瀬戸ノ上、瀬戸ノ口、逆巻、木油ヶ迫、東ヶ迫、西ヶ迫、山内ヶ平、小石ヶ段、岩下、
(9) 田畠地名----1 1 8		船木(26)	屋地(10) 東谷、前岡、後岡、巣山下ノ段、巣山中ノ段、巣山上ノ段、西ヶ迫、瀧ヶ迫、瀧ノ上、宇都、
泊野(6)	迫田、前田、和田、本田、沖田、花畠、	時吉(3)	(11) 目印地名----1 8 1
白男川(4)	螢田、原田、榎田、池田、	虎居(24)	泊野(8) 林、茱萸ヶ平、木折、白岩、笹段、萩ノ段、梨ヶ迫、梅ヶ迫、
二渡(12)	田ノ上、平田、兎田、大田、久保田、田平、下荒田、浦田、梅木田、前田、丸田、長畠、	白男川(12)	白男川(12) 茱萸ヶ平、杉山、上徳松、下徳松、栗ノ脇、米山、栗山、櫟ヶ迫、白岩ヶ迫、松ヶ迫、柳ヶ迫、柿木ヶ迫、
久富木(14)	山口田、和田、前田、粕毛田、上原田、川原田、上永田、下永田、姫田、下田、田ノ頭、前畠、大畠町、井手田、	二渡(11)	二渡(11) 桜、竹山、鶯山、米山、犬抜山、狸山、椎木ヶ迫、蘭ヶ迫、林ヶ平、真茅段、松ヶ迫、
山崎(6)	上大田、下大田、山口田、兎田、平田、前田、	久富木(18)	久富木(18) 小久留守、青木、小松、大杉、葦原、笹原、米ノ山、松原、樺ヶ谷、芹ヶ谷、芋ヶ原、桑ノ迫、枯木ヶ迫、小豆ヶ迫、餅迫、松ヶ迫、葦原ノ段、島廻、
田原(3)	向田、前田、布田、	山崎(7)	山崎(7) 白岩、松山、小松山、萩原、松ヶ迫、栌平、穂葉木、
広瀬(14)	前田、持田、外小川田、楽田、浅畠、前畠、篠田、篠田頭、島田、菖蒲田、畠野下、上ノ鍋田、内小川田、池田、		
平川(12)	増田、平田、内田、永田、西田、砂田、川原田、比良田、原田、下木場田、尾坐原田、小川田、		
湯田(6)	湯田、吹田、前田、川原田、好田、島畠、		
柊野(4)	柳田、高田、迫田、前田、		
船木(14)	柿木田、兎田、前田、西深田、鍋田、大迫田、堀田、四迫田、平田、川漉田、桑木畠、原畠、迫畠、百畠町、		
時吉(5)	中央田、黒田、脇田、前田、池田、		
虎居(14)	池田、永田、荒田、深田、前畠、朝畠、兎田、前田、平田、原田、鍋田、蓑田、脇田、川原田、		
屋地(4)	平田、大麦田、堀畠、平畠、		
(10) 自然地名----2 3 0			
泊野(18)	中野、中山、三腰野、小高峯、高峯、久木野、湯ノ山、上久木野、大屋久原、上川平、下川平、流合、石永段、園ノ段、屋床、大平、川床、宇都、		
白男川(8)	永山、須毛谷、上原、吐合、山野段、久山平、江湖ノ迫、宇都、		
二渡(17)	原、町原、永山、前山、久辺山、戸木山、秩山、棚ノ瀬、上島、下島、流合、出水瀬、谷水、吐合、山迫、運床、宇都、		
久富木(20)	駄崎、小原、瀬ヶ谷、長尾原、柳川内、田子峯、岩崎、大野岳、女迫、		

田原(11)	チシャノ木、ニガ木、椎木、大杉、大岩ヶ迫、鶴ヶ石、ツツジ原、柳ヶ迫、丁子平、小松ヶ尾、楠島、	泊野(2)	野尻、横手、
広瀬(19)	ナバイ松、スタノ木、梅木、牛ノス子、上黒岩、櫻木、下黒岩、青芝野、鮎ノ瀬、萩野々、芦原、小松島、柳ヶ迫、松ヶ迫、芦刈、桑木ヶ迫、菅ノ山、菅ヶ迫、芹原、	白男川(6)	山下、尻ノ口、野元、谷ノ口、螺尻、横手、
平川(34)	柿木、二本木、渋柿、摺木、柿木原、笹原、紫尾谷、柿山、藤ヶ崎、下柳谷、柳谷、鯉ノ巣、柊木ヶ迫、笠松ヶ段、椎木ヶ迫、楠ヶ段、芝ノ段、藤ヶ迫、椿木ヶ迫、葉山段、梅木ヶ段、松ノ段、武堀切、下永蓮葉、芝起、上永蓮葉、豆打原、鵜ノ木、島廻、ウグルス、仁柿山、須田平、鹿ノ原、菖蒲ヶ迫、	二渡(8)	西、野下、山下、原口、松下、山ノ口、大山ノ口、谷ノ口、
湯田(8)	雲葉、鵜ノ巣、桜木、杉山、笹原、高花段、松ヶ迫、鳩ノ峯、	久富木(10)	西下原、東下原、竹下、尾ノ口、久木元、野下、山ノ口、植ヶ元、中尾、中ノ原、
柊野(14)	島黒、白石、柊野、セリ谷、桜ヶ葉山、笹ヶ瀬戸、虻瀬、豆ヶ迫、笹段、萩ノ段、狐ヶ迫、松ヶ迫、松尾、ナバケ迫、	山崎(11)	須ノ元、杉ノ本、池ノ元、野下、谷元、谷ノ口、山下、山角、竹ノ下、池ノ上、野中、
船木(8)	黒岩、白石、柊崎、浦牛原、小松原、楠木ヶ迫、鷹ノ巣、木京ヶ段、	田原(10)	西ノ前、西ノ下、野下、栗下、岩下、野元、山ノ口、湯穴ノ口、小西、中棚、
時吉(1)	萩峯、	広瀬(8)	久木元、岩元、上石野々、野中、中棚、中尾、山下、前目、
虎居(20)	ムベ山、並松、二本松、青木、柚木谷、芦原、柊木ノ段、柳ヶ迫、虎居、鳩ヶ迫、椎木ヶ迫、菖蒲ヶ迫、狐ヶ迫、松ヶ迫、栗ノ中、内ノ梨、ヌルキヶ迫、梨木畠、栗畠、蛭田、	平川(16)	切戸ノ下、野下、林ノ口、上岩元、貫ノ口、竹ノ元、岩元、松下、嶺北、山中、竹下、野中、山ノ前、山下、横打、向原、
屋地(10)	柊峰、外芦原、芦原、小松山、豆ヶ迫、椎ヶ迫、松ヶ迫、松尾、蟹田、高付、	湯田(3)	島ノ元、中尾、上原、
(12) 形状地名---- 6 1		柊野(7)	西、東、月ノ元、谷口、野中、竹下、中間、
泊野(3)	大岩、大岩ヶ段、長尾、	船木(19)	南、木ノ下、柊元、瀬戸ノ下、坂ノ元、境ノ元、松本、原ノ口、松ノ元、青木ヶ本、椎木ヶ元、岩ノ元、エゴノ口、松ノ元、野中、山中、山下、下山下、横打、
白男川(5)	鍋迫、大谷、小谷、鎌山、岩ヶ迫、	時吉(4)	笹脇、平ノ前、渕脇、北側、
二渡(2)	鍋山、大迫、	虎居(15)	川北、犬北、山前、原口、野下、山下、山口、竹下、楠木下、土手下、原ノ口、渕ノ上、渕脇、山内、中棚、
久富木(7)	三角田、丸岡、大岩ヶ迫、大谷、大山、小瀬戸、大迫、	屋地(5)	柊脇、柊元、峯下、山ノ口、東平、
山崎(7)	小原、下大原、上大原、大迫、長迫、三石ヶ尾、唐船岩、	(14) 伝承地名---- 2 4	くわせや。
田原(6)	大岩ヶ迫、長迫、大迫、永迫、長尾、九尾、	泊野	
広瀬(7)	笠岩、横石、岩戸、大谷、大平、長迫、三枝、	白男川(1)	白男川どん、
平川(7)	角石、辰石、大原、岩山、大迫、鍋易、鍋山段、	二渡(4)	阿多どん、イボ神様、セットどん、大広潟
湯田(3)	深迫、三枝、鎧、	久富木(1)	ホソ神様、
柊野(3)	ニッ山、大迫、小迫、	山崎(2)	テンシンどん、アックアどん、(秋葉)
船木(4)	三角堀、大曲、鍋田ヶ迫、鞍崎、	田原(2)	石塔どん、キニアケどん、
時吉		広瀬	
虎居(5)	鍋山、曲渕、腰岩、大迫、長迫、	平川(3)	悪四郎どん、ゲンツどん、フズどん、
屋地(2)	丸岡、永尾、	湯田(1)	七ヤンブシ
(13) 位置地名---- 1 2 4		柊野(1)	キニアケどん、
		船木(2)	トッコどん、ヤンブシ塚、
		時吉(2)	お供養どん、時吉どん、
		虎居(1)	ホガノ瀬戸、
		屋地(4)	八女、八女の瀬、ホソ神様、マッガンさあ、

(15) 瑞祥地名----7

泊野	
白男川(1)	持留、 27.2.26.26
二渡(1)	福ヶ迫、
久富木	
山崎	
田原	
広瀬(1)	亀石、
平川(1)	福尾、
湯田	
柊野	
船木(1)	亀甲、
時吉(1)	時吉、
虎居(1)	千寿連、
屋地	

(16) 川原・湿地地名----46

泊野(4)	川原、下水流、牟田迫、後牟田、
白男川(3)	山仁田、七久保、菅牟田、
二渡(3)	水久保、水流、上水流、
久富木(5)	川原、山仁田、八窪、樋ノ牟田、仁田ヶ迫、
山崎(6)	赤仁田、大窪、上水流、下水流、水流ヶ段、滑、
田原(1)	水溜、
広瀬(7)	山仁田、北山仁田、深牟田、牟田、長牟田、川原田、小牟田、
平川(8)	上菅牟田、栗久保、七久保、水玉利、川久保、桑水流、川原、菅牟田、
湯田(3)	鶴川原、長牟田、薦牟田、
柊野	
船木(1)	山猪、
時吉(1)	永牟田、
虎居(3)	川水流、山ニタ、外山ニタ、
屋地(1)	川原、

(17) 浸食・崩壊地名----17

泊野(2)	白崩、崩下、
白男川	
二渡(1)	猿喰、
久富木(1)	猿喰、
山崎(2)	古崩、猿喰、

田原

広瀬(2)	猿喰、柿喰、
平川(2)	破レ、大洞、
湯田(1)	鶴喰、
柊野	
船木	
時吉	
虎居(3)	ホキノ元、水洗、砂走、
屋地(3)	石踊、赤剥、白尾、

(18) 擬音地名----10

泊野(2)	轟ノ段、轟ノ元、
白男川(1)	轟平、
二渡(1)	轟山、
久富木	
山崎	
田原(1)	轟ノ上、
広瀬(1)	轟木、
平川(1)	轟キ、
湯田	
柊野(1)	轟元、
船木	
時吉(1)	轟ノ上、
虎居(1)	轟原、
屋地	

(19) 意味不明地名----37

泊野(1)	石永、
白男川(4)	鼻黒シ、奈々脇、徳尾、徳尾之本、
二渡(3)	伯耆ノ元、三十本、生柿、
久富木(4)	赤面、久富木、長羽山、五色、
山崎(2)	廣キ、小向、
田原	
広瀬(5)	白ボッコ、下木渋、小手六、阿字賀山、二八、
平川(4)	片白、当ベス、去人、大薄、
湯田	
柊野(2)	小敵、筆落、
船木(7)	片白、徳尾、幡ノ尾、目クジリ、諸貞、寄ノ子、尻角目、

- 時吉(1) 血合、
虎居(4) ニタイ尾、徳尾、鼻縁石、床並、
屋地
(20) 気象地名--- 13
泊野
白尾川(1) 日影
二渡(2) 嵐山、日焼、
久富木
山崎(3) 嵐ヶ谷、嵐ヶ峯、岩氷、
田原(2) 耳取、風呂ノ山、
広瀬
平川
湯田
柊野
船木
時吉(2) 雨堤、風呂ヶ迫、
虎居(1) 雪山、
屋地(2) 龍風ヶ迫、風呂ヶ迫、

宮之城町の地名（まとめ）

1、役場の地名台帳の読みは？

役場の小字台帳に記載されている読みは、標準語読みが多い。税務課では職員の出入り口に、小字一覧表を大刷りして貼り出し、職員、町民による読みの補正をしているようである。

2、小字地名の分類

(1) 信仰地名

首塚、餅田（祭祀）、建山、下リ山、巣田ヶドリ、柱松、甫立原（ホコタテ）

(2) 城・館・集落地名

火ノ峯（烽火）、野久尾（野首）、村ノ後

(3) 市・町・交通地名

市ノ瀬、市ヶ迫、市野、恋ノ巣（越し）、丹ゲワ（夕に来て翌朝行き過ぎる意）

(4) 水利地名

川屋（川に臨む家）

(5) 人名・職掌地名

隠居迫（宗功寺に隣接していて、島津の殿様の隠居所があった）

(6) 職業・産業地名

狩俣、貝俣（狩集、狩に出かける前に集まる所）、青木間伏（間伏、狩人が隠れる所）、紺柿田（紺搔くこんかき、こうかき、>中世の染物屋）、大薄（スキ、川の中に石を集めて漁をする所）、船木（船用の木の産地）

(7) 目印地名

鳥廻（白鶲のこと）、小久留守（小）ウグルス（大）（シラス<白砂>、クルス<黒砂>）、

(8) 伝承地名

大広潟（大人形の変形）、

(9) 湿地地名

山ニタ、山瀧（瀧、ぬま、ためいけ）、

(10) 意味不明地名

白ボッコ（白土のこと）

3、門名は小字名に使用されたか？

宮之城町史には、屋地村、虎居村、時吉村、船木村、柊野村、平川村、湯田村の7村の門名がある。小字名に使用の有無。屋地村1／3、虎居村8／38、時吉村2／23、船木村7／39、柊野村3／14、平川12／35、湯田村0／19

4、公民館名と小字名（2003年現在）

屋地 8／14、虎居 3／15、時吉 0／4、船木 3／4、柊野 1／4、平川 2／4、
湯田 2／6、佐志（広瀬、田原）4／15、山崎 1／6、久富木 1／5、二渡 0／4、
白男川 0／3、泊野 3／4

5、農事小組合名と小字名（昭和八年調査）

屋地 12／22、虎居 3／20、時吉 0／4、船木 5／10、柊野 1／4、平川 9／1
5、湯田 2／9

6、宮之城郷土誌から

(1) 字地名

左に明治十六年本県編輯の鹿児島県地誌により、各大字の疆域幅員地勢地味字地を左に掲ぐ。

屋地 八幡馬場、屋地馬場、川原、上町、下町、城の口、五日町、

虎居 馬場、轟原、上向、西手、原の口、甫立、海老川、一ツ木、川口、

平川 下平川、北原、大薄、上平川、母ヶ野、

柊野 古園、宇都良、中間、木場、阿津川、

船木 西、東、川内野、下船木、

時吉 馬場、新地、向小路、柳田、

湯田 小原、中間、下湯田、五敷、新屋敷、山越、上ノ別府、

(2) 現在の字地名（昭和八年の字地名）

右に挙げたる区分は今の大字を村と称したる時代の区分なるか、現時は幾分之と異なるものあり。而して此の字地は各種団体の単位となるものなれば、左に大字に分かちて之を挙示すべし。

屋地 五日町、城之口、松ヶ迫、八幡馬場、屋地馬場、東谷、川原、前岡、町、町頭、後小路、

虎居 馬場、轟原、上向、西手、大角、甫立、海老川、川口、日当瀬、一ツ木、

船木 東、西、古城、山川、油殿、白石、

時吉 町、新地、馬場、向江、

湯田 湯元、上、中間、下湯田、小原、

平川 天瀬、柿木、上平川、下平川、母ヶ野、北原、大薄、尾坐原、鹿原、登尾、

柊野 上、向江、中間、下、

宮之城町の地名分析

地名 町名	泊野 6 8		白尾川 9 0		二渡 1 0 5		久富木 1 3 4		山崎 9 5		田原 1 0 2		廣瀬 1 5 0		平川 2 1 8		湯田 5 6		終野 6 0		船木 1 6 1		時吉 4 5		虎居 1 5 8		屋地 8 0		計 1 5 1 3		
1 信仰地名	4	5.9	10	11.1	9	8.6	10	7.5	7	7.4	17	16.7	23	15.3	24	11.0	5	8.9	2	3.3	10	6.2	6	13.3	21	13.3	9	11.3	157	10.4	
2 集落地名	2	2.9	7	7.8	6	5.7	11	8.2	8	8.4	10	9.8	5	3.3	15	6.9	2	3.6	1	1.7	17	10.6	3	6.7	7	4.4	10	12.5	104	6.9	
3 区画地名			3	3.3	1	1.0			1	1.1	3	2.9	2	1.3	2	0.9	2	3.6			4	2.5	3	6.7	3	1.9			24	1.6	
4 交通地名	5	7.4	3	3.3	6	5.7	10	7.5	4	4.2	4	3.9	15	10.0	16	7.3	7	12.5	3	5.0	13	8.1	6	13.3	12	7.6	13	16.3	117	7.7	
5 水利地名	2	2.9	6	6.7	2	1.9	11	8.2	2	2.1	3	2.9	10	6.7	10	4.6	1	1.8	3	5.0	14	8.7	1	2.2	6	3.8	1	1.3	72	4.8	
6 人名地名	2	2.9	5	5.6	1	1.0	3	2.2	3	3.2	3	2.9	4	2.7	7	3.2	2	3.6	2	3.3	11	6.8	1	2.2	5	3.2	1	1.3	50	3.3	
7 産業地名	4	5.9	3	3.3	4	3.8	3	2.2			4	3.9	5	3.3	9	4.1	2	3.6	2	3.3	6	3.7	1	2.2	6	3.8	1	1.3	50	3.3	
8 開発地名	3	4.4	7	7.8	2	1.9	6	4.5	3	3.2	4	3.9	3	2.0	13	6.0	6	10.7	7	11.7	4	2.5	3	6.7	6	3.8	4	5.0	71	4.7	
9 田畠地名	6	8.8	4	4.4	12	11.4	14	10.4	6	6.3	3	2.9	14	9.3	12	5.5	6	10.7	4	6.7	14	8.7	5	11.1	14	8.9	4	5.0	118	7.8	
10 伝承地名			1	1.1	4	3.8	1	0.7	2	2.1	2	2.0				3	1.4	1	1.8	1	1.7	2	1.2	2	4.4	1	0.6	4	5.0	24	1.6
11 瑞祥地名			1	1.1	1	1.0							1	0.7	1	0.5					1	0.6	1	2.2	1	0.6			7	0.5	
合 計	28	41.2	50	55.6	57	54.3	69	51.5	36	37.9	53	52.0	82	54.7	112	51.4	34	60.7	25	41.7	96	59.6	32	71.1	82	51.9	47	58.8	794	52.5	
12 自然地名	18	26.5	8	8.9	17	16.2	20	14.9	21	22.1	18	17.6	19	12.7	34	15.6	4	7.1	8	13.3	26	16.1	3	6.7	24	15.2	10	12.5	230	15.2	
13 目印地名	8	11.8	12	13.3	11	10.5	18	13.4	7	7.4	11	10.8	19	12.7	34	15.6	8	14.3	14	23.3	8	5.0	1	2.2	20	12.7	10	12.5	181	12.0	
14 形状地名	3	4.4	5	5.6	2	1.9	7	5.2	7	7.4	6	5.9	7	4.7	7	3.2	3	5.4	3	5.0	4	2.5			5	3.2	2	2.5	61	4.0	
15 位置地名	2	2.9	6	6.7	8	7.6	10	7.5	11	11.6	10	9.8	8	5.3	16	7.3	3	5.4	7	11.7	19	11.8	4	8.9	15	9.5	5	6.3	124	8.2	
16 湿地地名	4	5.9	3	3.3	3	2.9	5	3.7	6	6.3	1	1.0	7	4.7	8	3.7	3	5.4			1	0.6	1	2.2	3	1.9	1	1.3	46	3.0	
17 崩壊地名	2	2.9			1	1.0	1	0.7	2	2.1			2	1.3	2	0.9	1	1.8					3	1.9	3	3.8	17	1.1			
18 振音地名	2	2.9	1	1.1	1	1.0					1	1.0	1	0.7	1	0.5			1	1.7			1	2.2	1	0.6			10	0.7	
19 気象地名			1	1.1	2	1.9			3	3.2	2	2.0										2	4.4	1	0.6	2	2.5	13	0.9		
20 意味不明	1	1.5	4	4.5	3	2.9	4	3.0	2	2.1			5	3.3	4	1.8			2	3.3	7	4.3	1	2.2	4	2.5			37	2.4	
合 計	40	58.8	40	44.4	48	45.7	65	48.5	59	62.1	49	48.0	68	45.3	106	48.6	22	39.3	35	58.3	65	40.4	13	28.9	76	48.1	33	41.2	719	47.5	

地名研究会報

第86号

平成16年12月5日(日)

鹿児島地名研究会

I. 第86回例会 平成16年9月5日(日)

於西郷南洲顕彰館研修室

(出会者) 池田 純・納 栄藏・川野雄一・坂本 誠・築地成郎・永坂芳彦・
西田春人・繁昌正幸・肥後芳尚・肱岡修一郎・平田信芳・福元忠良・
三善喜一郎(計13名)

II. 大日本地名辞書読会 P. 554~P. 555 韓国岳・稻積郷・豊国郷・浜之市・鳩脇

III. 問題提起 白銀坂物語・小のよみ

[問題となった地名および事項] 稲積郷・豊国郷・鳩脇・韓国宇豆峯神社・

『地名のたのしみ』の紹介(とくに旦過・風呂・井立田という地名)

稻積郷

平田 今日のところで押さえるべき所は、稻積郷でしょうか。和氣清麻呂が稻積老の世話をになったとの牧園の伝説をもとに和氣神社が出来ています。紀元二千六百年記念として建てられたものです。しかし、牧園は仲川郷(中津川)の比定地で、同じ町内に二つの郷が比定されるのは、よほど開けた所でないと考えられないことです。稻積郷と仲川郷を牧園町に比定することは、無理があります。

稻積郷について『大日本地名辞書』に初めて加治木説が出てきました。加治木の藏王岳が稻積の形に似ているとみなして、九州各地の「稻積」と言う地名と比較検討すれば、加治木も候補地の一つになり得ます。

もう一つ、溝辺町の竹子(かせ)に下宮(シモヤ)という村社があります。その祭神が「稻積神」です。溝辺もその意味で稻積郷の比定地として無視出来ません。

豊国郷

平田 豊国郷については普通豊前国からの移民を考えますが、和名抄を見る限り、豊国という地名は数多い。そのことから考えると

最も豊かな処に付けられる地名・郷名とも考えられます。桑原郡内で最も豊かな処はどこかとなると、加治木より帖佐あたりが水田は多かったでしょうし、国分平野も該当地にあがるでしょうから、なかなか簡単には決まらないようです。

鳩脇

平田 鳩脇は俊寛・平康頼・藤原成経らが硫黄島に流された時、『長門本平家物語』に出て来る湊です。

納 鳩脇について、555ページに「今の浜之市辺の地とす。長門本平家物語に、大隅国姫木浦、銚子の湊の鳩脇また鳩脇の八幡崎」とあります。鳩脇と姫木浦は判るのですが、銚子とはどこ辺になるのですか?

平田 さあ、知りません。銚子はまぎれ込んでいるのではないですかね。(編集時後記:長門本平家物語卷五に、…唐国陳の大王の七歳の姫君…ただならぬ御事おはします…空船に乗せ奉て、波路はるかにおしうかべ…大隅国姫木浦銚子の島に寄せ給ふ…姫君…王子を産給へり…その時、天より八の旗降り下りしが故に八幡大菩薩と号す。今、七歳の姫君

と申は、昔ノ神功皇后、是也)

納 これを見たら現在の姫城ですね。

平田 姫木は姫城ですね。

納 姫城の辺まで海が来ていたのでは。
浦とあるから。

平田 満潮の時は行ったでしょうね。

納 日向山(ヒタヤマ)の上流にある塩浸(シヒタシ)辺まで、海が入っておったのでしょうか

平田 それは時代によってでしょう。どこまで海が進んでいたかというのは、まだよく判っていない。

納 私は塩浸で、海にいる牡蠣のことでは塩牡蠣とは何かと聞かれたことがある。鹿児島では塩牡蠣と磯牡蠣ともう一つ、三つ牡蠣の名前があるのです。方言として。

平田 ああ、そうですか。

納 それで、あの辺(日当山)まで海があつたと見るのは。それから鳩脇は長門本の場合あれは止上(トガミ)じゃなかったかな、止上から鳩脇に出る途中で、おサッテさあ：石林神社に行かず遠くから無事に帰って来られるように併んで鳩脇から出て行ったというようなことが書いてあります。その先は桜島に行って。桜島は桜島と書いていない。

平田 向島(ヒコウジマ)です。

納 向島ですね。それから木入(キル：喜人)に出来ます。それで、鹿児島の俊寛堀に上了というのは、長門本からみると、どうもおかしいなと思うことがあります。

平田 長門本には俊寛堀は出て来ません。

納 それからずっと行って博多に出て博多から坊(坊津)に出て、坊から硫黄島に行ったと書いてある。

平田 博多ではなく、逢の浦です。

納 北九州の博多やろか、それとも。

平田 坊津にも博多浦があるのです。

納 坊津にも博多浦があるのですね。
あすこじやろかいと思って。

平田 博多は出て来ませんよ。長門本では逢の浦というのが出て来ます。今云われたのを整理すると、夏影：今の地名は夏木、それから赤坂を過ぎて止上に来ます。それから、氣色の森に来て、川を渡り、川を渡った所で八幡様を併んで無事に帰って来れるようにと祈り、そして鳩脇に出る。鳩脇から船で向島→木入津→逢の湊→房の泊、と行くのです。今一つ房の泊(坊津)の前に鹿児島というのが出て来ます。それは鹿籠だろうか鹿児島だろうか。順番から考えると、枕崎の鹿籠の方が自然なのですが、枕崎の鹿籠は浜から入り込んでいますから、何とも言えないのです。

納 止上から鳩脇に出る道は、隼人塚の所から真っ直ぐの道を歩いたのでしょうね。

平田 はい、あの道です。

納 それから鹿児島高専の脇を通って。

平田 そうです。大体、一直線ですよね。

昔の道というの。

納 一直線の道を行ったのでしょうね。

韓国宇豆峯神社

池田 韓国宇豆峯神社とありますね。あすこは敷根に入るのですか。

平田 『大日本地名辞書』の説明を、敷根に入っていたことがあるのだろうなと思いながら読みました。勢力範囲を考えると敷根の中にあっても不思議ではない。

池田 それと韓国岳。韓国岳の地名自体は韓国神社をそこに勧請して、のちに敷根の方に移してそれが韓国宇豆峯神社になった。遙拝する所に移したと考えるのですか。

平田 それは別でしょう。

池田 別ですか。

平田 韓国神を韓国岳のどこかに祀ったのでしょう。韓国宇豆峯神社は韓国神を宇豆峯の麓に祀ったということでしょう。韓国宇豆峯神社に行くと、豊前の神様を移したと説明板にはつきり書いてあります。

『地名研究のたのしみ』の紹介

平田 他になければ、本の紹介をします。角川ソフィア文庫、著者は服部英雄、現九大教授です。これ(『地名のたのしみ』)を読み、皆さんに推薦しておけばと思いました。

西田 新しい本ですか。

平田 三日前に買ったばかりです。

西田 まだ新しいのですね。

平田 去年か今年の初めに出たような感じです。

池田 平成15年版。

平田 これを読んで、いくつか気付いた事があります。私が地名を調べているのは、地名を歴史の素材・史料として追究して行こうとの姿勢です。この先生もそうです。同志を見出したと思って喜んでいます。日本の地名学は柳田国男から始まって、民俗学者が民俗を解明するために地名を利用したのですが、行き詰った面があるのです。それに対して地理学の人たちが地形地名という視点で取り組んでいます。それと奈良県の人たちが、奈良に古い地名が多いことから、奈良・大和の地名を取り上げています。

地名を一つの材料として何かを考えようとする姿勢はあるのですが、最も大事なことは歴史を見出して行こうとする姿勢だと思いまます。それが本当の地名学のあり方だと思うのです。

これを読んで今までの間違いに気付いた事

があります。この本の中で最も重視しているのは「旦過(タンガ)」という地名です。修行の坊さんたちが村はずれで泊っていく場所ですが、旦過の近くに「風呂」という地名があるというのです。旦過と風呂は共存している、と。今まで私たちは「風呂」を蒸し暑い所に付く地形地名・気象地名と見ていましたが岩風呂があったのじゃないかとするのです。これはお寺が持っていた施設で、困ったそういう人たちを社会福祉的に待遇していたと見るので、だからそういう人たちが集まってきた、と。風呂というのは気象地名ではなく社会福祉的地名との考え方をしなければならない。これはちょっと目新しい見方です。

それから開(ヒタキ)という地名。これは開墾した地名のように考えがちなんですが、間とよく写し間違えられるというのです。「閨」となると祭礼田になるらしいのです。

それと大口市に井立田(イチタケ)という地名があるのです。甲南高校で一緒だった先生に井立田さんという人がいました。鶴丸高校の校長で退職して早く亡くなりました。服部さんによると、これを井立(イリュウ)に読むのです。井立田(イリュウケン)。そうすると井料田(イリヨケン)になるというのです。井料田ならば水利地名。莊園では水配りが必要なので村人を動員します。その費用を捻出する田が必要となるのです。それが井料田です。鹿児島県には井料・入料という地名が沢山あります。「リュウ」と「リョウ」は、よく入れ替わる。例えば、坂本龍馬。「リュウマ」だけど「リョウマ」と読んでいるじゃないか、と。そう見ると田圃に馳が出て来るとのことで名前を付けるのも変だということになります。「イチタケ」でなく「イリュウ」を見れば、兎田(ウサギタケ)も変だということに

なります。これは私の考えですが、田圃に兎が現れるから兎田とするのではなくて、兎田(トダ・トデン)と読めば「当田(トゲン)」が考えられる。当田は祭りの当番が管理する田になりこれも祭礼田と考えることが出来ます。

今まで動物の目印地名として見ていたものも祭礼田として見るのがいいのじゃないか。兎がいるから兎田、イタチがいるから井立田

も考えられんことはないけど、地名の付け方としては祭りその他に使用する田圃の方が自然だと思います。兎田の場合は免田が間違つた場合も多いのです。これはよく云われていることですが、両方(免田・祭礼田)考えなければならぬでしょう。そういう事が書いてありましたので、お薦めしておきます。

白銀坂物語

ゆっくり読んでもらえば判るように、まとめておきました。吾々は「しろがねざか」というのですが、地元では歴史の道百選に決められてから、土地の人々のよみが「しらかねさか」だとして、案内板にそのようなルビが振られています。

現在、清水哲男という人が「国道を行く」というシリーズを書いています。彼が南日本新聞社に行って何か地名のことがあった場合とのことで私を紹介され訪ねて来ました。彼がいきなり「しらかねざか」と云ったので「違う、しろがねざか」と云つたつら彼はきょとんとしていました。そんなことで本文ではルビを振っていませんでした。

『地名が語る鹿児島の歴史』の時から白銀坂を意識して「白(シロ・シラ)」を拾いあげたのです。その後も作業は続けています。

今年の3月、この2行目に書いておきましたが、『歴史の道大口筋白銀坂保存整備報告書』を始良町教育委員会が出たのです。それに次のような説明をしてあるのです。

(1)始良町は「しらかねざか」を正式呼称としている。(2)本来のよみは「しろかねのさ

か」または「しろかねさか」である。——始良町教委もこれを認めざるを得なくなつたわけです。史料(平松水田坪付帳の記載)を突きつけられたからです。しかし始良町では「しらかねさか」が一般的だと頑張っているのです。

そこで、どういう妥協案を考えたかというと、『入來文書』所収の平松水田坪付帳(15世紀のもの)に「しろかね田」「しろかね」「しろかねの口」「白坂の下」などの地名があるので、次のようなことを考えたのです。

〔中世〕白坂しらさか→〔戦国時代〕白銀坂しろがねざか→〔近世・近代〕しらかねざか、に変化したというふうに逃げようとした。そんな無理な地名の変化はないので、白銀坂の年表を作成してみました。

15世紀の入來文書には「しろかね」とあります。島津国史には岩剣城攻めで島津義弘が白銀坂に陣取るとある。これは16世紀の話。島津義久が舞鶴城で亡くなり遺体を鹿児島に移送しますが、国分諸古記はそのことを「白可襷筋御通り遊ばされ候」と記しています。しかし島津国史にせよ国分諸古記にせよルビを

振ってありませんから決め手はないのですが18世紀末の大石兵六夢物語に「しろかね」と出て来ます。したがって15~18世紀に「しろがね」と呼ばれていたことは動かないと思います。三国名勝図会も立項してありますが、ルビがありません。

初めて「シラカヌ」と出て来るのは『薩隅日地理纂考』です。しかし大石兵六夢物語と薩隅日地理纂考の間は1世紀もないわけですから、薩隅日地理纂考の記述がおかしいとの見当が付きます。

現在を見ると、角川の地名大辞典は項目では「白銀坂しろがねざか」、後の方の地元担当者が書いた小字一覧では「白金シラカヌ」のルビがあります。平凡社『鹿児島県の地名』1998.では、すべて「しろがね」とルビがあります。

そうすると、地元では「しらかねざか」歴史家は「しろがねざか」というネジレ現象が明らかになります。普通は「しろがね」と聞かされている人が多いけど、地元は「しらかね」というのですね。

そこで『薩隅日地理纂考』を全部通読してみました。すると例示したようなルビがあることに気付きました。まず小山田(コヤダ)。小山田は他にも問題があるので後程問題提起をします。それから宇宿(ウキ)、「ウスク」とルビを振っています。大童小学校の所にあった内城(ウチヨウ)に「ウチヨウ」とルビがあります。郷土史家や鹿児島市教委が「ウチヨウ」とルビを振ったルーツが茲にあることが判ります。比志島(ヒシマ)に「ヒシマ」。川内の高城(タキ)も「カウシヨウ」串木野の冠嶽(カムリタケ)に「カツリタケ」、照島(テルシマ)に「テラシマ」、十曾山(シツツヤマ)に「シツツヤマ」、勝目(カツメ)に「カツメ」、税所(サシヨ)に「セシヨ」、高山(コウヤマ)に「タカヤマ」とルビが振つてある。高

山の人たちはあきれて無視したと思います。百引(モヒキ)に「モヒキ」、屋久島の栗生(クリオ)に「クリ」。都城の野々美谷、語源的には野之宮で「ノバヤ」と読むのでしょうか。これならば意味が判ります。野之美の谷では一体どういう意味なのか判りません。これも「ノバニ」とルビを振つてある。『宮崎県の地名』は『薩隅日地理纂考』の通り、野々美谷(ノバニ)とルビを振つています。

そう考えると薩隅日地理纂考の責任は重いわけです。大童小学校の所にあった内城(ウチヨウ)に今でも鹿児島市教委は「ウチヨウ」という説明板を出しています。鹿児島県には内城(ウチヨウ)という地名は多いのです。内城(ウチヨウ)は聞いたことがありません。平城(ヒラシヨウ)とか外城(カシヨウ)とか、いろいろありますが、此処だけです、「ウチヨウ」とルビを振つたのは。

『薩隅日地理纂考』という本は、明治以来郷土史の原典として小学校の先生たちがそれに基づいて教え込んで来たわけですから、始良町の人たち・重富の人たちが白銀坂(シラカヌ)と思い込んだのは無理もないと思います。以上が間違ひのルーツの説明です。

次に白銀坂にまつわる話。さっと読んで行きます。「銀鉱脈を求めたのであれば白銀山(しろがねやま)と名付けられて不思議はない。その白銀山に登る坂が白銀坂と呼ばれるのは当然のことだが銀と結び付く話が全くない。岩剣城や平松城背後の山を城ヶ峯(シロガネ)と呼び、「白銀」をその当て字に用いたとの故事つけが考えられる。『地名が語る鹿児島の歴史』ではそのように理解していたわけですが、平松水田坪付帳に見える小字は城の下(じょうのした)。城ヶ峯(しろがね)に由来するとしても、故事つけだ、いやそだとの水掛け論

になります。否定は難しいと思いますが、此處では踏み込まずにぼかしておきます。

姶良町教育委員会の報告書は「白坂→白銀坂」の変化を仮定していますが、それも無理だ。県下に「白坂」地名49例を数え上げているが、姶良町教委の場合、上白坂・中白坂・下白坂などの分割地名も別々に数え上げている。まとめると40例になる。その他に7例ほどあることを確認している。その分布図を作成すると3ページの図のようになる…。

白坂は白土の層が露出して見られる坂に名付けられた地名である。白土は珪藻土または珪石が風化して出来る土壤であり、質のよいものは陶土として用いられる。したがって、「白坂」地名の分布図を見ると薩摩焼の中心地である苗代川近辺に集中的に見られる。

白銀坂に白土の層があるのであれば「白坂→白銀坂」を推論する可能性があるかも知れないが、岩が多い坂道に白土層の存在はまず考えられない。蒲生や吉田に「白坂」という地名があることから入來文書に出て来る白坂は蒲生町や吉田町寄りにあったのではと考えられる。

一般的に地名の転化説がよく説かれているが、地名転化はそんなにあるものではない。白銀坂のように誤ったル'が定着したのは動機付けが裏付けられる。

今一つ白銀坂には話題性をもちながら取り上げられていない事柄がある。白銀坂は種々の妖怪が出た處で、大きな声で話したり歌つたりすると天狗倒しに遭う（天狗の襲われて腰を抜かす）とか、棺桶の通行はタブーでこれを犯すと死体が消えると、三国名勝図会や薩隅日地理纂考に書いてある。以下その由来を探ってみたい。

島津家第16代太守島津義久遺体鹿児島移送の時の出来事として、『国分諸古記』に次のようなことが記されている。

「御遺跡鹿児島へ御越由の節、吉田筋御通りの筈に候へ共、童昌寺（現在国分中央高校の処にあった寺）鉄由和尚御供致され白可禰筋御通り遊ばされ候處に芝之元にて黒雲相降りたる由に候へ共、鉄由和尚法力を以て相除き難なく白可禰筋御通り遊ばされ候由伝へ候」此處におられる方は意訳の必要はあいでしょう。3行飛ばします。

一方、「大石兵六夢物語」には、化け物退治に向かった大石兵六が閑屋が谷で赤蟹（あかがね）の大きな「はさみがね」に足を挟まれる話があります。大石兵六は出会わなかったしろがね坂に白蟹（しろがね）という化け物が出たとの話も具体的に述べたものはありませんが、赤蟹（あかがね）が出たら白蟹（しろがね）が出て来てもよさそうな處です。そういう白蟹という化け物が出ると恐れられた処だったかも知れない。そのような恐ろしい山越えの話を打ち消すために白銀（しろがね）を希求する瑞祥地名と考えたら話が面白くなります。

昔、薩摩兵児たちは、これは親父たちが酒を飲んだ時に歌っていたのをうろ憶えに聞いていたのですが、親父から直接習ったことはありません。息子にこんな歌を教えるはずはないのです。「花のお江戸に上る時…蟹（かに）にキンタマを挟まれた…アイタタ…だけど気持がいい」とうそぶくところがあります。高歌放吟して氣味の悪い白銀坂を降ったとの話がそのようにして出来上がる。山坂達者の若者を鍛え、タブーに立ち向かう肝試しに相応しい歴史の道があつてもよい。白銀坂は西南戦争の時、薩軍敗走の道の一つでもあつ

た。官軍は重富からこれを登って攻めて来るのですが、薩軍に追い落とされるのです。しかし鹿児島を奪い返すことが出来ず、逃げる時に主力は蒲生の方を通って重富に出るのでが、此処を通ったのもいるはずです。そういうことでこのような表現にしました。

次に万葉集・古今集・新古今集に「白」という文字がどれだけ出て来るかを拾いあげました。有名な「銀も黄金も玉もなにせむに、まさる宝子にしかめやも」というもの。調べてみれば「しろがね」はこれが1例あるだけです。万葉集では白榜（しろたへ）が多い。その次は白酒（しろざけ・しろき）。白髪（しろかみ）は黒髪に対比しての表現。

次に、万葉集で白（しら）を調べると、白雲（しらくも）・白玉（しらたま）・白露（しらつゆ）・白浪（しらなみ）・白真（しらまゆみ）・白山（しらやま）・白雪（しらゆき）・白木綿（しらゆふ）・白菊（しらぎく）などです。数値は2回ほど通読したのですが見落としがあると思います。

万葉集の総数4,516首、古今集1,140首、新古今集1,979首に対してのパーセンテージを求めるに、白雲は万葉集では0.6%、古今集では0.96%、新古今集では1.2%。奈良→平安→鎌倉と時代が移って行くにつれて白雲を詠む例が増えている。これに対して白玉は減っています。0.6%から0.1%へ。白玉というのは真珠です。魏志倭人伝には真珠と青孔：青い玉すわなち翡翠を献上したあるのですが、遣唐使あたりになって来ると、ほとんどそれは忘れられている。何故真珠が採れなくなつたかというのは考えてみる必要があると思うのです。養殖じやありませんから恐らく深い所のもので、潜るかずき達が減ったことが考えられます。白村江の戦で海人たちがやら

れたのでしょう。採れなくなったのが事実だと思います。

白露が0.6%→1.1%→1.2%、平安・鎌倉になると、白露の如きはかない命という末法思想が広まってきたので、そういうものが歌に詠まれたのかなと思います。白浪はあまり変りません。4ページに書いたような、そういう変化：環境の変化が考えられます。

5ページの説明に移ります。白雲への関心は先程述べたように平安・鎌倉には高まって来ます。白玉すなわち真珠が詠まれるのは平安時代まで。それ以後詠まれることはない。古今集・新古今集では滝のしぶきを白玉と見て、白玉が碎け散るというふうに白露並みの感覚で受け止めています。

その次、白浪。万葉集では白浪32例・万葉仮名18例・白波2例です。古今集では白波9例・新古今集でも白波11例と、「波」の方が増えています。万葉集で白浪を歌ったのは、住吉浜が主です。大伴氏の根拠地である住吉浜と結び付いています。これはどういう処かというと（略岡板書）此処に難波、大和川があります。この上流が蘇我川であつたり葛城川であつたり、そして生駒山脈。此処に島津忠久が生まれたという住吉神社があるのであります。摂津国一宮です。大和川を境にして摂津国と和泉国に分かれます。その境界の所に現在、堺市が出来ています。この辺りが大伴氏の根拠地だったのであります。

そうすると、大伴氏は大和朝廷が海に出て行く時に最も重要な場所を押さえていた勢力になります。此処に「大伴の御津」と呼ばれた湊があった。大伴氏は水軍を支配していたことになります。そして此処ら辺りに「音に聞く高師の浜の仇波は、かけじや袖の濡れも

こそすれ」と詠まれた高師の浜もあります。またこの一帯に応神天皇陵とか仁徳天皇陵がある。それにこの山裾には聖徳太子墓もあります。そういう重要な処に大伴氏は根拠地を持っていた。住吉浜で見た白浪を大伴旅人・大伴家持は歌っています。だから万葉集にはそういう白浪の歌が多いのです。

それでは真ん中辺に移ります。1/3あたりです。万葉集・古今集・新古今集に出て来る「白」の表現を比較した限り「しら」が我が国本来の表現である。「しろ」は外來の貴重な物の呼び名であった。銀とか白粧、「しろがね」は先程述べたように山上憶良の歌に見えるだけで、以後は登場しない。白粧は古代においては貴重な輸入品であったともみられる。楮・麻系統の纖維を砧で叩いて柔らかにした織物です。織物を詠んだものに限定すると、万葉集では白粧から進んで韓衣・高麗錦が現れる。古今集では唐衣・唐錦に変わっている。すなわち織物も韓衣（加羅国・辛国）→高麗錦（高句麗）→唐衣・唐錦という高級品への欲求が高くなり、交易範囲が拡大したこと示している。

一般的表現でも、眞暮では白石を持つのが実力上位ですね。白黒をつける・白眼をむく・目を白黒させるなどは物事の決着や反発を示し、驚きの表情を表す。白砂糖は昔は薬であったし、白酒は雑祭りには付き物、三月の節句で飲みます。白装束は切腹時に着用。白

無垢は今も変わらず代表的花嫁衣装。嫁入先・婚家の家風に染まります、なんてことを云います。現代では交通違反に睨みを利かすのは白バイ。源氏は白旗（しらはた）ですが、降伏のしるしは白旗（しろはた）。

本来「しろ」に重みがあったが、後世「しら」「しろ」の区別が崩れ、白石（しらいし・しろいし）・白糸（しらいと・しろいと）・白魚（しらうお・しろうお）・白金（しらかね・しろかね）・白鷺（しらさぎ・しろさぎ）・白鳥（しらとり・しろとり・はくちょう）・白旗（しらはた・しろはた）など、どうでもよいような見方が出て来たと考える。このことは言葉の進歩というよりは堕落と言ってよい。

なお「しら」が基調であった所に「しろ」の呼び名を与えることになったインパクトの強い国は恐らく斯臘國（新羅の古名）だったと思います。これを実証するのは白粧が現物として残存し、それが科学的分析によって斯臘國産と判明することでしょう。それ以外のもので検証可能になるかも知れません。

それから「ら」が「ろ」に変るのは、例えば太郎。昔の「れ」は「たらう」、「らう」を「ろう」と読んだ。だから「ら」が「ろ」に化ける可能性もあるわけですけれども、万葉集・古今集・新古今集を比較すると万葉集では「しろ」が中心ですが、後世にはほとんど「しら」に変っている。しかし日本の一般的な物を考えると、白装束・白足袋などから「しろ」にある種の威儀があったことになります。

「小」のよみ

「白」と同じようなことを今度は小川・小山田に見たのです。小山さんも小山田さんも

今日は見えていませんが、鹿児島県には小川さん・小山さん・小山田さん・小園さん・小

原さんなど「小」で始まる名字が多いようです。最近気が付いたのは小山田の読みです。中学生の時、小山田先生から習ったのです。当然鹿児島県の地名も「おやまだ」だと思っていました。葬式に顔を出すと「今から小山田葬祭場」に参りますと毎回聞かされるわけです。火葬場が小山田にあるため「こやまだ」に行きますと葬儀屋が説明するのです。

そこで改めて地名辞典に当たると、角川の日本地名大辞典は上小川（かみおかわ）と小山田（こやまだ）とあり、平成10年に出来た平凡社の『鹿児島県の地名』は上小川（かみこがわ） 小山田（こやまだ）と出て来ます。小山田に目を向けていたら上小川（かみこがわ）というのが出て来るので、ちょっとびっくりしました。

国分高校も古くは上小川にあったわけですから当然「かみおかわ」だと思っていた。地元の人々に「かみこがわ・かんこがわ」ということがあるのかと聞くと地元では「かめがわ」という。よそ行きの表現で「かみおかわ」だと。どこでボタンの掛け違いが生じたのかを探ることにしました。

昔、小川院という莊園がありました。小川院の遺称ですから当然「かみおかわ」でなければならない。ところが小学校は上小川小学校と云っている。これは何故だということを整理しました。そこで上小川のルビの変遷をまとめました。

まず寛文4年、薩摩國郡村高辻帳。帳の字が違っています。帳面の帳です。「かんこがわ」 麻藩名勝考は「かみおかわ」。三国名勝図会・薩隅日地理纂考・角川日本地名大辞典、これらはすべて「かみおかわ」です。そうすると藩で編纂した歴史書・地誌は「かみおかわ」と読んでいることが判ります。

一方、幕府の巡見使に提出した辻帳の類があります。石高などを記した一連のものが残っているのですが、それには「かみこがわ」とルビが振っています。藩が作った編纂物に二通りがあるわけです。

そこで肥後先生に電話して次のようなことを知りました。

- 1) 上小川の人たちは昔から「かみおかわ」と呼んでいます。
- 2) 上小川小学校。何故そうなったか判らない
- 3) 周辺町村を合併して国分市となった際、国分生まれない職員が台帳を作成した過程で「かみこがわ」のルビが付いたようだ。
- 4) 平成9年、最も新しい『国分郷土誌』を刊行するに当たり、上小川のよみを決めて欲しいと国分市が編纂委員会に問い合わせて「かみこがわ」を正式呼称とした経緯がある。

次に電話帳を調べてみました。というのは地名よりも名字の方が種類が多いからです。小川は調べたら、ほとんど全部が「おかわ」です。「こがわ」と読むのは曾小川（そこがわ）だけのようです。三国名勝図会を見ると「国

分の古名は曾小川 … 曾小川 … 曾小は曾於マリにて … 里言（地元の表現）そがわ、と唱へり」と記録されています。それが曾小川（そこがわ）に訛ったのかなという程度です。

ところで『鹿児島県の地名』の執筆担当者は「曾小川（そがわ）」としながら、一方で上小川（かみこがわ）とルビを振っています。もつとも日本全国の地名を調べると小川（こがわ）と読む所がありますが、「おかわ」に比べると取るに足らない数です。

鹿児島県の「小川」地名は45例ほどあるのですが、「こ」と読むのは知覧町西元に「コガリ」喜入町生見に「コガリ」、国分市福島に「コガリ」

川内市城上・大和村名音・大和村志戸勘に「コゴ」、長島町指江に「コガリ」の7例があるだけです。他にルビのないものもあるのですが、「コ」と読むものはわざわざ「コ」とルビを振っています。ほとんどは「カガリ」と読みます。

その次、電話帳で調べた結果をA・B・Cと分けました。Aは例が多いもの。これは昭和48年の電話帳に見える数です。小川(337)・小田(253)・小倉(245)・小野(227)・小田原(126)。これを「こがわ」とか「この」とか「こだわら」と読む例はない。小倉には「おぐら・こくら」がありますけど。普通は「おはら」や「おのだ」。ごく少数例はそこにあるような小笠原(おがさわら)から小比嘉(おひが)まで拾いあげました。

次に二通りの読みがあるもの。小原(おはら・おほら)。比率は、おばら3:こばら1ぐらいいの割合になる。おぼま2:こはま1、おやまだ1:こやまだ1、おやま1:こやま3。他の文字を用いるものは、尾島おじま1:児島こじま20、尾村おむら1:小村こむら50、尾辻おつじ10:小辻こづじ1、尾辻が圧倒的です。

II類、B・C、「お」「こ」二通りの少数例は、そこにあるような尾塚おつか、小塚こづかなどです。

III類、「こ」と読むものは児玉こだま・小園こその・小牧こまさ・小林こばやし・小城こじょう・小松こまつななどがAタイプの大姓になります。小吉こよし・小縁こみどり・小柳こやなぎなどIII類B・Cの例が鹿児島にもあったようです。

3ページに記してある小荒田・小平田・小永吉などの名字は明らかに荒田・平田・永吉など、そういう地名・名字から分かれた分村地名・分割名字だと判ります。小平田などは明らかに平田から分かれて行ったものです。

「小(コ)」と付くものは、そう云ったものが多いです。それらを一応拾いあげてあります。しかし細かい地名・名字を一々詮索しても仕様がないので説明はしません。また読みの間違いがあるかも知れません。気付いたら教えて下さい。

それらを表にまとめたのが、6ページの表です。Aは大姓、Bは一般的な名字、Cは類例少数です。これを整理すると7ページの上の表になります。I類「お」29例、II類「お・こ」18例、III類「こ」125例。このように表にすると、「こ」は時代的に明らかに新しいことが判ります。

そこで今度は、小山田おやまだ・こやまだを日本全国で調べることにしました。日本全国を調べると云っても細かい小字を調べたのではありません。角川の『日本地名総覧』というのがあります。これならばら王なものが判ります。それらを一つ一つ各県の地名大辞典で確かめて、いつ頃発生したかを探ると小山田の方が圧倒的に多い。これに対して「こやまだ」は6例しかない。福岡県の「おやまだ」は奈良時代に発生している。鹿児島市の「こやまだ」は鎌倉時代、加治木の「こやまだ」は室町時代ということです。第2表「おやまだ・こやまだの由来」を見ると、西日本・九州は圧倒的に「おやまだ」です。その中で鹿児島県の「こやまだ」というのは異質の存在だと言えます。

小山田の古文書に「こやまだ」と平仮名で書いたものがあれば上いのですが。それを突き止めることができたら、どこまで遡れるかが判ります。現在、確実に遡れるのは『薩隅日地理纂考』です。そうすると『薩隅日地理纂考』で「こやまだ」と書かれたものがそ

まま受け継がれています。

池田 比志島氏が小山田を領有していた時代があるので、比志島文書に出て来るかも知れない。

平田 ああ、失礼。巡見使に提出した資料に「こやまだ」があります。そこで巡見使に提出した違っている読みをいつ正しく直したかを眺めてみました。

川内の久住(くじゅう)、寛文4年の高辻帳には「くすみ」とルビを振っているのですがこれを天保5年によく「くじゅう」に直している。大口の小木原(こきはら)を、「おぎはら」と出している。小山田はずーっと「こやまだ」のまままで出しています。『薩隅日地理纂考』もそう云つたデータを基にすれば「こやまだ」と書くことになる。それを教え込まれたら「こやまだ」に定着し、土地の人々も「こやまだ」と思い込んでしまうでしょう。

溝辺の竹子(たかせ)。これに「たけこ」とルビを振っています。これはいい加減なルビだとすぐ判ります。天保5年にやつと「たかせ」に直しています。隼人町の真孝(しんこう)。これに「さねかた」とルビを振っている。上小川は、「かんこがわ」と巡見使に出したものを明治4年に「かみがわ」に直している。尊小川は「そのこがわ」が天保5年に「そのおがわ」に変っている。比志島(ひじま)は、ずーっと「ひじま」のまま。

そうすると、鹿児島藩が出した公文書ではあるのですが、幕府巡見使へ出したデータにそういう間違ったルビが付けられていたのです。鹿児島藩の役人がテグテグに処理した結果なのでしょうか。鹿児島の地名を考える時、次のことが言えます。「日本秋津島僅かに六十六国」は平家物語の時代。しかし、国の数は江戸時代も変わらなかった。江戸時代は

三百諸侯といわれます。その他に天領があり旗本領がありますから、もっと細かい区分になります。そういう中で鹿児島藩(島津氏)の場合、薩摩国・大隅国・日向国および琉球まで支配していますから、特別な存在だったわけです。他の諸侯と同様には領内の隅々までの情報を把握出来なかつたと考えべきだと思います。現在はバスとか汽車に乗って手軽に行けますが、昔の人は鹿児島から離ることはまずなかつた。旅行した人は通つた処の細かい地名を聞いたでしょうけど。

国単位で領地を持つ大名は少なく、大半は郡単位の領地である。そこに情報把握に程度の差があったと見るべきである。新聞・テレビ・ラジオなどによる情報はなく、気軽に旅行する自由さえない時代に地名についての正確な情報を把握することは至難の技である。役所勤めが出来た下級武士たちは先輩たちが書き残したデータを金科玉条と心得て踏襲したに違ひない。たとえ正しい読みを知り得た場合でも不用意に提出すれば、以前の報告とは異なると問い合わせられるのが落ちである。その好例が川内である。川内(せんだい)というのは諱めないから「千台」と書いて出したら叱られたのです。そこで元に返せということでお内に決まったという経緯がある。「大は小を兼ねる」と云われるが、鹿児島藩内の地名の場合は「大男終身に知恵が回りかね」の状態であったと見なければならない。これは大きな藩の特徴になります。鹿児島県の地名にはそう云つた欠点があつたのです。

明治以降『薩隅日地理纂考』は郷土史教育の原典とされ、それを基に水年教え込まれたら、白銀坂(しらかねさか)や小山田(こやまだ)の読みがその土地の常識的な呼び名になつてしまつたのです。

まうのはあり得ることです。

小野小町を「このおまち」と読む人はいないでしょう。小野は早く開け、小町は時代が下ります。小山田には「小山十田」なのか「小十山田」なのかの問題が残されますが、歴史的には「小(お)」が古く「小(こ)」が新しいとの視点に立てばよいでしょう。「お」から「こ」にいつ頃変わるか、の方が大きな問題です。

そこで10~11ページに万葉集・古今集・新古今集の「お(を)」・「こ」を拾い出した次第です。昔は「小(を)」です。小川・小櫛・小倉山・小篠・小塙山・小島・小田・小野・小舟・小山田、以上は「を」。小石・小馬・小龜・小雨・小背・小柄・小萩・小枕・小衾・小松など、これらは万葉集の時代から「小(こ)」と読みます。

表の上・下段共に、万葉時代から現在まで続いている表現が多い。表を作成して気付いたことが二つあります。一つは小背・小柄・小萩などの植物の呼称です。小背は万葉集だけに見えますが、東歌が主です。小柄は下野国のか歌であり、小萩は「宮城野の小萩」と限定されて詠まれるもので。こういうことから、「小(こ)」という表現は東国生まれのことばの見当が付きます。そうすると東国に土地を与えた高句麗遺民に結びつきます。東京都狛江市は和名抄にみえる狛江郷にもとづく地名であり、「狛」は高麗人(こまわい)に由来しています。

東国に育った関東武士たちが鎌倉時代以降日本全国に散らばって来るわけですから、小(こ)の読みが広まって来たと考えられます。

そこで「お(を)」と「こ」の違いの時期を小島の読みから考えてみました。万葉集7例のうち2例は「児島」と書かれているので明ら

かに「こじま」と読みます。それに引きずられて皆「こじま」と読んでいます。ところが万葉集の表現・読みはほとんどが「を」であり、小島は「をじま」の可能性が大きいのです。

新古今集には6例あるのですが、5例が「をじま」、「こじま」は1例だけです。さらに詠んだ歌人の名も判っており、生存年代も判っています。ほとんどが平安末から鎌倉初めの人です。平安末から鎌倉初めの頃はまだ「をじま」が優勢であったとみられます。「こじま」がはっきり出て来るのは戦国時代、片倉小十郎とか佐々木小次郎とか強そうな名前が出てくる時代です。それと小梅さんとか小雪さんなど小綺麗な姫さんたちが「小」の付いた名で呼ばれるようになります。

「小(こ)」というのは時代的に新しい。小山田(こやまだ)の場合は明らかに山田から分離した地名でなければならぬ。谷山の山田さんが移って来て小山田を称したのであればその由来がはっきりして来るし、姶良の山田の人たちが加治木に移って開拓したことによって小山田という地名が出来たということを確かめられたら小山田(こやまだ)でいいわけです。それよりも発生が古いとなると小山田(こやまだ)でなければならない。

以上が「白百(しらゆき)」と「小(こ)」との読みについての分析結果です。今まで万葉集を研究する人は万葉集だけ、古今集を調べる人は古今集、新古今集は新古今集と、型が決まっていたのでしょうか。歴史家は國語の人たち・歌詠みが調べる素材だとみなして見向きもしませんでしたが、いろんな単語を全時代的に比較していくと日本語の移り変りがはっきり見て来るでしょうし、社会・文化の変遷も見えるようになると思います。各人が

自分の名字に關係があるものを拾っていけば面白いテーマが出て来ると思います。それに気付いたのが今回の成果でした。

事務的なことです。会報85号13ページ右側の乙房の所、質問者の名前が判らずに?を打ってあります。どなたか、この発言は私だと憶えておられる方はありませんか。

池田 声では判らなかった?

平田 そうです。どうも済みません。それからこれを打ちながら思ったのですが、今まで整理の仕方として宮之城ならば宮之城全体でいろいろ分類をしていました。また常識的に判るものまで?を打ちましたが、判るのは飛ばしてもよく、今後は判りにくいものだけ説明の時に?を付けてもらえばいいと思います。常識的なものは説明を省いていけば、時間が節約出来ると思いました。

市町村合併で市町村名が消えていきますから今後は大字単位でまとめていこうと思います。大字は消えることはないと思います。大字単位で宗教地名であるとか、位置地名であるとかを整理していくかなと考えています。どんな事態になつても大字単位に眺めていけば、現在はどこどこに所属すると付け加えさえすれば済むことですから、そのような整理に切り替えたいと思います。

〔質疑応答〕

福元 今日の話、大変面白く聞いていました。義兄が小原(おほら)です。時々「こぼる」と云ってしまうのです。また従兄弟に電話する時に小原(こぼる)さんと云ってしまうことがあります。私は城上の出身です。先程、小川(こごう)の話がでしたが、最近は「おがわ」と云っているようです。私の同級生に上小川(かみこがわ)というのがいました。小川(こごう)

の出身です。小学校の頃は小川(こがわ)と云っていましたが、今は小川(おがわ)と集落の呼び名を変えているようです。どれが本当に正しいのか。

平田 鹿児島県だけを整理すれば判らないのですが、万葉集からずーっと並べて来ると「小(お)」が古く「小(こ)」が新しいとはつきります。

福元 小川(ここ)にしても小川(おがわ)にしても、皆自分の勘で云ってるような気がしますが、次のことははっきりしています。下小川(しもここ)・下小川(しもこがわ)と発音します。下小川(しもおがわ)とは絶対に云わない。

平田 下小川(しもここ)ですか。

福元 下小川(しもおがわ)とは、絶対に云わない。

平田 どこですか。高城(たき)ですか。

福元 陽成小学校の近く。下小川(しもここ)・下小川(しもかがわ)と云います。そこら辺が地名の面白いところだとは思います。そう思いながら聞いていました。

池田 会員で小山田さんの方がいらっしゃいますね。の方に聞いたら、元々は大分の宇佐八幡の神官の出だそうですね。

平田 そうです。大分県の小山田です。鹿児島県の小山田を整理すると、種子島にもあるのです。そして地名とは全然関係がないのです。また鹿児島市の小山田辺りには「おやまだ」さんも「こやまだ」さんも住んでいないのです。蒲生町には「おやまだ」と「こやまだ」と両方の名前がある。

池田 蒲生八幡の系統じゃないかと小山田さんは云つておられました。

平田 蒲生? そうしたら宇佐八幡から来たということ?

池田 そんな系統じゃないかということでした。

平田 それと加治木町に古い大塔がありますね。小山田氏の先祖の墓だと伝えられていますの話がありますから、加治木辺りの小山田(おやまだ)というのが名字としては古いはずですね。

池田 加治木の大蔵氏が加治木の小山田と鹿児島の小山田の両方を領有していた時代もあるのですよ。それで関係があるんじゃないかと思つたりしていたのですが。

平田 両方支配していたのですか。その墓が加治木で最も古い大塔ですね。

池田 小山田氏でなく大蔵氏。

平田 大蔵氏の墓?

池田 大蔵姓加治木氏の墓。

納 「お」と「こ」は漢和辞典を見ると見出しの所に「お」と「こ」と両方書いてあります。昔の文書を見ると「こ」は色々な文字を当ててあります。読む者がこれは「こ」、これは「お」と読み分けて来た。そのためごちやごちやになって伝わって来たのじやないですか。前にも出て来た「荒田」。上荒田(カマツカ)と下荒田(シモマツカ)と云うのですがね。

平田 「カ」ならば「シ」ですよね。

納 ごちやごちやになっている。「町」の場合でも「チヨウ」と読んでみたり「マチ」と読んでみたり。呉服町(ヨウフクマチ)と云いますが、他県の人は「ヨウフクマチ」と読みます。高麗町(コラキヨウ)の場合、鹿児島弁流に云えば「コレマツ」現在は「カカラキヨウ」。加治屋町(カジヤマチ)の場合はバス会社によって呼び名が違う。「カジヤマチ」というバスと「カジヤモウ」といふバスと両方ある。どれが正しいのか判りません。

平田 万葉集の場合、万葉仮名があります

から、「お」と「こ」は分かれます。そして「こ」は新しいと云える。

納 万葉仮名は二通りの読みがありますからね。

平田 万葉仮名が付いておれば読み間違うことはないのです。

納 音の場合は甲類と乙類か、両方読み方がありますね。その文字を当てはめるために「お(を)」と読んでみたり「こ」と読んでみたりしたのじやないのですね。

平田 万葉集の研究者でも小島の場合、児島に引っ張られています。「お」「こ」の説明は触れられていません。それと小夜(きよ)とか狹衣(さごろも)とかいうのもあるのですが、その説明も国語学者はすべて「サは接頭語」で逃げています。例えば薩摩の「サツ」を説明する場合必ず出て来るのですが、狩猟に使う鉄製の矢尻：獵矢(リヤ)というもの。朝鮮語で矢のことを「サ sal」という、と。そういう説明をするだけで、「リ」の説明には触れません。

小夜に関しては「さ」はすべて接頭語として解釈を付けていません。日本語というのは主ことに難しい。

今後の方向として、古い言葉は古代朝鮮語との比較を徹底してやらねばならないということを感じます。韓衣・韓太刀・韓藍など、ほとんどが朝鮮半島経由で入って来ている言葉です。「からかね」もそうでしょう。

日本と韓国の関係からみると、どうも妙な優越感があるようですし、韓国側は永年支配されて來た憾みごとの方が先行しているようです。両方の学者が徹底した議論を行うようになればと思います（冬ソナのヨン様が先行か？）。次回は「人来町の地名」です。

白銀坂物語

平田信芳

I. 「しろがね」「しらかね」二つのよみ

姶良町の白銀坂は歴史の道百選に選ばれて以来脚光を浴び、平成8年度から平成15年度にかけて保存整備がなされた。その整備事業の報告書が『歴史の道大口筋白銀坂保存整備報告書』姶良町教育委員会、平成16年3月、である。内容を見ると、白銀坂のよみについて報告書の担当者が四苦八苦された様子がよくうかがえる。以下、要点を引用する。

- (1) 姶良町教育委員会では「しらかねざか」を正式の呼称としているが、地元では「しらがねざか」と濁音で読む者もいる。
- (2) 白銀坂本来の読み方は「しろかねのさか」または「しろかねざか」であるのだが地元では一般に流布していない。「しらかねざか」という読み方・言い方が現在でも主流である。
- (3) 『入来文書』所収の平松水田坪付帳に「しろかね田」「しろかね」「しろかねの口」「白坂の下」などの地名があることに着目、白銀坂は15世紀中頃に白坂と呼ばれていたのではないかとして
〔中世〕白坂しらさか → 〔戦国時代〕白銀坂しらかねざか → 〔近世・近代〕しらかねざかの変化を仮定している。

永年、地名を研究して来た者として「しらさか→しろかねざか→しらかねざか」という複雑な地名の変化はまず考えられないと、気の毒だが断言する。対象が姶良町だけの文化遺産でないので、白銀坂のよみの変遷を明確にしておきたい。歴史の研究は「年表作りに始まって年表作りに終わる」の鉄則に基づき「白銀坂年表」を作成してみた。

白銀坂年表

15c.	しろかね・しろかね田・しろかね口の地名あり（入来文書）
1554	岩剣城攻防戦。島津義弘、白銀坂に陣どる（島津国史）
1611	島津義久の遺体を国分から鹿児島に移送。 「白可補筋御通り遊ばされ候」（国分諸古記）
1784	『大石兵六夢物語』に、しろかね・白金・白銀坂の地名あり。
1843	『三国名勝図会』、白銀山・白銀坂を立項。ルビなし。
1871	『薩隅日地理纂考』、白銀山「シラカズ」のルビ。刊本は1894年。
1993	『角川日本地名大辞典』、白銀坂 しろがねざか を立項。小字白金のルビ。
1995	白銀坂、歴史の道百選に選定
1998	『鹿児島県の地名』、白銀坂・白銀山・白銀陣すべて「しろがね」のルビ

古文書では「しろかね」に濁点がなくても、「しろがね」と読むと理解してよい。白銀坂年表に示した通り、15世紀から19世紀半ばまでは白銀坂（しろがねざか）と呼ばれていたが明治に入って突然「しらかね」のルビが登場する。以来、現在まで「しろがねざか」「しらかねざか」の混乱時代に入る。地元では「しらかねざか」、歴史家は「しろがねざか」と読む。

このねじれ現象の出発点は『薩隅日地理纂考』のルビにある。この本は、明治以降現在まで永年郷上史の原典として利用されて来た。今回通読してみて、白銀（シラカネ）だけでなく奇妙なルビが続出するのに驚いた。以下、気付いたものを列挙する。

小山田（コヤマタ）・宇宿（ウスカ）・内城（ウチシロ）・比志島（ヒチシマ）・高城（カシヨウ）・
冠嶽（カリタケ）・照島（テラシマ）・十曾山（シケツヤマ）・勝目（カツメイ）・税所（セイショウ）・
高山郷（タカヤマ）・百引郷（モミヒキ）・栗生（クリノ）・野々美谷（ノハタニ）

などである。他にもあるが省略する。

鹿児島育ちであればこのようなルビは振らないはずだが、部厚い本に圧倒されて正しい記述と思い込み、これに基づいて1世紀以上郷土史を教えられたら、人々はそれが正しいと思い込むのは当然である。「しらかねざか」の読みは、そのようにして出来あがったとみてよい。鹿児島市大竜小学校の所にあった「内城 うちじょう」に、「ウチシロ」とルビを振って郷土史理解を混乱させて来た根源も此處にあった。

地名を考える場合、一般的には地元での呼称を重視するが、白銀坂（しらかなざか）は出発点にミスがあったのである。ミスに気付かず教えられると、今日のようなねじれ現象が生じる結果となる。

II. 白銀坂にまつわる話

その昔、銀鉱脈を求めたのであれば白銀山（しろがねやま）と名付けられて不思議はない。その白銀山へ登る坂道が白銀坂と呼ばれるのは当然のことだが、銀に結び付く話が全くない。岩剣城や平松城背後の山を「城ヶ峯」と呼び「白銀」がその当て字に用いられたとのこじつけが考えられるが、平松水田坪付帳に見える小字は城の下（ヒュウノシタ）であり、城（しろ）の表現とは結び付かない。

姶良町教育委員会の整備事業報告書は「白坂→白銀坂」の変化を仮定しているが、それもだいぶ無理がある。県下の「白坂」地名を49例と数えあげているが、上白坂・中白坂・下白坂などの分割地名は一括して数えるべきで、それを整理すると40例になる。その他にも7例ほどあることを確認している。その分布図を作成すると、地域的にまとまりが見られる（第1図）。

白坂は白土の層が露出して見られる坂に名付けられる地名である。白土は珪藻土または珪石が風化して出来る土壤であり、上質のものは陶土として利用される。「白坂」地名の

分布図を見ると、薩摩焼の中心地である苗代川近辺に集中的に見られる。白銀坂に白土の層があるのであれば「白坂→白銀坂」の変化を推論する可能性があるかも知れないが、岩が多い狭い坂道に白土層の存在はまず考えられない。蒲生町や吉田町に白坂という地名があることから、入来文書に出て来る平松の白坂は蒲生や吉田寄りにあったのではと考える。一般的に地名の転化説がよく説かれるが地名転化はそんなにあるものではない。転化・変化には動機付けがなければならない。白銀坂（しらかねざか）のように誤ったルビが定着したのは動機付けが裏付けられる。

今一つ、白銀坂には話題性を持ちながら、採りあげられていない事柄がある。白銀坂は種々の妖怪が出る處で、大きな声で話したり歌ったりすると天狗倒しに遭う（天狗に襲われて腰を抜かす）とか、棺桶の通行は禁忌（タブー）で、これを犯すと死体が消える、と三国名勝図会や薩隅日地理纂考に書いてある。以下、この話の由来を探ってみたい。

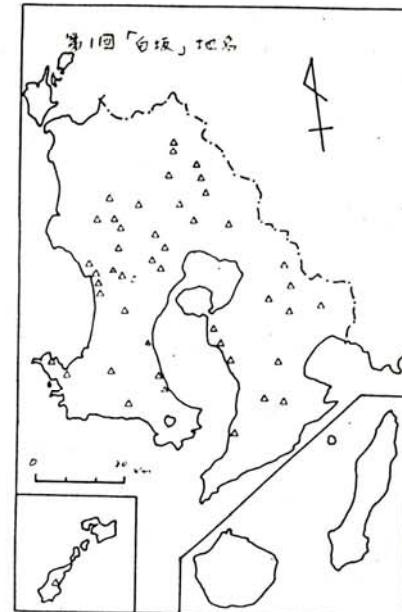
島津家第16代太守島津義久遺体鹿児島移送の時の出来事として、『国分諸古記』に次のようなことが記されている。

「御遺軀鹿児島へ御越由の節、吉田筋御通りの筈に候へ共、竜昌寺鉄由和尚御供致され白可補筋御通り遊ばされ候處に、芝之元辺にて、黒雲相降りたる由に候へ共、鉄由和尚法力を以て相除き、難なく白可補筋御通り遊ばされ候由申し伝へ候」

（意訳：ご遺体は初め吉田経由の予定であったが、鉄由和尚のお供で白銀坂を越えられた。芝之元（おろのもと）あたりで黒雲が現れ恐ろしい状況となった。鉄由和尚が経文を唱えると黒雲は立ち消え、無事鹿児島に向かわれた、と伝え聞いている。）

一方『大石兵六夢物語』には、化け物退治に向かった大石兵六が白銀坂にほど近い閑屋が谷で、赤蟹（あかがね）の大きな「はさみがね」に足を挟まれる話がある。大石兵六は出合わなかつたが、しろがね坂は白蟹（しろがね）という化け物が出ると恐れられた処だったかも知れない。そのような恐ろしい山道越えの話を打ち消すために、白銀（しろがね）を希求する瑞祥地名を人々は考え付いたと考えたら、話は面白くなる。

昔、薩摩兵児たちは「花のお江戸に上る時…蟹にきんたまを挟まれた…だけど気持ちがいい」と高歌放吟して気味の悪い白銀坂を降ったとの話が出来上がる。山坂達者の若者を鍛え、タブーに立ち向かう肝試しにふさわしい歴史の道があつてもよい。白銀坂は、西南戦争の時、薩軍敗走の道の一つでもあった。（平成16年7月3日記す）



III. 万葉集・古今集・新古今集での「白」

日本には編纂の時期・編者が判っている歌集が多い。これらを言葉の変遷という視点で眺めた国語学者・歴史家はいないようだ。8世紀半ばの万葉集、10世紀初めの古今集、13世紀初めの新古今集でどのような表記・読みになっているかを見比べることは無意味ではないと考えた。まず「白（しろ）」と読むものは次のとおり。

	万葉集	古今集	新古今集
銀（しろがね）	1	0	0
白榜（しろたえ）	68(14) 註1	4	13
白酒（しろき）	1	0	0
白髪（しろかみ）	9 註2	0	0

註1：内訳は白細（16）・万葉仮名（14）・白妙（13）・白細布（12）・白榜（11）・白布（1）・白木綿（1）になる。

註2：黒髪（くろかみ）・白髪（しろかみ）と対比する場合は「しろ」と読むが、多くの場合「しらが」7/9である。

これらの他に形容詞・副詞の「白し・真白に」があるが、採りあげなかった。

次に、白（しら）と読むものは次のとおり。カッコ内の数は万葉仮名を用いたもの。

	万葉集 4,516	古今集 1,140	新古今集 1,979
白雲（しらくも）	28 (6) 0.6%	11 0.96%	24 1.2%
白玉（しらたま）	29 (5) 0.6%	7 0.6%	3 0.1%
白露（しらつゆ）	29 (1) 0.6%	13 1.1%	23 1.2%
白浪（しらなみ）	52 (18) 1.2%	9 0.8%	20 1.0%
白真弓（しらまゆみ）	6	1	0
白山（しらやま）	1	6	2
白雪（しらゆき）	6	13	6
白木綿（しらゆふ）	3	1	1
白菊（しらぎく）	0	2	1

万葉集には白鳥（2）・しらぬひ（3）・白塗（2）・白嶺（1）・白濱（4）・白鬚（1）・白紐（1）・白川（3）・白檻（1）・白鷺（1）などが見えるが、これらは古今集・新古今集では詠まれていない。このことは奈良貴族と平安貴族との環境に対する感覚の違いを示すとみてよいだろう。

白雲：平安・鎌倉時代に入り、白雲に关心が寄せられるようになる。

白玉：真珠が歌に詠まれるのは平安時代まで。古今集・新古今集では滝のしぶきを白玉と見る。白露並みの感覚である。

白浪：万葉集では白浪32・万葉仮名18・白波2。古今集は白波9。新古今集では白波11しらなみ5・白浪4となる。万葉集では住吉浜に寄せる白浪のイメージが中心。大伴氏の本拠地である住吉浜と結び付いている。平安時代以降の表現は「白波」となる。新古今集では「知らなみ」の懸詞が登場する。

白露：平安時代に入り「白露」を多く詠み込むようになる。無常観と白露が結びついたのであろう。

白山：古今集に越の国の白山が歌枕的に詠まれるようになる。

白雪：吉野の里の白雪 → 歌枕の発生か？

万葉集・古今集・新古今集に出てくる「白」の表現を比較した限りでは、「しら」が我が国本来の表現であり、「しろ」は外来の貴重な物の呼び名であったとみられる。

銀（しろがね）は山上憶良の歌に見えるだけ、以後は登場しない。白榜（白妙）は古代においては貴重な輸入品であったとみられる。織物を詠んだものに限定すると、万葉集では白榜から進んで韓衣（からこも）・高麗錦（こまにしき）になり、古今集では唐衣（からこも）・唐錦（からにしき）となる。織物も韓衣（加羅國・辛國）→高麗錦（高句麗）→唐衣・唐錦へと高級品への欲求が高くなり、交易範囲が拡大したことを示す。

一般的な言語表現でも、囮碁では白石を持つのが実力上位。白黒をつける・白眼をむく・目を白黒させるなどは、物事の決着や反発を示し、驚きの表情を表す。白砂糖は昔は薬であったし、白酒は雛祭りには付き物。白装束は切腹時に着用、白無垢は今も変らず代表的花嫁衣装の一つ。交通違反に睨みを利かすのは白バイ。源氏は白旗（しらはた）だが、降伏のしるしは白旗、等々。。

本来「しろ」に重みがあったが、後世「しら」「しろ」の区別が崩れ、白石（しらいし・しろいし）、白糸（しらいと・しろいと）、白魚（しらうお・しろうお）、白金（しろかね・しらかね）、白鷺（しらさぎ・しろさぎ）、白鳥（しらとり・しろとり・はくちょう）白旗（しらはた・しろはた）など、どちらでもよいような見方が出て来たと考える。このことは言葉の進歩というよりは堕落と言ってよい。

なお「しら」が基調であった所に「しろ」と呼び名を与えることになったインパクトの強い国は恐らく斯盧国（新羅の古名）であったと思われるが、それを実証するのは白榜が現物として残存してそれが科学的分析によって斯盧国産と判明することだと思う。あるいはそれ以外のもので検証可能になるかも知れない。（平成16年8月22日記す）

「小」のよみ

平田信芳

I. 上小川と小山田

親しく述べてきている人のなかに、小川さん・小山さん・小山田さん・小園さん・小田さん・小原さんなど「小」で始まる名字が意外と多い。名字の95%は地名に由来すると云われるが、身近に接する地名の中で最も難しいのは「小」の読みだと思う。

「春の小川はさらさら行くよ（流る）」という唱歌の文句で、「おがわ」を読み間違う人はまずいない。ただ「行くよ」「流る」の違いが年齢によって差が出るという。対照的な小山の読みになると「おやま」「こやま」二通りの読みがあり、その違いに小山さん自身が首をかしげる。小山田の場合、地名では「こやまだ（鹿児島市小山田・加治木町小山田）」だが、名字では「おやまだ」になる。もっとも接した人が「おやまだ」さんであり、「こやまだ」さんに出会っていない面もある。念のために角川書店・平凡社の地名辞典で宮崎・大分・熊本各県の地名例を当たってみた。熊本県・大分県に小山（おやま）の地名があり、宮崎県・大分県に小山田（おやまだ）の地名があることを知った。

こんなことで鹿児島県の小山田（こやまだ）という地名の読みに問題がありそうだとの見当がついた。二大地名辞典の表記は次の通りである。

A. 『角川日本地名大辞典』、46、鹿児島県（S.58）

上小川（かみおがわ）・小山田（こやまだ）

B. 『鹿児島県の地名』平凡社（H.10）

上小川（かみこがわ）・小山田（こやまだ）

小山田のよみを検討しようと考えて始めたことであったが、「上小川（かみこがわ）」のルビに接して驚いてしまった。永年、国分とかかわりを持って来た者としては「かみおがわ」が常識であった。“「かみこがわ・かんこがわ」ということがあるのか”と聞くと、“地元の人たちは「かめがわ」という。よそ行きの言い方では「かみおがわ」”だと聞かされてきたので、どこでボタンの掛け違いが生じたのか考えることにした。そのために、上小川のルビの変遷を探ってみた（第1表）。

上小川という地名の由来は古い。建久8年（1197）の大隅国図田帳に「小河院三百四十八丁三段半」と見える小河院の遺称であり、建治2年（1276）の大隅国在庁石築地役配符にも「上小河三十五丁、下小河二十五丁……曾小河十二丁」と記されている。『鹿児島県の地名』の執筆担当者は、小河院（おがわいん）・曾小河（そおがわ）とルビを振りながら、上小河（かみこがわ）としていることに今回（平成16年7月）初めて気付いた。念のため

寛文4年(1664)	かんこがわ	薩摩国郡村高辻長
寛政7年(1795)	カミヲカハ	鹿藩名勝考
寛政12年(1800)	かんこがわ	諸郷村附並浦附
天保6年(1835)	かんこがわ	郷村高辻帳
天保14年(1843)	カミヲカハ	三国名勝団会
明治4年(1871)	カミヲガハ	薩隅日地理纂考
昭和58年(1983)	かみおがわ	角川日本地名大辞典
平成元年(1989)	かみこがわ	日本分県地図地名総覧
平成9年(1998)	かみこがわ	国分郷土誌上巻
平成9年(1998)	かみこがわ	鹿児島県の地名

「かみおがわ」の系統は歴史・地誌など、藩の編纂物。「かんこがわ・かみこがわ」の系統は幕府の巡見使に提示するための対応資料である。後者はミスが目立つが先輩の作成した資料を巡見使に対する手前もあり一挙に訂正することも出来ず、後で少しづつ訂正してはいる。その例は後述する。

第1表 上小川のルビの変遷

に『国分郷土誌』の小字一覧を見ると、上小川（かみこがわ）とある。そこで地名に詳しい知人にその経緯を問い合わせた。知り得た情報は以下の通りであった。

- 1)上小川集落の住民は昔から「かみおがわ」と呼んでいる。
- 2)地元の小学校は上小川小学校と呼ばれる。何故そのようになったのか定かでない。
- 3)周辺町村を合併して国分市となった際、国分生まれでない職員が土地台帳・租税台帳一覧などを作成する過程で「かみこがわ」のルビが付けられたようだ。
- 4)『国分郷土誌』平成9年版刊行に当たって、上小川のよみを決めて欲しいとの国分市の要望があり、郷土誌刊行委員会は歴史的経緯などを検討することなく行政側提出の「かみこがわ」を了承したようだ。

電話帳で県下の「小川」姓を調べてみると、ほとんどが「おがわ」である。「○小川」の形で「こがわ」と読むのは、知る限りでは「曾小川（そがわ）」だけである。

そこで「曾小川」の分析に入った。『三国名勝団会卷之三十一』に「国分の古名は曾小川……曾小は曾於訛にて……里言にそをごかはと唱へり」とあり、里言（地元での表現）として「そをごかは」と記録されている。それが国分市福島の小字「曾小川（そがわ）」に連なっているとみられる。『鹿児島県の地名』の執筆担当者は三国名勝団会にもとづいて「曾小川（そおがわ）」としたとみられるが、その一方で「上小川（かみこがわ）」としており首尾一貫していない。

『日本地名索引』アポック社1981年や『日本地名総覧』角川書店1990年によると、小川（こがわ）と読む地名が、北海道・青森・岩手・秋田・福島・茨城・新潟・長野・静岡・三重・和歌山・滋賀・山口・愛媛・高知・佐賀・長崎・大分・宮崎の各県に見られることも事実である。しかし「小川（おがわ）」に比べると、ものの数に入らぬほどの少数例になる。

鹿児島県内の「小川」地名を45例ほど確認しているが、「こ」と読むものは、コカワ（知覧町西元）・コガワ（喜入町生見）・ソコガワ（国分市福島）・コゴ（川内市城上・大和村名音・大和村志戸勘）・コゴウ（長島町指江）の7例だけである。もっともルビのないものも多いが、「こ」だけはルビを振る必要があるとみなされたようだ。

II. 小(お)と小(こ)、どちらが古形か?

小(お)と小(こ)のどちらが発生史的に古いのか?それを確かめるために地名よりも類例が多い名字で分析を試みた。『鹿児島県姓氏家系大辞典』角川書店、II.6.の末尾にNTTの電話帳1989年版をもとにした「鹿児島県姓氏一覧」があり、姓氏(名字)の電話登録数を知ることが出来る。県内全体が一冊の電話帳に収まっていたのは昭和48年(1973)版が最後であり、県内の名字調べにはそれが手頃で便利なので用いている。数的にも昭和48年登録数の約2倍が1989年版の登録数になるようである。

「小」の付く名字をI類・II類・III類に分けて眺めてみた。カッコ内の数は昭和48年の電話帳に登録された数である。Aは大姓、Bは一般的な名字、Cは類例少數を示す。

I類A: 「お」と読むもの。

小川 おがわ (337)	小田 おだ (283)	小倉 おぐら (245)
小野 おの (227)	小田原 おだわら (126)	

I類B: 「お」と読むもの。

小野原 おのはら (47)	小野田 おのだ (28)
---------------	--------------

I類C: 「お」と読むもの。

小笠原 おがさわら (6)	小川田 おがわだ (5)	小河原 おがわら (3)	小熊 おぐま (2)	
小椋 おぐら (2)	小栗 おぐり (5)	小里 おざと (3)	小笹 おざき (11)	小沢 おざわ (14)
小薄 おすき (5)	小滝 おたき (1)	小田切 おだぎり (1)	小田口 おだぐち (11)	
小田島 おだじま (1)	小田平 おだひら (1)	小津 おづ (1)	小長野 おながの (5)	
小野池 おのいけ (3)	小野島 おのしま (1)	小野寺 おのでら (2)	小野満 おのみつ? (1)	
小野村 おのむら (2)	小野山 おのやま (1)	小原田 おばらど (5)	小比賀 おひが (1)	
小俣 おまた (2)				

II類A: 「お」「こ」二通りの読みがあるもの。

小原 おばら (210)	3 対 1	小原 こばら (65)
小浜 おばま (123)	2 対 1	小浜 こはま (60)
小山田 おやまだ (33)	1 対 1	小山田 こやまだ (34)
小山 おやま (37)	1 対 3	小山 こやま (93)

[他の漢字を用いる例]

尾島 おじま (7)	1 対 20	児島 こじま (169)
------------	--------	--------------

小島 おじま (7)		小島 こじま (109)
尾村 おむら (3)	1 対 50	小村 こむら (167)
尾辻 おつじ (136)	10 対 1	小辻 こつじ (14)
尾崎 おさき (94)	・ 小崎 おさき (2)	・ 小崎 こさき (15)

児島・小島・尾村・小村、尾辻・小辻などは同一地域に見られる。小島は本来児島であったとみてよい。児玉・小玉の関係も同様であろう。

II類B・C: 「お」「こ」二通りの読みがあり、さらに他の漢字を用いる例もある。

小幡 おばた (22)	・ 小幡 こばた (2)	
尾畠 おばた (3)	・ 小畠 おばた (15)	・ 小畠 こばた (4)
尾迫 おさこ (15)	・ 小迫 こさこ (23)	
小路 おじ (7)	・ 小路 こじ (6)	
尾高 おたか (1)	・ 小高 こたか (2)	・ 小鷹 こたか (9)
尾塚 おづか (6)	・ 小塚 こづか (3)	

III類A: 「こ」と読むもの。大姓。

児玉 こだま (475)	・ 小玉 こだま (27)	—— 小玉は児玉の分家筋であろう。
小園 こその (204)	・ 小園 こその (56)	—— 小園は金峰町・川辺町に多い。
小牧 こまき (196)		
小林 こばやし (139)		他県には「おばやし」がある。
小城 こじょう (101)		始良郡・肝属郡の麓に散在(麓郷士)。
小松 こまつ (90)		始良郡・日置郡に多い。

III類B: 「こ」と読むもの。一般的な名字。

小池 こいけ (27)	・ 小坂 こさか (30)	・ 小谷 こたに (36)	・ 小妻 こづま (12)	・ 小平 こびら (40)
小吹 こぶき (28)	・ 小正 こまさ (24)	・ 小湊 こみなと (49)	・ 小峯 こみね (25)	・ 小宮 こみや (14)
小牟礼 こむれ (38)	・ 小牟田 こむた (37)	・ 小森 こもり (55)	・ 小屋 こや (31)	・ 小脇 こわき (39)

III類C: 「こ」と読むもの。類例少數。

小石 こいし (3)	・ 小磯 こいそ (7)	・ 小糸 こいと (1)	・ 小岩 こいわ (3)	・ 小浦 こうら (5)
小金園 こがねぞの (2)	・ 小神 こがみ (1)	・ 小串 こぐし (1)	・ 小隈 こくま (2)	・ 小才度 こさいど (1)
小櫻 こざくら (8)	・ 小椎 八重 こしばえ (5)	・ 小鹿野 こしかの (2)	・ 小路口 こじぐち (9)	
小重 こしげ (4)	・ 小柴 こしば (1)	・ 小薄 こすき (1)	・ 小宿 こしゅく (3)	・ 小筋 こすじ (1)
小住 こすみ (1)	・ 小瀬 こせ (11)	・ 小竹 こたけ (9)	・ 小滝 こたき (1)	・ 小段 こだん (2)
小坪 こっぽ (1)	・ 小寺 こでら (4)	・ 小羽 こは (3)	・ 小橋 こはし (10)	・ 小樋 こひ (1)
小渕 こぶち (1)	・ 小堀 こぼり (4)	・ 小間 こま (2)	・ 小樹 こます (1)	・ 小俣 こまた (1)
小丸 こまる (9)	・ 小溝 こみぞ (4)	・ 小路 こみち (1)	・ 小緑 こみどり (13)	・ 小元 こもと (5)
小安 こやす (3)	・ 小柳 こやなぎ (4)	・ 小吉 こよし (28)		

〔分割姓〕

小荒田・小平田・小永吉・小宮路・小森園・小八ヶ代・小安永などは、荒田・永吉……八ヶ代・安永などから分家して名乗った名字と考えることが出来る。上掲のⅢ類Bにも同様に分割姓が含まれているかも知れないが、一応の目安として分類したにすぎない。その意味であまり目くじらを立てないで欲しい。なお名字にルビを振ったが、すべての読みを確認しているわけではない。読みの間違いもあるに違いない。ミスを指摘して頂く機会と考へて提示している次第である。ミスは遠慮なくご指摘頂きたい。

小荒田あらた(1)・小池田いけだ(2)・小石田いしだ(1)・小出水いはずみ(15)・
小泉いずみ(10)・小井手いいで(3)・小岩屋いわや(2)・小浦浜うらはま(2)・
小榎えのき(2)・小榎田えのきだ(1)・小江平えひら(2)・小大塚おおつか(2)・
小岡おか(1)・小門かど(2)・小河原かわら(3)・小岸きし(1)・小北きた(4)・
小木下こきのした(3)・小木原こはら(3)・小久保くぼ(24)・小窪くぼ(20)・
小斎平さいひら(19)・小坂元さかもと(9)・小追田さといだ(2)・小杉すぎ(9)・
小瀬戸せと(15)・小高峯たかね(6)・小田部たべ(1)・小竹原たけはら(1)・
小竹山たけやま(11)・小土橋つちはし(17)・小水流るる(14)・小手川てがわ(9)・
小中なか(7)・小長なが(2)・小中野なかの(5)・小中原なかはら(4)・
小永田ながた(6)・小長野ながの(9)・小永吉ながよし(14)・小西にし(28)・
小庭にわ(1)・小能の(3)・小野池のいけ(2)・小梅枝ばいし(9)・
小橋口はしごくち(10)・小浜田はまだ(1)・小早川はやかわ(2)・小原野はらの(1)・
小東ひがし(1)・小平田ひらた(15)・小藤ふじ(1)・小松尾まつお(4)・
小松園まつぞの(2)・小松山まつやま(1)・小宮路みやじ(24)・小宮山みやま(3)・
小迎むかえ(3)・小向井むかい(3)・小向得むかえ(5)・小麦崎むぎさき(3)・
小麦田むぎた(3)・小森園もりぞの(12)・小門口もんぐち(3)・小八重はえ(6)・
小八ヶ代やがしろ(8)・小屋敷やしき(43)・小谷野いやの(1)・小安永やすなが(1)・
小山下やました(1)・小代崎よさき? (1)・小和田わだ(1)

「小」の文字を含む鹿児島県内の名字(姓氏)について、I類(「お」と読む)・II類(「お」「こ」二通りの読みがあるもの)・III類(「こ」と読む)に分けて眺めるだけで発生史的に「お」が古く「こ」が新しいとの見当が付く。それをさらに理解し易いよう 「小」の付く名字を一覧表にまとめた(第2表)。本文で用いた昭和48年版電話帳の数を再度掲示するのは芸のない話なので、『鹿児島県姓氏家系大辞典』の末尾資料「鹿児島県姓氏一覧」の数を用いることにした。この数は1989年版電話帳にもとづくものであり、前掲の数と比較できる資料でもある。

なお、昭和48年(1973)に出ていても1989年にはゼロになったものは省いた。そのためには小糸・小宿・小樹・小浦浜・小江平・小岸・小熊・小津・小田部・小代崎・小和田などは第2表に掲載されていない。

A 大 姓		B 一般的な名字	C 類 例 少 数
I 類 「お」	小川(857)	小野原(91)	小笠原(13)・小川田(19)・小河原(14)・小椋(6)・
	小田(642)	小野田(65)	小里(3)・小笠(22)・小沢(22)・小滝(1)・小田切(3)・小田口(22)・小田島(1)・小田平(4)・小長野(28)・小野池(11)・小野島(2)・小野寺(3)・小野満(2)・小野村(4)・小野山(2)・小原田(14)・小比賀(2)・小俣(16)
	小倉(574)		
	小野(597)		
	小田原(268)		
II 類 「お・こ」	小原(715)	小幡(60)・小畠(75)	尾畠(12)
	小浜(512)	尾迫(47)・小迫(58)	
	小山(369)		小鷹(23)・小高(8)・尾高(3)
	小山田(159)		
	児島(349)		尾塚(17)・小塚(7)
	小島(337)		
	尾辻(269)		小辻(14)
	尾崎(266)		
	小村(433)		尾村(21)
III 類 「こ」	児玉(1124)	小磯(69)・小池(75)	小石7・小岩6・小浦23・小金園2・小神2・小隈9・小才度1・小櫻20・小椎八重16・小鹿野3・小重5・小集1・小翁1・小住1・小鹿1・小段14・小坪8・小寺22・小羽3・小橋20・小通1・小剣1・小堀9・小間1・小保16・小丸20・小瀬9・小安3
	小玉(73)	小串(26)・小坂(66)	
	小園(564)	小路(62)・小路口(28)	小段14・小坪8・小寺22・小羽3・小橋20・小通1・小剣1・小堀9・小間1・小保16・小丸20・小瀬9・小安3
	小蘭(216)	小齊平(49)・小薄(75)	
	小牧(320)	小瀬(41)・小竹(34)	《分割姓》小荒田1・小鹿田9・小石田5・小出水46・小泉22・小井手4・小岩尾5・小櫻5・小鹿田1・小大塚5・小蘭2・小門41・小木下6・小北11・小木原5・小久保59・小窪53・小坂元21・小追田2・小杉28・小漸戸23・小高峯12・小竹原7・小竹山20・小土橋30・小水流35・小手川12・小中11・小長3・小中野20・小中原7・小末田7・小長野28
	小林(363)	小妻(29)・小吹(64)	
	小城(241)	小正(39)・小緑(36)	小北11・小木原5・小久保59・小窪53・小坂元21・小追田2・小杉28・小漸戸23・小高峯12・小竹原7・小竹山20・小土橋30・小水流35・小手川12・小中11・小長3・小中野20・小中原7・小末田7・小長野28
	小松(258)	小峯(40)・小牟礼(73)	
	小湊(233)	小元(31)・小星(68)	小手川12・小中11・小長3・小中野20・小中原7・小末田7・小長野28
	小平(139)	小柳(30)・小吉(52)	・小木吉47・小西78・小庭1・小翁8・小野池11・小梅枝9・小橋口37
	小谷(121)	小脇(95)	小瀬田10・小早川6・小原野2・小東3・小平田15・小藤2・小松尾12・小松園2・小松山6・小宮路76・小宮山3・小迎5・小向井8・小向得4
	小牟田(114)		・小美崎16・小麥田6・小森園48・小門口5・小八重10・小八ヶ代11
	小森(154)		・小谷野2・小安永4・小山下2
	小屋敷(127)		

第2表 「小」の付く名字

第2表を総数で整理すると次のようになる。

	A 大姓	B 一般的名字	C 少数例	計
I類「お」	5	2	22	29
II類「お・こ」	8	5	5	18
III類「こ」	14	20	91	125

I類(29)に対してIII類(125)という数、小川・小田・小野など古代の人々がいち早く触れたとみられる景観を示す表現に対して小園・小牧・小城・小屋敷など中世的な景観の呼び名を比較するとき、発生史的に「お」が古く「こ」が新しい呼称と結論付けられる。

III. 小山田：「おやまだ」と「こやまだ」

『日本地名総覧』角川、に見える「おやまだ」と「こやまだ」を比較してみた。

	おやまだ 由 来	こやまだ 由 来
岩 手	○ 室町期～	○ 鎌倉期～
宮 城	○ 戦国期～	
秋 田	○ 戦国期～	○ 江戸期～
山 形	○ 戦国期～	
福 島	○ 江戸期～	
茨 城	○ 江戸期～	
新 潟	○ 江戸期～	
石 川		○ 江戸期～
三 重	○ 南北朝～	
大 阪	○ 平安末～	
兵 庫		○ 江戸期～
愛 媛	○ 江戸期～	
福 岡 ¹	○ 奈良期～	
福 岡 ²	○ 鎌倉期～	
福 岡 ³	○ 江戸期～	
大 分	○ 南北朝～	
宮 崎	○ 江戸期～	
鹿児島 ¹		○ 鎌倉期～
鹿児島 ²		○ 室町期～

第3表 「おやまだ」と「こやまだ」の由来

第3表で「おやまだ」と「こやまだ」を比較しても、「おやまだ」の方が古いことは一目瞭然である。さらに鹿児島県の小山田が「こやまだ」であることが、西日本や九州では不自然であることを示している。中学時代、小山田(おやまだ)先生から国語(古文)を習ったことから、甲突川上流にある小山田は当然「おやまだ」だと思い込んでいた。今回地名辞典に初めて当たってみて「こやまだ」の読みに驚き、そのねじれ現象の由来を探る気になった。先ず昭和48年度版電話帳で県内の「おやまだ」「こやまだ」姓の分布を眺めることにした。

A. おやまだ・33例：西之表(13)・鹿児島(9)・川辺(3)・鹿屋(2)・蒲生(2)・枕崎(1)・徳之島(1)・中種子(1)・志布志(1)

B. こやまだ・34例：鹿児島(17)・蒲生(8)・吹上(2)・川内(1)・大口(1)・国分(1)・伊仙(1)・内之浦(1)・宮之城(1)・伊集院(1)

「おやまだ」は西之表市と鹿児島市に多く、「こやまだ」は鹿児島市と蒲生町に多い。鹿児島市と蒲生町は小山田という地名が現存する所に近いが、西之表市の場合は近辺に小山田が存在せず、しかも古い形の呼称「おやまだ」姓が集中している。

白銀坂のルビについて、本来「しろがね」の読みが『薩隅日地理纂考』で「しらかね」に変わっていることに気付いたので、『薩隅日地理纂考』を通読した結果20例を超える誤読に気付いた。また、上小川(かみおがわ)のルビが「かんこがわ」とあるものが郡村高辻帳や郷村高辻帳にあることにも気付いた。『薩隅日地理纂考』などに見える誤読の由来は幕府巡見使への提出書類にまで遡ることが明らかになった。それらをすべて掲げるのも味気ない話なので、主なものだけを例示する。比較に用いたデーターは「寛文四年薩隅日並琉球高辻帳」「寛政十二年写、諸郷村附」「天保五年薩摩国・大隅国郷村高帳」「薩隅日地理纂考(明治四年序文)」から抽出した。

寛文 4 年 (1664)	寛政 12 年 (1800)	天保 5 年 (1834)	明治 4 年 (1871)
------------------	-------------------	------------------	------------------

久住	くすみ	くすみ	くじゅう?
小木原	おぎはら	おぎはら	ルビなし
小山田	こやまだ	こやまだ	コヤマダ
竹子	たけこ	たけこ	たかせ
真孝	——	さねかた	(畠中村)
上小川	かんこがわ	かんこがわ	かんこがわ
曾小川	そのこがわ	——	そのおがわ
比志島	ひちじま	ひちしま	ひちじま

ゴシック体にした箇所：久住(くじゅう)・竹子(たかせ)・上小川(かみおがわ)だけが正しい読みになっている。さらに上小川の場合は、『寛藩名勝考』(寛政7年：1795年)および『三国名勝団会』(天保14年：1843年)に「カミヲガハ」のルビがあり、鹿児島藩編纂の地誌・歴史書と巡見使への提出書類に読みの相違があったことを示している。

何故、このようなことが生じたのか。鹿児島藩の役人がテグテグ（良い加減）に処理した結果なのだろうか。

「日本秋津島僅かに六十六国」は平家物語の時代。しかし国（州）の数は、江戸時代も変わらなかった。江戸時代は三百諸侯といわれるが、鹿児島藩（島津家）の場合は薩摩国・大隅国・日向国および琉球を支配していたわけで、他の諸侯と同様には領内の隅々までの情報を把握出来なかつたと考えるべきである。「国」単位で領地を持つ大名は少なく、大半は郡単位の領地であった。そこに情報把握に程度の差があつたと見るべきである。新聞・テレビ・ラジオなどによる情報はなく、気軽に旅行する自由さえない時代に地名についての正確な情報を把握することは至難の技であった。役所勤めが出来た下級武士は先輩たちが書き残したデーターを金科玉条と心得て踏襲したに違ひない。たとえ正しい読みを知り得た場合でも、巡見使たちに不用意に提出すれば「従前の報告と異なる」と問い合わせられるのが落ちであった。その好例が「川内（せんだい）」という地名表記である。大は小を兼ねるといわれるが、鹿児島藩内の地名の場合は「大男總身に知恵が回り兼ね」であった。

明治以来、『薩隅日地理纂考』は郷土史教育の原典とされ、それを基に永年教え込まれたら、白銀坂（しらかねさか）・小山田（こやまだ）などがその土地の常識的な呼び名になってしまふのもあり得る現象である。鹿児島県だけに見られた皮肉な現象と理解してよい。

小野小町を「このおまち」と読む人は、まずいないだろう。小町は後世「小町娘」ともてはやされるようになり、イメージとしては江戸時代の町並みを連想するに違ひない、小野は大野に比較して早く開発されていたし、小野道風・小野篁など平安時代の著名人がいることからも古い時代の呼び名だと無意識のうちに理解できる。このように小野小町からも「小（お）」が古く「小（こ）」が新しいと導き出せる。

一つ一つの地名には、それぞれ永い歴史の情報が秘められている。その土地の人々がそのように呼んでいるからと言って、間違いから出発して病膏肓に入った例のあることを本稿は指摘した次第である。

今一つ、小山田には「小山+田」か「小+山田」なのか、の問題が残される。小山一族が開発した所というよりは、山田からの分立と見る方が妥当と考える。鹿児島県内でも山田という地名は多い。どこの山田から小山田が派生したかを文献学的に追究することが必要となろう。最大の難問はどの時代に「小（お）」が「小（こ）」の読みに変化するのか、その要因は何であるのか。歴史学的にも国語学的にも問題が残される。(2004.7.25)

《参考文献》

- 『寛藩名勝考』・『三国名勝図会』・『薩隅日地理纂考』・『鹿児島県地誌』・
- 『角川日本地名大辞典』・『鹿児島県の地名』（平凡社）・
- 『鹿児島県姓氏家系大辞典』（角川）・『国分郷土誌』
- 『鹿児島県史料集』(23)(24)：郡村高辻帳・郷村高帳などを収めている。

IV. 万葉集・古今集・新古今集での「小（を・こ）」

小（を）から小（こ）への変遷の時期を確かめるために、万葉集（8世紀半ば）・古今集（10世紀初め）・新古今集（13世紀初め）にみえる「小」を拾いあげてみた。

「小（を・こ）」と読むのは次の表のとおりである。カッコ内は万葉仮名の数。

	万葉集	古今集	新古今集
小川（をがわ）	3	0	5
小櫛（をぐし）	4	0	1
小倉山（をぐらやま）	3	2	6
小笛（をざさ）	0	0	7
小塩山（をしほのやま）	0	1	4
小島（をじま）	7 (2)	2	6
小田（をだ）	4	0	3
小野（をの）	23 (1)	3	6
小舟（をぶね）	21 (4)	2	1
小山田（をやまだ）	3 (1)	1	2
小石（こいし）	1	0	0
小馬（こうま）	1	0	0
小亀（こがめ）	0	1	0
小雨（こさめ）	5	0	0
小菅（こすげ）	9 (3)	0	0
小楮（こなら）	1 (1)	0	0
小萩（こはぎ）	0	1	5
小枕（こまくら）	0	0	1
小衾（こぶすま）	1 (1)	0	0
小松（こまつ）	9	2	7

上の段・下の段共に、万葉時代から現在まで続いている表現が多い。表を作成してみて気付いたことが2つある。一つは小菅・小楮・小萩などの植物の呼称である。小菅は万葉集だけに見えるが、東歌が主である。小楮は下野国の歌であり、小萩は「宮城野の小萩」と詠まれるものである。これらから「小（こ）」は東国生まれのことばとの見当がつく。東国に土地を与えられた高句麗移民に結びついて来る。東京都狛江市は、和名抄にみえる狛江郷にもとづく地名で、「狛」は高麗人（こまひと）に由来している。

今一つは小島のよみである。万葉集7例中2例は「児嶋」と書かれているので明らかに「こじま」と読み、それに引きずられて万葉集の注釈では「こじま」と読む例が多いが、万葉集の表現（表の上段）はほとんどが「を」であり、「をじま」の可能性は大きい。

新古今集の六つの歌は、5/6が「をじま」である。「を」「こ」の読みの転換期を示すものと考えるので、以下に引用する。

399 心あるをじまの海士のたもとかな

月宿れとは濡れるものかな

宮内卿(? ~1204?)

403 秋の夜の月やをじまのあまのはら

明がたちかき沖の釣舟

藤原家隆朝臣(1158~1237)

645 夕なぎにとわたる千鳥波間より

見ゆるこじまの雲に消えぬる

後徳大寺左大臣(1139~1191)

704 行く年ををじまの海士にぬれごろも

かさねて袖に波やかくらむ

藤原有家朝臣(1155~1216)

933 立ちかへりまたも来て見む松島や

をじまの苦や波にあらすな

皇太后宮大夫俊成(1114~1204)

948 松が根のをじまが磯のさ夜枕

いたくな濡れそあまの袖かは

式子内親王(? ~1201)

上記6人の歌人が生存した時代は平安時代末から鎌倉時代初めであり、まだ「をじま」の表現が優勢であったが、鎌倉幕府の成立によって関東の表現が優勢になって来ることを理解することが出来る。小（を）→小（こ）の変化は、武家政治の成立と併行するものであったとみてよいのではないか。

さらに時代が下ると、片倉小十郎とか佐々木小次郎という剛の者が出現し、男の子に「小」の名前が付いたりする。女性では小梅とか小雪とか小粋で小綺麗な姫さんの名前が幅を利かしたりする世の中となって、お里やお新よりは格好よいと見られたのであろう。

なお「小」の読みには「を」「こ」の他に、「さ」の読みがある。小枝（さえだ）・小網（さで）・小夜（さよ）は少数ではあるが、確実に「小（さ）」と読むものがある。一方、小衣（狭衣：さごろも）や小筵（狭筵：さむしろ）については国語学者は「サ」は接頭語として解釈を逃げている。また、「小夜の中山」の読みについて平安・鎌倉時代の歌人の間で「さよの中山(3)」と「さやの中山(2)」に解釈が分かれているのも面白いと思ったが、素人が深入りするのは遠慮しよう。（平成16年8月23日記す）

地名研究会報

第 87 号

平成 17 年 3 月 6 日

鹿児島地名研究会

I. 第 87 回例会

平成 16 年 12 月 5 日 (日)

於西郷南洲顕彰館研修室

(出会者)

今村誠一・上野堯史・納栄藏・川野雄一・築地成郎・西田春人・

繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・福元忠良・向原祥隆・米原正晃

(計 12 名)

II. 大日本地名辞書読会

P. 556～P. 557

鹿児島神社・内山田・天降川・桑原郡

III. 入来町の地名

[問題となった地名および事項] 桑原郡の境域、正八幡宮社家の館址、銅田、合志郷、
石神社、遺跡名と小字、小字「日之丸」、様野駅＝市野々説、飛野・子媒
・猿川・古春・黒武者・入野・大肥床・小豆迫・悪・イバハイ・宝ノ木
・焼山・大隅と大住・三斗五升蔵、小字や番地の配列、部落と方限

桑原郡の境域

平田 今日読んだところは、鹿児島神社が宇佐八幡と八幡の本家争いをしたことの延長で、いろいろ難しい神学的なこじつけを展開しているようです。此處で何か質問はありませんか。

桑原郡と贈於郡の境は常識的に云えば天降川の線：新川の線になります。明治の初めにこの境域が少し乱れています。現在、西南之役戦死者一人一人のカードを作りつつあるのですが、それを見ると、例えば桑原郡福山で戦死したなんていうのが出て来ます。これで明治の初め、乱れていたことが判ります。極端なのは鹿児島県延岡で戦死とか鹿児島県高鍋で戦死したというのが出て來るので。だから一時期、延岡・高鍋まで鹿児島県と云つた時期があるのではないか。（後記：明治 9 年から明治 16 年まで現在の宮崎県の境域は鹿児島県に含まれていた）。そのために息子は高鍋で死んだから「鹿児島県高鍋戦死」と墓に刻んであるのです。歴史的な区分とはちょ

っと違う。明治の初めは、それが乱れていたのです。

正八幡宮社家の館址

繁昌 先日、四社家のうちの桑幡家館址の現地公開があったのですけど、留守家にしても土塁とか堀なんかを造ってあります。何故そういうものを造ったのですか。あれは社家と地頭とかの争いの関係ですか。

平田 南北朝時代から戦国時代にかけて、武家勢力と公家勢力が対立します。公家勢力の延長が大隅国府にいた在庁官人です。大隅国府の場合は調所氏です。それと留守氏とか桑幡氏など正八幡宮社家などが密接に結びついていたのが旧勢力です。これに対して地頭として派遣されて来るのは大隅国場合は守護代の本田氏です。清水(きよみず)城に本拠を置いて、川を挟んでにらみ合うのです。本田董親(ただちか)という人物がいるのですが彼が大隅国府や正八幡と対立して焼き討ちをする事件があります。大永七年(1527)の事件です。大隅国府が 1527 年まであったのです

が、それを守護代が焼き払って在庁勢力を一掃してしまうのです。その延長として留守家とか桑幡家も調所氏と同調していたわけですから、本田氏に攻められた。それを防ぐために土塁・堀を築いた。それを現在隼人町教委が発掘しているのです。そう考えたら良い。

公家方と武家方というのは大抵川を隔ててにらみ合っています。薩摩国の場合は国府・国分寺に対して川向こうの碇山城・平佐城を押さえとして配置している。そういう流れのひとつとして考えたらよい。隼人町で出て来る遺構というのは、16世紀前半、武家勢力が力を伸ばして来る時の対応策として堀が掘られた。そういうふうに捉えたら良いと思う。16世紀後半に入ると、島津氏が力を伸ばして来て本田氏を倒すわけです。元々、本田氏といるのは守護島津氏の代理として大隅国守護代として配置された存在だけど、何代か経つうちに守護のいうことを聞かなくなつて来るわけです。そういう歴史の中で捉えたら良いでしょう。

銅田

納 前回紹介された文庫本があったですね。服部なんとかという人が書いた本。

平田 「地名の楽しみ方」という本。

納 あの本の中に書いてあったこと。地名といるのは漢字でいろいろ書いてあります。方言に漢字を当てる場合、当て字を相当使っているというふうに私は受け取ったのですが。例えば国分に銅田という地名がありました。

平田 はい、昔大隅線の駅がありました。

納 鐘突(かねつき)の。

平田 はあ？

納 上井ですか。

平田 上井(じょういの先です上。いや、上井の所です。

納 銅田(どうた)という所。文字は金屬の銅。

平田 そうです。

納 それを見て感じたのですが、ドウタといふのは銅ではなく、御堂の「堂田」ではないかなと思ったのです。そこは国分寺の方、そこへ京セラが入つて來た。鐘突という所もありますが、それが金ヘンの銅田と結びついたのか。ドウタは鐘突堂の「堂田」ではないかな。そういうふうに思ったのですが。国分寺の鐘突堂の費用：必要な経費をそこで貯っていたのじゃないかなと思ったのです。

平田 ああ、そうですか。その場合調べなければならないのは、県下全城に「堂田」というのがいくつあるかです。お寺は沢山あつたわけで、寺田とか庵田は聞きますが堂田といふのはあまり聞きません。それが今述べられた説の説明はつくと思います。

納 その人たちに聞いたことがあるのですが、銅を作る所があるかと聞くと、知らないという。

平田 豊前国：大分県に「採銅所」という銅を探つた所があります。その一帯が香原(かわら)という地名なんです。そうすると豊前国の香原と国分の川原(かわら)。採銅所と銅田(川原に近い)、結び付く可能性もあるのです。大隅国を設置した時に豊前国から移民が送られて來ます。その時に銅を探す集団が送り込まれて來たら、銅を探す所が出て来てもいいとなる。『国分郷土誌』には昔銅を探したような話が書いてあります。

納 鹿児島県にはどこにでもあります

二月田とか六月田という田圃があるのです。正月田から十二月田まで、いろいろあるようです。この場合その近くには必ず大きな神社とか大きな寺があります。そこを經營する田圃というふうに説明されている。出水には六月田か。

平田 出水は六月田(ろっがつだ)、指宿は二月田(にがつでん)。

納 加世田の益山ですか、あそこには正月から十二月まで揃つていると話を聞いたことがあります。

平田 揃つています。

納 それから見た場合、どうも「銅田」というのはすっきりしないのです（編集時後記：県下の地名例は寺田66・堂田16・庵田2・銅田1）

平田 あの辺には島津義久の墓もあり、義久の長女於平様の墓もあるので、寺があつた可能性はあります。また、〇月田という名が付くのは服部さんの説によると国衙とか郡衙の周辺に多い、と。国衙とか郡衙の周辺には有力な社寺があるわけですから、祭礼田は必ずその近所にある、と。祭礼田の分布図を作ることによって国府とか郡衙を探すことも出来るのです。

合志郷

平田 先日、鹿児島大学中央図書館で玉里文庫の地図が展示されているのを見て、面白いことを見付けましたのでお知らせしておきます。16世紀の地図の写しで「三州占拠図」というものです。永禄11年(1568)と天正3年(1575)・天正16年(1588)と、三通りの地図があるのですが、三図ともに川内川の上流に「合志」という地名が出て來るのです。これを見てびっくりしたのです。和名抄の郷名に

なりますが、高城郡に六つの郷があり、その一つ、トップに合志郷があったのです。地図に記されたその位置が後世の神子(こうし)になり、合志の隣に「鶴田」がありました。今まで県史その他で、合志郷は神子とみるのが有力だったのですが、ただ音が似ているだけで有力と云っていたのです。今回、戦国時代の地図に合志という地名が記されていることが判ったので、合志郷の位置は確定的だとみてよい。これは肥後国合志郡の人々が薩摩国に移されて來たことと結び付きます。

納 それは聞きました。

平田 高城郡の一番北側、鶴田町のところに合志郷が出来たということは、川内川流域を肥後からの移民で守りを固めたということを示します。そうなると、川内：薩摩国府から川内川沿いに遡つて大口に出て肥後に抜けるルートも無視出来ないことになります。こんな地図が残っていたので驚きました。これで合志郷は決まりだと思います。神子と音が似ているだけでなく、戦国時代にも地名が地図に出ていたですから、薩摩国の郷名比定にとってはこれは大きなデーターだったと思います。

西田 支配者の名前も出ていますか。

平田 支配者の名前も色分けで出ています。

西田 いつでも見れますか。

平田 今日まで出水市で展示されていますが、落ち着いたら鹿児島の中央図書館に行って「三州占拠図」を見せて欲しいと頼めば玉里文庫を見せてくれると思います。私も見せてもらってデジカメで撮らせてもらいたいぐらいのデーターです。

石跡神社

納 石跡神社のことが書いてあります

お産の妙薬として子供が生まれる前にそこの石を求めるという話。

平田 一つ貰って、二つ返す。

納 倍にして返す。これが先日黎明館の川野○○さん。

平田 川野和明氏です。

納 子供が生まれた場合、人形をもう一體添えて返すという話をされたのです。此処と似たるなと思って。

平田 そういう話はいくつもあるのじやないですか。岩田帶を締める日に石躰神社の石

を一つ借りて来て、二つにして返すのです。さつき謳んだ説明では旅人が一個貰って行つて守り神として旅行する。帰つて来た時に二つにして返すというのが本来の姿。これがいつの間にか子供が生まれるからと安産を祈つて石を一つ借りて来て二つ返すということになった。鹿児島の人たちは今でも石躰神社にお参りします。

先程配ったチラシは会員の下野さんが本を出したので、南方新社の向原さんが説明をさせてもらいたいとのことです。よろしく。

入来町の地名

上野堯史

ずっと下りまして浮之口（うけんくち）から来て、清浦（きょうら）。此處です、私の故郷というのは。私も住んでいたのは小学校の間と云つてよいぐらいの期間で、実際は大馬越（おおまごえ）小学校までを往来したぐらいの事でほとんど知らないのです。

今回平田先生から命令がありまして、あつちこつち走り回つてみました。名前を知っている所を走り回りましたが、昔と全然違います。舗装道路が出来て、いろんな区画整理がなされており、地名と現実の感覚はまた違うのじやないかと感じました。

最初は地図を見て頂きました。地図の次に地名が書いたのがあります。これは役場にあるものですが、町誌や角川の地名一覧などを比較すると必ずしも一致しないのです。そこで読みの違つた部分を書いておきました。どっちが正しいかその区別がつきません。各人の判断ということになるのではないかと思ひます。

入来は非常に古い所ですので、地名一覧表の最後に「中世」と書いた欄があり、○印を付けてあります。中世：500年前としてありました。中世の時代から既にこの地名が存在していたということで○印を付けておきました。地名の古さはそこで判るのではないかと思います。

この地図の後にある地名を一つ一つやっていきますと大変ですので、入来町の地名分類から説明していきます。必要な所は地図でどの辺にあるかを見てください。

信仰地名それから城郭・集落地名などと類型ごとにまとめてあります。入来町には浦之名と副田の二つの名：大字があるだけです。前回は宮之城でしたか、説明ではすごい大字の数だったと思います。ここに樋脇町がありますが、いくつですかね、塔之原・市比野・倉野、三つの大字に分けてあります。宮之城町は十ばかりあったような気がします。それからすると入来は二つ。二つの大字の中に数百の地名が集約されていることになります。

研究のプロセスとして、この地図に変わった色がいっぱい着けてあります。どういう意味かというと矢印が多く付けてあります。町の小字台帳にしても入来町誌にしても地図（字総図）に書かれている地名は、一体どういう順番に書かれているのだろうか。そこに何か意味がありはせんかと思って辿つてみました。例えば、こういう所ですと、此處からこう来て、こう通つて、此處で終わる。それからさらに続いている。ということは此處に川が流れていますから、清浦川と樋脇川ですね。川の西側の所をずっと八重山牧場までぐるっと廻つてつながる、と。このような順番に何か意味があるのかなと思いながら辿つ

てみました。これは地図に書いてあるのと私が打った地名の順番が一致するかを見る為に作ったものです。色分けは適宜にしました。

此處に書いてあるのは副田の分です。副田はこんなに狭い範囲なんです。こちらが浦之名。浦之名が地域のほとんどを占めます。

それでは信仰地名から説明していきます。「地名のまとめ」も見ながら併行していきますが、浦之名では13%、副田では19%が信仰地名だと私は考えました。特徴的なのは寺の名がはっきり出ているもの。例えば、円通庵。これはある人物が造った円通庵が、そのまま地名となつた。定觀寺もそうですね。これは入来院氏のお寺です。寺の名がそのまま地名になっているというのが特徴の一つではないか、と。

私も信仰地名とか○○地名とかいうのは分類が判らんものですから、私の採った方法、先輩の方々が分類されたもの、これは樋脇町のもの。それを全部パソコンに打ち込み、この名前が出て来たら信仰地名と、エクセルというのを使って機械的にやりました。一か所じや生ずるので同じ薩摩郡の鶴田町と宮之城町、その全部を打ち込んで共通する部分を拾つたわけです。相当数共通して乗ると思ったのですが意外と共通するものじやないのです。その地域独特のものが多くて、もう一遍手書きの感じでやらなきゃならなかつたというのが実態であります。ただ、私はこういうのが出たら信仰地名だという鹿児島県の信仰地名一覧というのを作れば、研究がし易くなるのではないかと考えております。

遺跡名と小字

次に副田の信仰地名。私は副田の高台、元村というのですけど、その上に上つて行き

ました。副田小学校がありました。副田小学校からずっと側って行きまして出来るだけ全体を見ようということで行きましたら、諏訪段という所に出ました。諏訪段には遺跡があるので諏訪ですから当然あるんじやないかなと思って引き返してみたら諏訪神社がありました。その横が諏訪段でした。その辺では諏訪段が一番高い位置にありました。諏訪神社につながりがあるということで、この地名が納得出来ました。

人来に限らないと思うのですが、人来の場合は遺跡に小字の名を付けて表すのです。車でぐるぐる廻って見る時に一番頼りになつたのは遺跡の小字地名です。遺跡地図と字総図を見ながら行くのですが、字総図には道は書いてないから何も判りません。ところが途中で遺跡案内が見付かると小字名が確認出来るわけです。慣れて來ると、字総図を見ながら大体の見当が付けられるようになり、色々な地名が頭に入つて來ました。

小字「日之丸」

次の城館・集落地名に入ります。○印の付く所、堀が付く所をあげてみました。中には人名もあるかなと思つたりもするのですけど

平田　〇〇丸に人名もあるでしょう。

上野 「丸」には、ですね。それで、このような形になっています。此処にはあげていないですかね、「日之丸」という地名があるのですよ。あげてないようですね。どこか間違ったのかな。牟多田（むただ）という所で、空港道路が市比野方面に行くいわゆる古い道路と宮之城へ行く道が交差します。交差した所に大宮神社があります。この辺が日之丸なんです。大宮神社にはいつも日の丸が掲っています。

肱岡 瑞祥地名にあげてあります。

上野 瑞祥地名に掲げてありますか。この日之丸も城の日の丸なのかなと思いました。主輩の方々には申し訳ないのですが、先輩方の分類されたのを並べていくと両方にダブって出て来るのがあるのです。私はそれを極力止めました。全部どっちかにしました。此処で日之丸を探らずに多分瑞祥地名の方にしたのだと思います。ひょっとすると城館の方が正解かも知れません。

条里・区画地名ですが、これはあまりない
のです。入来も古い所ですので、もっとあつ
てもいいと思ったのですけども。入来はどう
も中世以降かな。古代には此處はあまり住民
がいなかつたのぢやないか、という気がせん
ぢもありません。これが条里地名そのもの
なのか、それとも税その他を意味するのか
判りません。

それが四反畠（したんばた）、これなんかも四反田（したんだ）と一緒になのか。田から畠、畠から田、というような変化で、地名まで變つていることも考えられます。

美野駅 = 市野々脱

市・町・交通地名。先程云いました川内か
の空港道路というものが、大体昔の旧道：古
道を通っているわけです。その関係で「市」
付く地名が割合多く見られます。すべてが
うだというわけじやないのですが、あち
ちにあります。この中で市野々(いののの)と
いう所があります。市野々は空港道路が祁答
院の方に向かって蘭牟田池の下を通って蘭牟
田温泉を通って宮之城とのルートと此処で繋
ぶのです。川内から北に出ると、入来を通
抜けて宮之城と祁答院からの道に繋がるの
です。これが現在の空港道路なんです。私は

以前から気になっていたのです。入来町に証明を貰いに行きますが、いつも加治木から蒲生を通って空港道路を利用しました。この前初めて、新留。「シンドメ」でしょうか「ニンドメ」と読むのでしょうか。

平田 「ニイドメ」

上野 次處を突き抜けると、市野々です。市野々を通ってこれに出る。長陽小学校があります。この道が近いのです。昔の道はこれなんです。

平田 市野々がいわゆる田後駅と蒲生駅の間に置いた櫟野駅だとする説になる。市野々を人来の人たちは有力な比定地と考えるのです。

上野郷土誌は此処を櫟野駅と考えている
わけですね。実はこの道とこの道は三角形の
二辺で遠いということもあります。こっち
：彌切峠は山を通る道です。これ：新宿峠は
意外と川沿いのような谷底を通るような感じ
ですが、そんなに高低はないのです。確かに
谷もありますが非常に楽です。皆はんまり
知らないから車もほとんど通りません。此処
を通る人は少ない。だからものすごく近いの
です。蒲生との距離は此処から 7 km ぐらい
かなという感じです。こっちは通ると倍と
云わんけど相当違います。車では恐らく 5 分
か 10 分は違うでしょう。この道の途中に市野
ヶあります。先程平田先生から説明があつ
たようなことがどうかなと云えます。

次の水利地名。いかにも中世の地名が多いと先程申しました。浦之名に落シ(おとし)とありますですが町の台帳にはありません。だからこの辺はどうなのかなと考えています。いわゆる西瓜堀ですが、このような堀を造って水を引いて来た、いかにも中世的なと云って

よいのでしょうか、そういう田畠構造が頭に浮かぶような形になっております。

副田の方が非常に少ないので。元々地名そのものが少ないので当然ですが、副田小学校の所に行かれたらすぐ下に入来の温泉街があります。あれは下場です。副田というのは鹿児島から宮之城に行く道路の左側の岡に上った所なんです。つまり水田があるところじゃないのです。降りた所に川がありますので水田があるかも知れませんが、上の方は畑しか出来ません。水はありません。副田小学校の周囲は水田はとてもじゃないが無理です。そういう土地の違いも一つには地名の違いにもなっているんじゃないかなとも思います。

人名・職掌地名。「村尾」というのをあげてあります。こちらの地図にも出でます。33番に出ています。村尾城という城があったとも云われますし、村尾氏とのつながりを考えたとしても果たしてそれが小字とどのように関係するのか。いかにも名字らしい地名があるのかなどの疑問もあるのですが、鳥越と同じような名前と考えれば納得出来るような気がします。

垣内原・雜諸屋・築場

開発地名の所では、このような地名があります。私としてはとくに取り上げませんが、こちらの説明文の開発地名の所に、街道原というのをあげておきました。町誌では垣内原(かいとばら)とあります。一体、どこが違うのか、理解し難い所です。

(8) 次に参ります。説明と両方を見て頂きたいのですが、職業・産業地名の所で雜諸屋(ざしょや)とあります。読み方は色々あるのですけど、これは八重山開拓地が昔:入来院

の頃の狩場であり、演習の場であった。その時の弁当屋があった所で、それからこういう地名が出来たということです。（編集時後記：古代の官衙や中世の莊園の雜務を担当した雜掌に由来するか？）

副田の地名で、こちらには「築場」とあるのですが町誌には「築場（やなは）」。支所の方も築場です。これは明らかなミス。築場が正確なのかな、と。これは元村という高い台地から降りて行った川のぐるっと廻った所の地名です。築場が正確な地名だろうと思います。

田畠地名。とくに説明することはありません。瑞祥地名の所に先程云いました日之丸が出ておりますが、これは大宮神社との関係がありますので、他の分類がいいのかも知れません。恐らく「日之丸」という地名は、他にないのじゃないですか。

平田　いや、沢山あります。

上野　ありますか。やはり瑞祥地名ですか。

平田　まあ、人の名前でしょう。

上野　ああ、この場合の「日之丸」も人名。

平田　その方がいいのじゃないかな。

上野　人名地名の方ですね。判りました。次の景観地名に行きます。浦之名：地図の此処の所です。此処がものすごい山です。副田周辺から浦之名の町に近い部分というのはいわば岡みたいな感じです。蘭牟田池の向うを除けば大した山はありません。そうすると入来峠から見る周辺が高い山が続く所ということになります。その辺のところが景観地名にも表れているのじゃないか。これを、もうちょっといろいろな分類をしたかったのですが止むを得ずこういうふうに沢山並べることになりました。私としては意に添わないのです

けど、こうせざるを得なかったというのが実態です。

その中で、浦之名のところに三田前（みやたまえ）となっているのですが、私の親類がそこに住んでいまして、「サンタの〇〇さん」という言い方をするのです。三田（さんた）が正確じやないかと思うのですが、役所やらの読みはそうなっています。

現在、役所の方はぱつぱつとしてまして何というのですか、やっとこさ地名の回し読みしたようなを、ちょこっと切って呉れたぐらいで、多分役所の方も未だそういう作業に入っていない、と。合併の大騒ぎで、そういうことをしていないというようなことでした。地図もくれと云ったのですが、それもどこにあるのか判らんというようなことでした。三田（さんた）が正確だろうと思います。

飛野・子媒・猿川

次の越無ですが、そこに書いてあるような説明がしております。飛野（とびの）は信仰地名ではないかと疑問を持ちながらも一応こういうふうにしております（編集時後記：飛野は烽火に由来するか？要注意地名）。下の方に子媒（こまい）とあります。ちょっとこっちの方を見ましょうか（パソコンを操作）。文字も読み方も全く違うのが、役場とのからみで出て来ます。他にもあるのですが、ちょっと見当たりません。浦之名の215番ですね。「こまいがさこ」ということなんですが、文字をちょっと変えまして「ねずいがさこ」という読み方を支所はしております。どっちが本当なのか判りません。「ねずいがさこ」になれば、全然意味が違つて来るのですが。

猿川（さいご）ですが、これは狭い川なのか猿の子で神の使いという町誌の方なのか。私

は狭い川じゃないかと理解をしたのですが。

古春・黒武者・人野

人文地名の方に参ります。古春（ふるはる）というのが説明の2ページにありますが、読む時は「こしゅん」になるのです。「ふるはる」とは云わない、「こしゅん」という。麓の中心部になります。此處に入来町の役場、現在はもう支所です。それと小学校があります。清敷小学校。すぐ後に城址があって、目の前はいわゆる典型的な麓町です。入来の観光の中心なんですが、そこが古春（こしゅん）です。この読み方に疑問を感じていますが、意味も読み方もちよつと自信がありません。

次の黒武者（くろむしゃ）。これは中世研究の方は非常に関心を持たれる所です。中世の集落で、土手を築いた自立した武家屋敷です。小学校区でいうと大馬越小学校です。私の恩師の有名な先生が「黒武者」姓で、婦人会の方では有名な方です。

その次の人野（ひとの）。「人」は私の田舎だけではないと思いますが、ヒトと云わずに「ふと」「あんふと」というのです。だからフトノが正確だと思います。果たして人野だったのか、別の文字を当てていたのか、そこが判りません。

次の久辺（くべ）。これは久米のことか。これは私なりの解釈です。次の設楽（しだら）これは信仰地名じゃないのか、と思うのですが、一応人名地名として当てておきました。

小陣（しょうじん）。これは古戦場だから城郭地名ではおかしいですね。こういうふうにせざるを得ないです。言うなれば戦場地名です。加治木では小陣（こじん）ですが此處では「しょうじん」です。

形状地名に参ります。此處では大きな説明

文だけ触れることにします。高岡岳（たかおかだけ）ですが、これが高岡じやなくて高籠（こうご）ではないか、と町誌では説明してあります。そういう読み方になるのか、それとも人々文字が違っていたのかよく判りません。

犬肥床・小豆迫・悪

犬肥床（いぬひどこ）：不明としてありますが町誌は全然違う。155番に「いぬひとこ」としておったのですが、町誌では犬肥床（たいひとこ）と読ましとるのです。ひょっとすると「たいひとこ」の方が正解で、「いぬひとこ」の方は間違いじやないかな、と思います。そうでないと全然意味が違つて来ます。

目印地名では久留主（くるす）ですが、入来出身の野球選手、今久留主がいましたので、これと関係があるだろうと思います。

小豆迫という地名があります。私が小学校の頃、アッチャコという漫才師を意識して、アッチャコとかアッチャコのなんとかや、と云つて冷やかしていましたので、これは小豆迫（あずきさこ）なのかも知れませんが、私はアッチャコが正解なんだろうと思います（編集時後記：昭和の初め、エンタツ、アチャコという喜劇俳優がよく知られていた）。

崩壊地名では白谷（しろたに）とか白岸（しろきし）というのがありますが、これはシラスの崖地だろうと思います。これを見つけようと思って走り回ったのですが、似たような所がいっぱいあって、どこがどうなのか判りませんでした。とに角、台地があって、川の平地があって、山があるという全般的な地形ですので非常に見付けにくい所でした。ただ此の近くに、上之原（うえのはら）・水口（みずぐち）という所があるのです。だから、そういう出口があるのかな、と思います。

それから川原・湿地地名です。悪(あつ)という一字地名です。町誌では阿久津(あくつ)なんですが、「悪」という文字を書いてあるので、そう読むしかありません。

田良原とイバハイ

その他の地名の所に行きます。意味不明に敢えてあげたのは次のような理由によってです。私は清浦出身ですが、すぐ下った所、清浦川沿いの谷間を下りますと山之口という所になります。そこが亦水野・蒲生と繋がる道との分かれ道になります。そこに親類がありまして、その親類のことを私はイバハイと云っていました。「イバハイの○○さん」とか「イバハイに行たっけ」とか云われまして使いをしたりしました。この田良原というのを、私は強引に「田→開」に変えるとタラバルになりますから、イバハイになるのじやないかと勝手に解釈しましたが、もし田良原であって、なお且つイバハイというのであれば、私の田舎には小字で呼ぶ所もあるけれども、同時にそこに住む人たちに何らかの屋号を付けておったのではないか。先程の三田(さんた)も、三田前(みたまえ)だけでも、そこに住む人にそういう屋号を付けておったことも考えられます。そこが私も区別がつかないのです。知っている人たちは多分生存していないでしょうし、私のお袋に聞いたって元々は副田の人ですし、とてもじやないが地名の由来なんか判らないだろうし、それがどうなのかというのを全く判りません。

あらかた、あっちこっち見ながら来ましたが、またゆっくり見ていただければと思います。最後に先程云いましたが、地名の分類についての考え方を述べておきます。私は2町分しか持つて来ていませんが、3町分を全部

コンピューターに打ち込んでやりました。やはり書写ミスに気付きます。どういうことかというと、皆さん、ワープロで整理をされますが、最初に大字単位で読みを見て、そして地名分類に移る、と。そうした場合、二度インプットすることもあるし、コピーすればいいのですが、コピーにしても2回コピーすることもあるわけです。今度の研究の中で今までには先ず地名の読み方をあげて、次にこれを分類するというのが、この表の考え方でした。

「地名のまとめ」の最後、3ページにあります、「おわりに」とあるところがこれです。小字地名を左側に並べておいて、この横の方に信仰地名とか目印地名とかに印を付ける。そして最後のまとめに特徴を出せばよいのじやないか。こうするとダブって文字が出て来ることは絶対ない。ただ分類上ダブル事はあるかも知れない。ご本人がどっちかを判断出来ない時は、それは構わないと思う。こういうふうにして行けば一回の手間で済むのじやないか。作業量も半分になるのじやないか。こういうふうに考えて提案するつもりで出した次第です。今までのやり方がよいのか、どっちがいいのか判りませんが、今までのやり方だと必ずミスが起こり得る。これは仕様がないと思います。一応提案まで申し上げて終りたいと思います。

〔質疑応答〕

平田 最後のやり方は良い方法です。1という数字をインプットするのはやり易いわけですね。見るのは○が見易いと思うけど。

上野 ○が、本当、いいですね。これは多分ワープロも可能だと思います。1が打ち易い。○というのを2回打たねばならない。

1で打っておいて最後に1を全部○に変えなさいと命令する置換機能を用いる。私は置換というのですけど、置換すれば一遍で変わります。私もそんなに暇じゃないんですけど、送って下されば私の方でやります。送って下されば作成して平田先生の方に届けます。

平田 彼はパソコンの名手ですから。

上野 入来町のこれなんかも他の町のものを分類するに当たっても打ち込んだわけではないのです。全部スキャナーで読み込んで楽をしてました。時々変換ミスがありますけどそんなに手間はかかりません。今度入来町を打ち込みましたから、薩摩郡の信仰地名一覧はいつでも作れると思っております。あと、郡答院がまだ研究されていませんね。

平田 そうね誰か有志を見つけましょう。

上野 以上です。何かありましたらお答えします。詳しいことは判りませんけど。

宝ノ木

平田 一つ気が付いたのは、2枚目の10.

上野 入来町の地名、分類の2枚目。

平田 2枚目の10番目、副田の瑞祥地名の宝ノ木(ふのき)。

上野 副田の10番目、宝ノ木(ほうのき)。

平田 「フノキ」という地名は多いのです(朴ノ木を板書)。これを宝ノ木と書いたのでしょうか。昔、高校生が履いた朴樹の高下駄がありました。あれの材料:素材になります。

上野 屋号というのは他の所にはないのでですか。家を屋号で呼ぶというのは。

平田 屋号が残っている所は知らない。入来は屋号があるの?

上野 いや、屋号なのか、それがよく判らない。ただ、そういう表現をする。小字でも

ない言い方をやっているのです。

平田 ああ、屋号のようなもの。さっきのイバハイは、これじゃないかな(射場原を板書)。射場とか破魔射場とかいうのは弓矢で豊凶を占う場。そうしたら宗教行事の場になる。射場原(いばはい)というのあっちこっちにある。

上野 宗教行事というのが、ぴんと来ないです。そこに生活していた者としては。言葉から云えば、これと同じような言葉が副田にあります。

平田 それは年に一遍だけの行事だから。大抵正月に弓矢で豊凶を占う場所があった。

上野 私なんかは戦後ですから、戦前そんなのがあったかも知れませんね。

平田 これはもう無くなっている所が多い、

上野 小字は田良原(たらばる)と言います。

平田 タラバルと言えば、タラの木が生えていたのじやないかな。

上野 永野からの川と清浦からの川が合流する。道も亦、合流する所なんです。私の親類が、それからちょっと上り坂の所にあるのです。そこが「イバハイ」という所です。ちょっと神社やら調べてみます。

肱岡 温い水と書いて何と読むのですか。

平田 温い水は「ヌクミ」でしょう。

上野 温水(ぬくみ)としていると思います。

肱岡 28.斧研(よととき)は鉄山とありますか、鉄と関係がありますか。

上野 そうじやんですね。鉄じゃなくてもう山の中です。八重山に登る岡です。私もそれを念頭に置いたのですけど違いました。

焼山

米原 13.の焼山は、焼き山の意味だけこれはどうなんですか。

平田 焼畠の名残？

上野 それはあったかも知れんですね。地図では、今ちょっと見当たらんのですが。入来でそれをするとすれば、当然八重山につながる部分か、蘭牟田池につながる部分か、永野につながって蒲生に出る部分かで、これら以外に大きな山はありませんので、あとはもう高台みたいなものです。そのところは私は判りませんが、考えられるのはそんな所でしょうか。

上之原（うえのはら）という所があるのです。入来中学校からちょっと登った所ですが、平地が見渡せる所です。私が登ったのは此処で戦争をしてるので。興味があったもんですから登ってみました。

平田 西南之役？

上野 いや、中世の戦争で、此處で戦っています。

日之丸

肱岡 日之丸に大宮神社があるとの話でした。大宮神社にはいつも日の丸があがっていますが。

上野 日の丸のルーツであり、君が代のルーツであると云っていますから、単に人の名前とはちょっとしにくい部分もあるのですけど。

福元 祀答院にも日之丸という地名があります。

上野 ああ、そうですか。

平田 わりと多いよ。日之丸という所は。

上野 「日之丸」だけを並べてみれば特徴が判るかも知れんですね。

平田 昔の人の名前として、男の子の名前としては太陽のような男の子ということで、良い名前でしょうからね。

上野 とに角、大宮神社のある所は古代・中世を通じて交通の要所だと思います。それで、昔の道は私の云ったこのルートですね。

平田 新留峠を通る道。それが薩摩国と大隅国を結ぶ道だった。

上野 このルートがいいですね。皆さんも此処を通られたら早く着きます。

大隅と大住

繁昌 大隅と大住。何か違いがありますか。

平田 さあ、どうだろう。大口にも大住古墳と呼ばれる所がありますね。大隅は中央から見た呼称で「大いなる隅っこ」という解釈が普通でしょうけど。大きな住家があったというふうに考えたら、大集落を考えたら大住でよいでしょう。その辺はまだ正確に突き止められてはいません。

オヤシ漬場

米原 11. 景観地名。浦之名の所、一番右側に大豆漬（おやしつけ）がありますね。

平田 オヤシ漬場。

米原 これは景観地名ですか。

平田 産業地名でしょうね。

上野 産業地名ですか。

平田 おやし漬場という、ものを作る場所ですから。

上野 私は知らんのですが、何か食べるのですか。

平田 正月のモヤシを作る所があるのです。

上野 ははあ、その場所。

米原 鹿児島の習慣でモヤシを作る所です。

三斗五升蒔

肱岡 田畠地名、浦之名に「三斗五升蒔」というのがある。これは？

平田 これは勉強不足で知りません。一升蒔とか二升蒔とか一斗蒔とかあるのですが、

三斗五升蒔は相当な面積です。どれだけの面積かというのは把んでいません。誰か知りませんか。

上野 種類で三斗五升ということ。三斗五升というと。

平田 相当なもんでしょう。

上野 農家の方に聞かんと、ちょっと判りにくいけど。こういう表現がありますね。田舎にいる時に耳に挟んだのには、自分の田を表すのに一升蒔とか二升蒔という表現を大人の人たちが使っておられたです。それで田の大きさを表していた。それは確かにあります。そういう地名は清浦には残っていません。あつ、うちの田の一つが五升蒔という。確かに云っていたような気がする。あれは子供の頃ですから広く見えたけれども、そうですね、この部屋の2倍ぐらいの広さです。確か五升蒔とかだったと思います。

福元 生活によって違いますけど、一人の人間が年間に食べる量という計算があったのです。

平田 それならば昔は一人一石。

上野 一人一石で計算してますね。

平田 これは面白いテーマになりますね。

上野 ちょっと外れるのですけど、私の田舎では田植えの時、三角の枠を組んであるものを使う。

平田 転がしていくのでしょう。

上野 これは転がしていくのですけど、どのテレビを見てもほとんど出て来ないのですよ。

米原 これは他にもある。

上野 あまり見ないものだから俺の所だけあげな物を使っているのかなと思って。田植の時、やかましいおばさんがおいやって自分

は一か所か二か所しやっわけです。もう済んだと云やっわですから、他の者はばったばったすっとです。紐と違って、この場合は手に怪我をします。一斉にやらんとですね。

福元 私なんかは、それを使って田植えをしました。

上野 これをですか。そうすると、入来を含めたあの地域にはあるんですね。

平田 川内川流域にはあったんだね。

上野 これだけ見ていけば、大体またそこに一つの文化が判って来るのじゃないかな。

米原 縄は後からです。

上野 縄が後で、これが先。

平田 これは何というの？

米原 枠（わく）。

上野 私は名前も知りませんけど、そういう枠を三つも四つもつなげて田植えをします。非常に長いのを作って転がしています。正確に植えられます。

福元 今頃のは、もう滅茶苦茶なんです。真っ直ぐなっとらん。

平田 どうして。

福元 機械で植えるから。

平田 なるほど。

上野 自分から変な話に入って。

平田 いや、いいですよ。こんな話も。

上野 私の提案した方法について。もし、よければ。

平田 これで整理していきましょう。

上野 ワープロでこれが難しいのであれば信仰地名とか目印地名とか書いとついてやれば、後は私の方で分類出来ますので。

平田 ああ、なるほど。彼はパソコンの名手ですから。今後は市町村合併でどんな単位になるのか判りませんが、大字だけは崩れな

いと思います。大字単位で小字を並べて地名の分類：こういう表を作つていけばどんな時代になつても対応出来るだらうと考えます。

小字・番地の配列

福元 さつきの話、小字の順番。昔の番地の付け方も、近いけど番地がものすごく離れているのです。一通り行って、また戻つて来る付け方です。近所でも番地を見るとだいぶ離れているのがある。

上野 小字の順番にどういう意味があるのかなと思っているのですが。

平田 檜地の際に歩いて行つた順番。昔の検地の時に廻つて行く順番に名前が並べられている場合が多いのです。昔の竿次帳を見ると、竿初めとか竿仕舞い・竿尻とか、そういう地名が残されている場合があります。

上野 現在、これは正確な調査を始めてゐるのですか。

平田 1万分1図に写そうとして地籍調査をしている。

上野 それと小字とのからみ。人来町は多分これは出来てると思うのです。今の混乱した時期には多分出さないだらうと思いますけど。

平田 どこも地籍調査というのは25年から30年かけてやっているのです。やつと出来上がりつつあるのですよ。いつまでも放つたらかしているのは鹿児島市です。

上野 鹿児島市はないですか。

平田 戦災で焼けましたから、中央部分がないのです。手がつけられませんね。

はい、次回はどなたかありませんか。米原さんあたり加世田はどうですか、次に。ああ、繁昌君は。うーん、ミスター川野。僕は一番数が多い頬杖町を考えているのだけど

西南戦争戦死者のカード作りを始めてそっちを急ぐもんだから当分は暇なし。出水市の全部をやる必要はないので、出来る所だけでいい。鯖淵とか、大字単位でよいから気楽にやって。

川野 今、上鯖淵と下鯖淵を整理してるのですが、武本はまだ全部は。

平田 武本は広いよ。鯖淵だけよい。大字単位でいいよ。そういうことで、ピンチヒッターとしてやって下さい。

上野 今後は大字単位でやる以外にないですね。

平田 大字で眺めるとインプットも簡単にやれる。

上野 宮之城は何故あんなに大字が多かったのですかね。

平田 小さな村が多かったのでしょう。

上野 はは、元々そういう村の変化した形。そうすると合併した所は大字が多い。合併しなかつた古い村：人来みたいな所は二つしかない。

平田 古い所はごたごたした変動はなかつたのでしょうか。小さな所は大字が多い。大字というのは江戸時代の村だと思えばよい。

部落と方限

上野 そうすると浦之名村。私の所は清浦なんですが下流の山之口と一緒にになって山之口村と云っていた。山之口は小字なんだけどその辺の部落全体の地名なんです。

平田 それは農業協同組合などの形で、小字がいくつかまとまって……。

上野 一つのまとまりを作つてある。そんな例は全国にいくらでもあると思うのです。私は考へるのですが、大字と小字の間に中字はないのか。そういうまとまりがもうひとつ

あるのではないか。

平田 中字はあったとみてよい。それが今部落公民館とか、そんなものになっている。

上野 はい、名前が残つていますね。入來のある所の公民館は、そんな地名はないのにと思って家に帰つて地図を見ると、二つの公民館が合併した名前だった。だから、それが恐らく一つのまとまりになつてゐる。

福元 それを方限（ほうぎり）と呼ぶことがあります。

平田 それを方限という、なるほど。江戸時代の村が大字になつてゐるのです。それを今まで調べて來た。そして小字がある。その間に中字みたいなものがどの市町村にも大抵残つてゐる。鹿児島市なんかにはないけど。それが昭和の前半には、隣組それから部落公民館として利用された。大字と小字の間に、もう一つ字があつていいはずです。それが記録として出て來ない。

福元 部落を方限と書いたのがあります。

○○公民館とか。

平田 市町村の広報ではそういう単位が示されるのだけど、地名一覧として印刷されているものは大字と小字しかない。

西田 地域なんかでは用いてゐる。

平田 地域で用いてゐる所はあります。部落対抗リレーなんかはそういう単位で競走してゐるでしょう。

西田 それは古い？

平田 古いものもあるでしょうが、近代のものが多いと思う。それは地名として収録していない。集めていない。そういう地名も埋もれている。それに俗称地名とか、地名研究はなかなか大変な作業です。

西田 今までの研究では、それも漏れている。無視できない地名ですね。

平田 そうです。今日はそういうことで終りましょう。

入来町の地名(まとめ)

1 資料

「入来町誌」より

- ①地名由来
②小字図
角川「鹿児島県地名大辞典」
①小字一覧

2 研究手法

- ①角川より小字名一覧
②よみは入来町誌を参考とした。役場には行っていない。
③地名分類は発表された「鶴田町」「宮之城」「入来町」を再度一覧化し
　　例えば信仰地名の場合、3町の信仰地名一覧を作り、参考にするなどした。

3 小字地名の分類

(1) 地名分析

大字	浦之名		副田	
信仰	42	13%	18	19%
城・館・集落	18	5%	5	5%
条里・区画	4	1%	2	2%
市・町・交通	28	8%	8	8%
水利	35	10%	5	5%
人名・職掌	3	1%	0	0%
開発	6	2%	4	4%
職業・産業	11	3%	5	5%
田畠	19	6%	7	7%
瑞祥	4	1%	3	3%
景観(自然)	88	26%	24	25%
人文	11	3%	1	1%
形状	24	7%	6	6%
目印	20	6%	9	9%
崩壊	6	2%	0	0%
川原・湿地	7	2%	0	0%
位置	2	1%	0	0%
伝承	0	0%	0	0%
擬音	1	0%	0	0%
気象	0	0%	0	0%
意味不明	5	1%	0	0%
合計	334	0%	97	0%

- ①分析に当ってできるだけ意味不明を除こうとした結果、景観(自然)地名が多くなった
 - ②「町誌」に伝承地名があるが、同誌の「小字図」には見えないので今回は取り上げていない。

(2) 地名の分析から

地名が「〇〇迫」か「〇〇ヶ迫」かなど表記の違いがある

同じく「原」か「ヶ原」かなど、角川を基本とした

①信仰地名

- | | | |
|-----|-----|------------------------|
| 浦之名 | 宮見野 | 妙見野か、「町誌」は古代の屯倉(ミヤケ) |
| | 古市前 | 古市後 近くに近岡神社(智賀尾神社) |
| | 時星 | 星伝説 |
| | 行奈木 | 入来峠入口、清浦、ウケンクツ、ギヨナツとなる |
| | 般者 | 般若 |
| 副田 | 灰取 | 灰は骨灰か |
| | 諏訪段 | 近くに諏訪神社、諏訪段遺跡、畑作地帯 |
| | 万福 | 満福寺に由来 |
| | 射馬迫 | 元村地区副田小近く、「射場迫」(「町誌」) |

②城・館・集落

- 浦之名 赤城前 麓の支所、入来小などある

③条里・区画

- | | | |
|-----|-----|--------------------|
| 浦之名 | 五反田 | もとは「五反畠」、近世地名か |
| 副田 | 四反畠 | 副田は旧入来駅から上がった台地 |
| | 大里 | 律令の里・郷制度から由来(「町誌」) |

④市・町・交通

- | | | |
|---------|------------|--|
| 浦之名 | 久木宇都 | 麓から樋脇川沿いに市比野へ、今は空港道路中心 |
| | 山之口 | ここは長野と清浦との入口 |
| | 市野々 | 蒲生からここを通り蘭牟田温泉西へ出る、近道、櫻野(「町誌」) |
| | 浮ノロ | 行奈木(キヨナツ)と清浦(キユラ)の間、信仰地名 |
| 副田 | 五都口 | 副田温泉出口 |
| ⑤水利 | | |
| 浦之名 | 田皆口 | 田水口か |
| ⑥人名・職掌 | | |
| 浦之名 | 村尾 | 村尾神社、村尾城があるが、村尾氏由来か |
| ⑦開発 | | |
| 副田 | 街道原 | 垣内原(「町誌」) |
| | 竹内堀 | 竹内は人名(「町誌」) |
| ⑧職業・産業 | | |
| 浦之名 | 雜諸屋 | 八重開拓地、狩場演習の時の弁当(「町誌」) |
| 副田 | 築場 | 「町誌」には「築場ヤナバ」とある、川に望む所にある |
| ⑨田畠 | | 特になし |
| ⑩瑞祥 | | |
| 浦之名 | 日之丸 | 隼人舞の大宮社がある |
| ⑪景観(自然) | | |
| 浦之名 | 三田前 | 「みやたまえ」、ここの人を言う時「サンタの〇〇」と
言っていたが |
| | 越無 | 腰無、茅に腰以下隠れるからに由来するとできまいか
字図(「町誌」)では舟ヶ岳(舟見岳)498mに接する |
| | 飛野 | 信仰地名か |
| | 老ヶ原・後老ヶ原 | 「餌ヶ原」(「町誌」) |
| | 子媒ヶ迫 | 「子媒」は不明 |
| | 猿子 | 「さいご」は狭い川では、猿の子=神の使い(「町誌」) |
| ⑫人文 | | |
| 浦之名 | 古春 | 麓中心部にある |
| | 黒武者 | 中世村落の武家屋敷が残る |
| | 人野 | 「町誌」の通り、ヒトはフトになる |
| | 久辺 | 久米か |
| | 設楽 | 信仰地名か |
| | 小陣 | 古戦場(「町誌」) |
| ⑬形状 | | |
| 浦之名 | 高岡岳 | 高岡は神籠=コウゴ(「町誌」) |
| | 犬肥床 | 不明 |
| ⑭目印 | | |
| 浦之名 | 下久留主原・上久留主 | 黒須か |
| | 小豆迫 | 小学校のころ「アッチャコ」と漫才師を意識して発音した |
| ⑮崩壊 | | |
| 浦之名 | 白谷・白岸 | シラス崖地か、近くに「上之原」、「下水口」「上水口」 |
| ⑯川原・湿地 | | |
| 浦之名 | 悪(あつ) | 「町誌」では「阿久津(アクツ)」とする
長野川の蛇行地点にある |
| ⑰その他地名 | | |
| 意味不明 | | |
| 浦之名 | 田良原 | ここに親類があり、「イバハイ」と呼んでおり、私は田舎の
「屋号」の一種と思っていたが、「田」を「囲」と解すると「イ |

ラハラ」となり、通ずる気がするが
犬肥床 不明

(3) おわりに

町の字絵図があればもっと研究できたかと思う。今の時期にと思い遠慮した。
研究の過程で3町の研究を参考としたが、地名の表記の重複などあったようです。できたら、
以下のようにしたらと提案します。

語句を繰り返し打ち込む手間、書写ミスを防げる

小字地名	よみ	信仰	城・館・集落	条里・区画	市・町・交通	水利	人名・職掌	開発	職業・産業	田畠	瑞祥
庵ノ坂	あんのさか	1									
赤城前	あかぎまえ		1								
古春	ふるはる										
後迫	うしろさこ										
五反田	ごたんだ		1								
久木宇都	くきうと			1							
松山迫	まつやまさこ										
市口	いちぐち			1							
津富木	つぶき				1						
水納田	みなおた							1			
落シ	おとし				1						
古市	ふるいち			1							

浦之名

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
1	庵ノ坂	あんのさか	庵之坂		船瀬氏の庵	
2	赤城前	あかぎまえ	赤城ノ前			○
3	古春	ふるはる		こしゅん		
4	後迫	うしろさこ	後之迫	うしろのさこ		
5	五反田	ごたんだ			1673水田化	○
6	久木宇都	くきうと			クッウト	○
7	松山迫	まつやまと	松山之迫	まつやまのさこ		
8	市口	いちぐち				○
9	津富木	つぶき	津富貴		小池、小井	○
10	水納田	みなおた		みずのうでん	ミナヲタ	○
11	落シ	おとし	なし			○
12	古市	ふるいち				○
13	宮之平	みやのひら			宮ノ平、近岡神社	
14	鍋田	なべた				○
15	鹿村迫	しかむらさこ	鹿村ヶ迫	かむらがさこ		
16	新堀	しんぼり				
17	中野原	なかのはる				
18	井川迫	いがわさこ				
19	下ノ迫	しものさこ				
20	芝町	しばまち				
21	西ノ原	にしのはる	西之原	にしのはる		○
22	円通庵	えんつうあん			鎌倉、種田氏	
23	池頭	いけかしら		いけがしら		
24	堂ノ峯	どうのみね				
25	西瓜堀	にしうりほり				
26	定親寺	じょうがんじ		じょうかんじ	13代入来院重輔	
27	竹原田	たけはらた		たけはらだ		○
28	四反田	したんた		したんだ		○
29	丸峯	まるみね				
30	鶴田	つるだ				○
31	岩坂	いわさか				○
32	鹿子田	かのこた		かのこだ		○
33	八重原	はえはる		やえばる		
34	チシャノ木	ちしゃノキ	チシャノキ		目印の木	
35	前段	まえだん				
36	畠田	はただ				
37	堀田	ほった		ほつた		
38	柳ヶ迫	やなぎがさこ				○
39	東川内	ひがしがわうち		ひがしこち		
40	米山	よねやま				
41	岩瀬戸	いわせと				
42	田皆口	たみなくち	田之皆口	たのみなくち		
43	松尾	まつお				○
44	町野	まちの			古文書にマテ野	○
45	榎木田	えのきた	榎田			○
46	小原	おはら		おばら		
47	椎木ヶ丸	しいきがまる				
48	黒武者	くろむしや			クロムシニ黒衣	○
49	久辺	くべ				○
50	井手山	いでやま				
51	田良原	たらはる		たらばる		
52	牟礼	むれ	牟禮			
53	山ヶ牟礼	やまがむれい	山ヶ牟禮			○
54	三田前	みやたまえ		さんたまえ		
55	大谷	おおたに				
56	宮見野	みやみの		みやけんの	ミヤケンノ屯倉野	
57	草渡	そうたる		そたる		
58	飛野	とびの			トヒノ、ツッノ	
59	井手山	いでやま				
60	神鳴石	かみなりいし				

浦之名

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
61	水戸	すいと		すいど		
62	丸岡	まるおか		まるおか		
63	中津原	なかつはる		なかつぱる		
64	草牟田	そうむた				
65	雜諸屋	ざっしょや		ざつしょや	雜謹=弁当箱	
66	赤仁田	あかにた				
67	中平	なかひら				
68	河徐	こよけ	河除			
69	鬼ヶ城	おにがじょう		おにがじょう		
70	岩ノ下	いわのしも		いわした		
71	下リ山	くだりやま				
72	平野段	ひらのだん	平之段			
73	温水	ぬくみず				
74	段ノ谷	だんのたに				
75	彦九郎	ひこくろう				
76	赤松ヶ尾	あかまつがお				
77	土瀬戸	つせと		つちせと		
78	行奈木	ぎよなぎ		ぎょうなぎ		
79	浮ノ口	うけんくち		うきのぐち	○	
80	清浦	きゅら		きょうら	清浦川内キヨラチ	
81	山之口	やまとくち			○	
82	脇ノ山	わきのやま				
83	仁平	にひら		にびら		
84	長平	ながひら				
85	深田	ふかだ				
86	設業	したら			○	
87	長迫	ながさこ				
88	石橋	いしばし				
89	中山	なかやま			○	
90	馬渡	まわたり				
91	小豆追	あつちさこ		あつちやこ	アツチコ、小豆崎門	○
92	竹ノ下	たけのしも		たけのした	○	
93	倉谷	くらたに			○	
94	古牟礼	ふるむれい		こむれ	○	
95	高江	たかえ			○	
96	中島	なかしま			○	
97	栗下	くりした			○	
98	大丸	だいまる		おおまる	○	
99	古馬越	ふるまごえ		ふるまえこ	馬越、中世ムマコエ	○
100	大馬越	おおまごえ				
101	官田ヶ原	みやたがはる				○
102	上豊原	かみとよはる		かみほばる		○
103	三斗五升蔭	さんごじょうまき				
104	椿八重	つばきはちえ		つばきやえ		
105	高木場	たかこば				
106	竹ノ山	たけのやま	竹山	たけやま		
107	松坂	まつさか		まつざか		
108	崩ヶ迫	くえがさこ		くずれがさこ	○	
109	近井手	ちかいで			中世・明治・ツカゼ	○
110	辻	つじ				
111	宮田	みやた			近岡神社の宮田	○
112	前田	まえだ				
113	般者	はんじや		はんにや		
114	椎木迫	しいきさこ	椎木ヶ迫	しいきがさこ		
115	上ノ山	かみのやま		うえのやま		
116	松木田	まつきた		まつきだ	○	
117	前畠	まえはた		まえはた		
118	牟多田	むたた		むただ		○
119	八反ヶ尾	はったんがお	ハ反ヶ丸	はったんがまる		
120	久木塚	くきづか				○

浦之名

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
121	堀之内	ほりのうち	堀之内			○
122	中須	なかす				
123	内山	うちやま				○
124	小中野	こなかの				○
125	竹下	たけした				○
126	小路	しょうじ				
127	上水流	かみずる		かみづる		
128	下水流	しもずる		しもづる	○	
129	木場原	こばはる		こははる	○	
130	糸頭	いとかしら		いとかしら	○	
131	本広瀬	ほんひろせ	本廣瀬	もとひろせ		
132	後町	うしろまち				
133	山坊	やまぼう		さんぼう	自在山區山之坊	
134	舟瀬向	ふなせむかい		ふなせむかい	船瀬殿	
135	瀬ノ上	ふちのうえ	瀬ノ上			
136	小陣	しょうじん	小陣	こじん	○	
137	大迫	おおさこ				
138	迫山	さこやま				
139	下久留主原	しもくるすはる		しもくるすはる	来栖、久留須	
140	四俣迫	しまたさこ		しまたざこ		
141	石行前	いしきょうまえ	なし			
142	石行	いしきょう		いしきょう		
143	鳶ノ巣	とびのす	鳶巣	とびのす	鳥飼部トベ	○
144	老ヶ原	えがはい		おいかはい	餌が原	
145	上久留主	かみくろす			来栖、久留須	
146	下小川路	しもおがわじ				
147	上小川路	かみおがわじ				○
148	白谷	しらたに		しらたに	ジタニ	
149	上之原	うえのはる	上ノ原			
150	下水口	しもみずぐち		しもみなぐち		
151	上水口	かみみずぐち		かみみなぐち		
152	貫ノ平	ぬきのひら			1797完成	
153	福原	ふくはら				
154	福田	ふくだ				
155	犬肥床	いぬひとこ	大肥床	たいひどこ		
156	下八山	しもはっちゃな		しもはっちゃな	八山=ハチアナ	
157	上八山	うえはっちゃな		かみはっちゃな	八山=ハチアナ	
158	烏山	からすやま			カラスヤマ	
159	貫谷前	ぬきたにまえ		ぬきたにまえ		
160	貫谷	ぬきたに		ぬきたに		

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
241	柳ヶ段	やなぎがだん				
242	桑弦	くわつる		くわげん		○
243	越無	こしなし		こしな		
244	土天山	つちてんやま		どてんざん		
245	焼山	やきやま				
246	兎田	うさぎだ			宇田、鶴田	○
247	川床	かわとこ				○
248	平田	ひらた				○
249	柊木田	くきた		くぬきだ		
250	水流原	つるはる		つるばる		
251	前田	まえだ				○
252	男畠	おとこはた	男畠	おばた		
253	前原	まえはら				
254	樋之口	ひのくち				○
255	三反田	さんたんた		さんたんだ		○
256	二反田	にたんた		にたんだ		
257	平木場	ひらこば		ひらこは		○
258	鳥喰	とりくれ		とりくい		
259	江河田	えごだ		えがわだ		
260	麦田ヶ丸	むぎたがまる				○
261	野添	のぞえ				○
262	野中	のなか				○
263	川内ヶ迫	かわうちがさこ		こちがさこ		
264	千壇平	せんだんびら	千壇平	せんだんびら		
265	牛鼻	うしはな		うしばな		
266	鎮守段	ちんじゅだん	鎮守ヶ段	ちんじゅがだん		
267	岩坂	いわさか				
268	市野坂	いちのさか				
269	轟山	とどろきやま			轟滝、高さ3m	
270	愛甲	あいこう				
271	富木迫	ほのきがさこ	富木ヶ迫	ふきがさこ		
272	舟越	ふなこし		ふなこえ		○
273	長崎原	ながさきはる		ながさきばら		○
274	通山	とおりやま		つやま		
275	鍛冶作	かじさく				
276	中木場	なかこば			明治に入東原から	○
277	土天段	つちてんだん		どてんだん		
278	滝ノ迫	たきのさこ	滝ノ迫			
279	舟ヶ岳	ふながたけ	舟ヶ嶽			
280	柳ヶ迫	やなぎがさこ				
281	原	はる			明治に入東原から	○
282	下榎田	しもえのきた		しもえのきだ		
283	吉原	よしはら				
284	工ノ河路	くのこち	ユノ河路	ゆのかわじ		○
285	雄留喜田	おるきた		ゆるきだ		○
286	平岳	ひらだけ	平嶽			○
287	斧研	よきとき		おのけん	ヨツツ、鉄山か	○
288	柿添	かきぞえ			垣添	
289	穴ヶ尾	あながお				
290	梨木山	なしやま				
291	藤ノ尾	ふじのお				
292	鮒川	ふながわ	鮒河			
293	篠房	しのぼう		しのふさ		
294	平ノ尾	ひらのお				
295	市野々	いちのの	市之野		古代の櫻野か	
296	惣和段	そうわだん				
297	花枕	はなまくら				○
298	滝ノ元	たきのもと				
299	川原田	かわはらた		かわはらだ		
300	割高山	わりたかやま				

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
301	廢地	けいち				
302	竹峯	たけみね				
303	松下田	まつしたた		まつげた		
304	高岡岳	たかおかだけ	高岡嶽		神筆ニコウ	
305	上大丸	かみおおまる				
306	池ノ尻	いけのしり		いけのじり		
307	出口	でぐち				
308	靡木	なびき	靡木			
309	床並	とこなみ			縄文早期遺跡	○
310	中原	なかはら				
311	牧内段	まきうちだん			亀蟹野牧・長野牧	
312	人野	ふとの		ひとの		
313	梅木山	うめきやま				○
314	竜髪	たづばみ	龍髪	りゅうがみ		
315	塩水流	しおつる		しおづる	シオンツイ	
316	猿子	さいのこ		さるこ		
317	弥太郎	やたろう				
318	大隅	おおすみ				
319	白岸	しろきし		しらぎし	シラキシ	
320	瀬戸平	せとひら		せとびら		
321	八久保	はちくぼ		やくぼ		
322	長野	ながの				○
323	山神下	やまかみしも		やまがみした		
324	山中	やまなか				
325	時星	ときほし		ときぼし	法師	○
326	渡鹿倉	とかくら	涉鹿倉	わたりかくら		○
327	毎床	まいとこ				○
328	野坂	のさか				
329	悪	あく			阿久津、アクツ	
330	宮前	みやまえ				○
331	新川	しんかわ				○
332	古市前	ふるのまえ		ふるいちまえ	中世=フルノマエ	○
333	古市後	ふるのあと		ふるいちあと	近岡神社	○
334	宮脇	みやわき				○

副田

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
1	絃尾	つるお				
2	町野	まちの				○
3	妙見段	みょうけんだん			東谷氏の妙見社	
4	古川	ふるかわ			古川、村鬼天神	
5	猪鼻	いのはな			いのばな	
6	小原	おはら			おばら	
7	諏訪段	すわだん			諏訪	
8	宇都迫	うとさこ			うとんさこ	
9	赤水	あかみず				
10	築場	つきば	築場	やなば	築場=ヤナバ	
11	下山	しもやま				
12	平田	ひらた				
13	矢越原	やこしはる			やごしばる 中世=屋根山	○
14	瀬ヶ谷	せがたい	瀬ヶ谷	せがたに	中世セガニ	○
15	大住原	おおすみはる			おおすみはら 大住	
16	八反ヶ丸	はったんがまる			八反ヶ丸	
17	木場田	こばた				○
18	石棺堀	せきかんぼり			せっかんぼり	
19	萩ノ尾	はぎのお				
20	大内田	おおうちた			おおうちだ	○
21	飯田迫	いいださこ				
22	大丸	だいまる				○
23	井川迫	いがわさこ				
24	鷺巣段	さぎすだん				
25	迫畑	さこはた				
26	新町	しんまち				
27	扇ノ原	おおぎのはる			おおぎのはら	
28	三本松	さんぽんまつ				
29	辻原	つじはら				
30	万福	まんぶく	萬福		満福寺	
31	前田	まえだ				
32	鶴松	さぎとこ			さぎまつ	
33	山下	やました				
34	前平	まえひら				
35	街道原	かいとばる			かいどうばる 境内原=カトバル	
36	花野峯	はなのみね	花野峯		けのみね	
37	花ノ口	はなのくち	花ノ口		けのくち	
38	狸ヶ谷	たぬきがたに	狸ヶ谷			
39	田ノ尻	たのしり				
40	大井口	おおいぐち				
41	下永北	しもながきた				
42	木山下	むやましも				
43	松山迫	まつやまさこ			まつやまがさこ	
44	下手	しもで			しもて	
45	早馬段	はやまだん				
46	射馬迫	いばさこ			いばんさこ 射場迫	
47	宮ノ原	みやのはる	宮之原		みやのはら	
48	四反畑	したんはた			しはんばた	
49	諏訪原	すわはる			すわばる	
50	寺畠	てらはた				
51	後迫	うしろさこ	後ノ迫		うしろのさこ	
52	永山	ながやま				
53	上永北	かみながきた				
54	別府原	びゅうはい	別府ノ原		べっぷのはら	○
55	後原	うしろはら	後ノ原		うしろのはる	
56	上後原	かみうしとはる	上後ノ原		うえうしとのはる	
57	竹内堀	たけうちぼり			たけうちぼり	
58	山口	やまぐち				○
59	前園	まえぞの				○
60	灰取	はいとり				

番号	字名	よみ	字名(支所)	よみ(支所)	町誌より	中世
----	----	----	--------	--------	------	----

入来町の地名分類

(1) 信仰 (60)								(9) 田畠 (26)							
浦之名 (42)	庵ノ坂 宮見野 久木塚 飛山 大星 慶地	宮之平 神鳴石 山坊 水天山 天神原 山神下	円通庵 鬼ヶ城 下卒場石 早馬 上天神原 時星	堂ノ峯 行奈木 上卒場石 葉山迫 嵩奈野 宮前	定觀寺 官田ヶ原 愛宕岳 堂ノ下 立山 古市前	岩瀬戸 宮田 鎮守下 立平 鎮守段 古市後	松尾 般者 蛇ヶ迫 龜堂 篠房 宮脇	浦之名 (19)	水納田 三斗五升蒔 平田	鍋田 前田 前田	鶴田 松木田 江河田	鹿子田 前畑 下榎田	畠田 下田 松下田	堀田 砂子田	榎木田 高田
副田 (18)	妙見段 宮ノ原 立山	古川 諦訪原 岩屋	諦訪段 寺畠 桂ヶ迫	石棺堀 灰取 八風	万福 地藏原	早馬段 鬼原	射馬迫 権現山	副田 (7)	平田	大内田	迫畠	前田	三田五	内ノ田	赤田
(2) 城・館・集落 (23)								(10) 瑞祥 (7)	福原	福田	日之丸	吉原			
浦之名 (18)	赤城前 荒畠 前原	椎木ヶ丸 弓場ノ迫 麦田ヶ丸	大丸 柏 上大丸	堀ノ内 野久尾 出口	小路 桜ヶ丸	向桜ヶ丸 大丸	古河 椎木丸	浦之名 (88)	花ノ口	福志田	宝ノ木				
副田 (5)	八反ヶ丸	大丸	柏下	牛木ヶ丸	桜ヶ丸			(11) 景観(自然) (112)							
(3) 条里・区画 (6)								浦之名 (88)	後迫 牟礼 下リ山 竹ノ下 八反ヶ尾 迫山 湯ノ尻 赤田 子媒ヶ迫 老ヶ田 川内ヶ迫 惣和段 猿子	下ノ迫 山ヶ牟礼 平野段 倉谷 内山 老ヶ原 荒迫 瀬下 上小平 柳ヶ段 長崎原 花枕 大隅	丸峯 三田前 清浦 脇ノ山 中島 竹下 烏山 上之原 下大石ヶ平 抱ヶ平 下小平 桑弦 滝ノ迫 滝ノ元 長野	八重原 飛野 脇ノ山 中島 竹下 烏山 上之原 下大石ヶ平 抱ヶ平 下小平 桑弦 滝ノ迫 滝ノ元 長野	柳ヶ迫 中津原 仁平 古馬越 本広瀬 島迫 盛水 人野 蒲生原 土天山 藤ノ尾 竹峯	米山 中平 長平 上豊原 淵ノ上 後老ヶ原 木屋段 滝ノ尻 大迫 川床 鮒川 麻木	小原 岩ノ下 中山 上ノ山 大迫 大豆漬 後平 谷川 笛迫 野中 平ノ尾 中原
浦之名 (4)	五反田	四反田	三反田	二反田				副田 (24)	絃尾 萩ノ尾 永山 井手段	町野 山下 上北 釣尾	小原 前平 別府原 向山	下山 田ノ尻 後原	矢越原 下永北 上後原	瀬ヶ谷 下手 前園	大住原 後迫 松ヶ迫
(4) 市・町・交通 (36)								(12) 人文 (12)	古春 男畠	鹿村迫 愛甲	黒武者 池ノ尻	久辺 人野	設楽	小陣	宇通呂木
浦之名 (28)	久木宇都 山之口 後町 鳥越	市口 石橋 舟瀬向 岩坂	古市 馬渡 坂出前 市野坂	芝町 高江 老ノ口 舟越	岩坂 大馬越 渡瀬口 通山	町野 松坂 上町 市野々	浮ノ口 辻 船ヶ迫 野坂	浦之名 (11)							
副田 (8)	新町 坂出	三本松	辻原	舟橋	五都口	巡ヶ宇都	馬渡	副田 (1)	中組						
(5) 水利 (40)								(13) 形状 (30)							
浦之名 (35)	津富木 田皆口 上水流 貫谷前 後水流	落シ 井手山 下水流 貫谷 落ヶ段	新堀 井手山 下小川路 貫水 水流原	井川迫 河徐 上小川路 前宇都川内 樋之口	池頭 温水 下水口 樋木 工ノ河路	西瓜堀 近井手 上水口 樋ノ迫 塩水流	東川内 中須 貫ノ平 水流 新川	浦之名 (24)	前段 鳶ノ巣 牛鼻 瀬戸平	丸岡 小平田 土天段 八久保	段ノ谷 鎌ヶ迫 舟ヶ岳 毎床	土瀬戸 堀迫 平岳	長迫 鶴ノ子 割高山	糸頭 焼山 高岡岳	四俣迫 千檀平 床並
副田 (5)	赤水	井川迫	大井口	木山下	橋ヶ谷			副田 (6)	猪鼻	宇都迫	飯田迫	扇ノ原	平段	平石	
(6) 人名・職掌 (3)	浦之名 (3)	彦九郎	村尾	弥太郎				(14) 目印 (29)							
副田 (0)								浦之名 (20)	松山迫 椿八重 兎田	チシヤノ木 竹ノ山 柊木田	大谷 椎木迫 富木迫	草渡 下久留主原 柳ヶ迫	赤松ヶ尾 上久留主 梨木山	小豆迫 下八山 梅木山	栗下 上八山
(7) 開発 (10)								副田 (9)	木場田 荒平	鷺巣段 杉ノ段	鷺松	花野峯	狸ヶ谷	松山迫	寺床
浦之名 (6)	中野原	竹原田	五右工門堀	開	野添	柿添		(15) 崩壊 (6)	崩ヶ迫	白谷	鳥喰	穴ヶ尾	竜髪	白岸	
副田 (4)	街道原	竹内堀	請園	小園				浦之名 (6)							
(8) 職業・産業 (16)															
浦之名 (11)	雜諸屋 中木場	高木場 斧研	木場原 牧内段	下宇都木場 渡鹿倉	宇都木場	平木場	鍛冶作								
副田 (5)	築場	山口	内木場	湯ノ木場	木場川内										

副田 (0)

(16) 川原・湿地 (7)
浦之名 (7) 草牟田 赤仁田 深田 车多田 仁田脇 揚牟田 惠

副田 (0)

(17) 位置 (2)
浦之名 (2) 西ノ原 水戸

副田 (0)

(18) 伝承 (0)
浦之名 (0)
副田 (0)

(19) 摂音 (1)
浦之名 (1) 轟山

副田 (0)

(20) 気象 (0)
浦之名 (0)

副田 (0)

(21) 意味不明 (5)
浦之名 (5) 田良原 石行前 石行 犬肥床 雄留喜田

副田 (0)

地名研究会報

第 88 号

平成17年6月5日

鹿児島地名研究会

- I. 第88回例会 平成17年3月6日(日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出會者) 池田 純・今村誠一・入来院貞子・川野雄一・久米雅章・築地成郎・
永坂芳彦・繁昌正幸・平田信芳・福元忠良・松浪由安(計11名)
II. 大日本地名辞書読会 P.558~P.559 府中・国分・小河・隼人城址
III. 出水市の地名

[話題となった地名および事項] 国分煙草の起源、辺世加利という地名、長袋・熊襲穴
入来院文書の地名、「ラ」語尾の地名、西南戦争をめぐる諸問題
[解説があった出水市の地名] 芭蕉、首、樺木・藪佐・除副、「喰」地名、
曾津・郷戸、上・中・下・東・西などが付く地名、坂元・土地、
程月・仙如・山志比・島廻・鯖渕、シャロ・龍毛・トラボ

国分煙草の起源

永坂 タバコが入って来た経路とか経過などについて、判り易く教えて頂けませんか。

平田 これ(大日本地名辞書)に書いてある山内四郎左衛門じゃなくて、服部宗重という人が島津義久の許可を受けて栽培したのが最初です。国分市立図書館が国分タバコのいろいろな資料を所有しています。知っているのはその程度のことと詳細は知りません。

ヨーロッパ人がアメリカ大陸から世界に広めたことは事実です。コロンブスが渡った時にインディオが草の葉を巻いて煙を吸っていたので、何かと尋ねたら「タバコ」と答えた。それでタバコとして世界に広まった。それくらいの事しか知りません。なお、服部家の子孫は国分市に今でも残っています。

専売公社の支店に行けば、タバコについてのパンフレットを貰えるのではないですか。

辺世加利という地名

平田 右側のページ、上段の8行目に辺世

加利(ハセカリ)という地名が出て来ます。これははじめて見る地名です。今日は幾つか例を出しますが、鹿児島県には「里」の付く地名が結構あります。恐らく、奈良時代からの郡・郷・里の名残だろうと考えます。

川内の歴史資料館の北側に計志加里(ケシリ)という台地があります。九州新幹線の事前調査で墨書のある杭が出土した京田遺跡が注目を浴びましたが、すぐその北側にあります。九州新幹線の事前調査で何か出たかも知れません。

吹上町の花熟里(ケシユカリ)。栗野町には勝栗神社があります。これは別名正若宮八幡とも云い、大隅正八幡の北の随神になります。米之津には薩摩国二之宮加紫久利神社があります。加治木町小山田に地久里(ジクリ)、財部町北俣に阿邪里(アセリ)、溝辺町有川に瀬間里(セマリ)という地名があります。加治木町日木山に瀬シ狩(セシカリ)、阿久根市多田に慶茂里(ケモリ)坊津町に久保里(クボリ)があります。これらは

容易に同じ地名を探し出すことが出来ない地名です。

これは夢かも知れませんが、加紫久利とか計志加里などの意味が判れば、古代隼人の言語が判って来ると思うのです。これら一つの例として辺世加利が出て来たのです。

長袋・熊襲穴

繁昌 隼人城址のところに「今、城址に大洞あり、これを長袋(オバクロ)と号す」とあります。この隼人城址というは曾於石城(オホイシ)のことですか。

平田 そうです。

繁昌 そうすると、城山山頂に大きな洞穴がありますか。

平田 洞穴はあちこちにあるでしょうね。城山公園の外側に大きな空堀があり、そこにはすごい洞穴がある。恐らく、僕と長野君しか知らないのじゃないかな。今では誰も通らない所に洞穴があるのです。ここにいう長袋というのは未だ見ていません。長袋は城山への登山道の右側。われわれが探し出したのは、道の左側で空堀の中です。その時は懐中電灯も何も持っていないかった。とに角、十数メートルの大きな洞穴です。

松浪 登山道の両側にあるのですか。

平田 長袋は、土地の人々は熊襲が住んでいた洞穴だというのですが、私は熊襲の存在を否定していますから敢えて近寄らなかったのです。隼人町の熊襲穴は、山の上の方、崖の高い所にありますから、古い時代の河川の浸食によって出来た自然の洞穴だらうと思います。

入来文書の地名

入来院 現在、入来文書の英訳をされている先生がいます。入来文書を世界に紹介した

朝河貫一先生の後輩になる方です。この秋頃出版されるのですけど、やはりローマ字で書いてあるので地名が判らないということで、どうしても判らないのは問い合わせが来るのです。例えばローマ字で HIMEKI と出て来ます。昔は姫木と書いたのもありますよね。地図の上で見ると国分辺りになるので、それでいいかなと思って姫木と返事したのですけど「姫城」でもよろしいのですか。

平田 それは構いません。姫城・姫木、どちらでも通用します。

入来院 構いませんか。

平田 もう一つ、都城付近にもあります。姫城という地名は。古代の隼人たちが立籠つた城の一つ、比売乃城の比定地とされているものです。

入来院 どこに?

平田 都城に。

入来院 地図の上でいうと、ちょうど国分辺りですので。

平田 それならば、国分の姫城でよいでしょう。

入来院 それから KIMURE というのがあって、それも出水の海岸辺りにあるのです。海岸の辺りに○印が付いていたものですから。何か「ムレ」というのは山手の方だと思いますよね。それで、違うのじゃないかと聞かれたものですから。

平田 ちょうど野田と高尾野の境。

入来院 高尾野の境の所に、木牟礼とありますよね。

平田 木牟礼(キムレ)と読みます。

入来院 「キノムレ」と読むのですか。それでいいのですか。

平田 それでよいのです。島津氏の初代、

忠久が薩摩・大隅・日向三国の守護職に任命されますが、薩摩国支配の拠点として代官を派遣したのが木牟礼城になります。野田郷を流れる野田川の河口付近は、左岸が高尾野の飛地の「木牟礼」、その対岸(右岸)は出水の飛地「莊」になります。老松莊(オイマツショウ)があったのです。木牟礼という所は重要な処だったのです。

入来院 木牟礼(キムレ)。そうですか。ローマ字に直している薩摩のことばは難しいですよね。

平田 朝河博士は入来に来て調べていますよ。

入来院 でも「アッジャコ」なんてのは。

平田 はぁ?

入来院 「アッジャコ」て、ありますでしょうか。小豆迫(アズキサコ)。

平田 小豆迫(アズキサコ)。

入来院 アッジャコなんてのは漢字に直すのは、ちょっと大変。

平田 小豆迫(アズキサコ)は今日の会報に載っています。

入来院 そうですね。ちょうどタイミングがよい時に教えて頂いて。ちょうど今、直している最中なので、この研究会を知って有難かったです。

「ラ」語尾の地名

松浪 先程云われた辺世加利とか計志加利

などの地名。

平田 「シカ」里とか「シク」里。里(リ)は中央政府が定めた行政単位に関わる地名とみなされるのです。

松浪 原良(ハラ)とか岸良(シラ)とか、それから米良(メラ)。「ラ」語尾のものは何か?

平田 中福良(ナカフク)のように、ふくらんだ所を指す場合もありますが、あちら・そちら・こちら・どちら、などの使い方もあり、「ラ」は、普通、地名語尾として使われています。

昨日、会報を 4 ページまで印刷した段階でコピー機が故障してあわてました。その前に説明資料の印刷が済んでいたので、会報だけを後回しにして例会だけは何とかやれるとの目途は立ちました。コピー機担当者の携帯電話番号を知っていたので、昨日、急遽呼び出して応急修理をしてもらいました。若い担当者はデート中だったらしく気の毒だったのですが、頼み込んで間に合わせました。

機械が故障する時は連鎖反応を起こすもので、コピー機だけでなく十年近く使い慣れて来たパソコンもいうことをきかなくなりました。2 台パソコンがあるので対応は出来ますが、慣れたものが動かないのはやはり不便です。長く経つと機械も人間もガタが来るようです。

前半はこれぐらいにして休憩にします。

出水市の地名

川野 雄一

ので、大半は省略して、要点だけを説明してもらいます。

川野 出水工業高校に勤めている川野と云

います。もう40年になりますが、川内高校の時に平田先生から世界史を習いました。現在もいろいろな面でご指導を頂いております。以前、2003年3月2日に「坊津の地名」を担当し、今回は2回目になります。昨年12月の例会で「川野、お前しなさい」と云われて、もう泣きたくなつたのですが（笑い）、場所が出水ということもあってどうしようかなと思ったのですが、出来るところまで頑張ってみようと思って今日に臨みました。

整理不十分で資料が多くなってしまいました。「出水市の小字」とまとめてある資料と一覧表にしたもの、今回説明する大川内と上鯖渕の分類表、そして地図という構成です。

まず調査の手順を概略説明しておきます。出水市役所に行き、小字のことを調べたいので資料を頂けないかと申し出ました。税務課でこれ（基本台帳の写し）を貰いました。これが全部で71ページまであります。そして小字図はありませんかと聞くと、これを渡されました（大きな字総図を見せ、その説明に入る）。これが出水市内になります。こちらの方が大川内、水俣に近い所まで続きます。鶴が飛んで来る所があります。「荘」ですが離れており、小さいので字図を貰いました。

この図は現在の状況ともちょっと違うのです。区画整理されている所もありますので、それも見ながら一覧表を作らなければということで、全部を一覧表に作っていこうとしたのですけど、判らない部分が出て来ました。何故かと云えば、プリントの左側の真ん中辺に書いておきましたが、出水市土地区画整理事業というのと町名・町境等の整理事業というのが大体昭和40年代・50年代の頃に行われています。それで旧大字を新しい町名に変

え、26の新しい「町」を作っています。一方そのまま大字を使う地域もあります。それで合計「31の町と旧大字」を使っていきます。旧大字とは対照表の上方に書いてある武本・上知識・下知識・六月田・下鯖渕・上鯖渕・上大川内・下大川内・荘の9カ所になります。

九つの旧大字との関係、それから場所の関係が一覧表を作っていく段階でどこがどうなのか判らなくなつてしまつて、図書館に行きました。出水市立図書館に「上知識村戸長役場日誌、明治二十七年」というのがありました。教育委員会が刊行したもので。それをばらばらとめくりましたら、一番うしろにカラー印刷の地図が出て来ます。これが出水の旧大字の地図なんです。コピーの方は白黒になっておりませんので判りにくいかと思いますが、この地図にある部分が岡山市の中核部になります。

それで旧大字の説明をしますと、此処が武本になります。こっち（山手）は紫尾山・宮之城になります。この道をずっと行くと宮之城に出来ます。そして此処が高尾野になります。そして此処に川が流れていますが、こちらは白木川内川になります。この川が下流で米ノ津川になります。米ノ津町でこちらの方から流れ来る平良川とこちらから流れ来る広瀬川が合流して米ノ津川になります。

大まかに旧大字で云えば、米ノ津川の左岸の方が知識村、上流の方紫尾山の側が武本、米ノ津川の右岸の方が鯖渕、そして奥の方、こっちに行けば大口に行きます。大口につながる所が大川内になります。大川内も上流の方が上大川内、町に近い方が下大川内です。この部分が鯖渕になりますが、上流の方が上

鯖渕、下流の方が下鯖渕。下鯖渕のはずれを国道3号線が通り、JR（肥薩オレンジ鉄道）は上鯖渕・下鯖渕から水俣の方に出ます。

他に六月田と荘がというのがあります。六月田はこの地域です。米ノ津川の右岸ですが、左岸までその範囲に入っています。荘は鶴が飛んで来る所です。高尾野町の飛地と出水市の飛地とがあつて、野田川の河口付近で入り組んだ形になっています。

図で見ると、上知識はこの辺から米ノ津川を渡って対岸の方まで広がり、六月田の米ノ津川の堤防の線まで来ています。これは何故なのかよく判らなかつたのですが、資料館の山下先生の話では米ノ津川の修復を、堤防の修復を苦役と云いますが、それがものすごい負担になるので、力が強かつた下知識の方が上知識と六月田に苦役を押し付けて自分たちはしなかつた。そのために大字の範囲が違つたものになつた。六月田は常識的には此處：米ノ津川までだけど、その左岸まで出て来ているし、上知識の方まで来ているとのことです。そういう訳で、どこがどういうふうになるのか判らなかつたのですが、一応作ってみました。

今日説明する所は大川内と上鯖渕になります。大川内は全部、元のままの旧大字です。上鯖渕はちょっと町の辺りが切れて新しい町名に變っていますが、旧大字がほとんど全部そのまま残っていますので、分類がし易い所でした。

そこで、こちらの対照表を見てください。対照表は旧大字と新町名が、どのようなつながりがあるかを示したもので。これは『出水郷土誌』をもとに作成しました。対照表の21緑町というのがあります。緑町に上知識

・上鯖渕・六月田に○が付いています。下鯖渕にも○を付けて下さい。四つの部分から成っています。

市役所で貰った台帳の写しと合わせながら一覧表を作りました。1番から35番まで現在の町名をもとに並べました。④⑤⑦⑧……と○で番号を打つてある所は台帳に載っていないものです。台帳に載っていませんので、この地図（総字図）を見て復元しました。例えば平和町・浦田町・麓・黄金町・六月田・汐見町などは、この地図を見て全部起こした（復元）したものです。

それから、真っ白になっている部分があります。緑町と昭和町です。此処は出水市役所や消防署などがある所です。出水の町の中心部になる本町は真っ白になっています。此処は台帳にも小字名は載っていませんし、地図にも出て来ません。どうしたものかと迷っていたら、平田先生から新しい『出水郷土誌』が刊行されて、それに小字図が出ていたぞ、それを参考にしたら判るのじゃないかと教えて頂きました。ちょっと小さくなりましたが字図のコピーを入れておきました。区画整理がなされる以前の字図です。それを見て真っ白な部分を拾い上げて一覧表に載せました。

出水市の場合は、昔は此の辺まで海だったそうです。国道3号線も海だったそうで干拓しながら町をどんどん拡げて行った所だ、ということです。海岸部の方はなかなか字図も合わないので一覧表を作るのに二月半ばぐらいいまでかかりました。それでもちょっとおかしいと思ったので、ここ三日ぐらい資料館に行きました。昭和40年代末から50年代初めの頃の鹿児島県公報で、緑町にあった字はこれ

これに当たるというのが資料館にあるとの事で、それを見せて貰いました。もう一度作り直さなければと思っています。

それで、この表（基本台帳の大字・町名）の中の 1. 上大川内・2. 下大川内・3. 上鯖渕とか 6. 武本 などは県の公報とほぼ一致するので、そのままでよいと思います。現在市役所にある台帳は県の公報を写してあるということです。一覧表に○を打ってあるのは私が付けたものです。この一覧表は全部で11枚あります。No. 1からNo. 8までは市役所の台帳を写し県の公報と比較しました。少しだけ手直しする部分がありますが、ほぼそのまま良いと思います。その後の3枚半と今日配りました昭和町・緑町まで含めて実質4枚は私が大字図と郷土誌の字図を見て書いたものになります。なかなか難しく正確になっていない部分がありますから、もう一度現在の町名ごとに作り直さないと地名分類が出来ないなと考えています。

これまでに来るのは大変だったのですが、台帳に従って全部復元して、一連番号を打ちながら辿って行きました。「庄」以外は全部やりました。去年、上野先生が云われてことです、調査をする時は恐らく昔の道に従つてやっているだろうということ。それを考えながら番号を付けていきました。大変参考になりました。

それから出水の場合、この図にありますが六月田は大体この辺なんですが、離れた所に六月田という飛地があるのです。その飛地がどこになるのか判らない面があります。何故こんな所に六月田の飛地があるのかとそれを調べたら面白いのじゃないかとも思います。

それから出水市資料館に昭和20年頃、アメ

リカ軍が撮った航空写真があるそうです。それを貼り合わせたものが出水市資料館に展示してあります。黎明館の方の説明では黄金町と六月田が接した辺りに条里制の痕跡が航空写真に残っているとのことでした。もし字名と地割りに何か対応出来るようなものがあったら条里制のことも追究出来るのじゃないかと思います。

江戸時代の出水麓は此処になります。現在出水の観光の目玉として売り出している所です。こっちの方は水俣です。後で出て来るかと思いますが、上使道（じょうしみち）というの字として残っています。『出水郷土誌』を見ると、此処（麓）を通らないように上使道を通らせるようにしたということが書いてあります。

この辺には論山とか論地山の地名が残っています。高尾野との争いがあった場所のようです。いろいろなことが判り、地名の整理はきつかったのですが、大変勉強になったと思います。町名・小字名を整理する時に、判らないので蛍光ペンで町ごとに色を着けました。昔の字を新しい町三つで割ったり、あるいは二つで割って使ったりで、ダブっている所が沢山あります。平和町なんかの場合には、昔は別の所にあった字名を地区の区画整理をして新しい字名を付ける時にこっちにその名前を持って来た。全然関係のない所に小字が移動している。そういうものもあります。小字の数が以前のものと比べたら新しくなったために消えているのも沢山あります。

今日お配りした昭和町・緑町のプリントでは字名を復活させてありますが、新しい町を作った時にこの字は廃止しますと県の公報に出ていますので、公的には字としては消えて

いるものも沢山あります。

区画整理をして新しい町名が出来たりで大変便利になっている面もあるわけですが、区画整理をして新しい町名が出来たりしたら昔のものが全部ブルドーザーで押し流されるよう字名まで壊れてしまったり、字名を鉢を植え換えるように移し換えたりで、ご先祖さまが積み上げて来たものが壊れてしまう。そういうふうになってしまっているのだなと感じました。そういう意味では、昔の大字のままのもの、武本とか大川内あるいは上鯖渕などそのままの所が残っているのは、大事な所だなとも思いました。以上、調べ方の手順などを述べました。

それで説明分の方に移りたいと思います。「出水の小字」と書いてある所になります。No.1の左側に小字の分類ということで、1. 信仰地名から右下の 18. 意味不明の所まで18通りに分けて分類しています。分類する時に何を拠り所にしたかというと、仏が付いたり宮がついたりあるいは神社とか堂とか、そういうのが付いている地名を信仰地名に当てはめました。まぁそういう形で進めました。以前坊津町を担当した時のものも入れてありますので、坊津のことが書いてあるなと思われるかも知れませんが、一応今まで手がけたことを入れて分類しました。

もう一つ、プリントの No.2 は分類する時にこれは判らないとか、どういう意味なのかとちょっと興味を持ったりしたものが郷土誌に由来が載っているのがあった場合はそれを引用しました。プリントの No.3 と No.4 は『出水郷土誌』に「出水の地名」について分類したのがありましたので、小字についてはそれを全部引用しました。説明については要

点を引いてあります。

出水市には出水地名研究会というのがあります。20年ぐらい前に4冊、研究会の成果をまとめています。私たちの会も例会のたびに会報をまとめていますが、出水地名研究会は「出水の地名」 I ~ IV をガリ版刷で出してあります。出水市図書館にあります。一般には出されていないのじゃないかと思います。新しい『出水郷土誌』にある「出水の地名」はそれをもとにしてまとめたと思います。それが「出水市の小字」 No. 3・No. 4 になります。これをもとにしながら今日の分類をしてみました。此処までに何かあれば。

平田 此処までに何か質問があつたら出して下さい。出水市で消滅した小字の復元を試み、それを説明されました。国分市でも中央1丁目というような表現になって小字が消えました。市町村合併が進むと益々それが死文化して行く恐れがあります。遠慮なく質問を出して下さい。

西南戦争をめぐる諸問題

久米 大区・小区のことです。明治17年に、鹿児島県でも大区・小区から市町村へと合併の方向に進みます。具体的には大区・小区はどういうものだったのか。

平田 それは『鹿児島県史』を見た方が手取り早い。若い番号は恐らく鹿児島から始まるのでしょうかが、恐らく軍隊編成の都合から大区・小区を設けたと思う。軍事編成のねらいが主だと思います。後に西南戦争時の薩軍の編成に結び付く。というのは…。

久米 要するに、西南戦争との関係で鹿児島県の場合、地租改正がおくれた原因是私学校徒いわゆる西郷党の政治妨害というか、政府の命令を無視することで住民把握がおくれ

たのでしょうか、鹿児島の特異な状況というか地域文化というか、そんなのがあったと思います。それから逆にずれた質問ですが、そういうのを具体的な地名の上で探すこと、検証することが出来るのかなと思って。

平田 小字というのは明治22年の市制町村制施行時の土地台帳作成がきっかけとなつて字絵図に付けられた地名です。その準備段階として明治16~17年に鹿児島県各郷の具体的な事項の調査を行つてゐる。渡邊千秋県令の時代です。その折に大字・字が書き上げられています。

一方私学校党の場合は、明治8年、各分校に名簿提出を命じてゐる。その名簿というものは宮之城郷のものが残つてゐる。それを見ると、軍隊編成の名簿です。宮之城の例から見ると名簿提出問題でもめた理由も判ります。大竜小学校の所にあつた鹿児島の第七私学校の者たちが名簿提出に反対して私学校から離脱してゐます。私学校の場合は明らかに軍隊編成を意図した名簿であった。大区・小区とはあまり関係がないと思います。

久米 形だけだったのですか。

平田 西南戦争も、佐賀の乱が起きた時にタイアップすれば成功したかも知れない。佐賀の乱の時は応援せずにそっぽを向き後で西郷隆盛を擁立したのでは、政府側に準備・対応を進めさせることになった。1万3千人が出て行けば無血クーデターが成功するだろうと安易に考えていた面がある。状況判断が非常に甘かったということです。その辺が甘かったから官軍の抵抗を受け、多数の犠牲を出してしまった。弱点が多かったということでしょう。

久米 大区・小区を云つたのは、実をいう

と私学校設置以後の状況の中で、それが契機となって阿蘇で農民一揆が起つた。阿蘇の人たちは西郷軍を期待したのですが、西郷軍はそれを支援しなかつたという指摘があるのです。

入来院 士族の生活の方が問題で、不平士族のこと目に向いていたからでしょう。

久米 やっぱり士族につながるということが当時としては大事なこと?

平田 上町の武士たちは、昔からの複雑な心情を持っていたから、西南の役には積極的でなかつた。

久米 行政区画的な問題については、現在広域合併を行うことが必要だ、大事だと云つていますが、実はその当時も同じような理念はあったんだと思うのです。

平田 日本では内務官僚・警察官僚が地方自治の中心になつていったのですね。大久保利通をはじめその他の者が外遊によって内務官僚のあり方や世界各国の制度をその都度吸収して来て、上から下に下りて来た政治内容であつて、すべてが鹿児島から始まつたのではないかと思う。

実はね、先日出水に行った時、野間口兼一の孫に当たる人の家を尋ねたのです。清浦奎吾内閣というのが大正末期にあります。清浦奎吾が警視庁関係の役人たちに宛てた手紙が保存されていました。野間口兼一は清浦奎吾から可愛がられてメンバーのようです。鹿児島では今まで人気がない、いわゆる23人の視察団(刺殺団)のことを一つ一つ調べると、またいろいろ出て来ると思います。

松浪 清浦とは首相をしたその人ですか。

平田 そうです。清浦奎吾です。

松浪 明治の?

平田 明治中頃の手紙でした。ビスマルクの話も書いてありました。手紙の宛先は野間口兼一や安楽兼道・川上親晴の名前もあったようです。中原尚雄もあったかな。野間口兼一が先頭に書いてあったようです。西南戦争の引き金の一つとなつた23人の視察団はそれぞれの出身地で大事にされていた。野間口兼一の墓も出水では大事にされていたし、中原尚雄の墓も伊集院にあります。地元で爪弾きされていないようです。

川野 この前話された川内の柏田盛文の碑文もその展開ですか。もう一つは倒れているから川内市に起こしてもらいたいですね。(後記: 倒れていた石碑は田中直哉追悼碑でその後修復されている)。

入来院 川内郷土史研究会の機関紙「千台」: 去年の「千台」に私が柏田盛文のことを書いたものですから、皆さんそれを読んでいらっしゃるのかと思って。それに柏田盛文碑の写真を、会長の福元さんが撮った写真を載せておきました。ずっと県議員をやって後に森有礼に勧められて金沢の四高校長: 現在の金沢大学の初代校長になるのですね。その後に文部次官をやって、それから千葉県知事・茨城県知事・新潟県知事になる。

平田 教科書汚職事件に巻き込まれて新潟県知事をやめる。

入来院 そうですね。あれは私も絶対におかしいと思います。

「出水市の小字」解説

芭蕉・首

平田 他にありませんか。私が気付いたものに「出水市の小字」の⑥人名・職掌地名に「芭蕉?」があります。芭蕉越とよばれる道

: 水俣に出る山越えの道が昔から知られています。芭蕉が生えていたのでもなく、俳人芭蕉ゆかりの地名でもない。蓑婆尉(みのぼじゅう)という怖い婆さんがいたことに由来する地名でしょう。

⑩形状地名の「首」。これには琵琶首と野首とがあります。野首は城の背後にある狭い所で、城の急所になる。琵琶首はその形に似ている比喩的な形状地名。これを佐渡出身の地名研究家本間さんという人が「ピワク・ピワコ」などの地名を全国的に拾い集めて『牛の来た道』という本を出された。「ピワク」とは古代朝鮮語で「牛」のことだというのです。赤牛が来た道。朝鮮の牛は赤牛ですね。鹿児島は黒牛になるけど、それは別として、牛の来た道を分析している。琵琶首(枇杷首)地名が最も多い鹿児島から見ると、どうも琵琶首(枇杷首)の形をした地形のような気がします。

桟木・藪佐・除副

平田 意味不明、上大川内の32. 大敵は桟木の当て字。上鯖渕の44. 藪佐は「ヤブ+サ(地名語尾)」。65. 除副は「ヨケアエ」。ヨケというのは信仰的な地名です。鹿児島市の横井町(ヨケマチ)は本来は「除(ヨケ)」から来ていると思います。除(ヨケ)でちょっとはみだして開墾した所が除副。

川野 「添」と考えたらよいですか。場所は川沿いになります。

「喰」地名

平田 「出水市の小字」No.2 の 2. 猿喰。サルイよりも「サルバミ・サルハミ」が普通。喰(ハミ)地名はほとんどが浸食地名。猿喰(サルバミ)・鶴喰(ツルバミ)・龍喰(タツバミ)などは浸食地名と

みてよい。猿が喰ったとか竜が喰ったとかと云われる地名です。天降川の側にある京セラホテルは竜波見という所に建っている。神様の使者である竜が喰つという浸食を物語る地名です。

巣島に鳥喰(トリバミ)神事というものがあり餅を空中に投げる。鳥が飛んで来てそれを食べたら豊作、食べなかつたら凶作とみる豊凶を占う神事があるそうです。浸食地名の他に鳥喰の場合は豊作を予祝する信仰地名も考えられます。それぞれの土地で民俗的行事の性格を聞くことが決め手となるでしょう。

「波見という地名」を浸食地名として説明した時に小野重朗先生から鳥喰神事があることを指摘されましたが、「喰」地名のほとんどは浸食地名と考えてよいでしょう。

曾津・郷戸

平田 その次、3.の曾津(ウズ)。俊寛僧都伝説と結び付けられた所があります。これは観から流れ出る水が筒に溜まつたら、その重みで水をひっくり返してターンと音がするもの：シシおどし。あれを別名「ソウズ」という。水が出る処に「ソウズ」という地名が付けられたり、「ソウズ」が置かれた所に「ソウズ」という地名があると考えてよい。

4.郷戸(コウト)。「コウコ」と読むのが普通だろうが、鎌倉時代に田堵(外)と呼ばれる農民が存在したし、佃戸(テンコ)というものもあった。よく判らない。

関屋町・並木

平田 「出水市の小字」No.3。5.開発地名の中に人名地名として「関屋町」があるけどこれはちょうど出水高校の敷地になります。出水市の電話帳を調べると、関屋姓がないのです。だから人の名前とするのは疑問。あす

こは関所があった所と考えたい。出水工業高校の敷地が「堀之内」、そして西出水小学校の敷地が「政所」という小字。あの一带にその昔出水郷の中心地があつたとみてよい。出水高校の前は直線道路が長く続く所で、江戸時代は参勤交代の道路でもあった。その昔関所があつたと考えてもよさそうな所です。関屋町は人名には結びつかないと思う。

川野 此処には桟(カイ)とか並木という小字もあります。『出水郷土誌』に江戸時代に並木を植えたから、そういう小字がついたと説明しています。

上・中・下・東・西などが付く地名

川野 今の説明の No.3。『出水郷土誌』から引用した田畠地名。No.3 右側の一一番下になります。「上・中・下・東・西の付いた所は開墾の順序を示すと考えられる」とあります。字図を見ていきますと「上」は上流の「下」は下流の方、「東」は東の方、それから西・南というふうになっていますので、場所で呼び名をきめたのだなと思いました。

坂元・土地

川野 小字図の分類表の方を見て頂けないでしょうか。No.1 の 22. 正現(ショウケン)、意味は判りません。67.に坂元ということがあります。説明の所に書いておきましたが、養老の滝と同じような伝説・民話が残っていたそうです。孝行息子が酒好きの父親のために酒を買っていたが、金がなくなった。そのうちに岩の間から酒が涌いているのに気付き、それを父親に死ぬまで飲ませた。父親が亡くなると、その酒も出なくなつた、と『出水郷土誌』は記しています。「酒の元」から「坂元」に変化したと書いてあります。

その次の No.2。上大川内の 83. 土地(トチ)

というのがあります。『鹿児島地名考』に、鹿児島市川上町に「土地(トンチ)」というのがあって、谷頭の低地をいうとの説明がついていました。大川内も奥の方になりますので、そういうのと同じかなと思いました。

程月・仙如・山志比

川野 上大川内の 91. 程月(ホヅキ)というのがあります。「月」が付く大字名では「六月田」があります。小字には「七月田」があります。『出水郷土誌』の小字図から消えてしましましたが「五月田」というのもありました。宗教的な信仰地名と考えられますが、程月も何かそういうのと関係があるのかなと思います。何かご存知であればお教えください。

下大川内の 8. 仙如(センニヨ)。この辺は信仰に関係があるような地名が集まっているので仙如も信仰に関係があるのではと考えて信仰地名に分類しました。

下大川内の 84. 山志比(ヤマシビ)。これも意味が判らなかったのですが、国語辞典に金のしゃちはこの語源に鶴尾(シビ)というのがあり、そんなのと関係があるのかなと思ったのですが、よく判りません。

島廻・鯖渕

川野 小字表 No.4 の 7. 島廻(シママリ)。これは「シマゲリ」ではないかと平田先生から指摘を受けましたが、『鹿児島地名考』に「丘陵地の下を廻るよう開けた水田地帯」とあり、吹上町にも同じような地名があると出ていました。丁度この辺になります。此処は上鯖渕と下鯖渕の境界辺りで、山手になります。その下の方は緑町・昭和町になりますので、その説明も当たるのかなと思いました。

平田 島廻(シマゲリ)というのは白鷺の別名

で白鷺がいる所に島廻という地名が付いています。

川野 白鷺から島廻。

平田 そういう考え方もあるということ。

(後記：丘陵地・台地の下を取り巻く水田に白鷺が多く集まっていることも事実である。松元町の「島巡」は鎌倉時代の文書に記録されている。古くから知られた地名である。我が家家の近所に白鷺の営巣地があるが、崖の中腹でその景観は島を取り巻いているように見える。別名「シマゲリ」の命名はそんなことになるのだろう)。

川野 No.4 の 76. 鯖渕。平田先生から熊本県に婆婆神峠(サバガミトケ)というのがあるので、その関係ではないかとの指摘を受けました。鯖渕という大字あるいは小字は信仰地名になるのではないかと思いました。

シャロ・竜毛・トラボ

川野 No.4 の左側の真ん中辺、上鯖渕の 98. シャロ、99. 竜毛、100. トラボ、というのがあります。竜毛という苗字の生徒もいます。何かな思います。大体同じ場所にあります。出水歴史民俗資料館の資料に「ジャロ(蛇籠)」という漢字を当ててありました。

「蛇籠」という文字で先程配った図には書いてあります。似たような場所で側には寺社があるので、そういう関係でこういう地名が付いたのかなと思いました。

平田 あまり考えすぎない方がよい。判らないものは判らないとして、無理に解釈しない方がよい。

川野 あとは説明を必要とするものはないようです。

平田 地名の分類①～⑩は大体定着してきました。ただ⑪自然地名は景観地名とした方

がよいでしょう。今後取り組まれる場合はこの方向で処理して下さい。他に何かありますか。

繁昌 シャロは「車路(クルマジ)」じやないですか。

平田 それはどこにある?さっきの話?

川野 No.5 の 98。

平田 ああ、片仮名のもの。「車路」。それは大変な地名だ。古代の駅路が通っていたことを示す地名。薩摩国と肥後国を結ぶ駅路の可能性が高い。そのためには中世の城跡を辿って見るのも一つの方法になる。あの辺には安原城とか朝隈城とかが並んでいた。

川野 朝熊(朝隈)はこの辺に地名が残っています。

平田 中世になるとこの辺はずーっと城が築かれる。

川野 朝熊は此処、安原は此処です。

平田 松尾城も大体この辺。城があるということは道路をにらんでいるのだから、城跡を地図の上に並べてみてどのように連なっているかを考えたら、シャロ(車路)も古代の交通路の重要な位置になって来るかも知れな

いね。

川野 シャロは此処になります。此処は大川内に出る。

平田 そうしたら、大口に連なる。

繁昌 大口筋ですね。

平田 水俣には結び付かない。

川野 水俣はこっちの道です。

平田 こっちを通って、山を越えて。

川野 山を越えて上場(ウバ)を通ったら、水俣に行きます。

平田 ああ、そうですか。昔の官道:駅路は最短距離として海岸近くを通りますが、安全を考えたら、山越えのバイパスもあり得るはずです。

川野 これは湯出(ユツル)を通って水俣に出る道です。

平田 その道を通った官道もあったということです。西南戦争の時、薩軍は山越えで逃げてきたので、それを追って官軍も山越えで攻めて来ています。シャロ(車路)は気付かなかった。それは大きな発見だ。

他になければこれで終りましょう。次回の予定は「加世田の地名」です。

出水市の小字

2005年3月6日

No1

川野雄一

A 調査方法

(1) 基本資料

・出水市役所税務課…「出水市の小字・地籍図の基本台帳(写し)」

「出水市大字図(写し)」

・出水市市立図書館…『出水郷土誌』(出水の地名・小字図)

(2) 出水市の小字一覧表作成(全部で11枚・No1～No8・その1～その4)

① 基本台帳掲載分から作成(・No1～No8)

No1・上大川内・下大川内 No2・上鯖渕 No3・武本① No4・武本②

No5・上知識・上知識町・下知識・下知識町・下鯖渕・下鯖町・六月田

No6・莊・向江町・中央町・明神町 No7・五万石町・西出水町・福ノ江町・今釜町

No8・境町・美原町

② 出水市大字図掲載分から作成(・その1～その4)

その1…麓町・知識町 その2…平和町・大野原町

その3…汐見町・浦田町・文化町 その4…黄金町・六月田町

③ 『出水郷土誌』小字図から追加作成(・その1～その4)

その1…本町・知識町の追加 その2…平和町の追加

その3…汐見町の追加・福ノ江町の追加・今釜町の追加・浦田町の追加

・文化町の追加・住吉町・明神町の追加・下知識町の追加

その4…米ノ津町・上鯖渕の追加・六月田の追加・上知識の追加・下鯖渕の追加

* 小字一覧表・新旧対照表作成にあたっての問題点

① 「土地区画整理事業」(1955年 米ノ津地区都市計画が決定されスタート)

「町名町境等整理事業」(旧町村時代における大字を新名称・新区域に変更…)

1966年 「昭和町」発足・1968年 「緑町」発足など26の新しい町の誕生)

→旧大字・旧小字と新しい町名の関連はどうなっているのか。

→消えてしまった小字・複数の新しい町に含まれる小字をどうするか。

→「昭和町」「緑町」「本町」「米ノ津町」「住吉町」の旧小字は不明・不正確?

② 今後の課題……両事業開始前の「旧9大字」ごとに小字を整理し地名分類をした方が良いのではないか。

B 小字の分類 (上大川内・下大川内・上鯖渕の3地区のみ)

① 信仰地名…(佛・宮・神社・堂・踊・舞・社・坊・花・祭・赤木・胡麻・法
・諏訪・鯖・熊野・庵・月・山王・塔・仙如?・地蔵・不動・僧
・射場・立石・法師・稻荷・供養・權現・寺・鐘・祇園・八幡
・觀音・住連・恵比須・院・伊勢・鳥居・比丘・阿弥陀・持・塚
・神・芝・銭・御)

② 城郭・集落・門・入会地地名

(城・館・陳・桙・首?・馬場・領・射場・里・郷・町・村・庄・屋敷・堀・門)

③ 土地区画地名

(割・枕・坪・里・条・丈・反・町)

④ 市(仔)・街・交通地名

(・坂・峠・越・道・街道・馬場・渡・橋・辻・十文字・茶屋・泊・通・車
・是從・合?・市・並木・一里塚・血刺場・上使道・御前水・御手洗)

⑤ 水利地名・池地名・川地名 (溝・樋・井手・落シ・水・堤?・井・水流・須津?・流・流合)

⑥ 人名・職掌地名 (○○丸・姓○○・芭蕉?・御所?・主繕・行司・別当・番屋)

⑦ 開発地名 (園・添・ハエ・開・持留・仕明・木場コバ?・カケ平?・除副ヨケ?・新田?)

⑧ 職業・産業地名 (・金堀・狩集・弦切?・築・白金?・炭・間伏・椎附? ・湯?・桑?・簍?・櫃?・馬・木場?・倉?・下柵場・塩屋)

⑨ 田畠地名 (田・畠・畠)

⑩ 瑞祥地名 (稻重?)

⑪ 自然地名 (原・野・平・段・谷・迫・窪・宇都・川内・山・岳・峯 ・崎(位置?)・洲・瀬・渕・瀬戸・浜・浦・島・土地トチ?)

⑫ 位置地名 (上中下・前後・尾・頭・尻・崎・先・口・元根・鼻・内 ・東西南北・十二支・横・涯・脇・間・附・久留?・角)

⑬ 形状地名 (窪・久保・鼻(位置?)・首?・大曲?・志比?・六江?・俣・高棚?・鍋・鉢 ・平○○・長○○・永○○・烏帽子・丸○○・大・小・矢筈・厚○○・今富士) ・大久志(坊津)(『南日本の地名』湾に関連するク・クの転訛)

⑭ 目印地名 (色・植物・動物・擬音?)

⑮ 浸食・崩壊地名 (崩・走・踊・洗・禿?・喰・切れ?・穴風呂) ・崩平(クズレヒラ 鹿児島地方では「ヒラ」に「山の斜面」「崖」 「坂」の意味もある。『南日本の地名』小川亥三郎)

⑯ 川原・湿地地名 (川原・河原・牟田・仁田・水溜)

⑰ 気象地名 (風・日当)

⑱ 意味不明

上大川内…22正現 30實苗 32大敵 55六ヶ所 83土地 91程月

下大川内…8仙如

上鯖渕…6六丈 44藪佐 65除副 98シャロ 99龍毛 135鈴ヶ玉 140年号
(坊津)・一斗谷・一斗谷平(田畠地名? 湿地地名?)

(馬追川の水源に、「一斗谷」という湿地で水田がある。一斗
いうのは一斗蒔のことと、一斗蒔は二反位にあたるからそれぐ
らいの水田があるようである。『南日本の地名』)

・牟礼(ムリ)「山」「村」を意味する。『南日本の地名』

出水市の小字

2005年3月6日 川野雄一

No 2

* 小字分類に当たって

- 1 「木場 コバ」・無神木場ムンコバ(上大川内 26)・池ノ木場イコバ(上大川内 62)
・木場田コバンタ(上大川内 104)・平木場ヒラコバ(上鯖渕 144)
・木場山コバヤマ(上鯖渕 211)・木場山迫コバヤマサコ(上鯖渕 212)
“今の境町の熊本県境は、住む人も少なく、大きな木が生い茂っていたという。
その山の平らな土地を拓いて、ところどころに畑が作られていたこのように
山を切り開いた畑を木場といっていた。”『出水郷土誌』下 p 979(石肥三年)
- 2 「猿喰 サイクレ(上大川内 4) サルガイ(下大川内 119) サルガイ(上鯖渕 136)」
・「浸食・崩壊地名」では(平田先生)
・“猿喰 サイクレ(川辺町)…猿のため果樹や瓜などを食われる場所を言うのか”
『鹿児島地名考』(p 165 小幡 晋)
- 3 「須津 スツ(上大川内 5)・僧津 ソウツ(上大川内 17)」
“曾津 ソツ(川辺町)”…清冽な湧水すなわち泉のこと。清水(ショウス)の略音
『鹿児島地名考』(p 165 小幡 晋)
- 4 「郷田山 コウタヤマ(上大川内 48)」
“郷戸 コウト(東市来町)”…神社に所属した戸。郡(コオリ)ト(戸)の転か。
『鹿児島地名考』(p 176 小幡 晋)
- 5 「坂元 カモト(上大川内 67)」
“大川内の角石付イシの丘に、水がめの形をした大きな岩がある。岩の裂け目
からきれいな水がこんこんと湧き出ている。この岩のあたりを坂元とよんで
いるが、昔は酒元と書いていたそうだ。病身の大の酒好きの父と
働き者の孝行息子 水がめ岩の裂け目からちょろちょろとお酒が……”
『出水郷土誌』下 p 986(水がめ岩の酒)
- 6 「川内コチ(上大川内 81)・宇都川内カトノコチ(同 37)・法師川内ホシコチ(同 63)
・崩川内ケカチ(同 75)・湯川内コガチ(同 93)・宇都川内カトガチ(上鯖渕 184)
・通山川内ツヤマコチ(同 193)・小山川内コヤマコチ(同 223)」
“川内・河内…全国的に見られる地名。地形からきた名前で、川の流域に開けた平地のことをいう。川の流域が膨らんだような平地をさす。
上大川内の「川内」は大川内の名の源ではないかという説あり。
「大川内カチ ウカツ」は、比較的大きな河谷の平地又はそこにある集落。”
『出水郷土誌』下 p 1014 民俗
- 7 「土地 ドチ(上大川内 83)」
“土地 ドンジ(鹿児島市 川上町)”…谷頭の低地。(『鹿児島地名考』p 156)
- 8 「宇津良 ウツラ(上大川内 88)」
“宇都良 ウツラ(頬娃町)”…ウトウ型の谷。宇津…宇都。
『鹿児島地名考』(p 162 小幡 晋)

9 「山志比 ヤシビ(下大川内 84)」

“鷗尾シビ…宮殿や仮殿の大棟の両端にとりつける魚尾形の飾り。くつ形。
瓦・石・青銅などで作る。鷗はその変化したもの。”(国語辞典から)

10 「島廻 シマワリ(上鯖渕 7)」…シマメグリでは(平田先生)

“島廻 シマワライ(吹上町)…丘陵地の下をまわるようにひらけた水田地帯”
『鹿児島地名考』(p 173 小幡 晋)

11 「ウリウシマ(上鯖渕 21)」…『出水郷土誌』小字図はウリウ島につくる。

“瓜生鳥か・瓜・湿地・ウレの転・上端・鳥ではなくトロの湿地か。”
『鹿児島地名考』(出水市 p 241 小幡 晋)

12 「鯖渕 サバヅチ(上鯖渕 76 同 77)」

“「信仰地名」か…熊本に婆娑神峠がある。”(平田先生)
“鯖淵 サバヅチ サマフツ サバヅッ”

- ①鯖を「狭間」ハサマ・サマととらえて谷間の淵のある土地と解してきた。
魚の鯖ではなく、狭いという意味の狭間のサマがなまってサバとなつた。
- ② saha は「平野」の意。サマはハサマと同じくセマク、ハサマった意。
サバは砂礫土、粘板岩、沢・サハ、鯖。フチは縁・崖・淵・瀧など。
- ③雨降りの時ハネが上がって着物の裾を汚すことを「サバをとった」と
言うので、湿地説。
- ④石田三成の文禄検地(1590年代)の「知行目録」…「さ満ふち村」

『出水郷土誌』下 p 1014 民俗

13 「菖蒲加勢 ショウブカセ(上鯖渕 86)」

“加勢(長島町) 古語のヤセ地・カス・カシ・カラと同じく崖地及び傾斜地”
『鹿児島地名考』(p 189 小幡 晋)

14 「シャロ (基本台帳 上鯖渕 98)」…『出水郷土誌』小字図ではシャロウ。 “シャロウ…神社の所在地。露出崩壊地”

『鹿児島地名考』 p 241

15 「鞆筒 ツツミドウ (上鯖渕 131) 鞆筒山 ツツミドウヤマ(上鯖渕 132)」

・「鞆」…木またはかわらの胴に皮を張った打楽器。(国語辞典)
“「鞆筒 ツツミドウ」田之頭の山田昌巣の灰塚のある墓地のところの小字名。
このような地名は石棺などのある場所の呼名として使われる。これを叩くと反響のある場所、穴に石を投げ入れると妙な音のする場所に用いられる。
熊本の「とんからりん」もその一例。ここも地形的に恐らく石棺が埋まっていた場所と考えられ、後の山一帯も「鞆筒山」なる字名がついている。”
『出水の地名』(田島秀隆氏 1986 年出水地名研究会編 出水市立図書館蔵)

16 「犬ワナノロ イヌナノチ(上鯖渕 243)」

“イヌ…低い。狭い。ワナ…凹凸のある状態”
『鹿児島地名考』(出水 p 241 小幡 晋)

出水市の小字

2005年3月6日 川野雄一 No3

〔一〕『出水郷土誌(下)』の地名分類(p 1013 ~ 1024)

- A 出水…「出水は元来和泉なるべし」(坂井立蘇・『出水記』)、「日向国泉」(古書)、
「出水郡伊豆美」(『和名抄』)、「和泉郡」(『薩摩国図田帳』)
「薩摩国和泉城」(豊臣秀吉朱印状)、「今度出水郷の者共」(島津義久書状)
- B 大字 (9) 〈*公民館名(集落)…市内には170を超す集落がある。〉
上大川内、下大川内、上鯖淵、下鯖淵、上知識、下知識、荘、六月田、武本
- C 小字(2000強)
- 1 信仰地名…以下に「ゴマ」「赤木」「月」「踊り」の付く地名あり。
大川内…不動野・法師川内・祭田原
上鯖淵…御舞田・宮ノ元・宮ノ脇・法行平・多法寺・堂山・諏訪脇・花立・宮田平
下宮田平・神社脇・
下鯖淵…櫛木稻荷平・供養ノ元・御崎・天神ノ上・田神元・御供田・諏訪ノ後
上知識…天神崎・権現原・宮内原・愛除院・御供田・鐘突・田ノ神・堂ノ迫・内堂ノ前・
紫尾宮・時堂・拝格・祇園前・東旦花・西旦花・成願寺・三光院・八坊・專修寺
・天神原・市之住連・仏園・八幡・八幡前・堂ノ前・伝法屋敷・
下知識…正仏園・八幡原・宮ノ前・宮島・上恵比須・名古恵比須・伊勢前・宮ノ後
・宮ノ脇・堂迫・東堂迫・北堂迫・西堂迫・西宮ノ脇・堂ノ前・伊勢前・伊勢脇・
本伊勢山・本伊勢上
武本…旦花・天神ノ前・天神ノ後・天神東・観音迫・寺底段・天神原・諏訪馬場
・諏訪ノ前・諏訪ノ下・諏訪ノ脇・北才願・金神・天神町・地蔵下・陀仏
・観音町・春日前・春日脇・春日・春日上・春日後・山王上西・鳥居東・塚込
・比丘尼園・市之住連・北今熊野・南熊野・八幡北水溜・八幡出口・八幡西
・八幡原・稻荷前・稻荷三百塚・三百塚下・三百塚ノ西・供養西・供養下
・供養塚・供養東・供養南・宮田町・稻荷牟田西・供養田・観音馬場・諏訪
・観音東・弥陀坂・諏訪ノ上・竜王下・諏訪下丸・上宮ノ上・山ノ神・宮田
・宮田上・山神谷・山神迫・山ノ神段・現王園・現王跡・山王・山王跡・山王脇
・壱神・説仏東・説仏・大堂良堂地・上宮道・上宮嶽
- 2 城地名
武本…西之口・西之口迫・前ノ山・前ノ迫・蛇穴口・迫ノ口・烏帽子ノ本・烏帽子平
・高屋ノ迫・城ノ坂口・城ノ坂・小松ノ口・オロノ段(馬を集めの場所)
・大手口・豎馬場・杉ノ内・城内・杉田・西杉田・杉田道下・諏訪馬場
・諏訪ノ前・諏訪ノ下・諏訪ノ脇・上ノ馬場
・瀬戸口・射留(射撃場)・小城・大城・大城下平・西内城・東内城・
(下知識)・下高城・中高城・南高城・上高城迫・下高城迫・勝高城迫
- 3 交通地名
武本…並木下・並木下西(山田昌巣植樹の松並木)・市來(律令時代の駅逕設置)
下鯖淵…御手洗道上・御手洗道下・御前水(湧出水を殿に献上)、
茶屋の下・茶屋の元(県境の境川近辺)
上知識…上使道・上使道東(麓に寄つて欲しくない人を通した道)

上知識…血刺場・南血刺場・西血刺場、 武本…馬刺場(刺絡して血を出す)

4 水に関する地名

*五万石溝の地名

貫下(トンネル)・マカセオトシ(放水堰)・西入込(取水口)・八左衛門落
・雲才落・烏帽子落

* (流・水流・川・池・溝)

馬流・大水流・新川・池水流・谷川・滝下・中川・桑水流・西ノ川・溝合・古川・小田川
・上抜川・黒鳥川・持溝・下春川・染川・川涯・川尻・溝口・下松原川・溝水・君名川
・水流・捨溝ノ上・出水ヶ池・出水ヶ池ノ下・出水ヶ池南・池ノ尾下・永溝ノ口
・井川・溜池・南水溜・池ノ下

*干拓にかかわる地名…洲・樋・杭・潮(汐)(塩)・江、 元禄 14 ~ 16 年干拓工事
塩屋・中塩屋・塩入・高樋ノ口・黒杭・樋町・洲崎・東福ノ江・中福ノ江・北福ノ江
・井樋前・汐入口・古井樋・中洲・上杭取・下杭取・樋ノ口・樋ノ下・下高洲・南高洲
・中高洲・上高洲・北高洲・上古井樋前・中古井樋前・古井樋・南古井樋・長江
・中福ノ江・西福ノ江・井樋ノ口・上六十間・中六十間・下六十間・西六十間

5 開発地名

…所有者或いは開墾者が郷士の場合は姓、百姓の場合は名が付けられた。

*人名地名…大野原に多い。地租改正時に個人の開墾地が点在。この時、細分した字絵図ができ、その時にそこを所有していた人か、開墾した人の名前が付けられたのであろうと思われる。

梁瀬町・岩重町・閑屋町・時吉町・万次郎山・休次郎町・休次郎西・万次郎西
五左衛門町・半次郎町

*丸地名…平良川左岸から大野原にかけて分布する古い集落の名。

地租改正時そこに住んでいた人の名に「丸」をつけたのではないか。
或いは中世の新田開発にちなむのではないかと推論される。

楠丸・田ノ神丸・天神丸・鶴来丸・塚丸・六反ヶ丸・大丸・三反ヶ丸・五反ヶ丸
調所ヶ丸・有丸・吉子丸・椎本丸・日の丸・八藏丸・八藏丸の上・嘉三丸
上野丸・上園丸・諏訪下丸・石塚丸・墓丸・堂脇丸・上出口丸・長野丸・武本丸
中出口丸

6 田畠地名

*田地名…上・中・下、東・西のついた所は開墾の順序を示すと考えられる。

下田・平田・棚田・五反田・木場田・二反田・小牟田・角田・園田・日焼田・荒田
脇田・浜田・迫田・鍋田・川原田・帶田・五反田・原田・窪田・松木田・御供田
島田・下島田・野中田・小原新田・東原田・小長田・七月田・上友田・上西ノ田
下西ノ田・壱丁田・船頭田・北船頭田・南友田・中友田・西友田・友田・蛭子田
小原田・飯田・小田・上井田・浅牟田・向江田・西前田・南前田・宮田・高来田
三角田・洗田・塩山田・桜堀田・供養田・車田・桑木田・胡麻田・永田・御舞田
堀田・龍木田・太田・西太田・平田・畠田・割田・前田・大丸田・溝田・山の田
西浦田・東石原田・崎田・小長田・六月田・大志田・榎田・見上田・大道田
油田・竹原田

出水市の小字

[一]『出水郷土誌(下)』の地名分類(p 1013 ~ 1024)

6 田畠地名

* 畑・畠…畑は焼畑、畠は永久畑のことであるといわれている。

大畠・大畠・壱町畠・外畠・川畠・下川畠・前畠・築ノ畠・溝上畠・牧野小畠

内畠・カン畠・谷畠・刈畠

* 牟田地名…下知識・武本に多く見られた。

水はけが悪く稲の栽培以外には使用不能の田。

中脇牟田・下脇牟田・西深牟田・中深牟田・下深牟田・西平牟田・南平牟田

東平牟田・東牟田・西牟田・肘牟田・牟田ノ尾・牟田中・飛牟田・迫牟田

深牟田

7 堀地名…その土地を守る目的で掘られたものと考えられる。

上知識…茶園堀（「環濠集落の跡」説もある）・西茶園堀・堀込・上堀込

武本…西堀・西堀ノ門

8 境界地名…藩政期に境界争いのあった土地にちなんだ地名。

上知識・下知識・武本にある。…論地山・北論山・三方境・論山東・上知識境

9 段地名…小高い平坦地を表す。

間伏段(狩猟の際の待ち伏せ場所)・屋敷段・池/段・妙賀ノ段・上ノ段

市井山段・赤木段・石打段・雁俣段・長羽段・蘿ノ段・稗ノ段・梨段・大段

山ノ段・永返上ノ段・永返下ノ段・間伏段・坪ノ段・射場ノ段・高江ノ段

平岩ノ段・平岩下段・長飯野段・大段・島ヶ段・小段・茶塚段・小平段・定ノ段

寺底段・上踊段・下踊段…(豊作祈願や疫除退散などの祈りを捧げる

ために設けられ、舞や踊りを奉納した場所)

10 平地名…山中にある相当広い緩斜面のこと。

六月田・莊・上知識・下知識にはないようである。

野平・前平・葛根平(かんぱう)・内平・大平(ひら)・小山川内平・山中平・

松尾中平・上別府平・西ノ平・法行平・金堀平・牛迫東平・瀬ノ上平・山野平・

清水ヶ平・ロノ段西平・ロノ段東平・山陰平・杉平・外平・国平・鳥帽子平・

塔ノ山平

11 原地名…山地に近いところに多い。平地の六月田・下知識にはない。

ハル・バル・ハイという。

向原・祭田原・下ノ原・中ノ原・上ノ原・田原・小笹原・桜原・芳原・松原・

向江原・南向江原・時任原・東芦原・西芦原・仲原・小松原・南前原・西前原・

芦原・塚原・天神原・麦田原・前原・大田原・井手原・西井手原・桜原・下大野原・

大野原東・三角原・三角原ノ上・三角原ノ下・八幡原・井手ノ原・原・上野原・

東中原・上ノ原・下中原・平坂原・中原・稗ノ原・君名原・石原・小原・柳原・

向石原・笹原・上笹原・松ヶ原

12 崩落地名…崩れはクエ又はグエという。アカグエは赤土、クログエは黒土で、

火山灰が露出した場所(崖)があったのだろう。

赤崩・西赤崩・南赤崩・上崩・黒崩(武本にある)

No4

13 迫地名…山間部に多い。(九州などで)谷の行き詰まり、又は谷のこと。

「迫」のつく地は、湿地帯が多く、田んぼはいわゆる「牟田」が多い。

飯良ヶ迫・中間迫・八迫・八迫上・下八迫・開迫・大迫・平迫・下高城迫・茶園迫・前ノ迫・西ノ迫・上黒木迫・下黒木迫・工簾迫・長迫・柳迫・柳迫頭・小長迫・木場山迫・跡迫・田平迫・牛ヶ迫・石堂迫・柳ヶ迫・猪木迫・大段迫・平迫・市井山迫・堂山後迫・金堀迫・前迫・西ノ口迫・高屋ヶ迫・菖蒲迫・松ヶ迫・通山迫・長迫・井川迫・築瀬ヶ迫・トキビ迫・松迫・池ヶ迫・助十迫・ヲマカ迫・観音迫・矢三迫・梅ヶ迫・牛ヶ迫・山神迫・ナタトキ迫・宇都ノ迫・芭蕉迫・切迫・狐迫・長飯野迫

14 口地名…クチ、クッ。そこから目的地に入っていく所。入口・出口。

これも山間部に多い。

六月田・下知識のは樋門口(ヒモングチ)又は堤防の水はけ口、潮(海水)の出入り口につけられた名であろう。

山ノ口・大山ノ口・瀬戸口・松ノ口・井手口・橋口・下ノ口・渡瀬口・松尾出口・犬ワナノ口・大井手口・通山口・瀬戸ノ口・橋ノ口・宇都口・堀ノ口・上橋口・新五郎口・宇都ノ口・溝口・築口・坂口・樋口・東堤ノ口・築地口・西堤ノ口・汐入口・樋ノ口・東瀬戸口・迫ノ口・町口・西ノ口・蛇ノ穴口・城ノ坂口・高屋ヶ迫口・小松ノ口・坂ノ口・野坂ノ口・弥三ノ口・大手口・橋ノ口・八幡出口・上屋出口・落ノ口・永溝ノ口・江川ノ口・小野口・西小野口・下小野口・惡具口・後藤口・井川口・谷ノ口・上谷ノ口・金山出口・鉢立ノ口・樋ノ谷口・新川口・冷ノ口・鳥越ノ口・渡口

15 川原・河原地名…川辺の水がなくて砂石の多い所。川沿いの平地。コラという。

六月田・下知識にみられる。

上河原・内川原・下川原・原田川原・垂門川原・東川原・西川原・今泉川原・町川原・上八反川原・川原・今村河原・北今村河原・上羽山河原・中羽山河原・下羽山河原・北羽山河原

16 動物地名…牛・馬・猿・猪・獺(カウツ)・狐。この地名は割合少ない。獺は絶滅したといわれる動物であるが、出水にいたのであろうか。臼のように窟んだ峠道、鞍部のゆったりした越え方をする所という説がある。

他に「水流」を「つる」と読む地名がある。古文書の中には鶴の文字を当てたものが見られる。塩轟・大轟がそれである。

牛迫東平・牛ガ迫・牛喰迫・馬込・馬齧・馬溜・新馬溜・猿喰・猿打・猿野

猪木谷・猪木迫・猪木歌・猪ノ越・狐ヶ尾・狐迫・獺越(ウソコエ)・獺越ノ下・獺越西

鶴来丸・上鶴・下鶴(莊にある。)・鶴(武本にある)…案外少ない。

17 浦地名…海や湖が湾曲して陸地に入り込んだ所。下知識にみられる。

東名古浦・北名古浦・中名古浦・下名古浦

18 薩州家ゆかりの地名(改易主君・島津忠辰の遺骸を大野原に埋葬、殉死者多数)

供養塚・供養東・供養南・三百塚・三百塚下・三百塚ノ西

出水の旧大字と現町名対照表

番 基 本 台 号 帳	現町名	旧大字	武	上	下	六	上	下	上	下	大	川	莊
			知	知	月	鯖	鯖	大	川	内			
本	識	田	測	測	大	川	内						
6	1 武 本	○											
⑧	2 麓 町	○											
⑦	3 本 町	○											
28	4 五万石 町	○											
24	5 向 江 町	○	○										
25	6 中 央 町	○	○										
29	7 西 出 水 町	○	○										
⑪	8 大 野 原 町	○	○										
27	9 上 知 識 町	○	○										
⑫	10 知 識 町	○	○	○									
⑩	11 平 和 町	○	○	○									
㉓	12 文 化 町	○	○	○									
26	13 明 神 町	○	○										
31	14 下 知 識 町	○											
32	15 福 ノ 江 町	○											
⑯	16 浦 田 町	○											
⑯	17 住 吉 町	○											
33	18 今 釜 町	○											
⑯	19 汐 見 町	○											
④	20 昭 和 町	○	○	○									
⑤	21 緑 町	○	○	○									
⑬	22 黄 金 町	○	○		○								
㉑	23 六 月 田 町	○	○	○									
3	24 上 鯖 渕				○								
30	25 下 鯖 町					○							
35	26 美 原 町						○						
⑯	27 米 ノ 津 町							○					
34	28 境 町								○				
1	29 上 大 川 内									○			
2	30 下 大 川 内										○		
22	31 莊											○	

基本台帳の大字・町名			「出水郷土誌」小字図				
No	大字・町名	旧大字名	台帳のページ	小字数	大字図・字数	「郷土」字追加	現町名
1	上大川内	上大川内	1~5	100			
2	下大川内	下大川内	5~10	126			
3	上 鯖 渕	上 鯖 渕	10~20	243		15	昭和町・緑町
④	昭 和 町	上知識 六月田 上 鯖 渕	台帳になし				
⑤	緑 町	上知識 六月田 上 鯖 渕	台帳になし				
6	武 本	武本	20~39	450			
⑦	本 町	武本	台帳になし			17	
⑧	麓 町	武本	台帳になし		36		
9	上 知 識	上知識	39~41	53		25	昭・緑・黄・六
⑩	平 和 町	上知識 下知識 六月田	台帳になし		73	11	
⑪	大 野 原 町	武本 上知識	台帳になし		81		
⑫	知 識 町	上知識 下知識 六月田	台帳になし		20	4	
⑬	黄 金 町	上知識 六月田 下 鯖 渕	台帳になし		25		
14	下 鯖 渕	下 鯖 渕	42	2		30	黄金・六・美原
⑯	米 ノ 津 町	下 鯖 渕	台帳になし			17	
16	下 知 識	下知識	42~43	35			
⑯	住 吉 町	下知識	台帳になし			20	
⑯	汐 見 町	下知識	台帳になし		37	11	
⑯	浦 田 町	下知識	台帳になし		24	14	
20	六 月 田	六月田	43~44	14		18	昭・緑・黄・六
㉑	六月田町	上知識 六月田 下 鯖 渕	台帳になし			26	
22	莊	莊	44~48	90			
㉓	文化町	上知識 下知識 六月田	台帳になし		47	6	*上知・下知・六月
24	向 江 町	武本 上知識	48~50	51			
25	中 央 町	武本 上知識	50~53	60			
26	明 神 町	下知識 六月田	53~55	46		6	
27	上 知 識 町	武本 上知識	55~56	30			
28	五 万 石 町	武本	56~58	42			
29	西 出 水 町	武本 上知識	58~60	63			
30	下 鯖 町	下 鯖 渕	60~62	34			
31	下 知 識 町	下知識	62~64	48		20	
32	福 ノ 江 町	下知識	64~66	51		5	
33	今 釜 町	下知識	66~68	51		12	
34	境 町	下 鯖 渕	68~70	47			
35	美 原 町	下 鯖 渕	70~72	37			
	合 計			1673	369	231	

昭和町・「昭」・緑町・「緑」・黄金町・「黄」・六月田町・「六」・美原町・「美原」
 *旧上知識・「上知」 *旧下知識・「下知」 *旧六月田・「六月」

出水市の小字 (大字 ·1 上大川内…100 ·2 下大川内…126) No 1

1	大字 上大川内…100	39 棚田 タナタ	79 菅牟田 スカムタ
1	向江原 ムエハル	40 樺木 カハノキ	80 庵ノ山 アソノヤマ
2	不動野 フトオノ	41 府津野 フツノ	81 番左エ門 バンザエモン
3	山ノ口 ヤマノクチ	42 八久保 ハクボ	82 川内 コウチ
4	猿喰 サイクル	43 川添 カワツエ	83 土地 ドチ
5	須津 スヅ	44 青椎 アオジ	84 佐土原 サトハラ
6	岩下 イワシタ	45 中山 ナカヤマ	85 大水流 オオツル
7	中野 ナカノ	46 立石 タテシ	86 赤林 アカバヤシ
8	舟木野 フナキノ	47 井手水流 テズル	87 黒田 クロダ
9	原 ハル	48 郷田山 ユウタヤマ	88 宇津良 ユツラ
10	柳木ノ元 サキノモト	49 上屋敷 ケヤシキ	89 山中 ヤマナカ
11	中牟田 ナカムタ	50 平田 ヒラタ	90 大山ノ口 オオヤマノクチ
12	西原 ニシハル	51 屋敷ノ段 ヤシキノタン	91 程月 ホツヅキ
13	馬流 マカヅレ	52 池ノ段 ケノタン	92 大畑 オハタケ
14	蓑掛 ミノカケ	53 妙賀ノ段 ミョウガノタン	93 湯川内 ユガワチ
15	轟ノ上 トロウエ	54 須山 スヤマ	94 梨子ヶ迫 ナシガサコ
16	大丸 オマル	55 六ヶ所 ツカシヨ	95 山王 サンノウ
17	僧津 リツ	56 一里塚 仔リツカ	96 市ノ野 仔ノノ
18	平四郎 ヘシロウ	57 大久保 材クボ	97 下田 シモタ
19	鳶山 トリヤマ	58 塩鶴 シオヅル	98 堂ノ上 ドノウエ
20	榧ノ木 カヤノキ	59 高鼻 タカナ	99 山下 ヤマシタ
21	米ノ山 コメノヤマ	60 角石 カドシ	100 流合 ナガレイ
22	正現 ショウゲン	61 木場田 コバタ	2 大字 下大川内…126
23	鳥越 トリコエ	62 池ノ木場 ケノコバ	1 堀之内 ホリノウチ
24	古屋敷 フルヤシキ	63 法師川内 ホシコオチ	2 堀之上 ホリノウエ
25	射場ノ本 イハノモト	64 石原 シハラ	3 塔ノ山 トウノヤマ
26	無神木場 ムジンコバ	65 野平 ノビラ	4 向原 ムエハル
27	飯良ヶ迫 イガサコ	66 上ノ段 ケノタン	5 前平 マエヒラ
28	岡ノ頭 カノカシラ	67 坂元 カモト	6 前田 マエタ
29	岩下 イワシタ	68 中原 カハラ	7 大畠 オハタ
30	實苗 ミエ	69 轟原 トロハル	8 仙如 センニヨ
31	内坂本 ウチサカモト	70 堂免 ドウメン	9 鳥鳴 トリナキ
32	大敵 オオテキ	71 五反田 ヲタンド	10 祭田原 サイタバル
33	太良原 タラハラ	72 越地 コエチ	11 下村 シモムラ
34	轟脇 トロワキ	73 鮎川 アユカリ	12 中村 ナムラ
35	轟ノ下 トロシタ	74 古園 フルゾノ	13 上村 ウエムラ
36	庵ノ木 アンノキ	75 崩川内 クエカワチ	14 新川平 シンカワヒラ
37	宇都川内 ウトコオチ	76 稲重 けシケ	15 新川 シンカワ
38	日当 ヒアテ	77 尾ノ上 オノウエ	16 大曲 ウマカイ
		78 枇杷ノ首 ビワクビ	17 炭頭 スミガシラ

出水市の小字 (大字 ·1 上大川内…100 ·2 下大川内…126) No 1

18	瀬戸口 セトグチ	58	中間迫 ナカマサコ	98	小野 オノ
19	宇都 ウト	59	新田 シンテン	99	東 ヒガシ
20	平岡 ヒラカ	60	芭蕉 バショウ	100	森之木 モリノキ
21	猪之木谷 イノキタニ	61	井田 イダ	101	上森 ウエモリ
22	新谷 シタニ	62	岩峯 イワミネ	102	内平 ウチヒラ
23	水洗 ミズアレ	63	草ノ頭 クサノカシラ	103	開迫 カイサコ
24	村渡 ムラワタシ	64	桜渕 サクラブチ	104	谷川 タニカワ
25	一ノ渡瀬 仔ノワタセ	65	大目木 オオメギ	105	椎附谷 シツケタニ
26	下ノ原 シモノハル	66	石原 イシハラ	106	大迫 オオサコ
27	中ノ原 ナカノハル	67	平田 ヒラタ	107	平迫 ヒラサコ
28	岩下 イワシタ	68	床炭 トコスミ	108	楠丸 クスマル
29	上ノ原 ウエノハル	69	逆間伏 サカマフセ	109	竹越 タケオエ
30	西ノ谷 ニシノタニ	70	是從 コレヨリ	110	岩井 イワイ
31	上西ノ谷 ウエニシオタニ	71	轟ノ上 トロノウエ	111	貝ノ谷 カイノタニ
32	萩尾 バギオ	72	間伏谷 マブセタニ	112	六江 ムツエ
33	小櫃 コビツ	73	同風 ドウフウ	113	二反田 ニタンド
34	先小櫃 サキコビツ	74	松ノ口 マツノクチ	114	岩坂 イサカ
35	大谷 オオタニ	75	里道 サトチ	115	中岩 カイイ
36	上大谷 ウエオオタニ	76	池籬 イケヅル	116	松瀬 マツセ
37	小松 コマツ	77	小牟田 コムタ	117	中川 カガワ
38	上山手 ウエヤマテ	78	崩平 クエンピラ	118	井手口 テグチ
39	山手 ヤマテ	79	犬山 インヤマ	119	猿喰 サルグイ
40	飛久留 トビクル	80	小原 コハル	120	鞍坪 クラツボ
41	葛根平 カツネビラ	81	猿野 サルノ	121	中井手 ナカデ
42	田原 タハル	82	前ノ谷 マエノタニ	122	八ッ合 ハツゴウ
43	地下 チカ	83	仕明 シアケ	123	上井手 カミイデ
44	地蔵 ジゾウ	84	山志比 ヤマシビ	124	下井手 シモイデ
45	内場 ウチバ	85	八迫 ハツコ	125	尾ノ上 オノウエ
46	平渡 ヒラワタシ	86	上八迫 カミハツコ	126	瀧下 タキシタ
47	中井 ナカイ	87	下八迫 シモハツコ		
48	一ノ水 仔ノミズ	88	松木 マツキ		
49	熊岡 クマオカ	89	中松 ナカマツ		
50	原 ハル	90	平谷 ヒラタニ		
51	片原 カタハル	91	野中 ノナカ		
52	鷺築 サギヤナ	92	下ノ谷 シモノタニ		
53	洗平 アライヒラ	93	井手ノ谷 テノタニ		
54	中野 ナカノ	94	御領 ゴリョウ		
55	山渋 ヤマシブ	95	小轟 コトロキ		
56	開 ヒラキ	96	猪越 シゴエ		
57	湯之谷 ユノタニ	97	久保 クボ		

出水市の小字(大字・3上請済……243)

NO 2

3	大字上請済…243	41	堂山	トウヤマ	82	萩ノ段	ハギノダン
1	渡瀬口 ワタセグチ	42	後迫	ウシロザ'コ	83	二本松	ニホンマツ
2	橋之口 ハシノクチ	43	松下	マツシタ	84	上踊段	カミオドリダン
3	橋之下 ハシノシタ	44	藪佐	ヤブ'サ	85	平田	ヒラタ
4	楠木ヶ丸 クスキンガマル	45	新開	シンカイ	86	菖蒲加勢	ショウブ'カセ
5	御舞田 オマイダ	46	上別府平	カミベッフ'ビラ	87	登ノ瀬上	ノボリセエ
6	六丈 ロクジ'ヨウ	47	山屋敷	ヤマヤシキ	88	高棚	タカタケ
7	島廻 シママリ	48	大田原	オオタバ'ル	89	瀬戸ノ口	セドノクチ
8	下樋渡 シモテワタシ	49	井手原	イデ'バル	90	萩崎	ハギサキ
9	山元 ヤマモト	50	西井手ノ原	ニシテ'バル	91	中迫	ナカサコ
10	東光西平 トコウニシヒラ	51	平田	ヒラタ	92	峠ノ下	トウゲノシタ
11	松尾出口 マツオデ'グチ	52	大井手口	オオイデ'グチ	93	橋ノ口	ハシノクチ
12	宮ノ脇 ミヤノワキ	53	井手宮ノ脇	イデ'ミヤノワキ	94	三反田	サンタンダ
13	宮ノ元 ミヤノモト	54	桜原	サクラバ'ル	95	松下	マツシタ
14	柳木田 ヤナギ'タ	55	鳶取	トリ'トリ	96	桂心丸	ケイシマル
15	柳木田南 ヤナギ'タミナミ	56	華ノ元	ハノモト	97	河桑迫	カワクワサコ
16	溝越 ミヅ'コシ	57	諏訪ノ脇	スワノワキ	98	シャロ	シャロ
17	折敷町 オシキマチ	58	通山	ツウヤマ	99	龍毛	リュウケ'
18	白金町 ジラ'ガ'ホシヨウ	59	ヤクラ元	ヤクラモト	100	トラボ	トラボ
19	岩崎 伊サキ	60	野中	ノナカ	101	梨木段	ナシノダン
20	東岩崎 ヒガ'シイワサキ	61	上平田	カミヒラタ	102	田之頭	タノカシラ
21	ウリウシマ カリウシマ	62	井ノ上	イノウエ	103	上ノキレ	カミノキレ
22	萩崎 ハギ'サキ	63	築ノハタ	ヤナノハタ	104	木場田	コバンタ
23	松尾下 マツオシタ	64	築ノ上	ヤナノウエ	105	中川原	ナカガワラ
24	前田 マエダ	65	除副	ヨケゾエ	106	堤尻	ツツミ'リ
25	庄牟田 ショウムタ	66	小城	コジョウ	107	高棚	タカタナ
26	柏木 カシキ'	67	大城	オオジョウ	108	麦田原	ムギタバ'ル
27	胡摩田 ゴマタ	68	大城ノ下平	オオシ'ヨウシモヒラ	109	長野	ナガノ
28	永田 ナガタ	69	北御所園	キタゴシヨソノ	110	畠田	ハタダ
29	鳥帽子形 エボシカタ	70	御所園原	ゴ'ショゾ'ノバル	111	割田	ワリタ
30	横枕 ヨコマクラ	71	山野平	ヤマノヒラ	112	中野	ナカノ
31	堀田 ホツタ	72	瀬上	セノウエ	113	樋掛	トイケ
32	車掛 クルマガ'ケ	73	下原	シモバル	114	新開	シンカイ
33	法行平 オオシ'ヨウヒラ	74	川俣	カワマタ	115	宇都口	ウトノチ
34	西之平 ニシノヒラ	75	落ノ前	オシノマエ	116	松ヶ野	マツガノ
35	里蘭 サツノ	76	鰐済	サ'ブ'チ	117	前田	マエダ
36	西大田 ニシオオタ	77	鰐済原	サ'ブ'チ'バル	118	堀ノ口	ホリノクチ
37	作馬場 サイバ'バ	78	岩下	イワシタ	119	池田	イケダ
38	大田 オタ	79	小坂上	コサカノウエ	120	狩集	カヤツマイ
39	中尾 ナカオ	80	小坂元	コサカノモト	121	椎木丸	シイキマル
40	多法寺 タヌオジ	81	下踊段	シモオドリダン	122	軸谷	ジクヤ

出水市の小字(大字・3上請済…243)

NO 2

123	橋之口	ハシノクチ	164	大丸田	オオマルタ	204	柳迫ノ頭	ヤナギサコノカシラ
124	花立	ハナタテ	165	狩俣段	カリマタダン	205	小長迫	コナガサコ
125	祭田	マツリデン	166	長羽之段	ナガハノダン	206	中洲	ナガス
126	尾崎	オザキ	167	佛ノ原	ホトケノハラ	207	丸岡	マルオカ
127	前畠	マエハタ	168	新兵衛	シンベエ	208	大平	オオヒラ
128	柞ヶ迫	ユスガサコ	169	新五郎	シンゴロウ	209	一本杉ノ元	イッポンスギノモト
129	大丸	オオマル	170	新五郎ノ口	シンゴロウノクチ	210	猿打	サルウチ
130	松ヶ迫	マツガサコ	171	芭蕉	バショウ	211	木場山	コバヤマ
131	轍筒	ツヅミドウ	172	陳屋	ジンヤ	212	木場山迫	コバヤマサコ
132	轍筒山	ツヅミドウヤマ	173	芭蕉野中	バショウノナカ	213	跡ノ迫	アトノサコ
133	柳ヶ迫	ヤナガサコ	174	古屋敷	フルヤシキ	214	犬ワナノ口	イヌワナノクチ
134	大谷	オオタニ	175	工藤迫	クドオサコ	215	迫田	サコダ
135	鈴ヶ玉	スズガタマ	176	蘿ノ段	キジノダン	216	大坂ノ下	オオサカノシタ
136	猿喰	サルグイ	177	東平	ヒガシビラ	217	清水ヶ平	シミズガヒラ
137	猪木迫	イノキサコ	178	梅田平	ウメダビラ	218	垣山ノ段	カキヤマノダン
138	猪木ノ頭	イノキノカシラ	179	新立山	シンタテヤマ	219	垣山ノ平	カキヤマノヒラ
139	雁俣	カリマタ	180	平迫	ヒラサコ	220	小山川内平	コヤマゴチヒラ
140	年号	ネンゴウ	181	野附	ノツキ	221	乙五郎	オツゴロウ
141	一井山ノ迫	シイヤマノサコ	182	山下	ヤマシタ	222	山ノ口	ヤマノクチ
142	市井山段	シイヤマダン	183	宇都	ウト	223	小山川内	コヤマゴチ
143	枇杷首	ビワクビ	184	宇都川内	ウトガワチ	224	田平迫	タビラサコ
144	平木場	ヒラコバ	185	新開野附	シンカイノヅキ	225	小山口	コヤマグチ
145	中野段	ナカノダン	186	前平	マエビラ	226	白山ノ下	シロヤマノシタ
146	栴	カコイ	187	カツ子平	カツネビラ	227	宮田平	ミヤタヒラ
147	辻	ツジ	188	萩ノ段東平	ハギノダンヒガシヒラ	228	下宮田	シモミヤダ
148	赤木段	アカキダン	189	萩ノ段西平	ハギノダンニシヒラ	229	山中	ヤマナカ
149	開	ヒラキ	190	一本松	イッポンマツ	230	山中平	ヤマナカヒラ
150	前原	マエバラ	191	木場	コバ	231	神社脇	ジンシャワキ
151	カケ平	カケビラ	192	通山口	ツヤマグチ	232	松尾	マツオ
152	大段迫	オオダンサコ	193	通山川内	ツヤマゴチ	233	牛ヶ迫	ウシガサコ
153	大段	オオダン	194	持留	モチドメ	234	松尾東	マツオヒガシ
154	打越	ウチコシ	195	鳥越	トリゴエ	235	段	ダン
155	川原	カワハラ	196	大杉之元	オオスギノモト	236	尾崎	オザキ
156	馬込	マゴメ	197	岩下	イワシタ	237	松尾中	マツオナカ
157	洗切	アライキリ	198	門木	カドキ	238	松尾中平	マツオナカヒラ
158	石打段	イシウチダン	199	長原	ナガハラ	239	東光平	トウコウビラ
159	川窪	カワクボ	200	中尾	ナカオ	240	岩堂迫	イワドウサコ
160	池ノ鶴	イケノヅル	201	長迫	ナガサコ	241	牛ヶ迫東平	ウシガサコヒガシヒラ
161	小坂元	コサカモト	202	鉢窪	ハチクボ	242	金堀平	カネホリヒラ
162	弦切	ツルキリ	203	柳迫	ヤナギサコ	243	橋ノ上	ハシノウエ
163	竹林	タケバヤシ						

出水市の小字 (大字) 6 武本①…450

No3

6	大字 武本…450	40 犬山寺 イヌヤマデラ	80 鳥帽子ノ上 エボシノウエ
1	松原川 マツバラガワ	41 向犬山寺 ムカイイヌヤマデラ	81 赤坂 アカサカ
2	落ノ東 オトシノヒガシ	42 市ノ渡瀬 イチノワタセ	82 鳥越 トリゴエ
3	落ノ下 オトシノシタ	43 赤崩 アカゲエ	83 向石原 ムコウイシハラ
4	現王川原 ゲンノウガワラ	44 梨木段 ナシノキダン	84 前ノ迫 マエノサコ
5	流合川原 ナガレアイガワラ	45 小田 コダ	85 前ノ山 マエノヤマ
6	横手 ヨコテ	46 黒崩 クロゲエ	86 西ノ口迫 ニシノクチサコ
7	桑畠 クワバタ	47 上小田 カミコダ	87 西ノ口 ニシノクチ
8	石原堂 イシハラドウ	48 上井田 カミイダ	88 蛇ノ穴口 ジャノアナグチ
9	井川口 イガワグチ	49 定山 ジョウノヤマ	89 鳥帽子ノ本 エボシノモト
10	湯原川原 ユバルカワハラ	50 吉ヶ屋敷 キチガヤシキ	90 鳥帽子平 エボシヒラ
11	蟻子 エビス	51 柿 カコイ	91 高屋ヶ迫 タカヤガサコ
12	川添 カワソエ	52 西柿 ニシカコイ	92 砂坂 スナサカ
13	駄子田 ダゴダ	53 鉄小屋 テツゴヤ	93 高屋ヶ迫口 タカヤガサコグチ
14	駄子田ノ前 ダゴダノマエ	54 杉ノ木 スギノキ	94 城ノ坂口 ジョウノサカグチ
15	谷ノ口 タニノクチ	55 金山出口 カナヤマデグチ	95 城ノ坂 ジョウノサカ
16	黒石 クロイシ	56 鉢立口 ホコタテノクチ	96 小松本迫 コマツモトサコ
17	川原田 カワハラダ	57 山ノ神迫 ヤマノカミサコ	97 薩蒲迫 ショウブサコ
18	西川原田 ニシカワハラダ	58 矢ノ助 ヤノスケ	98 小松 コマツ
19	西俣 ニシマタ	59 加治屋敷 カジヤシキ	99 小松ノ口 コマツノクチ
20	牧野下 マキノシタ	60 鉢立 ホコタテ	100 天神ノ後 テンジンノウシロ
21	井手ノ元 イデノモト	61 湯川内 ユガワチ	101 松ヶ迫 マツガサコ
22	牧ノ小畠 マキノコバタ	62 湯川内鹿倉 ユガワチシカクラ	102 射留 イドメ
23	牧野 マキノ	63 上屋敷 カミヤシキ	103 松坂 マツサカ
24	上谷ノ口 カミタニノクチ	64 中屋敷 ナカヤシキ	104 松坂ノ上 マツサカノウエ
25	上谷 カミタニ	65 湯川内東平 ユガワチヒガシヒラ	105 坂ノ口 サカノクチ
26	小原山 オバルヤマ	66 高田組 タカダグミ	106 鍋野 ナベノ
27	飯田 イイダ	67 山ノ神段 ヤマノカミダン	107 井川迫 イガワサコ
28	ツツシ段 ツツシダン	68 築池 ツキイケ	108 岩下 イワシタ
29	新屋敷 シンヤシキ	69 ナタトキ ナタトキ	109 上ノ原 ウエノハル
30	霧島原 キリシマバル	70 ナタトキ迫 ナタトキサコ	110 平坂原 ヒラサカバル
31	上ノ畠 ウエノハタ	71 船ヶ迫ノ上 フナガサコノウエ	111 貫下 ヌキシタ
32	小原 オバル	72 大久保 オオクボ	112 マカセ落 マカセオトシ
33	宇都 ウト	73 砂畠 スナハタ	113 鳥越平 トリゴエノヒラ
34	柳原 ヤナギハラ	74 東犬ノ山 ヒガシイヌノヤマ	114 中原 ナカハラ
35	五反田 ゴタンダ	75 犬ノ山 イヌノヤマ	115 稗ノ原 ヒエノバル
36	小原田 オバルダ	76 ヲロノ段 ヲロノダン	116 浅牟田 アサムタ
37	東小原田 ヒガシオバルダ	77 松ヶ原 マツガバル	117 通山迫 ツヤマサコ
38	古川渡瀬 フルカワワタセ	78 笹原 ササバル	118 天神ノ東 テンジンノヒガシ
39	神戸川 カンベガワ	79 上笹原 カミササバル	119 轟ヶ迫 トドロガサコ

出水市の小字 (大字) 6 武本①…450

No3

120	坂ノ東 サカノヒガシ	160 野坂尻 ノサカジリ	200 牛ヶ迫 ウシガサコ
121	坂ノ上 サカノウエ	161 岩瀬 イワフチ	201 塔山平 トウヤマヒラ
122	長迫 ナガサコ	162 井手ノ口 イデノクチ	202 水洗 ミズアライ
123	天神ノ前 テンジンノマエ	163 大丸田 オオマルタ	203 江月 エヅキ
124	打越 ウチゴシ	164 坂ノ下 サカノシタ	204 石ノ元 イシノモト
125	芝畠 シバハタ	165 高棚 タカタナ	205 溝上 ミゾウエ
126	堀手捨 ホリテステ	166 向戸 ムコウド	206 山下 ヤマシタ
127	笹山ノ段 ササヤマノダン	167 向田 ムカエダ	207 柳田 ヤナギダ
128	唐黍迫 トウキビザコ	168 下大丸田 シモオオマルタ	208 氏梨 ウシナシ
129	池ヶ迫 イケガサコ	169 君名原 キミナバル	209 築瀬ヶ迫 ヤナセガサコ
130	松迫 マツサコ	170 野坂ノ口 ノサカノグチ	210 瀬戸口 セトグチ
131	宇津野 ウツノ	171 拂川 ハライガワ	211 山王後 サンノウウシロ
132	芳ヶ迫 カヤガサコ	172 折尾塙 オリオノ	212 古房 フルボウ
133	助十迫 スケジュウサコ	173 茅房迫 カヤフササコ	213 中通下 ナカトオリシタ
134	岩棟ノ段 イワムネノダン	174 前田 マエダ	214 中尾筋中 ナカオスジナカ
135	ヲマガタ オマガタ	175 後平 アトヒラ	215 溜池山 タメイケヤマ
136	鳴小路 ナキコウジ	176 古屋敷 フルヤシキ	216 溜池山西 タメイケヤマニシ
137	宇都ヶ迫 ウトガサコ	177 横ノ谷西平 ヒノタニニシヒラ	217 論山 ロンザン
138	ヲマカ迫 オマカサコ	178 横ノ谷 ヒノタニ	218 三角原上 ミスミバルウエ
139	観音迫 カンノンサコ	179 中横ノ谷 ナカヒノタニ	219 捨溝ノ上 ステミゾノウエ
140	日ノ丸 ヒノマル	180 横ノ谷口 ヒノタニグチ	220 捨溝東 ステミゾヒガシ
141	丸岡 マルオカ	181 大椎平 オオシイヒラ	221 木引道 コビキミチ
142	狩ノ畠 カリノハタ	182 中尾ノ段 ナカオノダン	222 八蔵丸ノ上 ハチゾウマルノウエ
143	鉢窪 ハチクボ	183 段ノ平 ダンノヒラ	223 供養下 クヨウシタ
144	カン畠 カンバタ	184 内畠 ウチハタ	224 内ノ浦 ウチノウラ
145	今小場 イマオバ	185 大曲 オオマガリ	225 休次郎町 キュウジロウマチ
146	大段 オオダン	186 下ヶ原 シモガハラ	226 万次郎町 マンジロウマチ
147	流合 ナガレアイ	187 落ノ元 オトシノモト	227 油木 アブラギ
148	茶ッカノ段 チヤッカノダン	188 島ヶ段 シマガダン	228 大平 オオヒラ
149	毛ノ木松 ケノキマツ	189 矢三ノ口 ヤサンノクチ	229 大平西 オオヒラニシ
150	小平ノ段 コビラノダン	190 小段 コダン	230 桜堀田 サクラホッタ
151	定ノ段 ジョウノダン	191 矢三迫 ヤサンサコ	231 飛越 トビコエ
152	岩塙 イワツカ	192 尾崎 オザキ	232 下出口 シモデグチ
153	野迫 ノサコ	193 石原 イシハラ	233 溝上畠 ミゾウエハタ
154	セメ野 セメノ	194 谷畠 タニハタ	234 墓丸 ハカマル
155	寺床ノ段 テラトコノダン	195 芭蕉迫 バショウサコ	235 上中 カミナカ
156	紫尾山 シビサン	196 蔓山口 ヘゴヤマグチ	236 新村 シンムラ
157	野坂 ノサカ	197 飛松 トビマツ	237 西中 ニシナカ
158	猫石 ネコイシ	198 水ノ頭 ミズノカシラ	238 上桜ノ元 カミサクラノモト
159	君名川 キミナガワ	199 梅ヶ迫 ウメガサコ	239 上桜ノ西 カミサクラノニシ

出水市の小字		(大字 -6 武本②…450)		No4	
240	角石上	カドイシウエ	280	諏訪上	スワノウエ
241	狐ヶ尾	キツネガオ	281	櫛山	ハシヤマ
242	曲尺角	カネカド	282	龍王ノ下	リュウオウノシタ
243	曲尺角東	カネカドヒガシ	283	上蔭丸	カミノマル
244	竹ノ下西	タケノシタニシ	284	諏訪ノ下丸	スワノシタマル
245	休甚町	キユウジンマチ	285	中上屋	ナカウワヤ
246	新村出口	シンムラデグチ	286	図師下	ズシノシタ
247	弥三上	ヤゾウノウエ	287	楠木丸	クスノキマル
248	清水	シミズ	288	下赤木	シモアカギ
249	砂取	スナトリ	289	東大坪	ヒガシオオツボ
250	曲尺西	カネニシ	290	大坪	オオツボ
251	牟田尻	ムタジリ	291	老神	ロウジン
252	砂取ヶ西	スナトリガニシ	292	赤木	アカギ
253	牟田東	ムタヒガシ	293	東赤木	ヒガシアカギ
254	楠元後	クスマトウシロ	294	底水道	ソコスイドウ
255	花園ノ下	ハナゾノシタ	295	馬差場	バサシバ
256	花園	ハナゾノ	296	新川口	シンカワグチ
257	楠元	クスマト	297	上市来	カミイチキ
258	楠元西	クスマトニシ	298	市来	イチキ
259	出水ヶ池下	イズミガイケシタ	299	上赤木	カミアカギ
260	出水ヶ池	イズミガイケ	300	老神上	ロオシンウエ
261	上宮	ジョウグウ	301	西恒森	ニシツネモリ
262	楠元上	クスマトウエ	302	東恒森	ヒガシツネモリ
263	花園上	ハナゾノウエ	303	内梅	ウチガコイ
264	上宮ノ上	ジョウグウノウエ	304	洗田	アライダ
265	中江川野	ナカエガワノ	305	大曲	オオマガリ
266	下江川野	シモエガワノ	306	中大曲	ナカオオマガリ
267	遠屋町	トオヤマチ	307	上洗田	カミアライダ
268	山ノ上町	ヤマノウエマチ	308	上大曲	カミオオマガリ
269	高橋	タカハシ	309	上屋井手	ウワヤイデ
270	下高橋	シモタカハシ	310	江川野田	エガワノダ
271	上出口丸	カミデグチマル	311	上江川野田	カミエガワノダ
272	長野丸	ナガノマル	312	落ノ口	オトシノクチ
273	武本丸	タケモトマル	313	西赤崩	ニシアカクエ
274	木上町	キノウエマチ	314	南赤崩	ミナミアカクエ
275	中出口丸	ナカデグチマル	315	永溝口	ナガミゾグチ
276	観音馬場	カンノンババ	316	西牧野	ニシマキノ
277	観音東	カンノンヒガシ	317	上江川野	カミエガワノ
278	弥陀坂	ミダサカ	318	五郎上	ゴロウエ
279	諏訪	スワ	319	江川野口	エガワノグチ
320	池ノ尾	イケノオ	321	江川野	エガワノ
322	下小野口	シモオノグチ	323	西小野口	ニシオノグチ
324	下大坂	シモオオササ	325	中大坂	ナカオオササ
326	小野口	オノグチ	327	狩俣	カリマタ
328	狩俣上	カリマタウエ	329	大坂	オオササ
330	大崩下	オオグエシタ	331	大崩	オオグエ
332	向合坂	ムコオオサカ	333	向逢坂東	ムコオオサカヒガシ
334	長迫ノ上	ナガサコノウエ	335	長迫鼠	ナガサコジリ
336	長迫	ナガサコ	337	庄左エ門渡	ショウザエモンワタシ
338	西和田	ニシワダ	339	和田	ワダ
340	祭り田	マツリダ	341	下栗毛野	シモクリゲノ
342	栗毛野	クリゲノ	343	山ノ神	ヤマノカミ
344	上前田	ウエマエダ	345	下前田	シモマエダ
346	漆谷	ウルシダニ	347	西前田	ニシマエダ
348	南前田	ミナミエダ	349	悪具口	アクガイグチ
350	後藤屋敷	ゴトウヤシキ	351	上後藤	カミゴトウ
352	後藤ヶ下	ゴトウガシタ	353	後藤口	ゴトウグチ
354	廣渡瀬	ヒロワタセ	355	上廣渡瀬	カミヒロワタセ
356	東廣渡瀬	ヒガシヒロワタセ	357	轟	トドロキ
358	長谷場	ハセバ	359	一傳防	イチデンボウ

出水市の小字		(大字 -6 武本②…450)		No4	
360	夫婦岩	メオトイワ	400	下類越ノ西	シモセゴエノニシ
361	塩鶴	シオヅル	401	樟脳段	ショウノウダン
362	勝目	カツメ	402	丸塚ノ上	マルツカノウエ
363	三斗蒔	サンドマキ	403	平岩道	ヒライワミチ
364	鳴子迫	ナルコサコ	404	梨木	ナシキ
365	知識ノ上	チシキノウエ	405	柿木	カキノキ
366	知識ノ下	チシキノシタ	406	塩山田	シオヤマダ
367	入口橋	イリグチバシ	407	崩ノ平	クエノビラ
368	茅切下	カヤキリシタ	408	浮灰床	ガタヘドコ
369	茅切迫	カヤキリサコ	409	説佛東	セツツヒヒガシ
370	椿原	ツバキバル	410	説佛	セツブツ
371	坂元	サカモト	411	曲	マガリ
372	流合本	ナガレアイモト	412	大ドラ	オオドラ
373	宮田	ミヤダ	413	下冷	シモビエ
374	宮田上	ミヤダウエ	414	堂地	ドウチ
375	青椎段	アオジダン	415	松平西	マツビラニシ
376	南合野	ミナミアイノ	416	松平	マツビラ
377	丸塚	マルツカ	417	尾羅北	オラキタ
378	萩ノ平	ハギノヒラ	418	古金山	コガネヤマ
379	長野渡	ナガノワタシ	419	堂地東	ドウチヒガシ
380	後迫	アトサコ	420	堂地上	ドウチウエ
381	後迫ノ上	アトサコノウエ	421	元屋地	モトヤジ
382	馬髭	ウマヒゲ	422	尾羅西	オラニシ
383	獺越下	セゴエシタ	423	上宮道	ジョウグウミチ
384	獺越	セゴエ	424	上宮嶽	ジョウグウダケ
385	山ノ神谷	ヤマノカミダニ	425	宇都ノ口	ウトノクチ
386	下小木場	シモココバ	426	貳反王ノ上	ニタンノウノウエ
387	利泓	リク	427	貳反王	ニタンノウ
388	中小木場	ナカココバ	428	下宇都	シモウト
389	上小木場	カミココバ	429	冷ノ口	ヒエノクチ
390	勘場ノ谷	カンバンタニ	430	丸岩	マルイワ
391	床屋	トコヤ	431	葉山	ハヤマ
392	床屋ノ上	トコヤノウエ	432	竹ノ下	タケノシタ
393	床屋ノ西	トコヤノニシ	433	曲ノ上	マガリノウエ
394	勘場谷西	カンバタニニシ	434	曲ノ西	マガリノニシ
395	上小木場西	カミココバニシ	435	高江ノ段	タカエノダン
396	中小木場西	ナカココバニシ	436	平岩ノ段	ヒライワノダン
397	下小木場ノ西	シモココバノニシ	437	平岩下段	ヒライワシモダン
398	山ノ神ノ西	ヤマノカミノニシ	438	上崩	カミグエ
399	獺越ノ西	セゴエノニシ	439	長飯野段	ナガイノダン

出水市の小字(大字9 上知識…53 ·27 上知識町…30 ·16下知識…35) NO5

9 大字	上知識…53	40 松木田	マツキタ	・26 八幡出口	ハチマンデグチ
1 慶頭原	ケイトウバル	41 松木	マツキ	・27 馬留	マドメ
2 山下	ヤマシタ	42 大坪	オオツボ	・28 新馬留	シンマドメ
3 野中田	ノナカダ	43 クン六	クンロク	・29 八幡西	ハチマンニシ
4 正八幡	ショウハチマン	44 仁入来	ニイリキ	・30 八幡原	ハチマンバル
5 山ノ内	ヤマノウチ	45 新仁入来	シンニイリキ	16 大字 下知識…35	
6 高見	タカミ	46 春木	ハルキ	1 下川畠	シモカワバタ
7 溜池西	タメイケニシ	47 樋掛	トイカケ	2 古河	フルカワ
8 鶴	ツル	48 ハゼ町	ハゼマチ	3 西今古賀	ニシイマコガ
9 西村	ニシムラ	49 上松寄	ウエマツヨリ	4 原園	ハラソノ
10 再願	サイガン	50 袴田	ハカマダ	5 古塘	フルトモ
11 桧木東	ヒノキヒガシ	51 迫田	サコダ	6 射場ノ後	イバノウシロ
12 向江原	ムカエバル	52 下平田	シモヒラタ	7 落ノ上	オトシノウエ
13 堀込	ホリコミ	53 半次郎町	ハンジロウマチ	8 町ノ西	マチノニシ
14 前田平	マエダヒラ	27 大字 上知識町…30		9 東堂迫	ヒガシドウサコ
15 上松	ウエマツ	1 権現原	ゴンゲンバル	10 北堂迫	キタドウサコ
16 坂口	サカグチ	2 彦ノ園	ヒコノソノ	11 西抜川	ニシヌキガワ
17 紫尾ノ宮	シビノミヤ	3 八幡	ハチマン	12 抜川後	ヌキガワウシロ
18 時堂	トキドウ	4 八幡前	ハチマンマエ	13 上古井樋前	カミフルイビマエ
19 下春川	シモハルカワ	5 高札本	タカフダモト	14 中古井樋前	ナカフルイビマエ
20 下郡山	シモコオリヤマ	6 切明原	キリアケバラ	15 古井樋	フルイビ
21 園田	ソノダ	7 宮内原	ミヤウチバラ	16 西永江	ニシナガエ
22 田ノ神	タノカミ	8 水通	ミズトオシ	17 下古沼	シモフルスマ
23 道場園	ドウジョウゾノ	9 大人	オオヒト	18 西古沼	ニシフルスマ
24 拝松	ハイマツ	10 東茶園堀	ヒガシチャエンボリ	19 新藏ノ前	シングラノマエ
25 巣木園	スノキゾノ	11 モタリ	モタリ	20 西新藏	ニシシングラ
26 川除	カワヨケ	12 茶園堀	チャエンボリ	21 下野下	シモノシタ
27 諫訪下	スワシタ	13 薄山	ススキヤマ	22 西福	ニシフク
28 江ゴ	エゴ	14 西茶園堀	ニシチャエンボリ	23 堂ノ前	ドウノマエ
29 桑水流	クワズル	15 五番入込	ゴパンイレコミ	24 前原	マエバラ
30 横ノ口	テノクチ	16 鎌田堀	カマダボリ	25 中尾	ナカオ
31 川原新田	カワラシンデン	17 千本付	センボンツキ	26 南中尾	ミナミナカオ
32 権内樋	ゴンナイヒ	18 南血刺場	ミナミチサシバ	27 山中迫	ヤマナカサコ
33 持溝	モチミゾ	19 下鎌田堀	シモカマダボリ	28 中高城	ナカタカジョウ
34 梅木	ウメキ	20 下茶園堀	シモチャエンボリ	29 福ノ江通	フクノエドオリ
35 天引	アマビキ	21 窪畠	クボハタ	30 北樋木	キタタブノキ
36 上天引	ウエアマビキ	22 天神崎	テンジンサキ	31 東樋木	ヒガシタブノキ
37 築口	ヤナグチ	23 再願	サイガン	32 南向江原	ミナミムカエバル
38 柏木	カシワギ	24 南水溜	ミナミミズタマリ	33 大野橋上	オオノハシウエ
39 横尾ノ下	ヨコオノシタ	25 北水溜	キタミズタマリ	34 正佛園	ショウブツエン

◎・24～・30は旧大字武本

出水市の小字(大字 ·31下知識町…48 ·14下鰐渕…2 ·30下鰐町…34 ·20六月田…14) No5

31 大字	下知識町…48	40 津山	ツヤマ	28 高細工	タカサイク
1 上松	ウエマツ	41 駄木	ダキ	29 小神ノ元	コカミノモト
2 上松道下	ウエマツミチシタ	42 堂ノ前	ドウノマエ	30 山ノ口	ヤマノクチ
3 標木	オオテキ	43 前原	マエバラ	31 山ノ段	ヤマノダン
4 谷城	タニジョウ	44 駄木ノ上	ダキノウエ	32 狩集	カヤツマイ
5 高次田	コイデン	45 正佛園	ショウブツエン	33 中坪	ナカツボ
6 東内城	ヒガシウチジョウ	46 上村	カミムラ	34 関外	セキガイ
7 西内城	ニシウチジョウ	47 庵木園	アンノキエン	20 大字 六月田…14	
8 御堂	ミドウ	48 上ノ山	ウエノヤマ	1 青木	アオキ
9 井上	イノウエ	14 大字 下鰐渕…2		2 川原田	カワハラダ
10 寺ノ下	テラノシタ	1 龍木田	タツキダ	3 薫陸	クンロク
11 川原	カワハラ	2 七次	ヒチジ	4 帯田	オビタ
12 下川畠	シモカワバタ	30 大字 下鰐町…34		5 下川原	シモカワハラ
13 古河	フルカワ	1 石原田	イシハラダ	6 堤	ツツミ
14 西古河	ニシフルカワ	2 才平	サイヒラ	7 垂門川原	タレカドカワラ
15 宮ノ下	ミヤノシタ	3 高柳	タカヤナギ	8 八ッ枝	ヤツエダ
16 上高棚	カミタカタナ	4 窪田	クボタ	9 古川	フルカワ
17 上五後森	カミゴトウモリ	5 森ノ下	モリノシタ	10 高次田	コイデン
18 落ノ脇	オトシノワキ	6 才脇	サイワキ	11 上松	ウエマツ
19 弓場ノ前	イバノマエ	7 坂下	サカシタ	12 南上松	ミナミウエマツ
20 上吉ヶ島	カミヨシガシマ	8 溝田	ミゾタ	13 堤丸	ツツミマル
21 上友田	カミトモダ	9 塩入	シオイリ	14 塩屋	シオヤ
22 長田	ナガタ	10 高棚	タカタナ	・1～・6は [その4] 六月田追加分	
23 樋渡	ヒワタシ	11 坪屋敷	ツボヤシキ	・7～・10は 「その3」 文化町	
24 芦原	アシハラ	12 坪ノ後	ツボメウシロ	・11～・13は [その1] 知識町	
25 南友田	ミナミトモダ	13 野間	ノマ		
26 下野下	シモノシタ	14 外間	ホカマ		
27 友田	トモダ	15 永坂	ナガサカ		
28 東平牟田	ヒガシヒラムタ	16 永坂下元段	ナガサカシタモトダン		
29 松元	マツモト	17 野間原	ノマバル		
30 東瀬戸口	ヒガシセトグチ	18 堀ノ内	ホリノウチ		
31 西宮ノ脇	ニシミヤノワキ	19 坪ノ前	ツボノマエ		
32 宮ノ前	ミヤノマエ	20 善迫	ヨシザコ		
33 田頭	タガシラ	21 加紫久利山	カシクリヤマ		
34 野添	ノゾエ	22 野畠	ノバタ		
35 東霧降	ヒガシキリフリ	23 上畠	ウエハタ		
36 西福	ニシフク	24 鬼塚	オニツカ		
37 椿	カコイ	25 川路	カワジ		
38 中原	ナカハラ	26 御崎	ミサキ		
39 小松原	コマツバラ	27 平松	ヒラマツ		

・1～・6は [その4] 六月田追加分

・7～・10は 「その3」 文化町

・11～・13は [その1] 知識町

出水市の小字(大字)・22莊…90 ・24向江町…51

No6

22 大字 莊…90		40 溝上	ミゾウエ	80 峯	ミネ
1 宮田	ミヤダ	41 松山	マツヤマ	81 山ノ神	ヤマノカミ
2 西ノ下	ニシノシタ	42 稲荷	イナリ	82 休太郎	キュウタロウ
3 友ノ上	トモノウエ	43 溝合	ミゾアワセ	83 古畠	フルハタ
4 田ノ神	タノカミ	44 東浜	ヒガシハマ	84 下ノ口	シモノクチ
5 西ノ川	ニシノカワ	45 北浜	キタハマ	85 小島	コジマ
6 天神丸	テンジンマル	46 塩留	シオドメ	86 上桂	ウエカツラ
7 供田	トモダ	47 西ノ浜	ニシノハマ	87 下桂	シモカツラ
8 友添	トモゾエ	48 角田	カドタ	88 東干拓	ヒガシカンタク
9 古井樋	フルイビ	49 脇田	ワキタ	89 西干拓	ニシカンタク
10 鶴来丸	ツルキマル	50 道添	ミチゾエ	90 川中	カワナカ
24 大字 向江町…51					
11 塩入	シオイリ	51 塩止	シオドメ	・1 専修寺	センシュウジ
12 上塩入	カミシオイリ	52 中道	ナカミチ	・2 長谷場	ハセバ
13 松本	マツモト	53 上鶴	カミヅル	・3 北並松	キタナミマツ
14 丸山	マルヤマ	54 下鶴	シモヅル	・4 田中	タナカ
15 尾崎	オザキ	55 浜田	ハマダ	・5 郡山	コオリヤマ
16 上須	ウエス	56 芳原	ヨシハラ	・6 平川打出	タイラガワタチシ
17 桑水流	クワズル	57 松原	マツバラ	・7 調所丸	チヨウショガマル
18 西尾	ニシオ	58 脇道	ワキミチ	59 赤	アカ
19 田渕	タブチ	60 前平	マエビラ	61 前岡	マエオカ
20 外畠	ホカハタ	62 中村	ナカムラ	63 下村	シモムラ
21 小村	コムラ	64 平	タイラ	65 峰岡	ミネオカ
22 堀ノ内	ホリノウチ	66 村上	ムラカミ	67 払畠	ハライバタ
23 中園	ナカゾノ	68 脇迫	ワキザコ	69 迫田	サコダ
24 上園	ウエゾノ	70 田上	タガミ	71 北岡	キタオカ
25 宮元	ミヤモト	72 山畠	ヤマハタ	73 北平	キタヒラ
26 焼山	ヤキヤマ	74 外平	ソトビラ	75 下岡	シタオカ
27 峰元	ミネモト	76 乘越	ノリコエ	77 中岡	ナカオカ
28 川俣	カワマタ	78 谷	タニ	79 古山	フルヤマ
29 外戸口	ケトグチ	80 溝上	ミゾウエ	81 山ノ神	ヤマノカミ
30 山中	ヤマナカ	82 休太郎	キュウタロウ	83 古畠	フルハタ
31 陳	ジン	84 下ノ口	シモノクチ	85 小島	コジマ
32 宮下	ミヤシタ	86 上桂	ウエカツラ	87 下桂	シモカツラ
33 庄迫	ショウサコ	88 東干拓	ヒガシカンタク	89 西干拓	ニシカンタク
34 町	マチ	90 川中	カワナカ	91 塩止	シオドメ
35 大園	オオゾノ	92 脇道	ワキミチ	93 塩止	シオドメ
36 日迫	ヒザコ	94 外平	ソトビラ	95 下岡	シタオカ
37 丸尾	マルオ	96 乘越	ノリコエ	97 中岡	ナカオカ
38 坊	ボウ	98 谷	タニ	99 古山	フルヤマ
39 寺ノ下	テラノシタ	100 城	ミゾウエ	101 城	ミゾウエ

◎・1～7は旧大字上知識 他は旧武本

出水市の小字(大字)・24向江町…51 ・25中央町…60 ・26明神町…46

No6

29 下柿ノ内	シモカキノウチ	・17 横尾ノ下	ヨコオノシタ	58 南水溜	ミナミミズタマリ
30 地蔵下	ジゾオシタ	・18 長溝	ナガミゾ	59 北水溜	キタミズタマリ
31 柿ノ内	カキノウチ	・19 カキフセ	カキフセ	60 八幡出口	ハチマンデグチ
32 陀佛	ダブツ	・20 帆木ノ上	ホキノウエ	26 大字	明神町…46
33 現王園	ゲンノオソノ	・21 大將軍	タイショウグン	・1 渡口	ワタリグチ
34 現王跡	ゲンノオアト	・22 洗越	アライゴシ	・2 梶場	カジバ
35 一町畠	イッチョウハタ	・23 壱丁樋	イッチョウイビ	・3 向江春木	ムカエハルキ
36 蟻屋跡	ロウヤノアト	・24 外園	ホカゾノ	・4 東早馬	ヒガシハヤマ
37 帆木ノ上	ホキノウエ	・25 五箇坂	ゴハズサカ	・5 早馬前	ハヤママエ
38 観音町	カンノンチョウ	・26 下り	クダリ	・6 町川原	マチカラ
39 東松下	ヒガシマツシタ	・27 高樋	タカイビ	7 下川畑	シモカワバタ
40 中松下	ナカマツシタ	・28 風呂古	フロノコ	8 古河	フルカワ
41 松下	マツシタ	・29 成願寺	ジョウガンジ	9 野中	ノナカ
42 井枕	イマクラ	・30 三光院	サンコウイン	10 西野中	ニシノナカ
43 竹ノ山後	タケノヤマウシロ	・31 田中	タナカ	11 東森木	ヒガシモリキ
44 山王	サンノウ	・32 平良川打出し	タイラガワタチダシ	12 溝添	ミゾソエ
45 山王脇	サンノウワキ	・33 調所丸	チヨウショガマル	13 上今村	カミイマムラ
46 上中原	カミナカハラ	・34 東旦花	ヒガシタンガ	14 今村川原	イマムラカワラ
47 下中原	シモナカハラ	・35 西旦花	ニシタンガ	15 北今村川原	キタイマムラカワラ
48 春日上	カスガウエ	36 原	ハラ	16 中今村	ナカイマムラ
49 三角田	ミスミダ	37 上野原	カンノハラ	17 樋掛	トイカケ
50 三角畠	ミスミバタ	38 並松	ナミマツ	18 中村	ナカムラ
51 茶木原	チャノキバラ	39 東中原	ヒガシナカハラ	19 上新開	カミシンカイ
25 大字 中央町…60					
・1 長谷場	ハセバ	40 床湧	トコワキ	20 中新開	ナカシンカイ
・2 八坊	ハチボウ	41 春日前	カスガマエ	21 柳原	ヤナギハラ
・3 北並松	キタナミマツ	42 春日脇	カスガワキ	22 北溝添	キタミゾソエ
・4 天神原	テンジンバル	43 春日	カスガ	23 小井手園	コイデソノ
・5 権現崎	ゴンゲンザキ	44 春日上	カスガウエ	24 川添	カワソエ
・6 外園前	ホカゾノマエ	45 茶木原	チャノキバラ	25 川俣	カワマタ
・7 辻	ツジ	46 上成水	カミナリミズ	26 今古賀	イマコガ
・8 市之住連(上)	イチノシメ(上)	47 下成水	シモナリミズ	27 北今古賀	キタイマコガ
・9 佛園	ブツゾノ	48 塚込	ツカゴメ	28 西今古賀	ニシイマコガ
・10 大崎	オオサキ	49 比丘尼園	ビクニゾノ	29 原園	ハラゾノ
・11 窪	クボ	50 春日後	カスガウシロ	30 北原園	キタハラゾノ
・12 愛除院	アイジョイン	51 清水田	シミズダ	31 上松崎	ウエマツサキ
・13 御供田	ゴクダ	52 古房	フルボウ	32 下松崎	シモマツサキ
・14 新村	シンムラ	53 市之住連(式)	イチノシメ(式)	33 上高瀬	カミタカセ
・15 権現原	ゴンゲンバル	54 八幡	ハチマン	34 下高瀬	シモタカセ
・16 八幡	ハチマン	55 北今熊野	キタイマクマノ	35 上羽山	カミハヤマ
		56 南今熊野	ミナミイマクマノ	36 中羽山	ナカハヤマ
		57 西入込	ニシイリコメ		

◎・1～6は旧大字六月田 他は旧下知識

26 大字 明神町…46	
37 西松崎	ニシマツサキ
38 川ノ上	カワノウエ
39 一丁田	イッチョウダ
40 出来釜	デキガマ
41 筒川	ツツカワ
42 上羽山川原	カミハヤマカワラ
43 中羽山川原	ナカハヤマカワラ
44 下羽山川原	シモハヤマカワラ
45 北羽山川原	キタハヤマカワラ
46 落ノ上	オトシノウエ
28 大字 五万石町…42	
1 入込南	イリゴメミナミ
2 北堀の内	キタホリノウチ
3 山王西	サンノウニシ
29 大字 西出水町…63	
4 築瀬町	ヤナセマチ
5 石坂	イシザカ
6 並木堀	ナミキボリ
7 上堀ノ内	カミホリノウチ
8 中堀ノ内	ナカホリノウチ
9 稲荷前	イナリマエ
10 鳥居東	トリイヒガシ
11 政所門	マドコロモン
12 西堀	ニシボリ
13 花立西	ハナタテニシ
14 花立南	ハナタテミナミ
15 大迫町	オオサコマチ
16 内ノ浦	ウチノウラ
17 龍王下	リュウオウシタ
18 上薙丸	カミソノマル
19 諏訪下丸	スワシタマル
20 東上屋	ヒガシウワヤ
21 中上屋	ナカウワヤ
22 石塚丸	イシヅカマル
23 西上屋	ニシウワヤ
24 上屋出口	ウワヤデグチ
25 田畠町	タバタマチ
26 下上屋	シモウワヤ
27 平郡丸	ヘグリマル
28 野添原	ノゾエバル
29 野添上	ノゾエウエ
30 本田原	ホンダハル
31 西野添	ニシノゾエ
32 石坂ノ上	イシザカノウエ
33 東野添	ヒガシノゾエ
34 野添田	ノゾエダ
35 野添前	ノゾエマエ
36 平郡前	ヘグリマエ
37 下山下	シモヤマシタ
38 山下	ヤマシタ
39 土器町	ドキマチ
40 図師ノ下	ズシノシタ
41 楠木丸	クスノキマル
42 上山下	ウエヤマシタ
43 溜池西	タメイケヤマヒガシ
44 溜池原	タメイケヤマヒガシ
45 中山	ナカヤマ
46 下吐瀬	シモハカセ
47 中吐瀬	ナカハカセ
48 上吐瀬	カミハカセ
49 池ノ下	イケノシタ
50 入込南	イリゴメミナミ
51 稲荷前	イナリマエ
52 鳥居東	トリイヒガシ
53 政所門	マドコロモン
54 西堀	ニシボリ
55 西堀ノ角	ニシホリノカド
56 南政所	ミナミマドコロ
57 政所	マドコロ
58 池ノ南	イケノミナミ
59 池	イケ
60 稲荷	イナリ
61 靴掛	クツカケ
62 西牟田	ニシムタ
63 東牟田	ヒガシムタ
64 水溜	ミズタマリ
65 水溜西	ミズタマリニシ

◎・1溜池は旧大字上知識 他は武本

32 大字 福ノ江町…51	
1 東轟川	ヒガシドロキガワ
2 轟川	トドロキガワ
3 新蔵	シングラ
4 西新蔵	ニシシングラ
5 下脇牟田	シモワキムタ
6 新蔵ノ前	シングラノマエ
7 下深牟田	シモフカムタ
8 西杉ノ元	ニシスギノモト
9 水呑	ミズノミ
10 南新蔵	ミナミシングラ
11 中脇牟田	ナカワキムタ
12 中新蔵	ナカシングラ
13 上新蔵	カミシングラ
14 下山中	シモヤマナカ
15 枝ノ場	ハゼノバ
16 新蔵後	シングラウシロ
17 向井野	ムカイノ
18 東向井野	ヒガシムカイノ
19 西福ノ江	ニシフクノエ
20 中福ノ江	ナカフクノエ
21 東福ノ江	ヒガシフクノエ
22 西焼山	ニシヤキヤマ
23 焼山	ヤキヤマ
24 下野下	シモノシタ
25 長松寺	チヨウマツジ
26 黒鳥川	クロトリガワ
27 北福ノ江	キタフクノエ
28 西福	ニシフク
29 駄木	ダキ
30 堂ノ前	ドウノマエ
31 南前原	ミナミマエバラ
32 前原	マエバラ
33 西前原	ニシマエバラ
34 南黒鳥川	ミナミクロトリガワ
35 穴水	アナミズ
36 東山中迫	ヒガシヤマナカサコ
37 南焼山	ミナミヤキヤマ
38 北山中	キタヤマナカ
39 下高城	シモタカジョウ
40 西山中	ニシヤマナカ
41 中高城	ナカタカジョウ
42 高城	タカジョウ
43 福ノ江通	フクノエドオリ
44 茶園迫	チャエンサコ
45 南石橋	ミナミイシバシ
46 石橋	イシバシ
47 向江原	ムカエバル
48 時任原	トキトウバル
49 八幡原	ハチマンバル
50 駄木ノ上	ダキノウエ
51 正佛園	ショウブツエン
33 大字 今釜町…51	
1 西今古賀	ニシイマコガ
2 原園	ハラゾノ
3 北原園	キタハラゾノ
4 川ノ上	カワノウエ
5 壱町田	イッチョウダ
6 築地口	ツキジグチ
7 芦原	アシハラ
8 宮ノ後	ミヤノウシロ
9 西堤ノ口	ニシツツミノクチ
10 北丸山	キタマルヤマ
11 汐入口	シオイリグチ
12 南丸山	ミナミマルヤマ
13 古塘	フルトモ
14 下抜川	シモヌキガワ
15 中抜川	ナカヌキガワ
16 宮島	ミヤジマ
17 宮ノ脇	ミヤノワキ
18 宮ノ前	ミヤノマエ
19 中洲	ナカス
20 上抜川	カミヌキガワ
21 橋ノ上	ハシノウエ
22 上杭取	カミクイトリ
23 東中洲	ヒガシナカス
24 中杭取	ナカクイトリ
25 下杭取	シモクイトリ
26 落ノ下	オトシノシタ
27 射場之後	イバノウシロ
◎「出水郷土誌」字図追加字数 (小字一覧表その3に掲載)	
・福ノ江町…5	
・今釜町…1 2	
・明神町…6	

出水市の小字 (大字 34 境町…47 35 美原町…37) No8

34 大字 境町…47	40 上櫓木 カミロギ	35 大字 美原町…37
1 外間 ホカマ	41 柳ノ元 ヤナギノモト	1 大坪 オオツボ
2 上窪 カミクボ	42 上針原 カミハリハラ	2 山本 ヤマモト
3 下窪 シモクボ	43 孫山 マゴヤマ	3 八反田 ハッタンダ
4 供養ノ元 クヨウノモト	44 永坂 ナガサカ	4 見入木 ミイリキ
5 中塩屋 ナカシオヤ	45 永坂下ノ段 ナガサカシタノダン	5 小坂元 コサカモト
6 大丸 オオマル	46 野間原 ノマバル	6 榎木田 エノキダ
7 坂元 サカモト	47 関外 セキガイ	7 杉坪 スギツボ
8 小針原 コハリハラ		8 竹原町 タケハラチョウ
9 下針原 シモハリハラ		9 大道田 オオミチダ
10 上ノ段 ウエノダン		10 見上田 ミアゲダ
11 前ノ段 マエノダン		11 桑原 クワバラ
12 櫓木下新開 ロギシタシンカイ		12 山ノ田 ヤマノタ
13 下櫓木 シモロギ		13 西浦田 ニシウラタ
14 櫓木井ノ元 ロギイノモト		14 上ノ原 ウエノハラ
15 磯部 イソベ		15 永福 エイフク
16 御手洗道下 ミタライミチシタ		16 中平 ナカヒラ
17 井手山 イデヤマ		17 迫田 サコダ
18 塩屋 シオヤ		18 溝口 ミゾグチ
19 岩崎 イワサキ		19 浦田 ウラタ
20 屋敷ノ内 ヤシキノウチ		20 鎧 アブミ
21 州先 スザキ		21 安原 ヤスハラ
22 池ノ元 イケノモト		22 御供田 ゴクダ
23 丹荷 タンガ		23 開 ヒラキ
24 川尻 カワシリ		24 諏訪之後 スワノウシロ
25 天神ノ上 テンジンノウエ		25 犬窪 イヌクボ
26 丸山 マルヤマ		26 朝熊 アサクマ
27 川涯 カワギワ		27 熊野前 クマノマエ
28 田ノ神ノ元 タノカミノモト		28 郷ノ原 ゴウノハル
29 川畑 カワバタ		29 和田 ワダ
30 切開 キリヒラキ		30 間伏段 マブセダン
31 茶屋ノ下 チャヤノシタ		31 牛隱 ウシカクシ
32 小笠原 コササバル		32 安原ノ上 ヤスハラノウエ
33 尼ヶ迫 アマガサコ		33 外平 ソトビラ
34 茶屋ノ元 チャヤノモト		34 中坪 ナカツボ
35 笠原 ササバル		35 内野 ウチノ
36 鳥越平 トリゴエビラ		36 山陰平 ヤマカゲビラ
37 宇都ノ口 ウトノクチ		37 先達 センダチ
38 御手洗道上 ミタライミチウエ		
39 櫓木稻荷平 ロギイナリビラ		

「出水郷土誌」字図(本町…17 知識町…4)・出水大字図から (大字 蘆町…36 知識町…20) その1

基台⑦「郷土誌」本町…17(旧・武本)		基台⑧ 蘆町…36(旧・武本)		基台⑫ 知識町…20	
1 杉田	(「出水郷土誌」字図)	1 旦花	(*本町9) クンガ*	1 権現原	(*上知識町1・中央町15)
2 西杉田	(「出水郷土誌」字図)	2 清水		2 山ノ内	
3 杉田道下	(「出水郷土誌」字図)	3 杉ノ内		3 再願	(*上知識町23)
4 紺屋町	(「出水郷土誌」字図)	4 竪馬場		4 南血刺場	(*上知識町18)
5 町ノ後	* マチノウシロ	5 大手口		5 西血刺場	
6 中町	(「出水郷土誌」字図)	6 諏訪ノ下		6 八斗蔵	(*文化町8)
7 上町	* ウエマチ	7 諏訪脇		7 正八幡	(*文化町7)
8 町ノ口	(「出水郷土誌」字図)	8 諏訪前		8 紫尾ノ宮	(*文化町9)
9 旦花	(*蘆町1) クンガ*	9 諏訪馬場		9 坂口	(*文化町10)
10 中川原	(「出水郷土誌」字図)	10 蘆		10 上松(六)(下)	(*文化町1314)
11 上中川原	(「出水郷土誌」字図)	11 城内		11 南上松	(*文化町12)
12 下松原川	(「出水郷土誌」字図)	12 追ノ口		12 上ノ山	(*下知識町48)
13 松原川	(*武本1)	13 花見ヶ城		13 庵木園	(*下知識町47)
14 落ノ東	(*武本2)	14 尾路ノ後		14 前田平	(*文化町11)
15 落ノ下	(*武本3)	15 上ノ馬場		15 桧木山	(*平和町19)
16 大井手ノ元 (*蘆町26)		16 才願		16 桧木東	
17 井手ノ原 (*蘆町27)		17 北才願		17 向江原	
*は他の大字とダブリ		18 東才願		18 堀込	
19 田前		19 上吉子	(平和町?)	19 堤原	
20 山崎		20 堤原		「出水郷土誌」字図にあり	
21 上山崎		21 奥山崎		1 堤丸	(「出水郷土誌」字図)
22 五郎頭		23 天神原		2 平山	(「出水郷土誌」字図)
24 金神		25 血刺馬		3 上堀込	(「出水郷土誌」字図)
26 大井手ノ元 (*本町16)		26 血刺馬		4 血刺馬	(「出水郷土誌」字図)
27 井手ノ原 (*本町17)		27 西鰐渕		◎知識町(20+4)	
28 西鰐渕		28 鰐渕		・ 旧上知識(17?)	
29 築		30 築		・ 旧下知識(4?)	
31 水天		31 水天		上ノ山・庵木園	
32 水天後		32 水天後		上吉子・堤原	
33 水天上		33 水天上		・ 旧六月田(3?)	
34 土手		34 土手		上松・南上松・堤丸	
35 キリフリ		35 キリフリ			
36 柿山		36 柿山			
*は他の大字とダブリ					

出水市 大字図から（大字 平和町・73）・「出水郷土誌」字図（平和町・11） その2

基台⑩ 平和町..73					平和町..「出水郷土誌」字図にあり
1	高見	(旧上知識)	40	西古溝	(旧下知識)
2	大山溝	(旧上知識)	41	南馬道上	(旧下知識)
3	西桝場	(旧上知識)	42	馬道上	(旧下知識)
4	太鼓橋	(旧上知識)	43	西之迫	(旧下知識)
5	東太田堀	(旧上知識)	44	前之迫	(旧下知識)
6	太田堀	(旧上知識)	45	大野村西	(旧下知識)
7	母溝脇	(旧上知識)	46	下割	(旧下知識)
8	溝下	(旧上知識)	47	南大野村	(旧下知識)
9	大曲	(旧上知識)	48	中大野村	(旧下知識)
10	本児玉迫	(旧上知識)	49	大野村上	(旧下知識)
11	参考境(上)	(旧上知識)	50	橋之口	(旧下知識)
12	八人持	(旧上知識)	51	北大野	(旧下知識)
13	壱町畠	(旧上知識)	52	大野後	(旧下知識)
14	桝場	(旧上知識)	53	大野村	(旧下知識)
15	高見下	(旧上知識)	54	牛喰迫	(旧下知識)
16	新立西	(旧上知識)	55	伊勢	(旧下知識)
17	下鎌田堀	(旧上知識)	56	伊勢上	(旧下知識)
18	新立	(旧上知識)	57	伊勢元	(旧下知識)
19	桧木山	(旧上知識)	58	北吉子	(旧下知識)
20	塚本	(旧上知識)	59	下吉子	(旧下知識)
21	上使道東	(旧上知識)	60	梨木原	(旧下知識)
22	吉子	(旧上知識)	61	南梨木原	(旧下知識)
23	五衛門下	(旧上知識)	62	水道口	(旧下知識)
24	佐五ヶ南	(旧下知識)	63	東溝上	(旧下知識)
25	佐五ヶ西	(旧下知識)	64	中溝上	(旧下知識)
26	佐五ヶ下	(旧下知識)	65	大野橋上	(旧下知識)
27	笹野	(旧下知識)	66	東柿木	(旧下知識)
28	西笹野	(旧下知識)	67	北柿木	(旧下知識)
29	母溝脇	(旧下知識)	68	柿木	(旧下知識)
30	金松	(旧下知識)	69	南柿木	(旧下知識)
31	東石坂	(旧下知識)	70	勝高城	(旧下知識)
32	中古沼	(旧下知識)	71	南高城	(旧下知識)
33	下石坂	(旧下知識)	72	上高城迫	(旧下知識)
34	下古沼	(旧下知識)	73	下高城迫	(旧下知識)
35	古溝南				
36	参考境(下)	(旧下知識)			
37	母溝東	(旧下知識)			
38	東古溝	(旧下知識)			
39	中古溝	(旧下知識)			

出水市大字図から・出水市の小字 (大字 大野原町…81) その2

基台⑪ 大野原町・81					
1	萬田山	(旧上知識)	40	武本藏道脇	(旧武本)
2	西村	(旧上知識)	41	捨溝尻	(旧武本)
3	児玉迫	(旧上知識)	42	上野丸	(旧武本)
4	下論山	(旧上知識)	43	三角原西	(旧武本)
5	論地山	(旧上知識)	44	三角原上	(*武本218)
6	北論山	(旧上知識)	45	捨溝ノ上	(*武本219)
7	鶴	(旧上知識)	46	捨溝東	(*武本220)
8	会所脇	(旧上知識)	47	木引道	(*武本221)
9	会所	(旧上知識)	48	木引道西	(旧武本)
10	会所前	(旧上知識)	49	下大野原下	(旧武本)
11	染川	(旧上知識)	50	下大野原	(旧武本)
12	小田ヶ前	(旧上知識)	51	下大野原東	(旧武本)
13	遠竹	(旧上知識)	52	中通り	(*西出水町27)
14	水分	(旧上知識)	53	中通り上	(*西出水町26)
15	溜池西	(旧上知識)	54	並木下	(旧武本)
16	溜池	(旧上知識)	55	並木下西	(旧武本)
17	千本付	(旧上知識)	56	三百塚	(旧武本)
18	溜池山上西	(旧武本)	57	三百塚ノ下	(旧武本)
19	溜池山西	(*武本216)	58	三百塚ノ西	(旧武本)
20	上知識境	(旧武本)	59	嘉三丸	(旧武本)
21	船橋東	(旧武本)	60	太鞍橋下	(旧武本)
22	船橋東上	(旧武本)	61	太鞍橋	(旧武本)
23	船橋丸	(旧武本)	62	供養西	(旧武本)
24	論山	(*武本217)	63	供養南	(旧武本)
25	論山東	(旧武本)	64	供養塚	(旧武本)
26	上使道	(旧武本)	65	供養下	(旧武本)
27	上使道東	(旧武本)	66	供養田	(*西出水町43)
28	万次郎山	(旧武本)	67	供養東	(*西出水町44)
29	万次郎山東	(旧武本)	68	時吉町	(*西出水町45)
30	八蔵丸	(旧武本)	69	桜堀田	(*武本230)
31	八蔵丸上	(*武本222)	70	大平西	(*武本229)
32	丸岡南	(旧武本)	71	溝上畠	(*武本223)
33	丸岡	(旧武本)	72	市太郎町	(旧武本)
34	丸岡東	(旧武本)	73	上桜ノ元北	(旧武本)
35	丸岡ノ北	(旧武本)	74	飛越	(*武本231)
36	丸岡ノ下	(旧武本)	75	下出口	(*武本232)
37	丸岡北下	(旧武本)	76	四辻東	(旧武本)
38	丸岡北ノ角	(旧武本)	77	四辻	(旧武本)
39	蔵道ノ下	(旧武本)	78	宮田町	(旧武本)
			79	射場東	(旧武本)

*は他の大字とダブリ

出水市大字図(汐見町・37 浦田町・24) 「出水郷土誌」字図追加(汐見・11 福ノ江・5 今釜12 浦田14) その3

基台⑯ 汐見町・37	
1	洗切
2	船津
3	船津之前
4	迫田
5	藏ノ上
6	藏ノ前
7	長松
8	藏脇
9	藏ノ元
10	轟川
11	轟川尻
12	東土師折
13	中福ノ江
14	東友田道下
15	下友田
16	西ノ前
17	南小次郎川
18	上小次郎川
19	下小次郎川
20	中小次郎川
21	小次郎川後
22	西小次郎川
23	西本蔵
24	上白渕
25	下白渕
26	下恵美須
27	南恵美須
28	上恵美須
29	東恵美須
30	南古井樋前
31	西六拾間
32	永江
33	堤ノ下
34	東芦原
35	西芦原
36	井樋ノ口
37	井樋尻

⑯汐見町・「出水郷土誌」字図追加	
1	東友田 (14東友田道下?)
2	本蔵 (9蔵ノ元?)
3	上古井樋前
4	中古井樋前
5	古井樋
6	西永江
7	北桟木場
8	西桟木場
9	北轟川
10	伊勢脇
11	上蛇渕
32福ノ江町・「出水郷土誌」字図追加	
1	南向江原
2	中尾
3	南中尾
4	山中迫
5	上高城
33今釜町・「出水郷土誌」字図追加	
1	西川
2	塘ノ前
3	高洲
4	北高洲
5	西堂迫
6	中八反川原
7	下八反川原
8	樋ノ下 (汐見町?)
9	樋ノ口 (汐見町?)
10	中西尾 (汐見町?)
11	下西尾 (汐見町?)
12	南西尾 (汐見町?)
◎すべて旧下知識	
・	汐見町(37+11?)
・	福ノ江町(51+5?)
・	今釜町(51+12?)
・	浦田町(24+14?)

*は他の大字とダブリ

基台⑯ 浦田町・24	
1	參方境(下)
2	雷迫
3	母溝西脇
4	母溝西
5	古溝西脇
6	針石之元
7	石坂
8	西石坂
9	上黒木迫
10	上黒木ノ元
11	南黒木ノ元
12	上古沼
13	東古沼
14	西塚ノ脇
15	本瓦焼
16	上沖牟田
17	中沖牟田
18	西沖牟田
19	上蔵浸
20	蛇渕下
21	下長割
22	本伊勢山
23	新蔵ノ前
24	迫田
「出水郷土誌」字図追加・14	
1	西黒木ノ元
2	中黒木ノ元
3	東黒木ノ元
4	下黒木ノ元
5	西古沼
6	藏浸
7	上長割
8	中深牟田
9	上深牟田
10	塚ノ元
11	中柵
12	西中柵
13	本伊勢上
14	巴

出水市大字図(文化町・47) 「出水郷土誌」字図追加(文化町6 住吉町20 明神町6 下知識町20) その3

基台⑯ 文化町・47	
1	松木田
2	長溝 (*中央町18)
3	横尾下 (*中央町17)
4	慶頭原
5	山下
6	野中田
7	正八幡 (*知識町7)
8	八斗蒔 (*知識町6)
9	紫尾ノ宮 (*知識町8)
10	坂口 (*知識町9)
11	前田平 (*知識町14)
12	南上松 (*知識町11)
13	上松(上)
14	上松(六)
15	拝松
16	祇園前
17	道場園
18	下春川
19	時堂
20	園田
21	下郡山
22	田ノ神
23	巣木園
24	諏訪下
25	川除
26	桑水流
27	井手上
28	高次田
29	古川
30	江ゴ
31	持溝
32	堂ノ迫
33	権内樋
34	八ツ枝
35	垂門川原
36	天引
37	内堂之前
38	梅木
39	今上別府
「出水郷土誌」字図追加・6	
1	北川平
41	下島田
42	島田
43	踊場
44	上天引
45	築口
46	黒杭
47	柏木
31下知識町・「出水郷土誌」字図追加	
1	下高棚 (16上高棚?)
2	中高棚 (16上高棚?)
3	高棚 (16上高棚?)
4	北高棚 (16上高棚?)
5	下五後森 (17上五後森?)
6	中五後森 (17上五後森?)
7	東芦原 (24芦原?)
8	上西ノ田 (15宮/下?)
9	下西ノ田 (15宮/下?)
10	瀬戸口 (30東瀬戸口?)
11	南友田 (27友田?)
12	中友田 (27友田?)
13	西友田 (27友田?)
14	北桺 (26下野下?)
15	桺下 (26下野下?)
16	西霧降 (26下野下?)
17	南平牟田 (36西福?)
18	西平牟田 (36西福?)
19	中平牟田 (36西福?)
20	福ノ江下 (36西福?)
基台⑯「郷土誌」住吉町・20(?)	
1	住吉州 (『出水郷土誌』字図)
2	東名古浦 (『出水郷土誌』字図)
3	北名古浦 (『出水郷土誌』字図)
4	中名古浦 (『出水郷土誌』字図)
5	名古前 (『出水郷土誌』字図)
6	名古惠美須下 (『出水郷土誌』字図)
7	下名古浦 (『出水郷土誌』字図)
8	西名古浦 (『出水郷土誌』字図)
9	西名古前 (『出水郷土誌』字図)
10	堤ノ口 (『出水郷土誌』字図)
11	古井樋 (今釜町?)
12	長割 (今釜町?)
13	東町 (今釜町?)
14	名古下 (今釜町?)
15	北出来釜 (明神町?)
16	伊勢前 (明神町?)
17	船頭田 (明神町?)
18	井樋前 (明神町?)
19	沖ノ洲 (明神町?)
20	北船頭田 (明神町?)
◎すべて旧下知識	
・	住吉町 (20?)
・	下知識町 (48+20?)
◎文化町(47+6)	
・	旧上知識 (46?)
・	旧下知識 (3?)
井手上・高次田	上松道下
古川・八ツ枝	垂門川原・高留
・旧六月田 (4?)	

*は他の大字とダブリ

出水市大字図(黄金町・25 六月田町・26) 「出水郷土誌」字図追加(米ノ津町・17) その4

基台⑬ 黄金町・25	
1 稲葉崎	(旧六月田)
2 楓木(上)	(旧六月田)
3 楓木(六)	(旧六月田)
4 松寄	(旧上知識)
5 上川原	(旧六月田)
6 内川原	(旧六月田)
7 小泉	(旧六月田)
8 鍋田	(旧六月田)
9 皆元	(旧六月田)
10 快六	(旧上知識)
11 橋町	(旧上知識)
12 シヤカ町	(旧上知識)
13 備後町	(旧上知識)
14 七月田	(旧上知識)
15 小長田	(旧上知識)
16 塚原	(旧上知識)
17 笠木	(旧上知識)
18 檜木	(旧上知識)
19 餅田	
20 川原田	(旧下鯖渕)
21 柳田	(旧下鯖渕)
22 鐘突	(旧下鯖渕)
23 松木町	(旧下鯖渕)
24 平田	(旧下鯖渕)
25 牛引	(旧下鯖渕)

基台⑮「郷土誌」米ノ津町・17	
1 イグノ木	(「出水郷土誌」字図)
2 東町	(「出水郷土誌」字図)
3 江添	(「出水郷土誌」字図)
4 川原田	(「出水郷土誌」字図)
5 吉原	(「出水郷土誌」字図)
6 羽下	(「出水郷土誌」字図)
7 御崎	〃 (*下鯖町26)
8 坂下	(*下鯖町7)
9 溝田	(*下鯖町8)
10 高棚	(*下鯖町10)
11 坪屋敷	(*下鯖町11)
12 坪ノ後	(*下鯖町12)
13 野間	(*下鯖町13)
14 外間	(*下鯖町14)
15 塩入	(*下鯖町9)
16 石原田	(*下鯖町1)
17 才平	(*下鯖町2)

*は他の大字とダブリ

基台⑰ 六月田町・26	
1 春木川原	(旧六月田)
2 牛込	(旧六月田)
3 田神前	
4 東川原	(旧六月田)
5 西川原	(旧六月田)
6 大丸	(旧六月田)
7 六反ヶ丸	(旧六月田)
8 下川原	(六月・下川原田?)
9 大町	(旧六月田)
10 板引	(旧六月田)
11 宮町	(旧六月田)
12 雀田	(旧六月田)
13 下平田	(旧上知識)
14 田島松寄	(旧上知識)
15 半次郎町	(旧上知識)
16 堂ノ前	(旧上知識)
17 御立	(旧六月田)
18 島廻	(旧六月田)
19 萬福	(旧六月田)
20 才戸町	(上知識・サイト町?)
21 橋町	(旧上知識)
22 江戸町	(旧上知識)
23 森之元	(旧下鯖渕)
24 六月田	(旧下鯖渕)
25 鍋田	(* 黄金町8)
26 小泉	(* 黄金町7)

「出水郷土誌」字図追加(上鯖渕・15 六月田・18 上知識・25 下鯖渕・30) その4

基台⑬「郷土誌」上鯖渕・追加15	
1 立花木	(昭和町)
2 雀田	(昭和町)
3 稲葉崎	(昭和町)
4 桑木田	
5 橋渡	
6 車田	
7 口之町	
8 永田	
9 羽世町	
10 小口町	(緑町)
11 正暮	(緑町)
12 龍木田	(緑町)
13 西森	
14 東森	
15 東岩崎	(*昭和町)

20六月田・「出水郷土誌」字図追加

1 青木	(昭和町?)
2 三ッ枝	(昭和町?)
3 川原田	(昭和町?)
4 下川原	(昭和町? 緑町?)
5 蒔田	(昭和町? 緑町?)
6 薫陸	(昭和町? 緑町?)
7 堤	(昭和町? 緑町?)
8 追田	(緑町?)
9 前田	(緑町?)
10 五反田	(緑町?)
11 三反ヶ丸	(緑町?)
12 五反ヶ丸	(緑町?)
13 原田川原	(黄金町)
14 今泉川原	(黄金町)
15 中泉	(六月田町)
16 小町	(六月田町)
17 下泉	(六月田町)
18 小川田	(六月田町)

9上知識・「出水郷土誌」字図追加

9上知識・「出水郷土誌」字図追加	
1 松木	(昭和町? 緑町?)
2 大坪	(昭和町? 緑町?)
3 クン六	(昭和町? 緑町?)
4 仁入来	(昭和町? 緑町?)
5 新仁入来	(昭和町? 緑町?)
6 春木	(昭和町? 緑町?)
7 ハゼ町	(昭和町? 緑町?)
8 橋掛	(昭和町? 緑町?)
9 上松寄	(昭和町? 緑町?)
10 追田	(緑町?)
11 袴田	(緑町?)
12 藤弁	(緑町?)
13 東原田	(黄金町? 緑町?)
14 新開	(黄金町? 緑町?)
15 楓木?	(黄金町)
16 口町	(黄金町)
17 平田	(黄金町)
18 有丸	(黄金町?・六月田町?)
19 永田	(六月田町)
20 早戸町	(六月田町)
21 小杢	(六月田町)
22 備中町	(六月田町)
23 海江元	(六月田町)
24 上塩	(六月田町)
25 納木内	(六月田町)

◎「出水郷土誌」字図追加分

〈上鯖渕・六月田・上知識〉

→ ④ 昭和町

⑤ 緑町

14下鯖渕・「出水郷土誌」字図追加

14下鯖渕・「出水郷土誌」字図追加	
1 竜木田	(* 9大字下鯖渕1)
2 七次	(* 9大字下鯖渕2)
3 長崎	(美原町)
4 御志	(美原町)
5 盲目町	(美原町)
6 鳥巣	(美原町)
7 下戸町	(美原町)
8 南面	(美原町)
9 スミ平	(美原町)
10 笹森	(美原町)
11 油田	(美原町)
12 高樋口	(美原町)
13 北森	(黄金町)
14 沖田才平	(黄金町)
15 長迫	(黄金町)
16 梅島	(黄金町)
17 島廻	(黄金町)
18 錬田	(黄金町)
19 小長田	(黄金町)
20 折敷町	(黄金町)
21 大志田	(黄金町)
22 溝越	(黄金町)
23 青田	(黄金町)
24 木杣	(六月田町)
25 植松	(六月田町)
26 黒杭	(六月田町)
27 才戸町	(六月田町)
28 山崎田	(六月田町)
29 塚元	(六月田町)
30 高樋口	(六月田町)

No 1	出水の小字分類																	
	1 信 仰	2 城 郭 ・ 集 落	3 土 地 ・ 区 画	4 市 ・ 街 ・ 交 通	5 水 利 ・ 川 ・ 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 畠	10 瑞 祥	11 自 然	12 位 置	13 形 状	14 目 印	15 浸 食 ・ 崩 壊	16 川 原 ・ 湿 地	17 気 象	18 意 味 不 明
1 大字 上大川内・100																		
1 向江原	ムカエハル													○	*			
2 不動野	フドオノ	○																
3 山ノ口	ヤマノグチ													○				
4 猿喰	サイクル														○	*		
5 須津	スツ				○													清水?
6 岩下	イリシタ													○				
7 中野	ナカノ												*	○				
8 舟木野	フナキノ												○		*			
9 原	ハル												○					
10 柳木ノ元	ヤギノモト												○		*			
11 中牟田	ナカムタ												*			○		
12 西原	ニシハル												*	○				
13 馬流	マナガレ				*										○			
14 篦掛	ミノカケ						*							○			*	
15 轟ノ上	トドロノウエ												○		*			
16 大丸	オオマル							○										
17 僧津	ツツ	○			*													
18 平四郎	ヘイシロウ						○											
19 竜山	トリヤマ												*		○			
20 横ノ木	カヤノキ														○			
21 米ノ山	コメノヤマ												*		○			
22 正現	ショウケン																	?
23 鳥越	トリコエ				○										*			
24 古屋敷	フルヤシキ				○													
25 射場ノ本	バノモト	*	○												*			
26 無神木場	ムジンコバ	○						*										
27 飯良ヶ迫	イガサコ												○		*			
28 岡ノ頭	カガシラ												○					
29 岩下	イリシタ												○					
30 實苗	ミナエ														○			?
31 内坂本	ウチサカモト			*									○					
32 大敵	オオテキ		*												*			?
33 太良原	タラハラ												○		*			
34 轰脇	トドロキ												○		*			
35 轰ノ下	トドロノシタ												○		*			
36 廬ノ木	アンノキ	○																
37 宇都川内	ウトノコチ												○					
38 日当	ヒアテ																○	
39 棚田	タナダ												○					
40 樺木	カバノキ														○			
41																		
42																		
43																		
44																		
45	小計	4	2	1	1	2		1		6	11	8		1	1	2	40	

出水の小字分類																		
No 2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	信 仰	城 郭 ・ 集 落	土 地 ・ 街 ・ 区 画	市 ・ 街 ・ 通 池	水 利 ・ 川 ・ 職 掌	人 名 ・ 開 発 地 名	開 発 地 名	職 業 ・ 産 業	田 瑞 祥	自 然	位 置	形 状	目 印	浸 食 ・ 崩 壊	川 原 ・ 湿 地	氣 象	意 味	不 明
1	上大川内…100																	
79	菅牟田	スカムタ																
80	庵ノ山	アンノヤマ	○															
81	番左エ門	パンザエモン		○														
82	川内	コウチ					○											
83	土地	トチ					○								?			
84	佐土原	サトハラ					○											
85	大水流	オツル		○														
86	赤林	アカバヤシ							○									
87	黒田	クロタ					○											
88	宇津良	ウツラ					○											
89	山中	ヤマナカ					○											
90	大山ノ口	オオヤマノクチ					○											
91	程月	ホツヅキ	*												?			
92	大烟	オバタケ				○												
93	湯川内	ユガワチ			*	○												
94	梨子ヶ迫	ナシカサコ				○			*									
95	山王	サンノウ	○															
96	市ノ野	イチノリ		○				*										
97	下田	シモタ					○											
98	堂ノ上	ドノウエ	○															
99	山下	ヤマシタ					○											
100	流合	ナガレアイ		○														
1～40 小計		4	2	1	1	2		1	6	11	8		1	1	2	40		
41～78		〃	3	1	2	1	4	2	1	11	4	4	4	1			38	
79～100		〃	3		1	2	1	3	6	3	1	1	1	1	22			
1～100 合計		10	3	4	4	3	4	6	1	23	18	4	13	1	2	1	3	100
% %		10	3	4	4	3	4	6	1	23	18	4	13	1	2	1	3	100

3 0 0 1 2 1 0 0 3 0 6 3 0 1 0 1 0 0 21

出水の小字分類																		
N0 2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	信 仰	城 郭 ・ 集 落	土 地 ・ 街 ・ 区 画	市 ・ 街 ・ 通 池	水 利 ・ 川 ・ 職 掌	人 名 ・ 開 発 地 名	開 発 地 名	職 業 ・ 産 業	田 瑞 祥	自 然	位 置	形 状	目 印	浸 食 ・ 崩 壊	川 原 ・ 湿 地	氣 象	意 味	不 明
2	下大川内…126																	
1	堀之内	ホリノウチ	○															
2	堀之上	ホリノウエ		○														
3	塔ノ山	トウノヤマ		○														
4	向原	ムカエハル													○ *			
5	前平	マエヒラ													* ○			
6	前田	マエダ													○			
7	大畠	オオハタ													○			
8	仙如	センニヨ	○													*		
9	鳥鳴	トリナキ	*												○			
10	祭田原	サイタハル	○															
11	下村	シモムラ		*											○			
12	中村	ナカムラ		*											○			
13	上村	ウエムラ		*											○			
14	新川平	シンカワヒラ													○			
15	新川	シンカワ													○			
16	大曲	ウマカイ													*			
17	炭頭	スミカシラ													○	*		
18	瀬戸口	セトグチ													○			
19	宇都	ウト													○			
20	平岡	ヒラオカ													*	○		
21	猪之木谷	イキダニ													*	○		
22	新谷	シンタニ													○			
23	水洗	ミズアレ														○		
24	村渡	ムラワタシ													○			
25	一ノ渡瀬	イチノワタセ																
26	下ノ原	シモノハル													○	*		
27	中ノ原	ナカノハル														○	*	
28	岩下	イワシタ														○		
29	上ノ原	ウエノハル														○	*	
30	西ノ谷	ニシノタニ														*	○	
31	上西ノ谷	ウエニシタニ														*	○	
32	萩尾	ハギオ														*	○	
33	小櫃	コビツ															○	木挽?
34	先小櫃	サキコビツ													*		○	木挽?
35	大谷	オオタニ														○		
36	上大谷	ウエオオタニ														*	○	
37	小松	コマツ															○	
38	上山手	ウエヤマテ																

出水の小字分類																			
N03		1 信 仰	2 城 郭 ・ 集 落	3 土 地 ・ 区 画	4 市 ・ 街 ・ 通 交	5 水 利 ・ 川 ・ 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 畠	10 瑞 祥	11 自 然	12 位 置	13 形 状	14 目 印	15 浸 食 ・ 崩 壊	16 川 原 ・ 湿 地	17 氣 象	18 意 味 不 明
2	下大川内..126																		
46	平渡	ヒラタシ		○															
47	中井	カイ			○							*							
48	一ノ水	イノミズ*			○														
49	熊岡	クマガ	*									*	*	*	○				
50	原	ハル										○							
51	片原	カタハル										○							
52	鷲築	サギヤナ						*						○					
53	洗平	アライヒラ									*				○				
54	中野	カノ									*	○							
55	山渋	ヤマシブ*									○		*						
56	開	ヒラキ						○											
57	湯之谷	ユノタニ						*			○								
58	中間迫	カマツコ									○								
59	新田	シンテン						*	○										
60	芭蕉	バショウ		*	*										○				
61	井田	イダ								○									
62	岩峯	イワミ									○								
63	草ノ頭	グサノカシラ									○			*					
64	桜渕	サクラブチ			*									○					
65	大目木	オメギ												○					
66	石原	イシハラ									○				*				
67	平田	ヒラタ								○									
68	床炭	トコスミ								○									
69	逆間伏	サカマブセ								○									
70	是從	コレヨリ					○												
71	轟ノ上	トドロノウエ										○		*					
72	間伏谷	マブセダニ								○		*							
73	同風	ドウフウ														○			
74	松ノ口	マツノクチ										○		*					
75	里道	サトヂ					○												
76	池籬	イケヅル		*										○					
77	小牟田	コムタ													○				
78	崩平	クエンピラ										*			○				
79	犬山	イヌヤマ										○		*					
80	小原	コハル										○							
81	猿野	サルノ										*			○				
82	前ノ谷	マエノタニ										*	○						
83	仕明	シケ																	
84	山志比	ヤマシビ*													○			鶴尾?	
85	八迫	ハッサコ													○				
86	上八迫	カミハッサコ												*					
87	下八迫	シモハッサコ												*					
88	松木	マツキ													○				
89	中松	カマツ													○				
90	平谷	ヒラタニ													○	*			
		小計			3	2		2	3	3		13	6	1	8	2	1	45	
		件数	0	0	0	3	2	0	2	3	3	0	13	6	1	8	2	0	

No 4		田水の小字分類																	
		1 信 仰	2 城 郭 ・ 集 落	3 土 地 ・ 区 画	4 市 ・ 街 ・ 交 通	5 水 利 ・ 川 ・ 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 瑞 祥	10 自 然	11 位 置	12 形 状	13 印	14 漫 食 ・ 崩 壊	15 川 原 ・ 湿 地	16 氣 象	17 意 味	18 不 明
3	大字上鯖渕・243																		
41	堂山	トウヤマ	○																
42	後迫	ウシロザコ									○	*							
43	松下	マツシタ										○		*					
44	藪佐	ヤブサ												○					?
45	新開	シンカイ						○											
46	上別府平	カミベッフビラ									○	*							
47	山屋敷	ヤマヤシキ	○																
48	大田原	オオタハル									○								
49	井手原	イデハル				○					*								
50	西井手ノ原	ニシイデノハル				○						*							
51	平田	ヒラタ								○									
52	大井手口	オオイデグチ				○						*							
53	井手宮ノ脇	イデミヤノワキ	○				*												
54	桜原	サクラハル									○			*					
55	鳶取	トリトリ										○							?
56	華ノ元	ハナノモト	*									○							
57	諏訪ノ脇	スワノワキ	○									*							
58	通山	ツウヤマ		○															
59	ヤクラ元	ヤクラモト											○						屋根元
60	野中	ノナカ										*	○						
61	上平田	カミヒラタ								○			*						
62	井ノ上	イノウエ			○							*							
63	築ノハタ	ヤナノハタ							*	○									築ノ烟
64	築ノ上	ヤナノウエ							○			*							
65	除副	ヨケゾエ						○											?
66	小城	コジョウ	○																
67	大城	オオジョウ	○																
68	大城ノ下平	オオジョウノミヒラ	○									*							
69	北御所園	キタゴショゾノ	*					○						*					
70	御所園原	ゴショゾノハル	*					○					*						
71	山野平	ヤマノヒラ									○								
72	瀬上	セノウエ									*	○							
73	下原	シモバハル									○	*							
74	川俣	カワマタ					*								○				
75	落ノ前	オノマエ					○						*						
76	鯖渕	サバブチ	*				*						○						安婆神
77	鯖渕原	サバブチハル	*									○							安婆神
78	岩下	イワシタ										○							
79	小坂上	コサカノウエ			○							*							
80	小坂元	コサカノモト			○							*							
81	下踊段	シモトリダン	○									*	*						

No	大字上鉛済…243	出水の小字分類																
		1 信 仰	2 城 郭	3 ・ 集 落	4 市 ・ 街 区	5 水 利 ・ 川 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 畠	10 瑞 祥	11 自 然	12 位 置	13 形 状	14 印	15 漫 食 ・ 崩 壊	16 川 原 ・ 湿 地	17 氣 象
82	萩ノ段	ハギノダン								○				*				
83	二本松	ニホンマツ												○				
84	上踊段	カミオトリダン	○										*	*				
85	平田	ヒラタ							○					*				
86	菖蒲加勢	ショウブカセ												*		○		
87	登ノ瀬上	ノボリノセウエ											*	○				
88	高棚	タカタケ												○				
89	瀬戸ノ口	セドノクチ											*	○				
90	萩崎	ハギサキ											*		○			
91	中迫	ナカサコ											○	*				
92	峠ノ下	トウゲノシタ		○										*				
93	橋ノ口	ハシノクチ		○										*				
94	三反田	サンタンダ								○								
95	松下	マツシタ									○							
96	桂心丸	ケイシンマル			○													
97	河桑迫	カワクワサコ						*		○								
98	シャロ	シャロ	○														?	社…?
99	龍毛	リュウケ												○	*			?
100	トラボ	トラボ	○															虎坊?
101	梨木段	ナシノキダン								○					*			
102	田之頭	タノカシラ							*		○							
103	上ノキレ	カミノキレ									*				○			
104	木場田	コバシタ						○	*									
105	中川原	ナカガワラ										*				○		
106	堤尻	ツツミシリ	*								○							
107	高棚	タカタナ												○				
108	麦田原	ムギタバル							*		○							
109	長野	ナガノ									○		*					
110	畠田	ハタダ								○								
111	割田	ワリタ	○						*									
112	中野	ナカノ										*	○					
113	樋掛	トイケ			○													
114	新開	シンカイ						○										
115	宇都口	ウトリチ												○				
116	松ヶ野	マツガノ										*			○			
117	前田	マエダ								○				*				
118	堀ノ口	ホリノクチ	○											*				
119	池田	イケダ									○							
120	狩集	カヤツマイ								○								
121	椎木丸	シイキマル						○							*			
122	軸谷	ジクヤ										○						

No 5	3	出水の小字分類																
		1 信 仰	2 城 郭	3 土 地 ・ 集 落	4 市 ・ 街 区 画	5 水 利 ・ 川 ・ 通 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 烟	10 瑞 祥	11 自 然	12 位 置	13 形 状	14 目 印	15 漫 食 ・ 崩 壊	16 川 原 ・ 湿 地	17 氣 象
123	橋之口	ハシノクチ			○							*						
124	花立	ハナタテ	○															
125	祭田	マツリデン	○								*							
126	尾崎	オザキ											○					
127	前畠	マエハタ								○								
128	柞ヶ迫	ユスガサコ									○			*				
129	大丸	オオマル				○												
130	松ヶ迫	マツガサコ								○				*				
131	鞆筒	ツヅミドウ											○					擬音?
132	鞆筒山	ツヅミドウヤマ											○					擬音?
133	柳ヶ迫	ヤナガサコ								○			*					
134	大谷	オオタニ								○								
135	鈴ヶ玉	スズガタマ								*								?
136	猿喰	サルグイ										○	*					
137	猪木迫	イノキサコ								○			*					
138	猪木ノ頭	イノキノカシラ								○			*					
139	雁俣	カリマタ									○							
140	年号	ネンゴウ																?
141	一井山/迫	シイヤマノサコ								○			*					
142	市井山段	シイヤマダン								○			*					
143	枇杷首	ビワクビ	*									○						
144	平木場	ヒラコバ						○										
145	中野段	ナカノダン								○								
146	栴	カコイ	○															
147	辻	ツジ		○														
148	赤木段	アカキダン	○								*							
149	開	ヒラキ						○										
150	前原	マエバラ									○	*						
151	カケ平	カケビラ							○			*						
152	大段迫	オオダンサコ									○							
153	大段	オオダン									○							
154	打越	ウチコシ		○														
155	川原	カワハラ														○		
156	馬込	マゴメ							○									
157	洗切	アライキリ													○			
158	石打段	イシウチダン									○							
159	川窪	カワクボ			*							○						
160	池ノ鶴	イケノヅル			*								○					
161	小坂元	コサカモト		○														
162	弦切	ツルキリ							○									
163	竹林	タケバヤシ											○					

出水の小字分類																	
No 6	1 信 仰	2 城 郭 ・ 集 落	3 土 地 ・ 区 画	4 市 ・ 街 ・ 交 通	5 水 利 ・ 川 ・ 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 产 業	9 田 瑞 烟	10 自 然 祥	11 位 置 然	12 形 状 置	13 目 印	14 漫 食 ・ 崩 壊	15 川 原 ・ 湿 地	16 氣 象	17 意 味 不 明
3 大字上鯖渕・243																	
164 大丸田 オオマルタ									○								
165 狩俣段 カリマタダン										○	*						
166 長羽之段 ナガハノダン										○							
167 佛ノ原 ホトケノハラ ○																	
168 新兵衛 シンペエ ○																	
169 新五郎 シンゴロウ ○																	
170 新五郎ノ口 シンゴロウノクチ ○											*						
171 芭蕉 バショウ *						*	*							○			番所
172 陳屋 ジンヤ ○																	
173 芭蕉野中 バショウノナカ													○				
174 古屋敷 フルヤシキ ○																	
175 工藤迫 クドオサコ *							*			○							
176 薙ノ段 キジノダン										○				*			
177 東平 ヒガシビラ										*	○						
178 梅田平 ウメダビラ										○				*			
179 新立山 シンタテヤマ										○							
180 平迫 ヒラサコ										○			*				
181 野附 ノツキ											○						
182 山下 ヤマシタ											○						
183 宇都 ウト											○						
184 宇都川内 ウトガワチ											○						
185 新開野附 シンカイノヅキ									○			*					
186 前平 マエビラ										○	*						
187 カツ子平 カツネビラ										○			*				
188 萩ノ段東平 ハギノダンヒガシヒラ										○	*						
189 萩ノ段西平 ハギノダンニシヒラ										○	*						
190 一本松 イッポンマツ													○				
191 木場 コバ									○								
192 通山口 ツヤマグチ *							*					○					
193 通山川内 ツヤマゴチ *							*				○						
194 持留 モチドメ									○								
195 鳥越 トリゴエ								○					*				
196 大杉之元 オオスギノモト												○					
197 岩下 イワシタ												○					
198 門木 カドキ ○																	
199 長原 ナガハラ											○		*				
200 中尾 ナカオ											○						
201 長迫 ナガサコ										○		*					
202 鉢窪 ハチクボ												○					
203 柳迫 ヤナギサコ										○		*					

No 6		出水の小字分類																			
		1 信 仰	2 城 郭 ・ 集 落	3 地 ・ 区 画	4 市 ・ 街 ・ 通	5 水 利 ・ 川 ・ 池	6 人 名 ・ 職 掌	7 開 発 地 名	8 職 業 ・ 産 業	9 田 烟	10 瑞 祥	11 自 然	12 位 置	13 形 状	14 目 印	15 漫 食 ・ 崩 壊	16 川 原 ・ 湿 地	17 氣 象	18 意 味 不 明		
3	大字上鯖渕・243																				
204	柳迫ノ頭	ヤナギサコノカシラ										*	○								
205	小長迫	コナガサコ										○									
206	中洲	ナガス										○									
207	丸岡	マルオカ										*	○								
208	大平	オオヒラ										○									
209	一本杉ノ元	イッポンスギノモト										○									
210	猿打	サルウチ											○								
211	木場山	コバヤマ								○		*									
212	木場山迫	コバヤマサコ								○		*									
213	跡ノ迫	アトノサコ										○									
214	犬ワナノ口	イヌワナノクチ										○		*							
215	迫田	サコダ									○								*		
216	大坂ノ下	オオサカノシタ				○							*								
217	清水ヶ平	シミズガヒラ										○									
218	垣山ノ段	カキヤマノダン										○									
219	垣山ノ平	カキヤマノヒラ										○									
220	小山川内平	コヤマゴチヒラ										○									
221	乙五郎	オツゴロウ							○												
222	山ノ口	ヤマノクチ										○									
223	小山川内	コヤマゴチ										○									
224	田平迫	タビラサコ										○									
225	小山口	コヤマグチ										○									
226	白山ノ下	シロヤマノシタ										○									
227	宮田平	ミヤタヒラ	○																		
228	下宮田	シモミヤダ	○																		
229	山中	ヤマナカ										○									
230	山中平	ヤマナカヒラ										○									
231	神社脇	ジンシャワキ	○										*								
232	松尾	マツオ										○									
233	牛ヶ迫	ウシガサコ										○		*							
234	松尾東	マツオヒガシ										○									
235	段	ダン										○									
236	尾崎	オザキ										○									
237	松尾中	マツオナカ										○									
238	松尾中平	マツオナカヒラ										○									
239	東光平	トウコウヒラ										○									
240	岩堂迫	イワドウサコ	○										*								
241	牛ヶ迫東平	ウシガサコヒガシヒラ										○									
242	金堀平	カネホリヒラ									○		*								
243	橋ノ上	ハシノウエ			○																
	上鯖渕		合 計		21	11	3	16	8	11	13	6	16		61	44	10	16	2	3	2 243
	%				8.6	4.5	1.2	6.6	3.3	4.5	5.3	2.5	6.6		25.1	18.1	4.1	6.6	0.8	1.2	1.2

「出水町名・地名一覧」から(出水市立歴史民俗資料館) (昭和町…32 緑町…54) その5

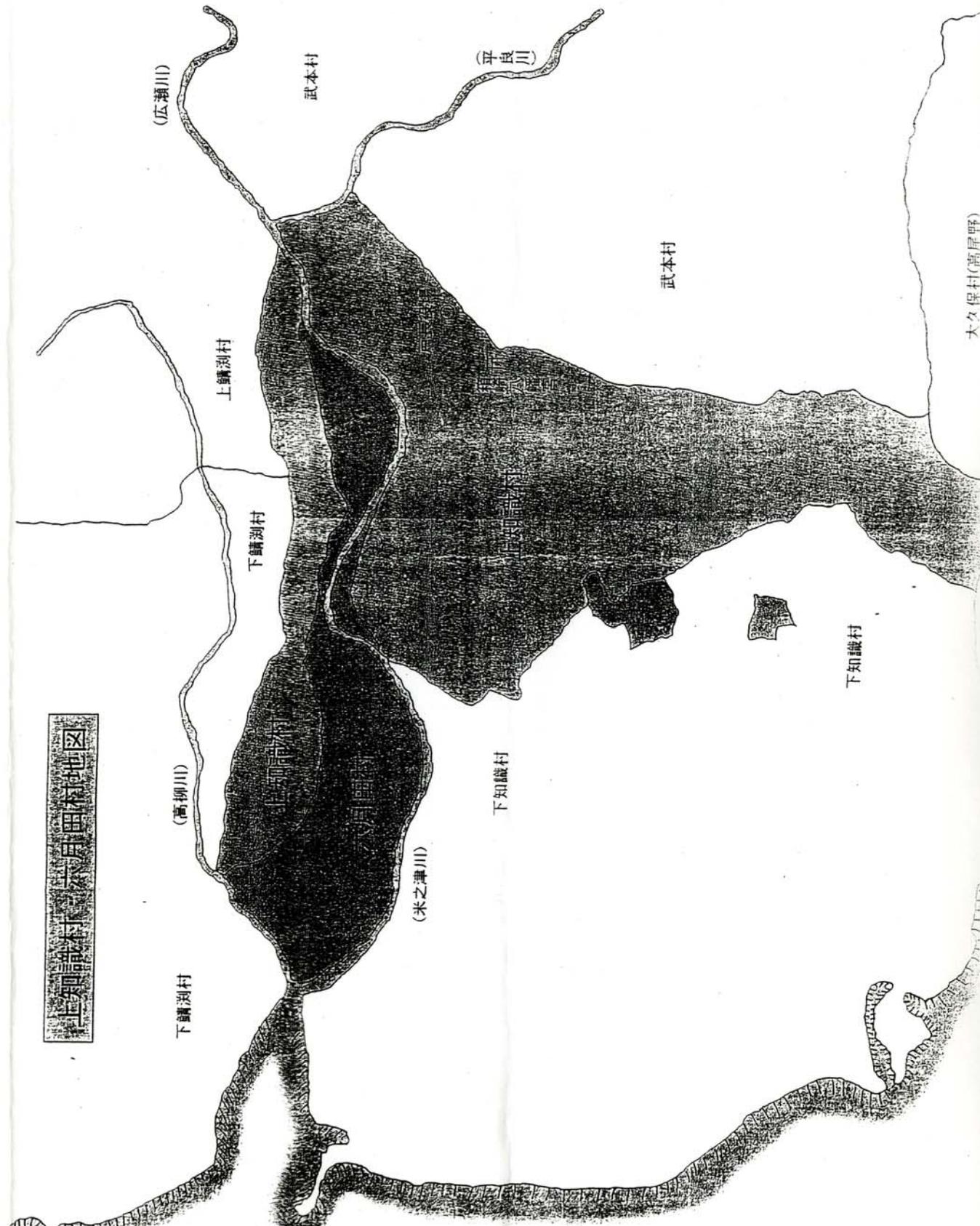
基台④ 昭和町…32	基台⑤ 緑町…54
1 松木 (旧上知識)	1 羽世町 * (旧上鱗渓)
2 大坪 (旧上知識)	2 稲葉崎 * (旧上鱗渓)
3 クン六 * (旧上知識)	3 クン六 * (旧上知識)
4 仁入木 * (旧上知識)	4 仁入木 * (旧上知識)
5 新仁入木 * (旧上知識)	5 新仁入木 * (旧上知識)
6 橋ノ下 (旧上鱗渓)	6 春木 (旧上知識)
7 楠木ヶ丸 (旧上鱗渓)	7 横掛 (旧上知識)
8 御舞田 (旧上鱗渓)	8 ハゼ町 (旧上知識)
9 車田 (旧上鱗渓)	9 上松ヨリ (旧上知識)
10 横渡 (旧上鱗渓)	10 ハカマ田 (旧上知識)
11 桑木田 (旧上鱗渓)	11 迫田 (旧上知識)
12 稲葉崎 * (旧上鱗渓)	12 青木 * (旧六月田)
13 柏木 (旧上鱗渓)	13 三ッ枝 * (旧六月田)
14 永田 (旧上鱗渓)	14 川原田 (旧六月田)
15 横枕 (旧上鱗渓)	15 薫陸 (旧六月田)
16 口ノ町 (旧上鱗渓)	16 帯田 (旧六月田)
17 堀田 (旧上鱗渓)	17 下川原 (旧六月田)
18 青木 * (旧六月田)	18 堤 (旧六月田)
19 三ッ枝 * (旧六月田)	19 迫田 (旧六月田)
20 羽世町 * (旧上鱗渓)	20 前田 (旧六月田)
21 窪田 * (旧上鱗渓)	21 五反田 (旧六月田)
22 宮ノ元 * (旧上鱗渓)	22 三反ヶ丸 (旧六月田)
23 立華木 * (旧上鱗渓)	23 窪田 * (旧上鱗渓)
24 柳木田 * (旧上鱗渓)	24 小口町 (旧上鱗渓)
25 柳木田南 (旧上鱗渓)	25 正暮 (旧上鱗渓)
26 溝越 (旧上鱗渓)	26 西森 (旧上鱗渓)
27 折敷町 (旧上鱗渓)	27 六丈 (旧上鱗渓)
28 白金町 (旧上鱗渓)	28 東森 (旧上鱗渓)
29 岩崎 * (旧上鱗渓)	29 島廻 (旧上鱗渓)
30 東岩崎 (旧上鱗渓)	30 龍木田 (旧上鱗渓)
31 胡摩田 (旧上鱗渓)	31 七龍毛 (旧上鱗渓)
32 烏帽子形 (旧上鱗渓)	32 下横渡 (旧上鱗渓)
*は⑤緑町とダブリ	
◎・は3大字上鱗渓とダブリ	
1 川原田 (旧下鱗渓)	40 川原田 (旧下鱗渓)
2 梅島 (旧下鱗渓)	41 梅島 (旧下鱗渓)
3 北森 (旧下鱗渓)	42 北森 (旧下鱗渓)
4 長崎 (旧下鱗渓)	43 長崎 (旧下鱗渓)
5 上戸町 (旧下鱗渓)	44 上戸町 (旧下鱗渓)
6 郷志 (旧下鱗渓)	45 郷志 (旧下鱗渓)
7 大坪 (旧下鱗渓)	46 大坪 (旧下鱗渓)
8 山本 (旧下鱗渓)	47 山本 (旧下鱗渓)
9 脇田 (旧下鱗渓)	48 脇田 (旧下鱗渓)
10 藤弁 (旧下鱗渓)	49 藤弁 (旧下鱗渓)
11 新開 (旧下鱗渓)	50 新開 (旧下鱗渓)
12 榎木 (旧下鱗渓)	51 榎木 (旧下鱗渓)
13 迫田 (旧六月田)	52 迫田 (旧六月田)
14 五反ヶ丸 (旧六月田)	53 五反ヶ丸 (旧六月田)
15 東原田 (旧上知識)	54 東原田 (旧上知識)
*は⑤昭和町とダブリ	
◎・は3大字上鱗渓とダブリ	

明治17年の人口とその後の村の合併分村

村名	戸数	人口	明治17年	明治23年
上大川内村	301	1278		
下大川内村	161	675	武本村 (1792戸)	大川内村 明治24年分村
武本村	1041	4638		
上鰐剝村	289	1375		
上知識村	263	1127		
下知識村	789	3001	下知識村 (1829戸)	合併して出水市 昭和29年4月
下鰐剝村	476	2174		
六月田村	100	442		
淮村	201	917		
江内村	401	1862	脇本村 (1085戸)	三笠町 昭和24年分村 江内村 →三笠町
脇本村	684	3542		

* 表の戸数人口は各村の戸長が県に報告し、県令渡辺千秋が明治17年3月4日に政府に報告したものであるから、各村の調査は15年か16年ごろと推察される

明治17年合併分村地図

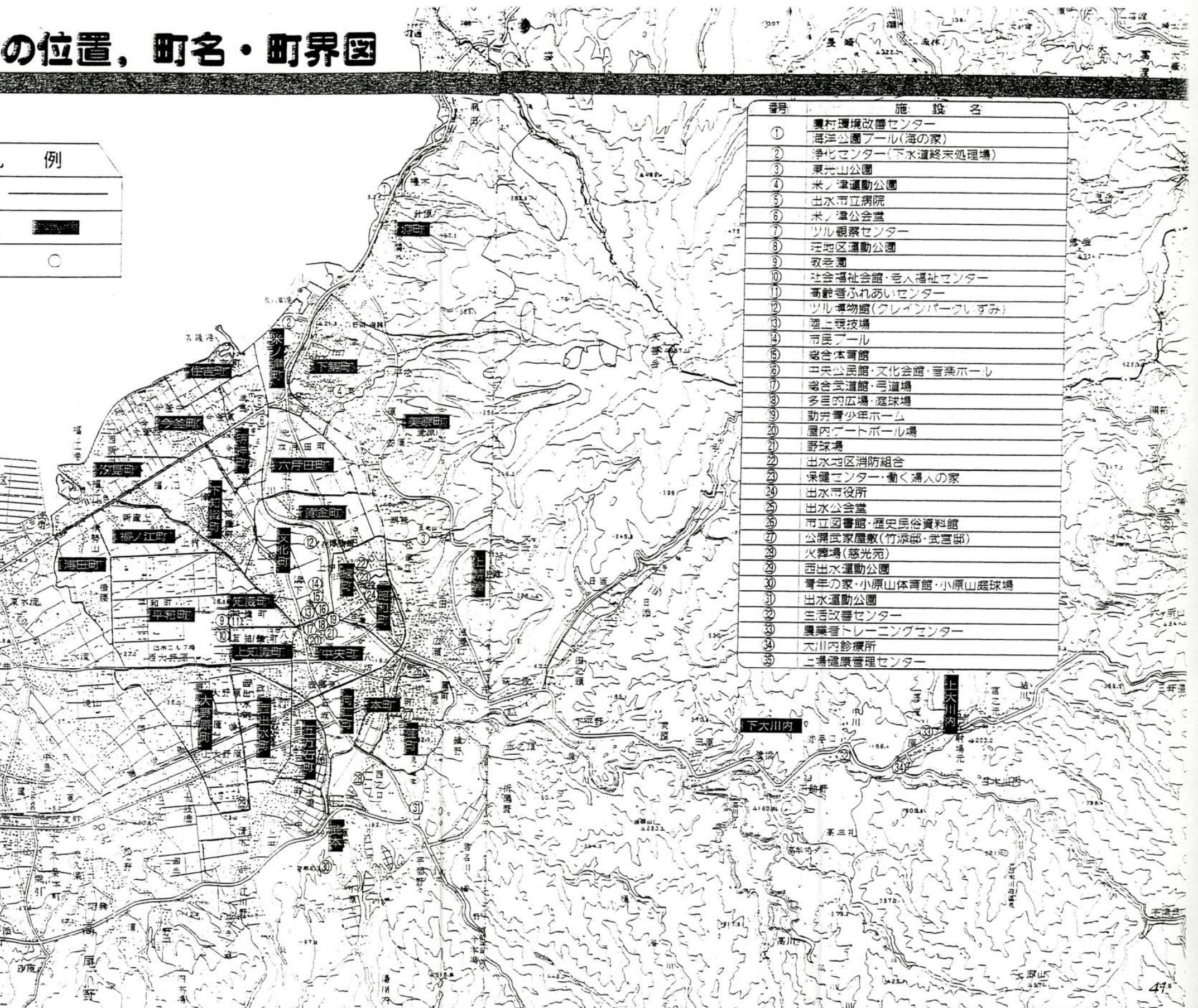


主な施設の位置、町名・町界図

凡 例	
町 界	——
町 名 等	■
主要施設	○



記 号	
◎	西側
●	東側
○	北側
△	南側
◆	東北側
▲	西南側
◆	西北側
▼	東南側
◆	東北東側
▼	西南西側
◆	東北西側
▼	西南東側
◆	東北東西南西側
▼	西南東北西側
◆	東北東西南西東北西側
▼	西南東北西西南西側
◆	東北東西南西東北西西南西側
●	北側、東側
○	北側、東側
△	北側、南側
◆	北側、東側、南側
▼	東側、南側
◆	北側、東側、南側、西側
▼	東側、南側、西側
◆	北側、東側、南側、西側、西南側
▼	東側、南側、西側、西南側
◆	北側、東側、南側、西側、東北側、西南側
▼	東側、南側、西側、東北側、西南側
◆	北側、東側、南側、西側、東北側、東南側、西南側
▼	東側、南側、西側、東北側、東南側、西南側
◆	北側、東側、南側、西側、東北側、東南側、東西南側
▼	東側、南側、西側、東北側、東南側、東西南側
◆	北側、東側、南側、西側、東北側、東南側、東西南側、西南側
▼	東側、南側、西側、東北側、東南側、東西南側、西南側



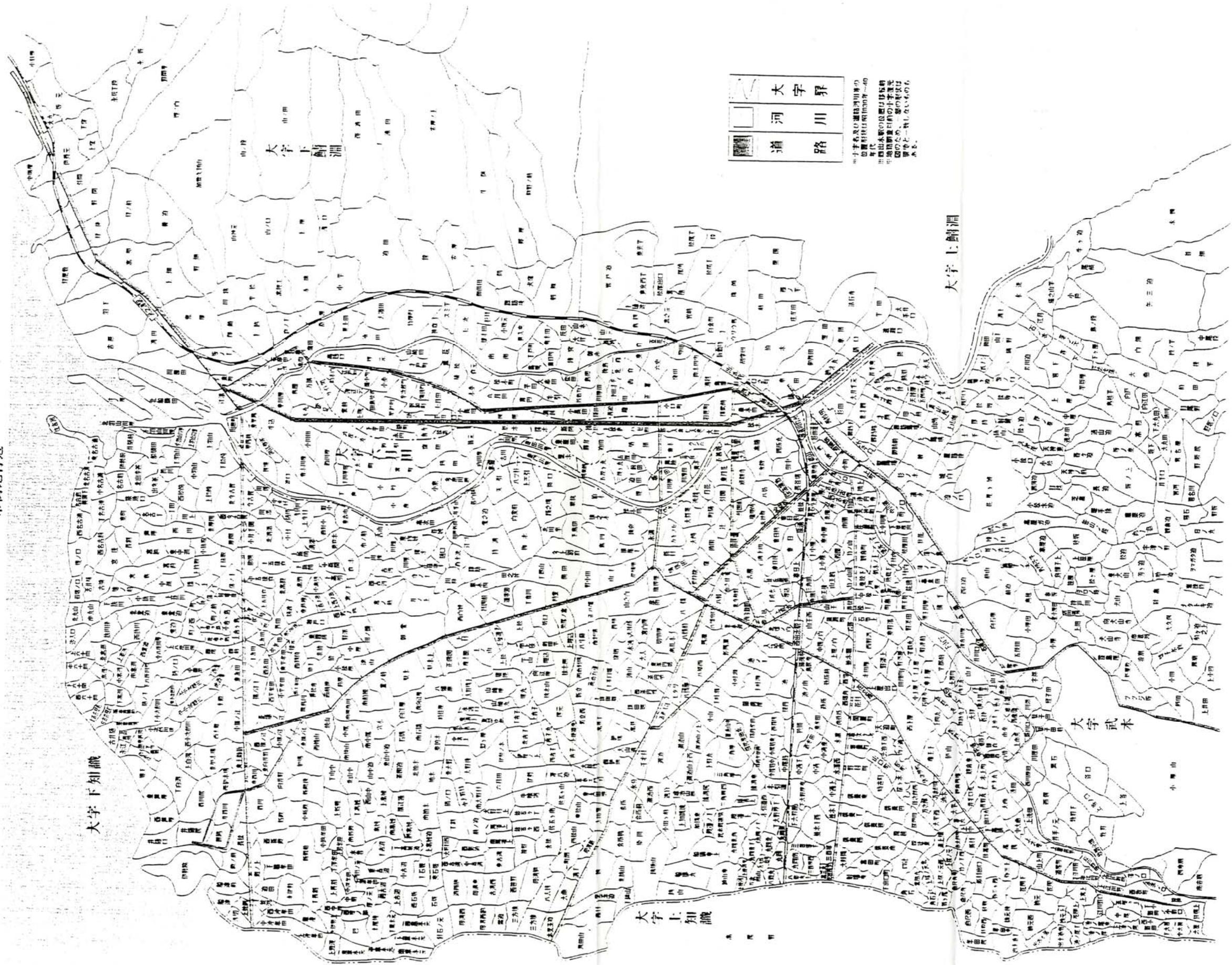
2 圖名冊

（注「上轄照」「武本」日本実業



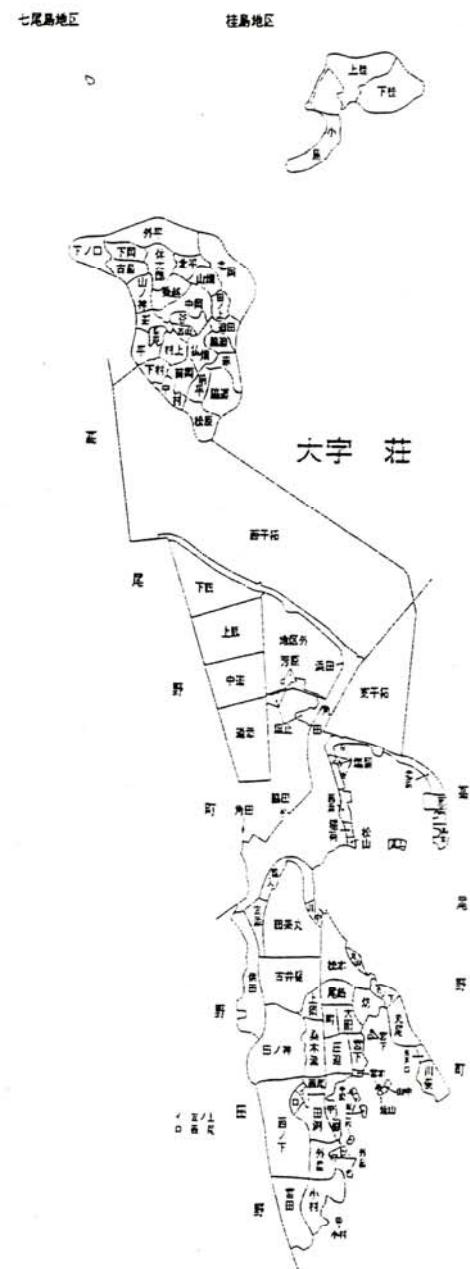
三 小字圖(1)

三言詩

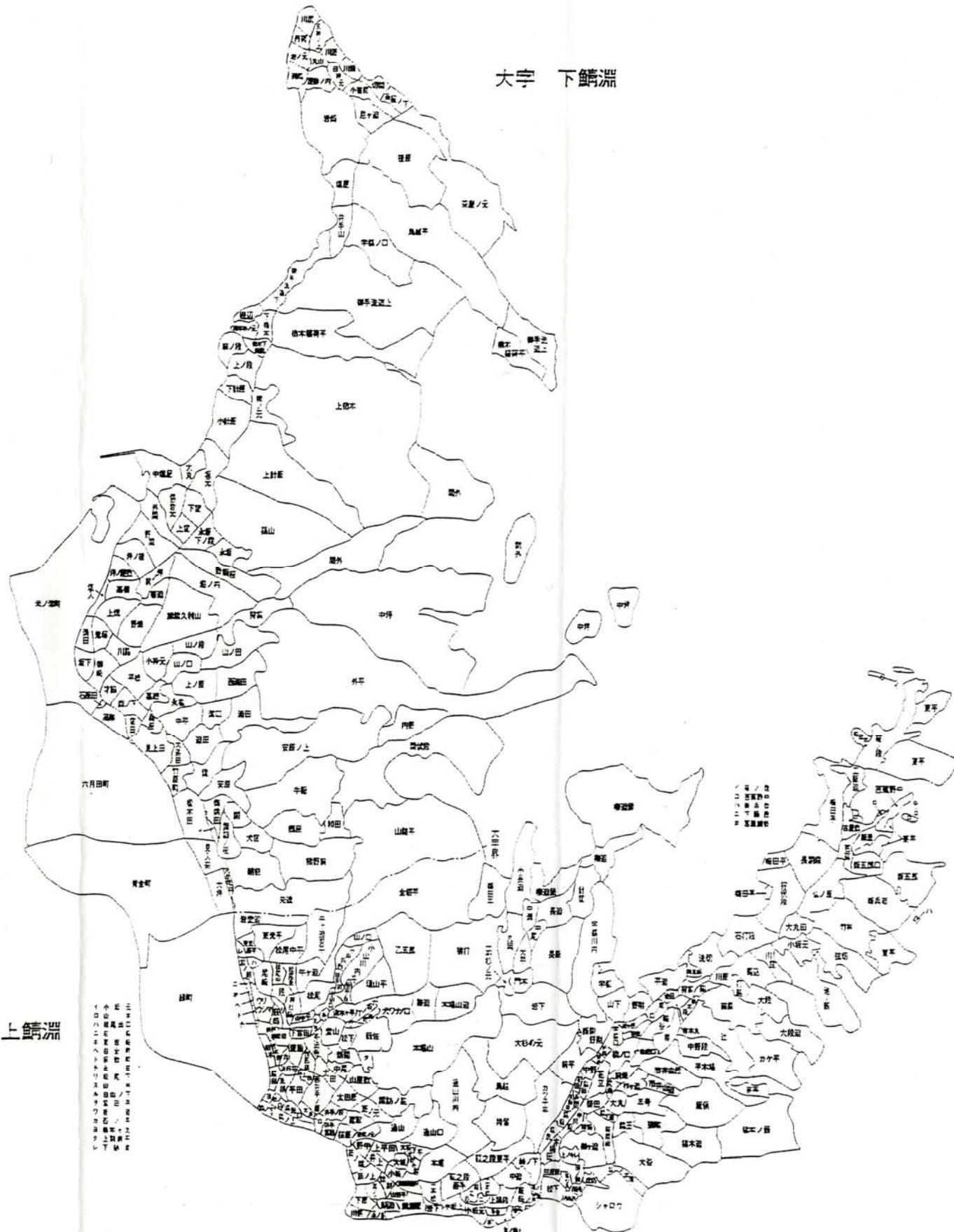


4 小字図(2)

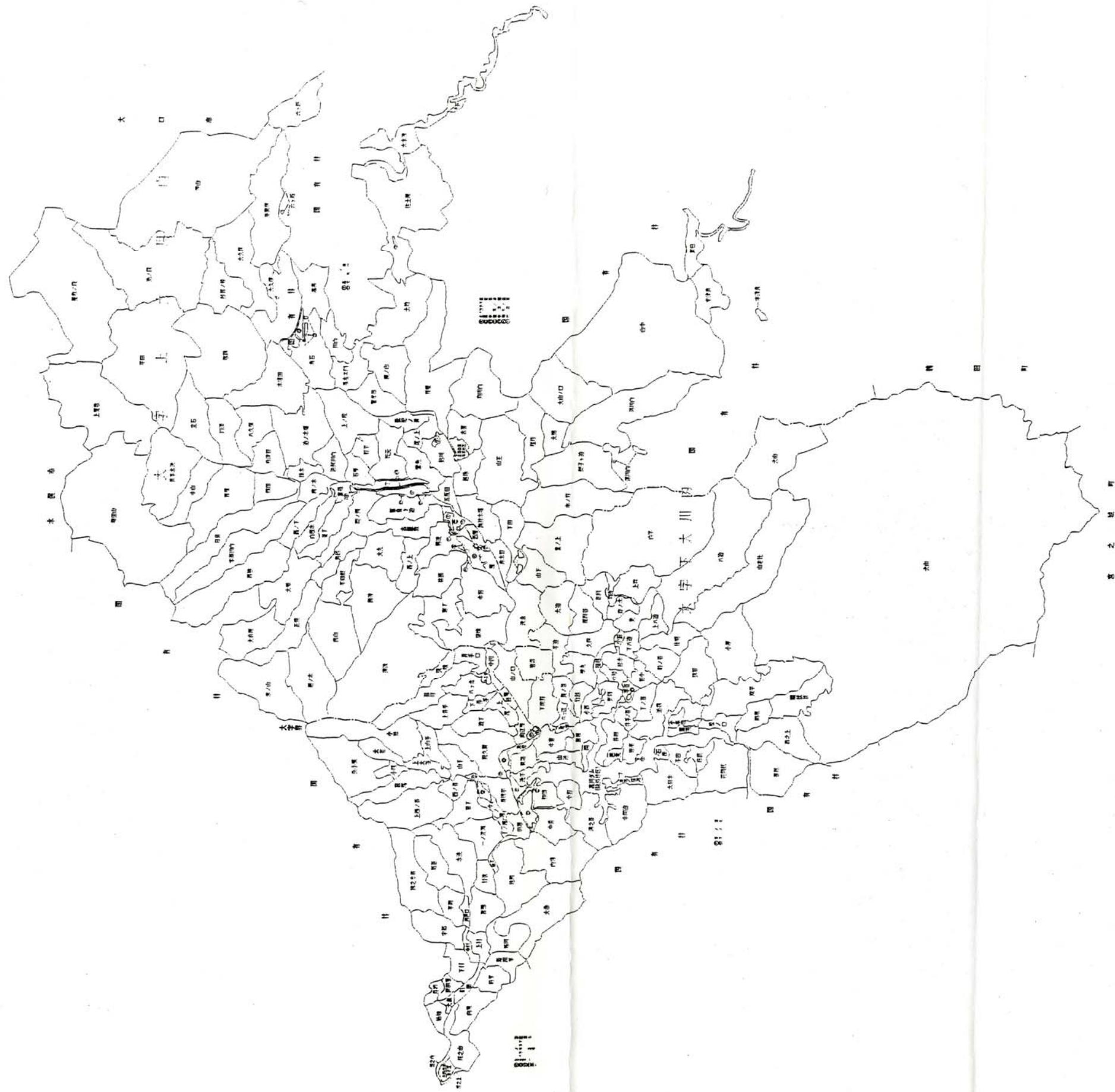
大字 上鯖淵 下鯖淵 莊



大字 上鯖淵



5 小學圖 ③



6 小字圖

武木大字

